

足立区
子ども・子育て支援に関する
ニーズ調査

調査結果報告書

令和6年3月

目次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査の設計	1
3.	回収結果	1
4.	調査結果の表示方法	2
5.	ブロック区分図及びブロック地区町丁名対応表	4
II	調査結果のまとめ	5
1	就学前児童（0歳～5歳）の保護者	5
2	小学生（6歳～11歳）の保護者	7
III	調査結果	9
1	就学前児童（0歳～5歳）調査	9
1-1	居住地区について	9
1-2	子どもと家族の状況について	14
1-3	子育て環境について	17
1-4	保護者の就労状況について	25
1-5	平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	64
1-6	「地域の子育て支援事業の利用状況」について	106
1-7	「土曜日や休日の教育・保育事業の定期的な利用希望」について	114
1-8	「病気の際の対応」について	127
1-9	不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	132
1-10	育児休業など、「職場の両立支援制度」について	149
2	小学生（6歳～11歳）調査	168
2-1	居住地区について	168
2-2	子どもと家族の状況について	170
2-3	就学前の教育・保育事業の利用状況について	175
2-4	子育て環境について	176
2-5	保護者の就労状況について	181
2-6	「放課後の過ごし方」について	216
2-7	「病気の際の対応」について	246
2-8	「一時預かり等の利用」について	255
2-9	子育て支援に関する情報について	263
2-10	子育て全般について	265

IV	自由意見.....	272
V	調査票.....	276
1	就学前児童（0歳～5歳）調査.....	276
2	小学生（6歳～11歳）調査.....	292

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、令和7年度からの5年間を計画期間とする「第3期足立区子ども・子育て支援事業計画」の策定に伴い、国の基準に基づき、子育て世帯の保護者の就労状況や教育・保育施設等の利用意向、その他の実状を把握するため、「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」を実施した。

2. 調査の設計

- (1) 調査地域 足立区内全域
- (2) 調査対象 足立区に在住する0歳から11歳の子どもを持つ保護者
- (3) 標本数
 - ・就学前児童（0歳～5歳児）の保護者 2,814件
 - ・小学生（6歳～11歳）の保護者 1,457件
- (4) 抽出方法 住民基本台帳より対象世帯を無作為抽出
- (5) 調査方法
 - ・配布 郵送配付
 - ・回収 郵送回収及びインターネット回答
- (6) 調査期間 令和6年1月24日～2月13日

3. 回収結果

	配布数	有効回答数	有効回答率
全体	9,950通	4,271通	42.9%
就学前児童	6,670通	2,814通	42.2%
小学校児童	3,280通	1,457通	44.4%

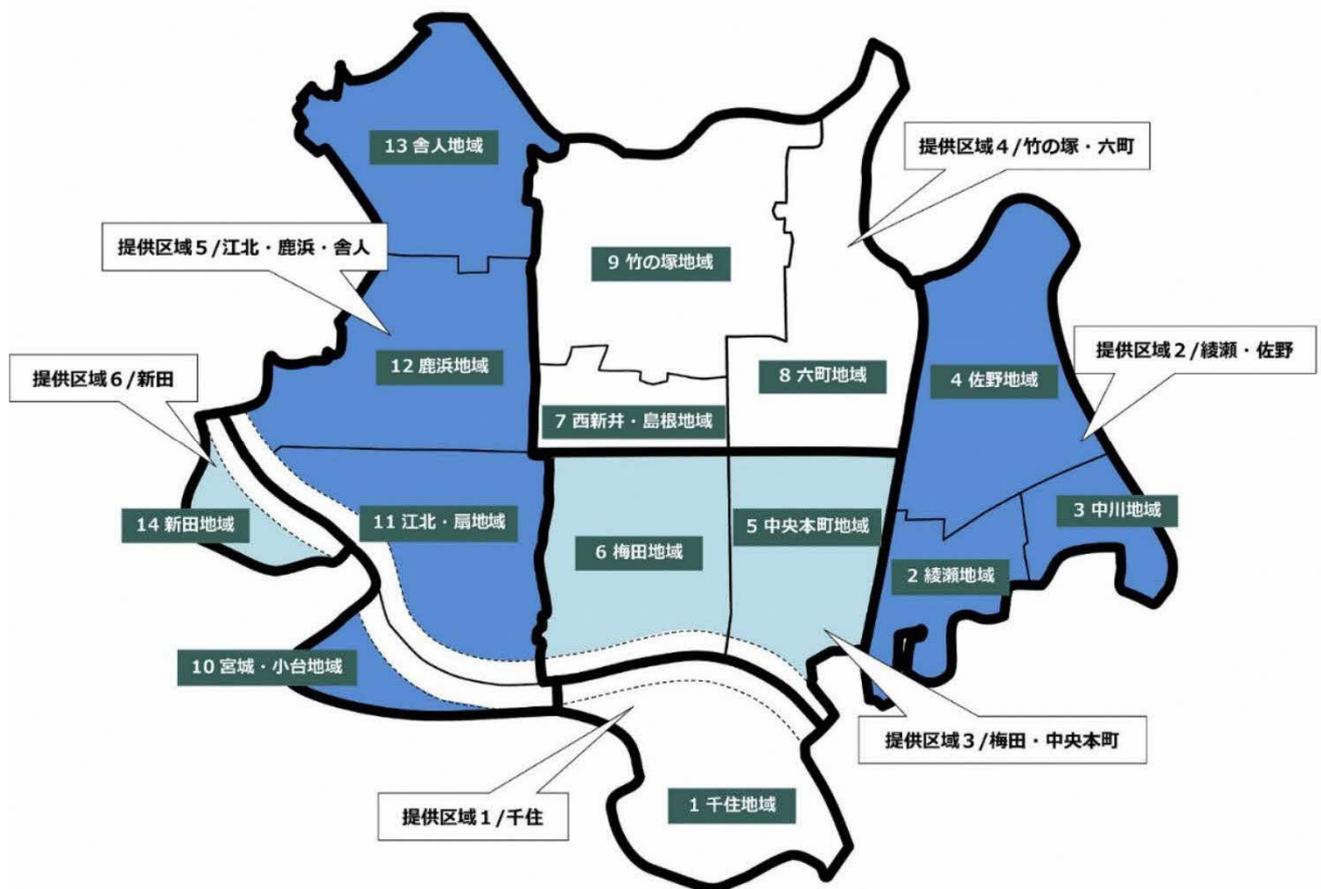
4. 調査結果の表示方法

- (1) 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してある。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- (3) クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがある。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法である。

【教育・保育事業の選択肢表記方法】

	選択肢表記	報告書上での表記
定期的な教育・保育事業	1 私立幼稚園（通常の就園時間の利用）	1 私立幼稚園
	2 私立幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）	2 私立幼稚園の預かり保育
	3 認定こども園の短時間利用（午前9時～午後2時）	3 認定こども園の短時間利用
	4 認定こども園の長時間利用	4 認定こども園の長時間利用
	5 認可保育所（東京都の認可基準を満たした保育施設）	5 認可保育所
	6 小規模保育（国の基準に適合した施設で、足立区の認可を受けて2歳児まで6～19人を保育するもの）	6 小規模保育
	7 家庭的保育（保育ママ。保育者の自宅等で、足立区の認可を受けて2歳児まで5人以下を保育する事業）	7 家庭的保育（保育ママ）
	8 企業主導型保育施設（企業が主に従業員用に運営する施設）	8 企業主導型保育施設
	9 東京都認証保育所（東京都が認証した保育施設で、直接施設に利用申込するもの）	9 東京都認証保育所
	10 その他の認可外保育施設（直接施設に利用申込するもので他の選択肢にあてはまらないもの）	10 その他の認可外保育施設
	11 子ども預かり・送迎支援事業またはファミリー・サポート・センター事業（地域住民が子どもを預かる事業）	11 子ども預かり・送迎支援事業またはファミリー・サポート・センター事業
	12 ベビーシッター（民間）	12 ベビーシッター（民間）
	13 その他	13 その他
	14 いずれも利用したくない	14 いずれも利用したくない
不定期の教育・保育事業	1 一時預かり（私用など理由を問わずに保育園などで一時的に子どもを保育する事業）	1 一時預かり
	2 私立幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）	2 私立幼稚園の預かり保育
	3 子ども預かり・送迎支援事業または、ファミリー・サポート・センター事業	3 子ども預かり・送迎支援事業または、ファミリー・サポート・センター事業
	4 トワイライトステイ（児童養護施設等で休日・夜間に概ね22時ごろまで子どもを預かる事業）	4 トワイライトステイ
	5 ベビーシッター（民間）	5 ベビーシッター（民間）
	6 その他	6 その他
	7 利用していない	7 利用していない

5. 6 提供区域及び地区町丁名対応表



提供区域	地区町丁目名
1 千住	千住曙町、千住旭町、千住東一～東二丁目、千住関屋町、日ノ出町、柳原一～二丁目、千住一～五丁目、千住大川町、千住河原町、千住寿町、千住桜木一～二丁目、千住龍田町、千住中居町、千住仲町、千住橋戸町、千住緑町一～三丁目、千住宮元町、千住元町、千住柳町
2 綾瀬・佐野	綾瀬一～七丁目、東和一～五丁目、東綾瀬一～三丁目、中川一～五丁目、加平一～三丁目、谷中一～五丁目、大谷田一～五丁目、佐野一～二丁目、辰沼一～二丁目、六木一～四丁目、神明一～三丁目、北加平町、神明南一～二丁目
3 梅田・中央本町	青井一～六丁目、弘道一～二丁目、西綾瀬一～四丁目、中央本町一～五丁目、足立一～四丁目、梅島一～三丁目、梅田一～八丁目、西新井栄町一～三丁目、関原一～三丁目、興野一丁目、西新井本町五丁目、本木一～二丁目、本木東町、本木南町
4 竹の塚・六町	栗原一～四丁目、島根一～四丁目、西新井一～三丁目、西加平一～二丁目、南花畑一～五丁目、六町一～四丁目、東保木間一～二丁目、一ツ家一～四丁目、保塚町、東六月町、平野一～三丁目、花畑一～八丁目、六月一～三丁目、保木間一～五丁目、竹の塚一～七丁目、伊興一～五丁目、西竹の塚一～二丁目、西保木間一～四丁目、伊興本町一～二丁目、西伊興四丁目、東伊興一～四丁目
5 江北・鹿浜・舎人	小台一～二丁目、宮城一～二丁目、扇一～三丁目、興野二丁目、本木北町、本木西町、江北一～七丁目、鹿浜一～八丁目、椿一～二丁目、堀之内一～二丁目、西新井本町一～四丁目、西新井四～七丁目、谷在家一～三丁目、加賀一～二丁目、皿沼一～三丁目、西伊興一～三丁目、西伊興町、入谷町、古千谷一～二丁目、古千谷本町一～四丁目、舎人一～六丁目、舎人町、入谷一～九丁目、舎人公園
6 新田	新田一～三丁目

II 調査結果のまとめ

1 就学前児童（0歳～5歳）の保護者

（1）仕事と子育て

就学前児童の母親は、『フルタイムで就労している』が 32.9%、そのうち『産休・育休・介護等で休業中である』が 17.4%、『パート・アルバイト等で就労している』では 22.1%、『就労していない』では 23.3%となっている。

現在就労していない母親の就労意向は 68.9%で、そのうち『フルタイムで就労したい』が 10.0%、『パート・アルバイトで就労したい』が 58.9%となっている。

就学前児童の父親は、『フルタイムで就労している』が 93.2%、そのうち『産休・育休・介護等で休業中である』が 2.3%となっている。

母親の育児休業について、「育児休業と短時間勤務を両方取得した」が 29.2%、「育児休業のみ取得した」が 29.4%と合わせて 58.6%となっている。育児休業を取得した母親のうち「育児休業取得後、職場に復帰した」が 67.8%となっている。一方、「育児休業中に離職した」が 6.4%、「現在も育児休業中である」が 24.1%となっている。

（2）教育・保育事業の利用に関する現状

平日の定期的な教育・保育事業の利用状況では、「利用している」が 73.1%となっており、平成 30 年度より 3.8 ポイント増加となっている。児童の年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「利用している」の割合が増加し、5歳で 99.0%となっている。

利用している教育・保育事業の内容では、「認可保育所」が 55.9%と最も多く、次いで「私立幼稚園」が 27.1%となっており、「東京都認証保育所」は 5.4%となっている。母親の就労状況別でみると、「認可保育所」は『フルタイムで就労している』親の割合が 7 割を超え、「私立幼稚園」は『就労していない』親の割合が約 8 割と高くなっている。

一方、教育・保育事業を利用していない理由について、「平日、父母が子どもをみているため、利用する必要がない」が 53.8%と最も多く、次いで「子どもがまだ小さいため」が 43.5%となっている。利用していない理由として「子どもがまだ小さいため」と回答した保護者に利用希望年齢を聞いたところ、「3歳から」が 34.8%となっている。

（3）教育・保育事業の利用に関するニーズ

今後利用したい平日の定期的な教育・保育事業の内容では、「認可保育所」が 29.4%と最も多く、次いで「私立幼稚園」が 17.2%となっており、「私立幼稚園の預かり保育」は 12.7%となっている。

平日以外の定期的な教育・保育事業の利用について、『土曜日の利用希望』では 40.5%、『日曜日・祝日の利用希望』では 22.2%となっている。また、「私立幼稚園」、「私立幼稚園の預かり保育」の長期休業中における平日の定期的な教育・保育事業の利用意向は「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が 21.6%、「休みの期間中、週に数日利用したい」が 42.6%と、合わせて 64.2%となっている。「休みの期間中、週に数日利用したい」理由としては、「毎日親子だけでいるより子どもに良いと思うから」が 61.0%、「買い物等の用事

をまとめて済ませるため」が 49.2%、「リフレッシュのため」が 45.5%と高くなっている。

病気やケガ時の教育・保育事業の利用について、実際に病気等で普段利用している教育・保育事業を利用できなかった経験がある保護者のうち、「できれば病児や病後児のための保育施設・サービスを利用したいと思った」が 38.2%、同様に、不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について、「必要があると思う」が 56.5%となっている。また、この1年間に宿泊を伴う一時預かり等が必要となったことがある保護者が 13.9%となっている。

(4) 地域の子育て支援事業の利用状況

子育てサロンについて、「児童館子育てサロンを利用したことがある」の割合が 45.7%、「拠点型子育てサロンを利用したことがある」の割合が 23.1%、「商業施設等内の子育てサロンを利用したことがある」の割合が 21.1%となっている。

今後新たな利用・利用回数を増やしたいと思わない理由について、「平日は保育園などに預けているから」が 56.3%と最も多くなっている。

相談・情報提供事業の認知度について、「あだち子育てガイドブック※子育て情報冊子」が 79.5%、「児童館子育てサロン」が 77.0%、「保健センター等のファミリー学級・相談事業」が 60.6%、「商業施設等内の子育てサロン」が 57.4%、「あんしん子育てナビ」が 57.0%と高くなっている。そのうち、利用意向では「あだち子育てガイドブック※子育て情報冊子」が 55.2%、「児童館子育てサロン」が 51.4%と5割を超えて高くなっている。

(5) 子育て全般について

日頃子どもをみてもらえる親族や知人の有無について、「いずれもない」が 21.4%となっており、子育てを相談できる相手の有無について、「いる」が 92.0%、「いない」が 7.4%となっている。相談相手について、「配偶者・パートナー」が 85.64%、「祖父母等の親族（配偶者を除く）」が 74.8%、「友人や知人」が 66.6%となっている。

足立区における子育てのしやすさについて、「子育てしやすいまちだと思う」が 27.9%、「どちらかと言えば、子育てしやすいまちだと思う」が 59.8%となっている。

子育てしやすいまちだと思う理由について、「公園など子どもの遊び場が多い」が 81.1%、「子育てサロンや児童館・図書館が近所にある」が 72.8%と高くなっている。

一方で、「子育てしやすいまちだと思わない」は 2.8%、「どちらかと言えば、子育てしやすいまちだと思わない」が 6.7%となっており、その理由としては「事故や犯罪が多く危険」が 49.7%、「地域の子育てネットワークができていない」が 38.5%と高くなっている。

2 小学生（6歳～11歳）の保護者

（1）仕事と子育て

小学生低学年（以下「1～3年生」という。）の母親は、『フルタイムで就労している』が41.8%、そのうち『産休・育休・介護等で休業中である』が1.8%となっており、『パート・アルバイト等で就労している』では36.6%で、『就労していない』では21.1%となっている。

小学生高学年（以下「4～6年生」という。）の母親は、『フルタイムで就労している』が36.9%、そのうち『産休・育休・介護等で休業中である』が0.4%、『パート・アルバイト等で就労している』では42.9%となっており、『就労していない』では19.4%となっている。

現在就労していない「1～3年生」の母親の就労意向は54.6%、そのうち『フルタイムで就労したい』が7.0%、『パート・アルバイトで就労したい』が47.6%となっており、「4～6年生」の母親の就労意向は62.8%、そのうち『フルタイムで就労したい』が6.4%、『パート・アルバイトで就労したい』が56.4%となっている。

「1～3年生」の父親は、『フルタイムで就労している』が95.9%、そのうち『産休・育休・介護等で休業中である』が0.2%となっており、「4～6年生」の父親は、『フルタイムで就労している』が95.3%、そのうち『産休・育休・介護等で休業中である』が0.3%となっている。

（2）子どもの放課後の過ごし方における現状

現在、「1～3年生」の放課後の過ごし方について、「自宅」が62.9%と最も多く、次いで「習い事（ピアノ、サッカー、学習塾など）」が50.9%、「放課後子ども教室」の割合が36.2%となっている。放課後の過ごし方で最も多かった3つについて、『自宅』の週あたりの日数は「5日」が29.2%と最も多く、次いで「1日」「3日」が18.5%となっており、『習い事（ピアノ、サッカー、学習塾など）』の週あたりの日数は「2日」が30.6%と最も多く、次いで「3日」が27.2%となっており、『放課後子ども教室』の週あたりの日数は「1日」が46.3%と最も多く、次いで「2日」が21.1%となっている。

学童保育を利用したいとは思わない理由について、「1～3年生」では「平日、父母が子どもをみており、利用する必要がないため」が41.2%、「4～6年生」では「子どもだけで留守番しており、利用する必要がないため」が43.8%と最も多くなっている。

（3）子育て全般について

日頃、子どもをみてもらえる親族や知人の有無について、「いずれもない」とした「1～3年生」が24.9%、「4～6年生」が21.8%となっており、子育てを相談できる相手の有無について、「いる」とした「1～3年生」が92.8%、「4～6年生」が89.3%となっている。

相談相手について、「1～3年生」と「4～6年生」共に「配偶者・パートナー」が最も多く、それぞれ 82.6%、78.9%、次いで「友人や知人」が 70.8%、72.7%、「祖父母等の親族」が 68.3%、64.5%となっている。

足立区の子育てしやすさについて、「1～3年生」では「子育てしやすいまちだと思う」が 29.1%、「どちらかと言えば、子育てしやすいまちだと思う」が 61.5%、「4～6年生」では「子育てしやすいまちだと思う」が 27.1%、「どちらかと言えば、子育てしやすいまちだと思う」が 63.7%となっている。

足立区の子育て環境について、「1～3年生」と「4～6年生」共に「公園など子どもの遊び場が多い」で『思う』が高く、それぞれ 78.3%、75.8%、次いで「小学校、保育園、幼稚園などが利用しやすい」で『思う』がそれぞれ 76.5%、75.7%と高くなっている。

一方で、「1～3年生」では「子育てしやすいまちだと思わない」が 1.6%、「どちらかと言えば、子育てしやすいまちだと思わない」が 5.1%、「4～6年生」では「子育てしやすいまちだと思わない」が 1.4%、「どちらかと言えば、子育てしやすいまちだと思わない」が 6.0%となっている。

足立区の子育て環境について、「1～3年生」と「4～6年生」共に「事故や犯罪が少なく安全」で『思わない』が、それぞれ 41.5%、41.4%と高く、次いで「地域の子育てネットワークができている」で『思わない』がそれぞれ 34.2%、33.4%と高くなっている。

Ⅲ 調査結果

1 就学前児童（0歳～5歳）調査

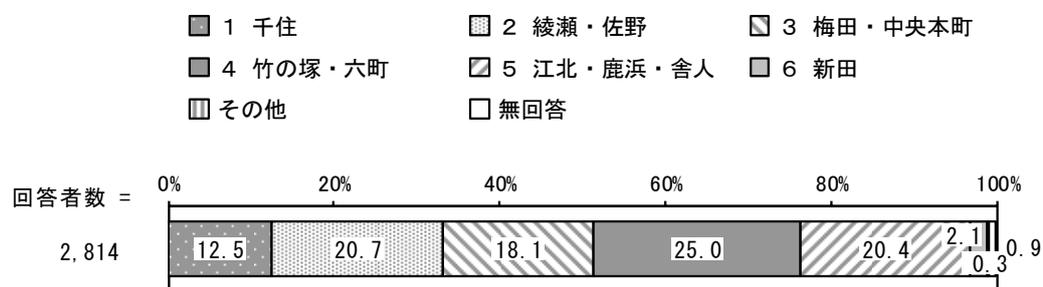
1-1 居住地区について

1-1-1 住んでいる地区

問1 お住まいの地区をカッコ内にご記入ください。

「4 竹の塚・六町」地域の割合が25.0%と最も多く、次いで「2 綾瀬・佐野」地域の割合が20.7%、「5 江北・鹿浜・舎人」地域の割合が20.4%となっている。

図表 1 居住地区（提供区域別）



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

※重複回答は「その他」に分類している

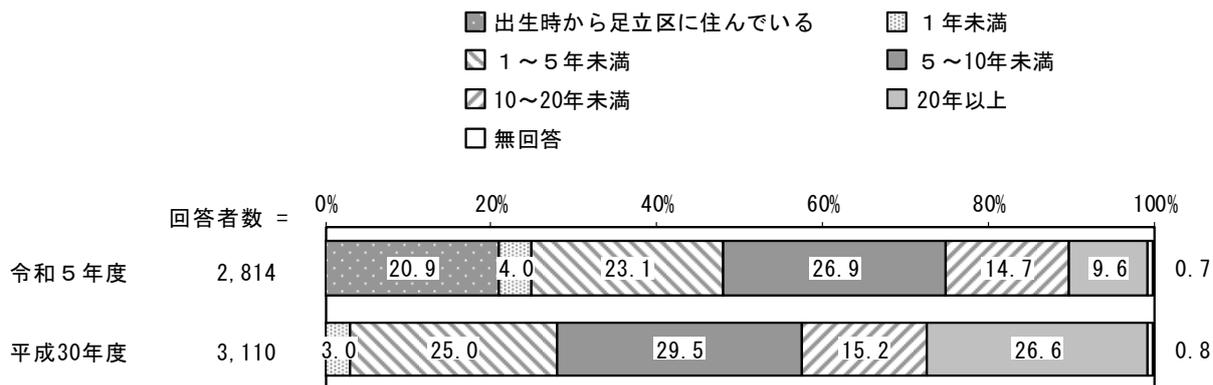
調査結果 就学前児童

1-1-2 足立区内の居住年数

問2 あなたは足立区に住んで何年になりますか（○は1つだけ）。

「5～10年未満」の割合が26.9%と最も高く、次いで「1～5年未満」の割合が23.1%、「出生時から足立区に住んでいる」の割合が20.9%となっている。

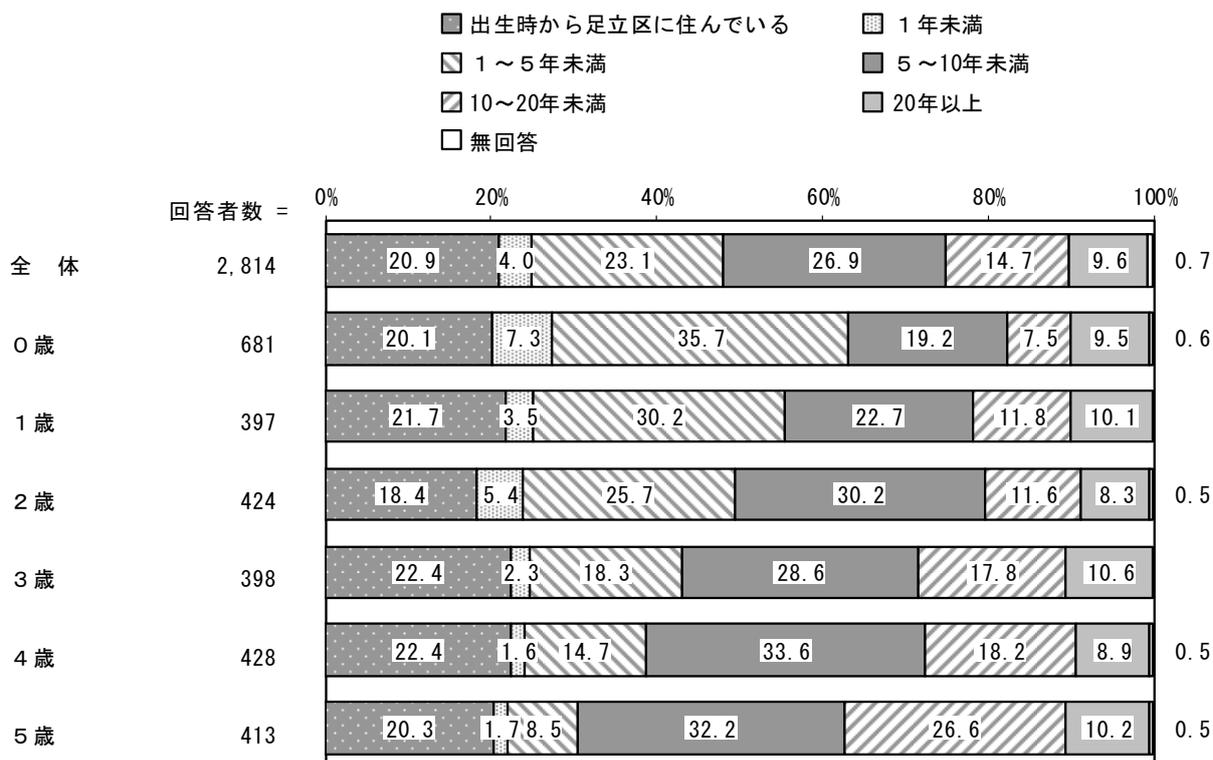
図表2 足立区内の居住年数



※平成30年度調査は「出生時から足立区に住んでいる」の選択肢がなく単純比較ができないため、参考表記とする
 ※回答対象は就学前児童対象調査の全員

子どもの年齢別にみると、全体と比べて、0歳、1歳で「1～5年未満」の割合が、5歳で「10～20年未満」の割合が高くなっている。

図表3 足立区内の居住年数一年齢別



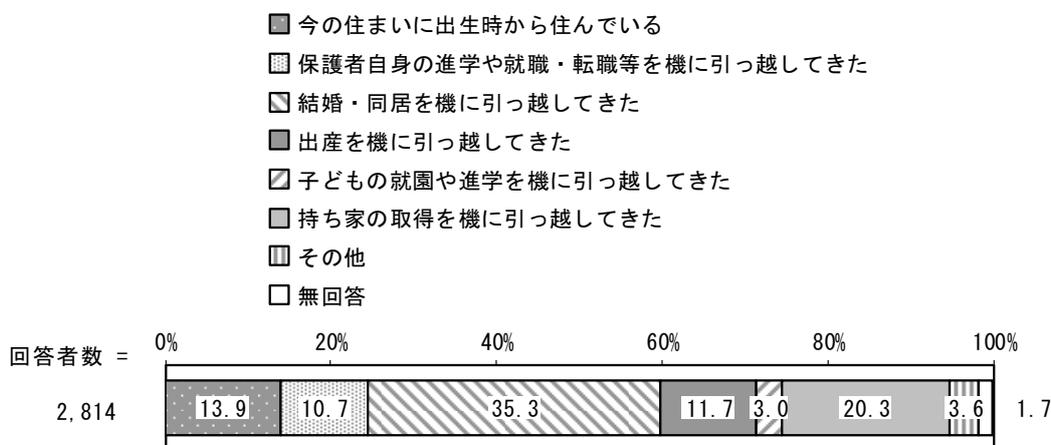
1-1-3 転居のきっかけ・転居元の地区

問3 あなたが、今のお住まいに転居したきっかけはなんですか。引っ越してこられた方は、区内か区外かもあわせてお答えください（〇は1つだけ）。

(1) 転居のきっかけ

「結婚・同居を機に引っ越してきた」の割合が 35.3%と最も高く、次いで「持ち家の取得を機に引っ越してきた」の割合が 20.3%、「今の住まいに出生時から住んでいる」の割合が 13.9%となっている。

図表 4 転居のきっかけ



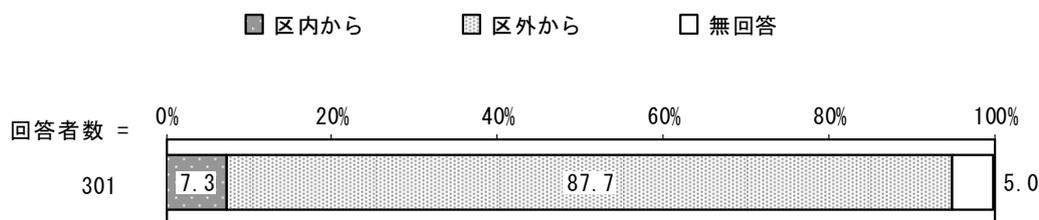
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

(2) 転居元の場所

2 保護者自身の進学や就職・転職等を機に引っ越してきた

「区内から」の割合が 7.3%、「区外から」の割合が 87.7%となっている。

図表 5 保護者自身の進学や就職・転職等を機に引っ越してきた（転居元の場所）



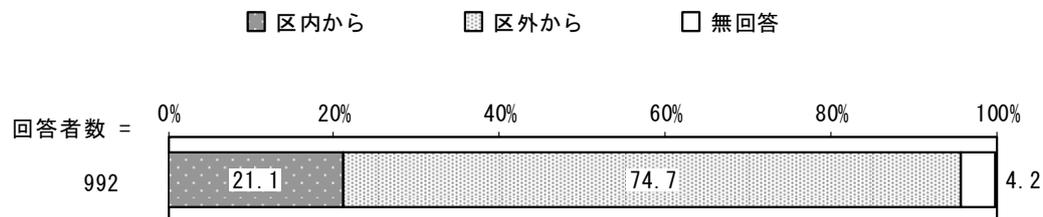
※回答対象は、問3で「2 保護者自身の進学や就職・転職等を機に引っ越してきた」と答えた人

調査結果 就学前児童

3 結婚・同居を機に引っ越してきた

「区内から」の割合が21.1%、「区外から」の割合が74.7%となっている。

図表 6 結婚・同居を機に引っ越してきた（転居元の場所）

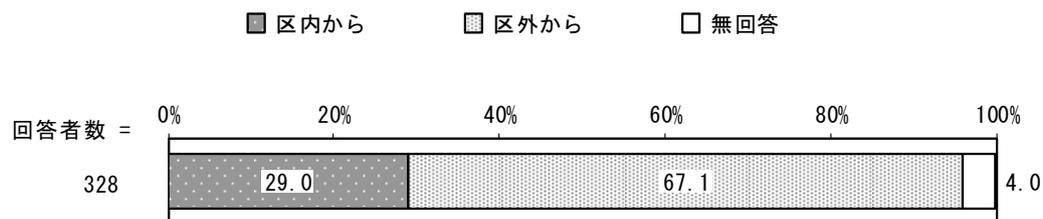


※回答対象は、問3で「3 結婚・同居を機に引っ越してきた」と答えた人

4 出産を機に引っ越してきた

「区内から」の割合が29.0%、「区外から」の割合が67.1%となっている。

図表 7 出産を機に引っ越してきた（転居元の場所）

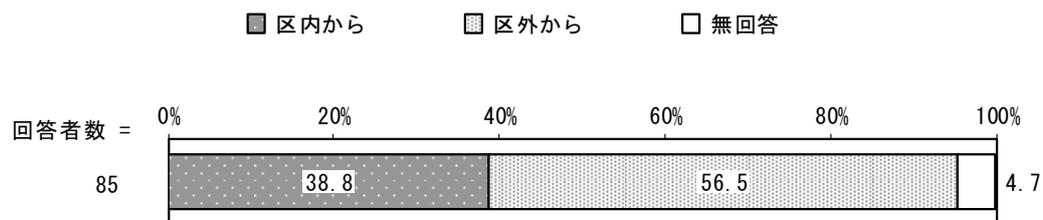


※回答対象は、問3で「4 出産を機に引っ越してきた」と答えた人

5 子どもの就園や進学を機に引っ越してきた

「区内から」の割合が38.8%、「区外から」の割合が56.5%となっている。

図表 8 子どもの就園や進学を機に引っ越してきた（転居元の場所）

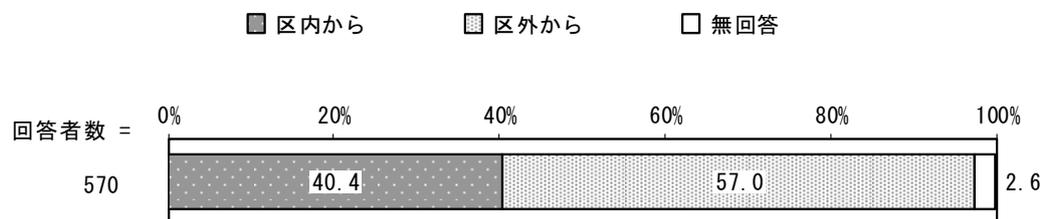


※回答対象は、問3で「5 子どもの就園や進学を機に引っ越してきた」と答えた人

6 持ち家の取得を機に引っ越してきた

「区内から」の割合が40.4%、「区外から」の割合が57.0%となっている。

図表 9 持ち家の取得を機に引っ越してきた（転居元の場所）

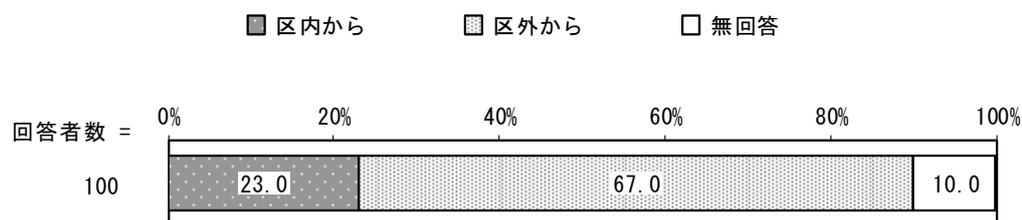


※回答対象は、問3で「6 持ち家の取得を機に引っ越してきた」と答えた人

7 その他

「区内から」の割合が23.0%、「区外から」の割合が67.0%となっている。

図表 10 その他（転居元の場所）



※回答対象は、問3で「7 その他」と答えた人

調査結果 就学前児童

1-2 子どもと家族の状況について

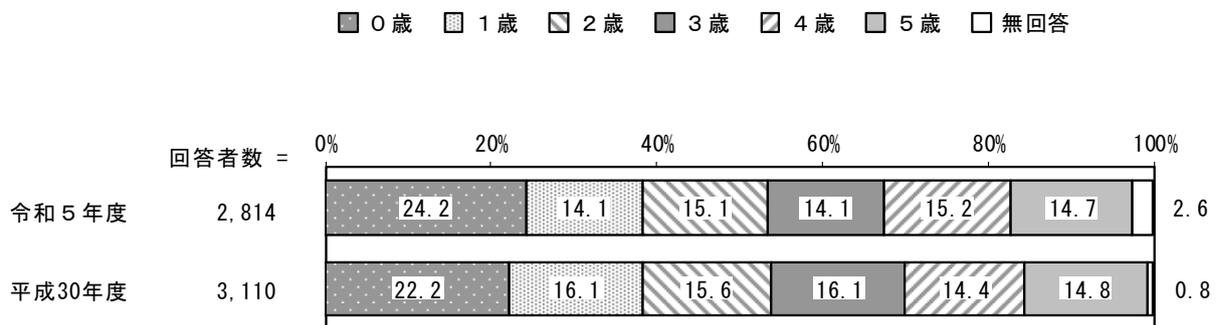
1-2-1 子どもの年齢

問4 お子さんの生年月をご記入ください（カッコ内に数字で）。

「0歳」の割合が24.2%と最も高く、次いで「4歳」の割合が15.2%、「2歳」の割合が15.1%となっている。

平成30年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 11 子どもの年齢



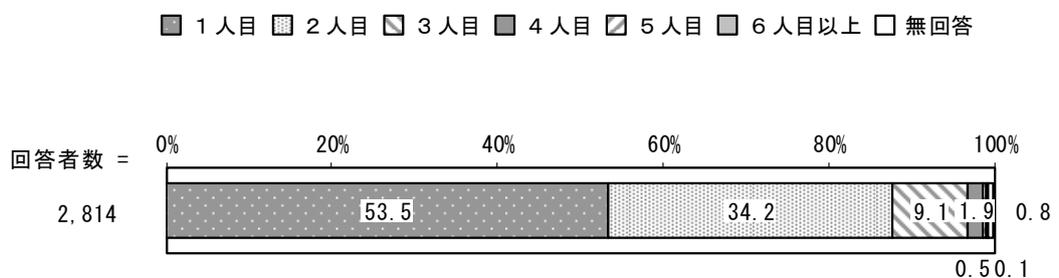
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-2-2 何番目の子どもか

問5 お子さんにご回答いただく方にとって何番目のお子さんですか（○は1つだけ）。

「1人目」の割合が53.5%と最も高く、次いで「2人目」の割合が34.2%となっている。

図表 12 何番目の子どもか



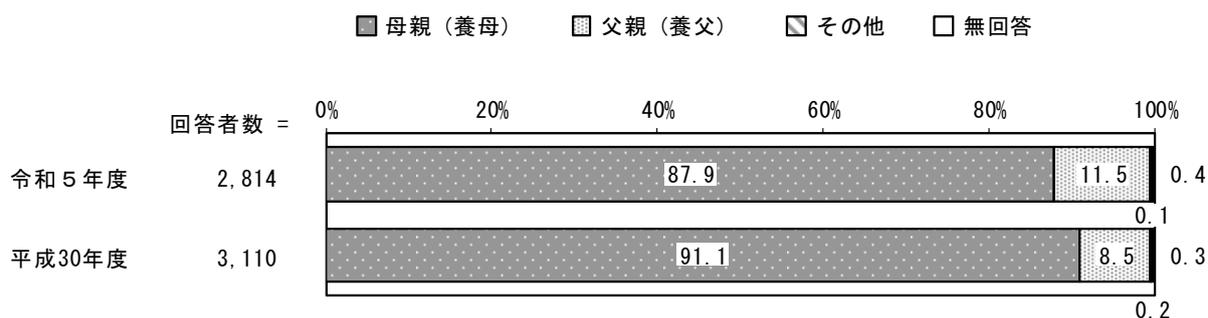
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-2-3 調査票の記入者

問6 この調査票にご回答いただく方はどなたですか（○は1つだけ）。お子さんから見た関係でお答えください。なお、祖父母などの方は3 その他（ ）に記載をお願いします。

「母親（養母）」の割合が87.9%、「父親（養父）」の割合が11.5%となっている。
平成30年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 13 調査票の記入者



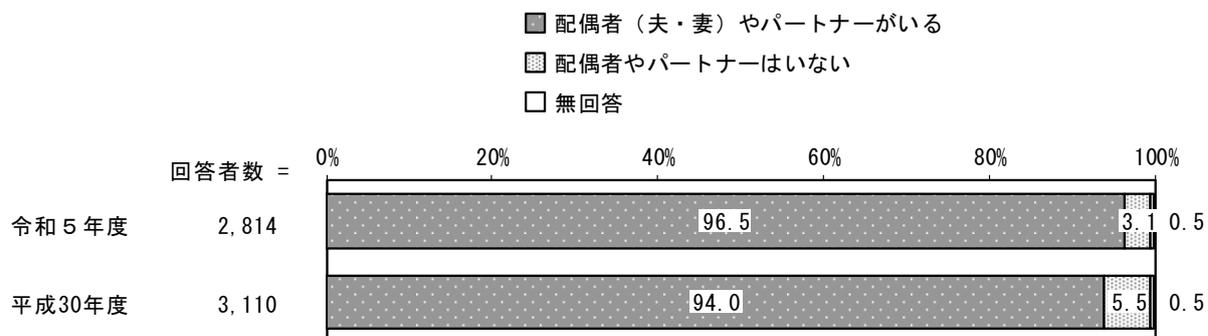
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-2-4 調査票記入者の配偶者の有無

問7 この調査票にご回答いただいている方に配偶者はいらっしゃいますか（○は1つだけ）。

「配偶者（夫・妻）やパートナーがいる」の割合が96.5%、「配偶者やパートナーはいない」の割合が3.1%となっている。
平成30年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 14 調査票記入者の配偶者の有無



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

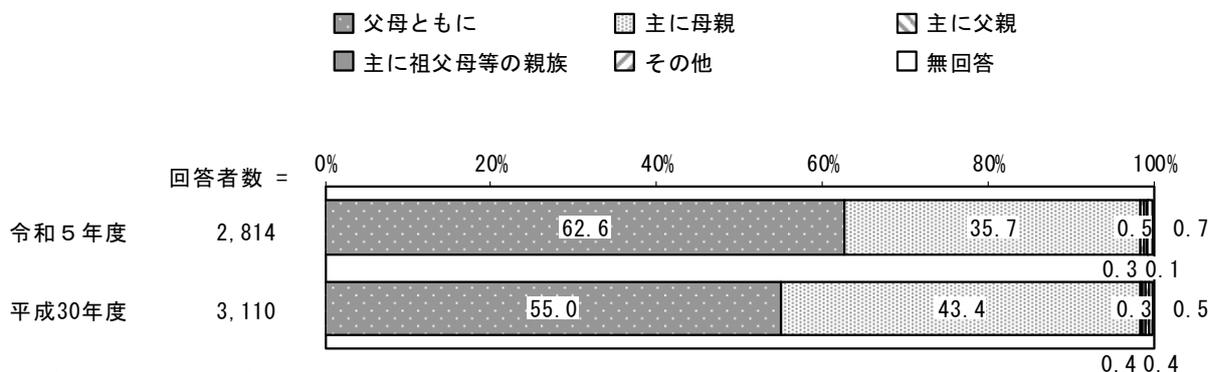
1-2-5 子育てを主に行っている方

問8 お子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください（○は1つだけ）。

「父母ともに」の割合が 62.6%と最も高く、次いで「主に母親」の割合が 35.7%となっている。

平成 30 年度と比較すると、「父母ともに」の割合が増加している。一方、「主に母親」の割合が減少している。

図表 15 子育てを主に行っている方



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-3 子育て環境について

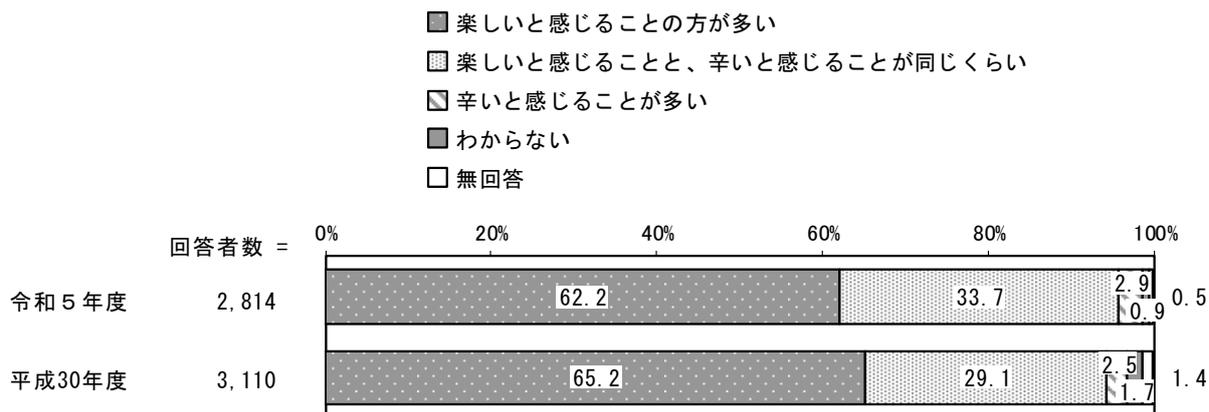
1-3-1 子育てについての感想

問9 あなたは、子育てをどのように感じていますか（○は1つだけ）。

「楽しいと感じることの方が多い」の割合が62.2%と最も高く、次いで「楽しいと感じることと、辛いと感じることが同じくらい」の割合が33.7%となっている。

平成30年度と比較すると、大きな差はみられない。

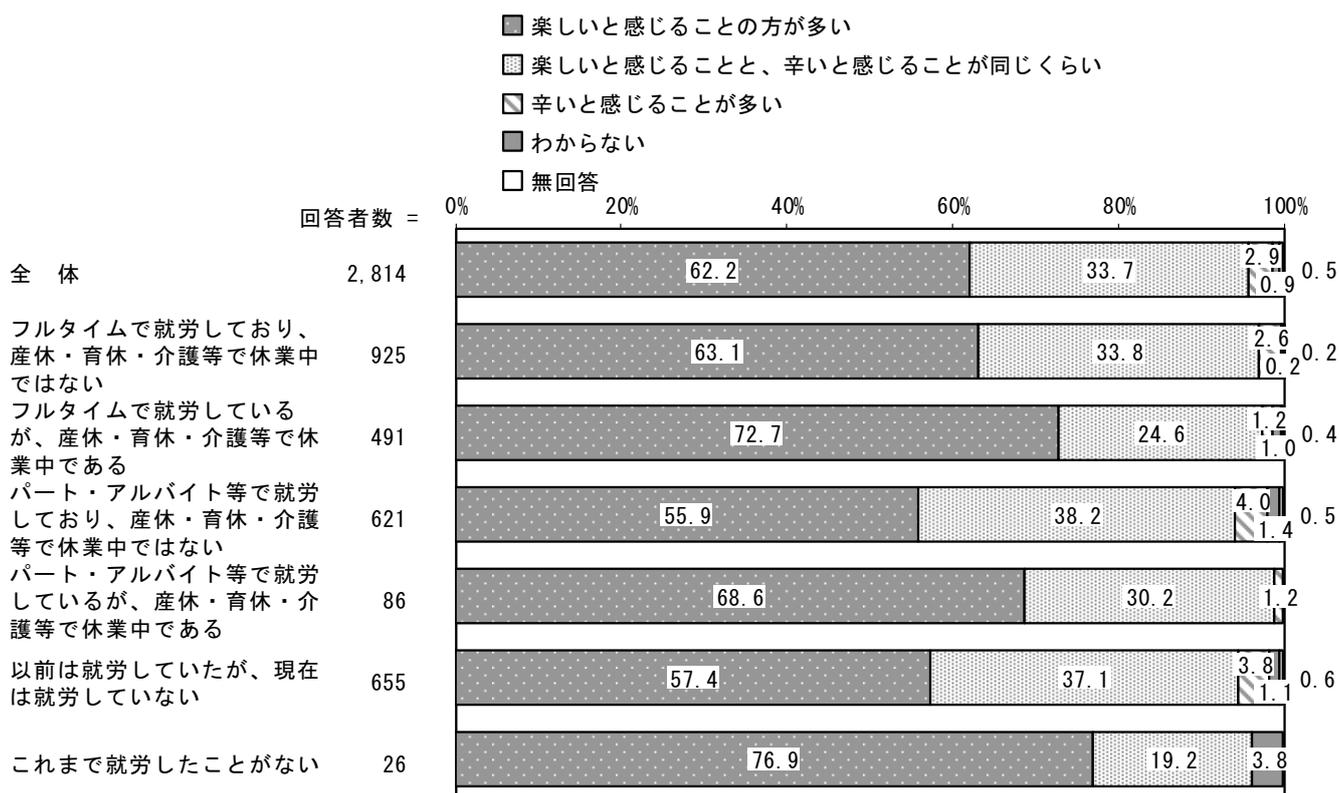
図表 16 子育てについての感想



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

母親の就労状況別でみると、全体と比べて、これまで就労したことがない人で「楽しいと感じることの方が多い」の割合が高くなっている。

図表 17 子育てについての感想—母親の就労状況別



調査結果 就学前児童

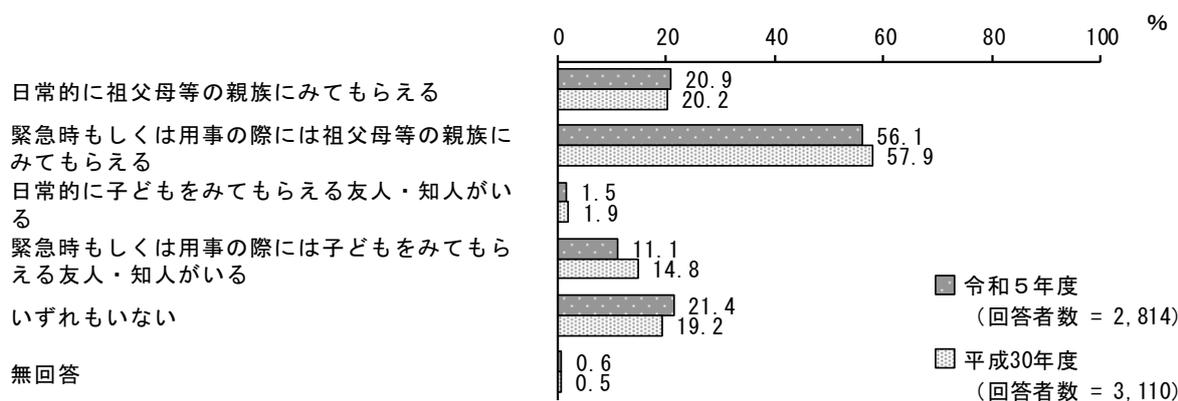
1-3-2 子どもをみてもらえる親族・知人の有無

問 10 日頃、お子さんをみてもらえる親族や知人はいますか
(あてはまるものすべてに○)。

「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が 56.1%と最も高く、次いで「いずれもない」の割合が 21.4%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が 20.9%となっている。

平成 30 年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 18 子どもをみてもらえる親族・知人の有無



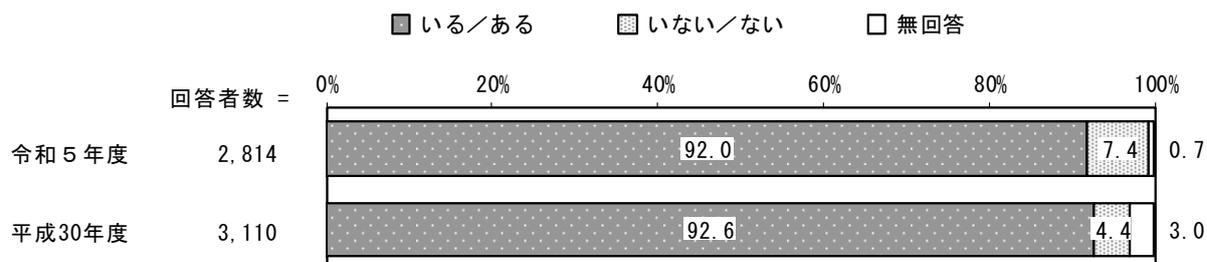
※複数回答のため、合計は100%に一致しない
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-3-3 子育てについて相談できる人・場所の有無

問 11 お子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。
または相談できる場所がありますか（○は1つだけ）。

「いる／ある」の割合が 92.0%、「いない／ない」の割合が 7.4%となっている。
平成 30 年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 19 子育てについて相談できる人・場所の有無



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

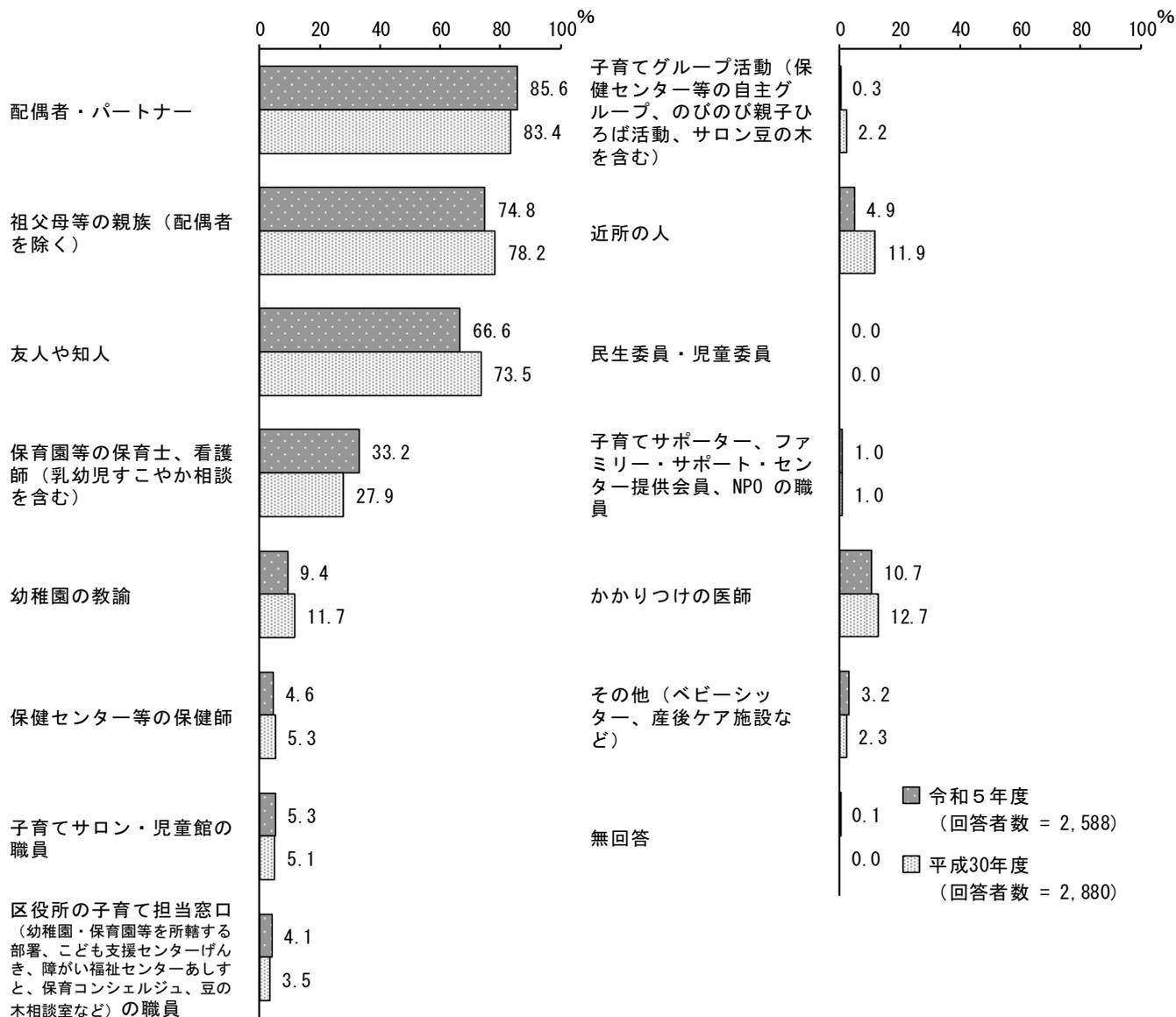
1-3-4 子育てについて相談できる人・場所

問 11-1 お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は誰（どこ）ですか（あてはまるものすべてに○）。

「配偶者・パートナー」の割合が 85.6%と最も高く、次いで「祖父母等の親族（配偶者を除く）」の割合が 74.8%、「友人や知人」の割合が 66.6%となっている。

平成 30 年度と比較すると、「保育園等の保育士、看護師（乳幼児すこやか相談を含む）」の割合が増加している。一方、「友人や知人」「近所の人」の割合が減少している。

図表 20 子育てについて相談できる人・場所



※複数回答のため、合計は100%に一致しない
 ※問 11 で「いる／ある」と回答した人

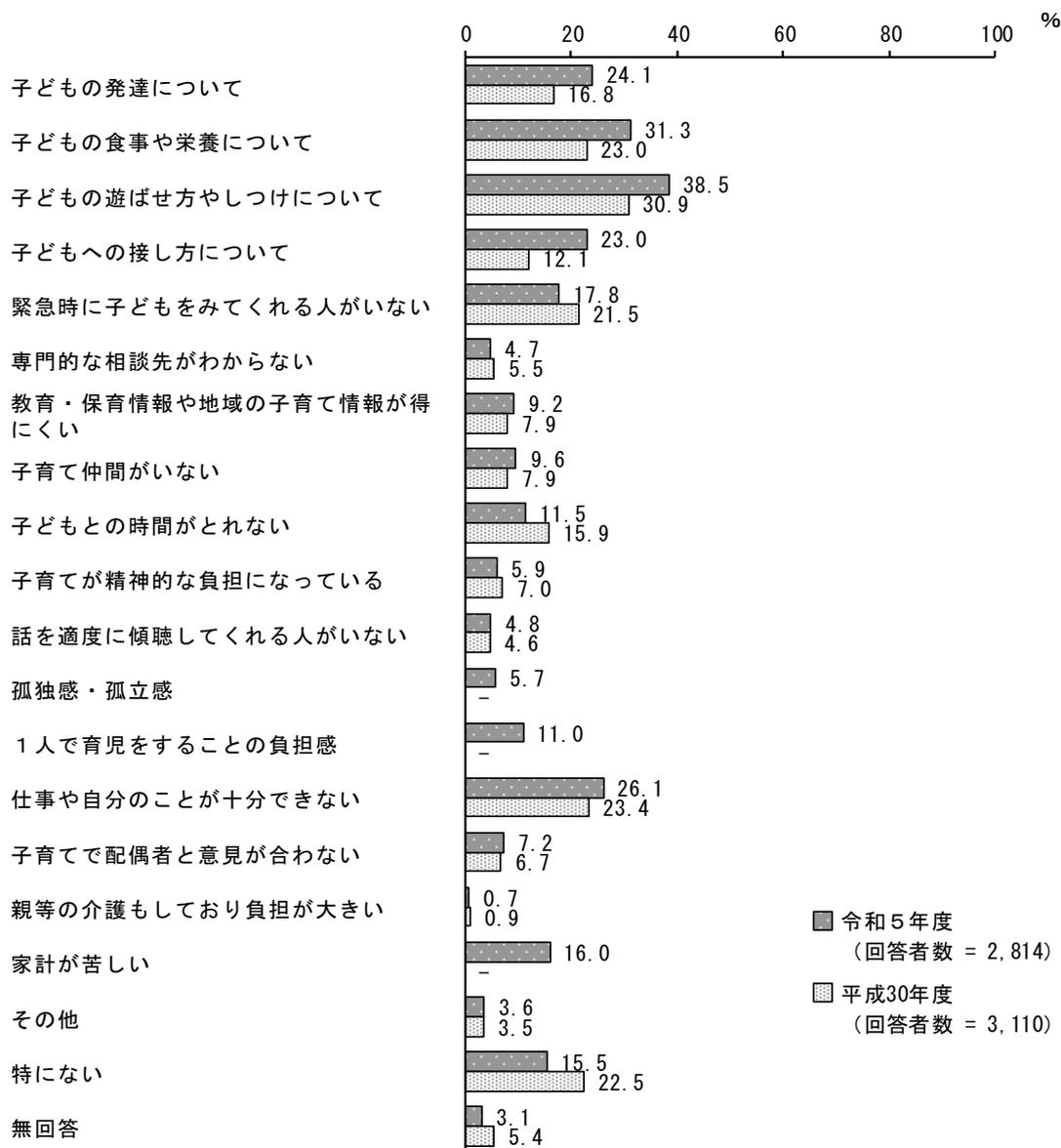
1-3-5 子育てに関する悩み

問 12 子育てに関して悩んでいることがありますか（あてはまるものすべてに○）。

「子どもの遊ばせ方やしつけについて」の割合が 38.5%と最も高く、次いで「子どもの食事や栄養について」の割合が 31.3%、「仕事や自分のことが十分できない」の割合が 26.1%となっている。

平成 30 年度と比較すると、「子どもの発達について」「子どもの食事や栄養について」「子どもの遊ばせ方やしつけについて」「子どもへの接し方について」の割合が増加している。一方、「特にない」の割合が減少している。

図表 21 子育てに関する悩み



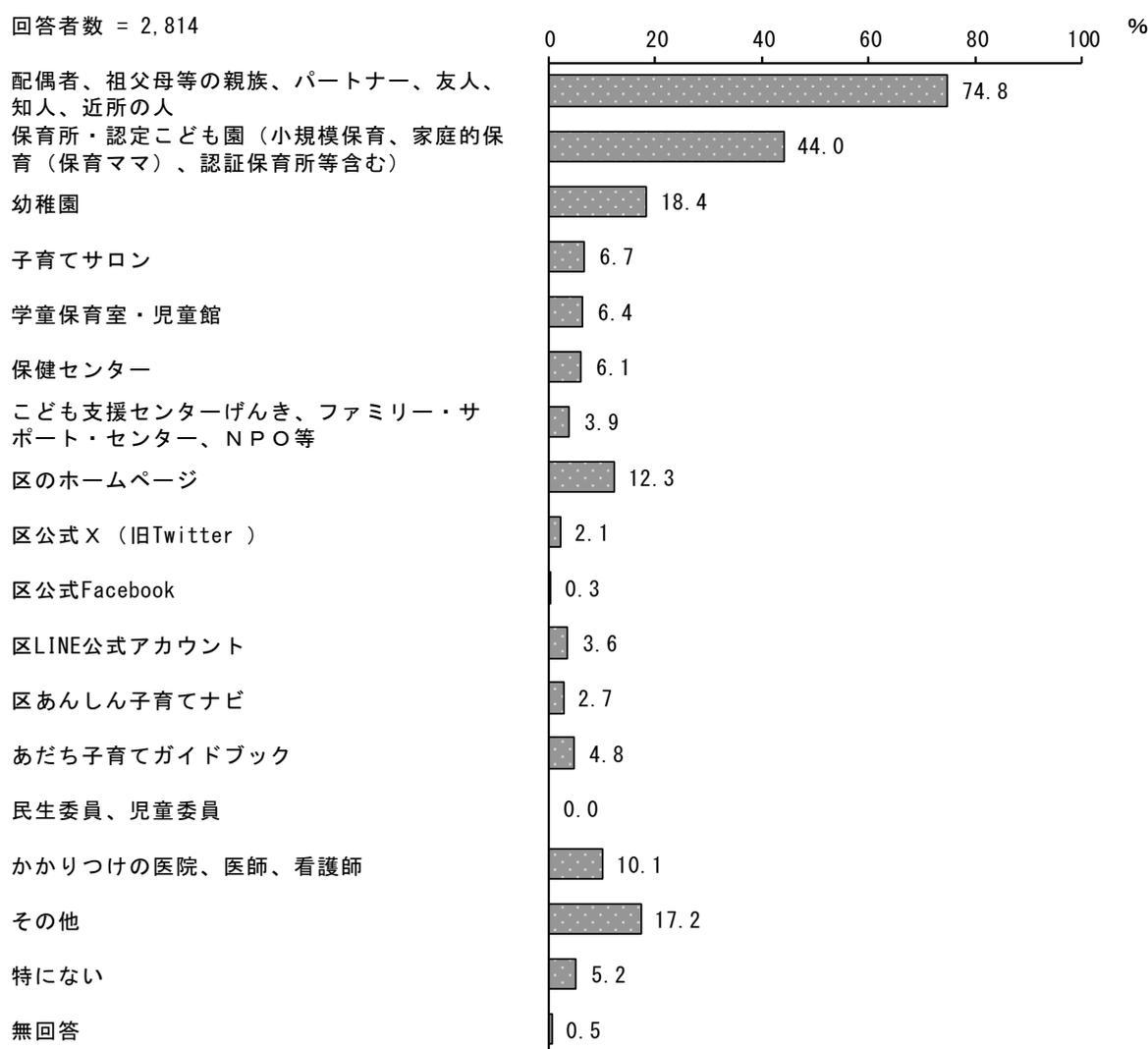
※複数回答のため、合計は100%に一致しない
 ※回答対象は就学前児童対象調査の全員
 ※平成 30 年度調査で選択肢になかった項目は「-」としている。

1-3-6 子育てに関する情報の入手先

問 13 子育てに関する情報をどこから入手していますか
(あてはまるものすべてに○)。

「配偶者、祖父母等の親族、パートナー、友人、知人、近所の人」の割合が 74.8%と最も高く、次いで「保育所・認定こども園（小規模保育、家庭的保育（保育ママ）、認証保育所等含む）」の割合が 44.0%、「幼稚園」の割合が 18.4%となっている。

図表 22 子育てに関する情報の入手先



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は就学前児童対象調査の全員

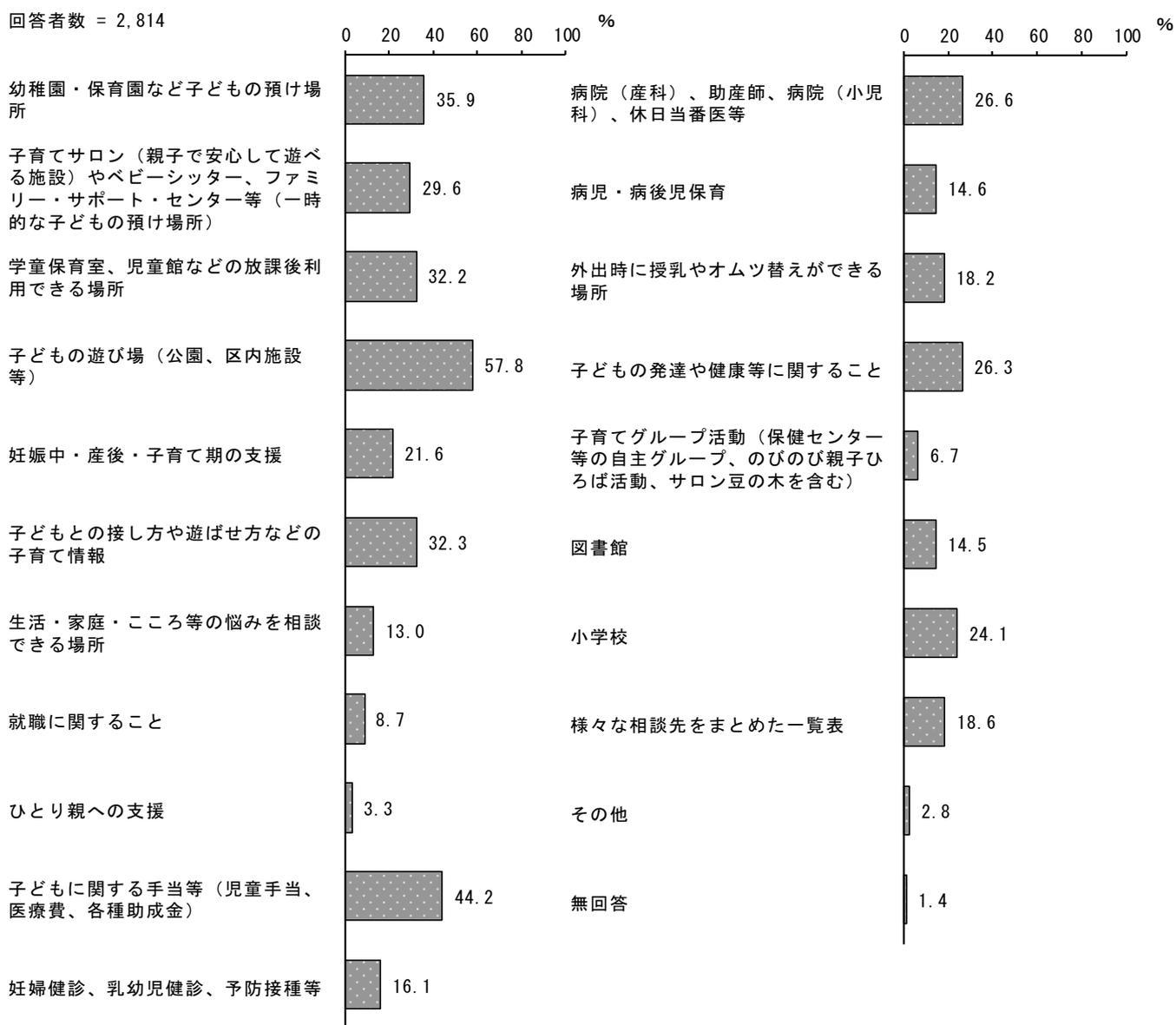
調査結果 就学前児童

1-3-7 子育てに関して入手したい情報

問 14 子育てに関するどのような情報を入手したいと思いますか
(あてはまるものすべてに○)。

「子どもの遊び場（公園、区内施設等）」の割合が 57.8%と最も高く、次いで「子どもに関する手当等（児童手当、医療費、各種助成金）」の割合が 44.2%、「幼稚園・保育園など子どもの預け場所」の割合が 35.9%となっている。

図表 23 子育てに関して入手したい情報



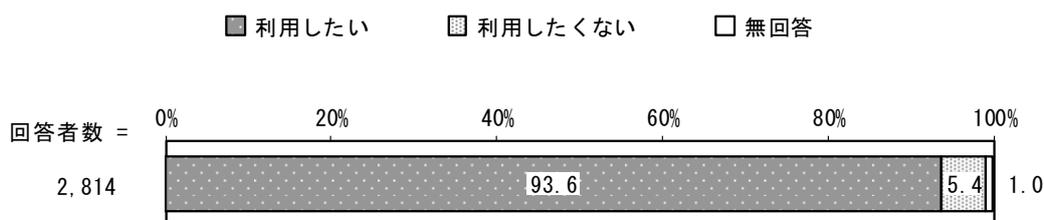
※複数回答のため、合計は100%に一致しない
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-3-8 プッシュ型行政サービスの利用希望

問 15 子育て・保育に関する情報提供や給付金支給について、プッシュ型行政サービスを利用したいですか（○は1つだけ）。

「利用したい」の割合が93.6%、「利用したくない」の割合が5.4%となっている。

図表 24 プッシュ型行政サービスの利用希望



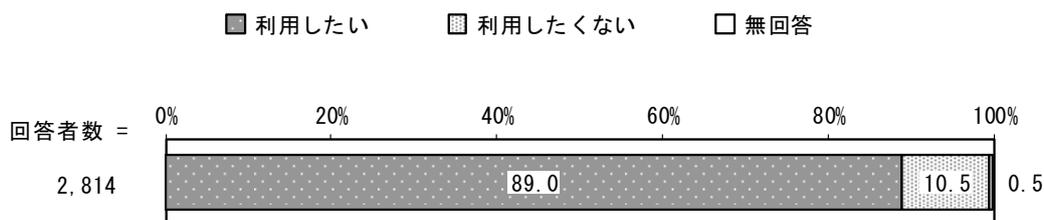
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-3-9 オンライン申請サービスの利用希望

問 16 子育て・保育の手続きに関して、オンライン申請サービスを利用したいですか。（○は1つだけ）。

「利用したい」の割合が89.0%、「利用したくない」の割合が10.5%となっている。

図表 25 オンライン申請サービスの利用希望



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

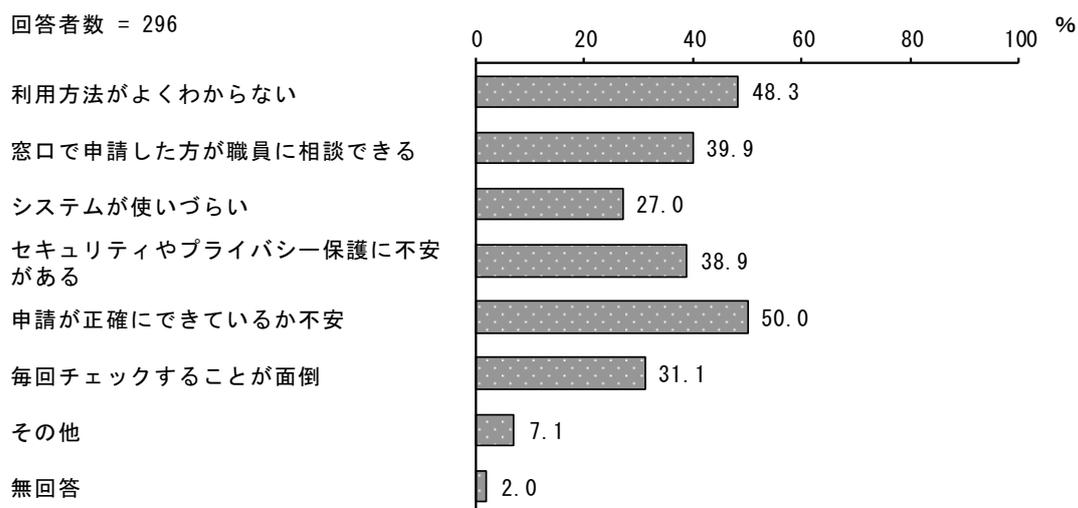
調査結果 就学前児童

1-3-10 オンライン申請サービスを利用したくない理由

問 16-1 利用したくない理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）。

「申請が正確にできているか不安」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「利用方法がよくわからない」の割合が 48.3%、「窓口で申請した方が職員に相談できる」の割合が 39.9%となっている。

図表 26 オンライン申請サービスを利用したくない理由



※複数回答のため、合計は100%に一致しない
※問 16 で「利用したくない」と回答した人

1-4 保護者の就労状況について

1-4-1 母親

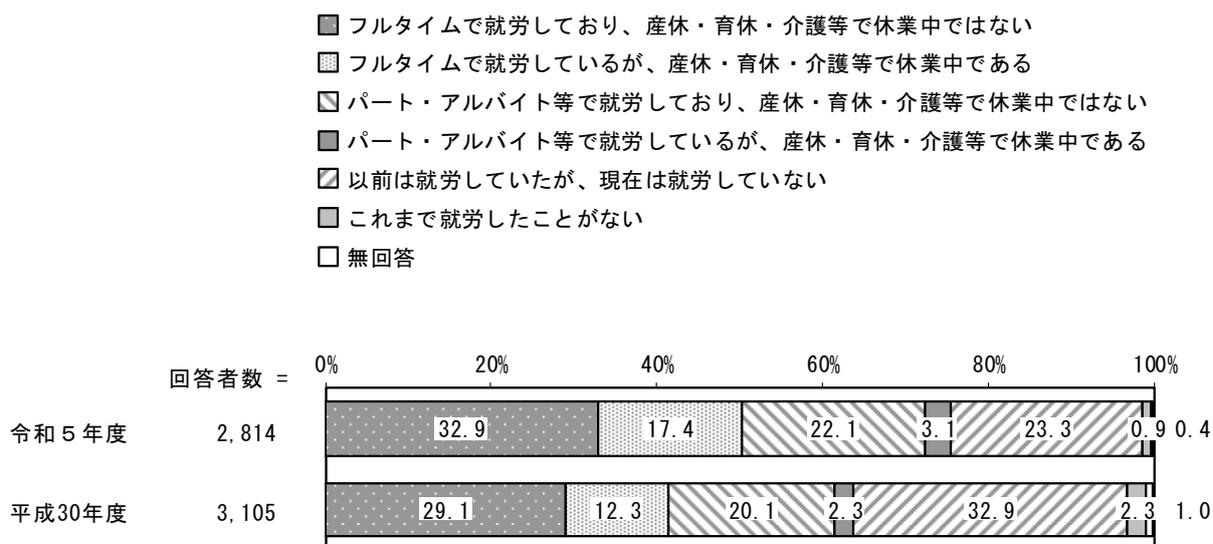
1-4-1-1 母親の就労状況

問17 お母さまの現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）は次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護等で休業中ではない」の割合が32.9%と最も高く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が23.3%、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護等で休業中ではない」の割合が22.1%となっている。

平成30年度と比較すると、「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護等で休業中である」の割合が増加している。一方、「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が減少している。

図表 27 母親の就労状況



※回答対象は就学前児童対象調査の全員（父子家庭を除く）

調査結果 就学前児童

1-4-1-2 フルタイムの母親の就労状況

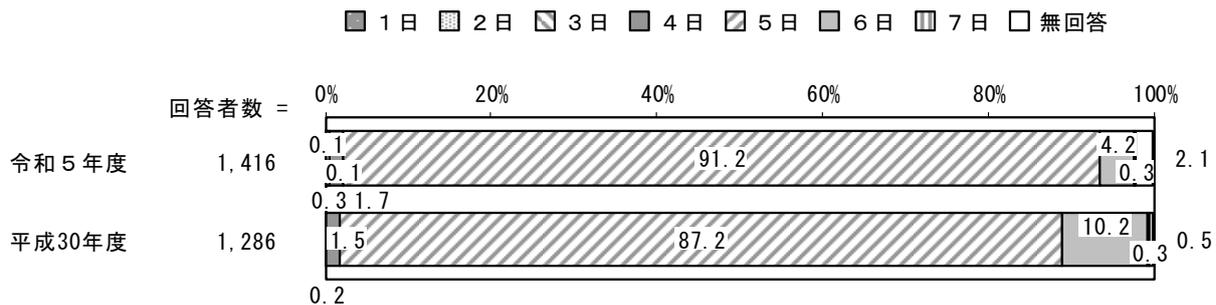
問 17-1 お母さまの就労状況について、下の表の(1)～(8)にお答えください。

(1) 1週あたりの就労日数

「5日」の割合が91.2%と最も高くなっている。

平成30年度と比較すると、「6日」の割合が減少している。

図表 28 1週あたりの就労日数（フルタイムの母親）



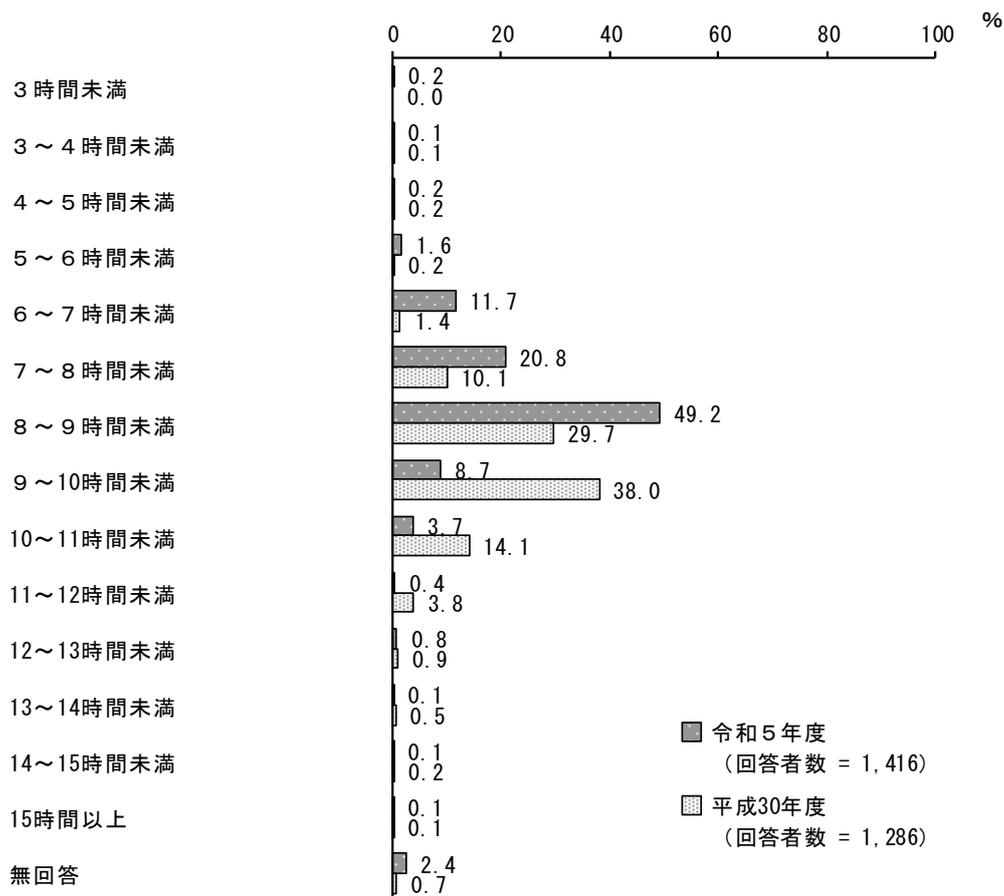
※問 17 で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

(2) 1日あたり就労時間（残業時間を含む）

「8～9時間未満」の割合が49.2%と最も高く、次いで「7～8時間未満」の割合が20.8%、「6～7時間未満」の割合が11.7%となっている。

平成30年度と比較すると、「6～7時間未満」「7～8時間未満」「8～9時間未満」の割合が増加している。一方、「9～10時間未満」「10～11時間未満」の割合が減少している。

図表 29 1日あたり就労時間（フルタイムの母親）



※問17で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

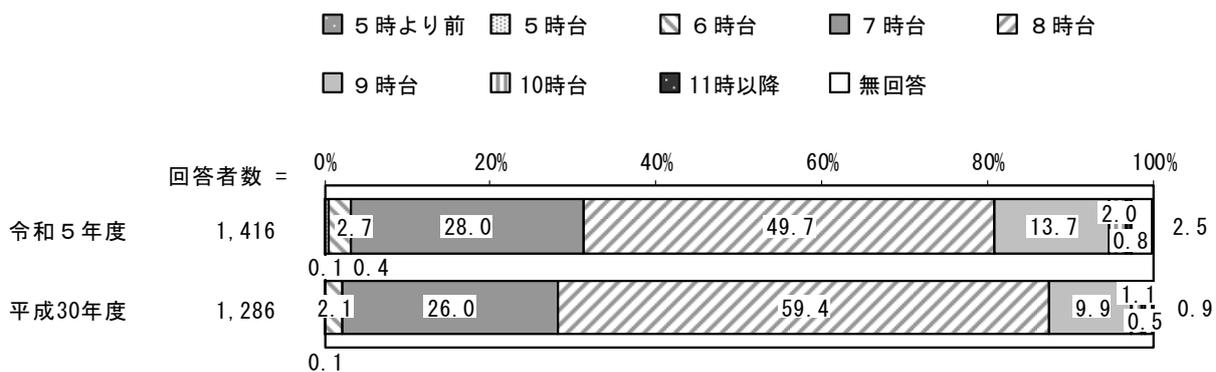
調査結果 就学前児童

(3) 出勤時刻

「8時台」の割合が49.7%と最も高く、次いで「7時台」の割合が28.0%、「9時台」の割合が13.7%となっている。

平成30年度と比較すると、「8時台」の割合が減少している。

図表 30 出勤時刻（フルタイムの母親）



※回答には12時制で表記したと考えられるものも含まれる（設問上は24時制で回答依頼）

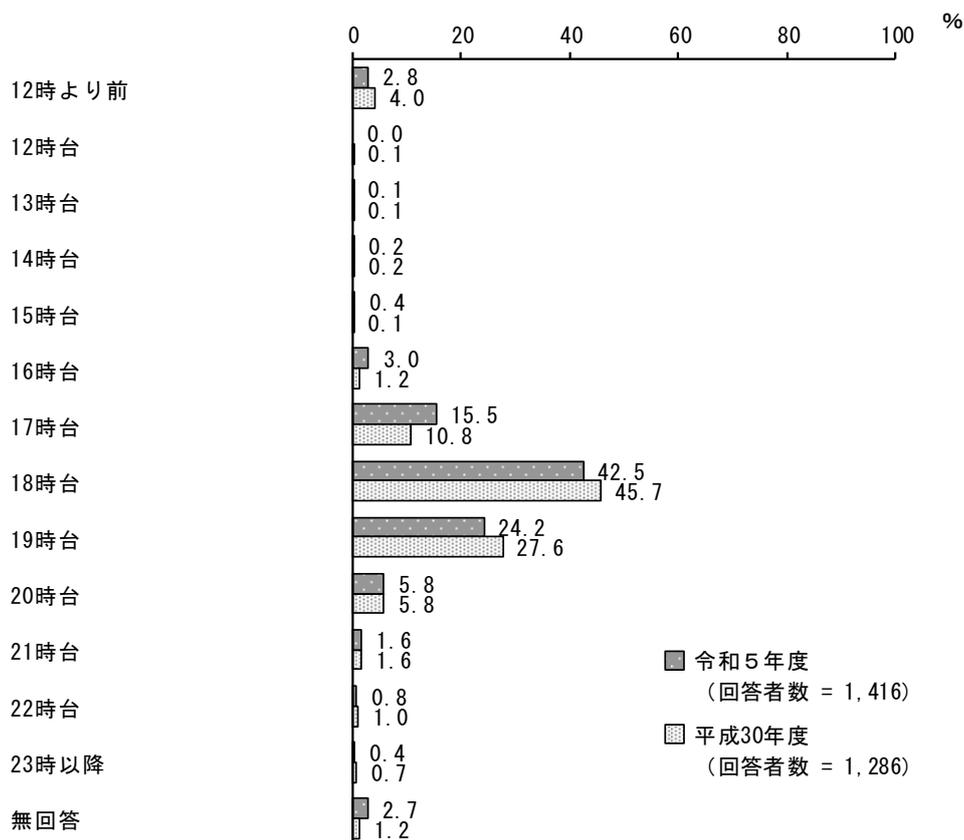
※回答対象は問17で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

(4) 帰宅時刻

「18 時台」の割合が 42.5%と最も高く、次いで「19 時台」の割合が 24.2%、「17 時台」の割合が 15.5%となっている。

平成 30 年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 31 帰宅時刻（フルタイムの母親）



※回答には 12 時制で表記したと考えられるものも含まれる（設問上は 24 時制で回答依頼）

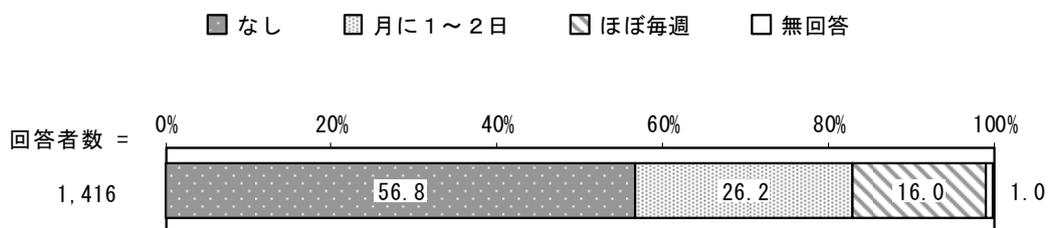
※回答対象は問 17 で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

調査結果 就学前児童

(5) 土曜日の就労日数

「なし」の割合が 56.8%と最も高く、次いで「月に1～2日」の割合が 26.2%、「ほぼ毎週」の割合が 16.0%となっている。

図表 32 土曜日の就労日数（フルタイムの母親）

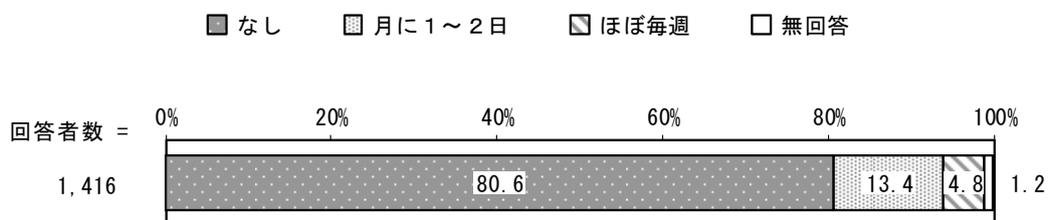


※回答対象は問 17 で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

(6) 日曜日・祝日の就労日数

「なし」の割合が 80.6%と最も高く、次いで「月に1～2日」の割合が 13.4%となっている。

図表 33 日曜日・祝日の就労日数（フルタイムの母親）

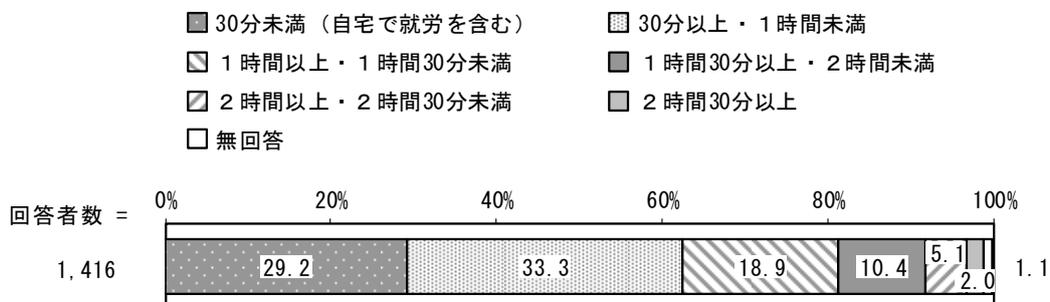


※回答対象は問 17 で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

(7) 通勤時間

「30分以上・1時間未満」の割合が33.3%と最も高く、次いで「30分未満（自宅で就労を含む）」の割合が29.2%、「1時間以上・1時間30分未満」の割合が18.9%となっている。

図表 34 通勤時間（フルタイムの母親）

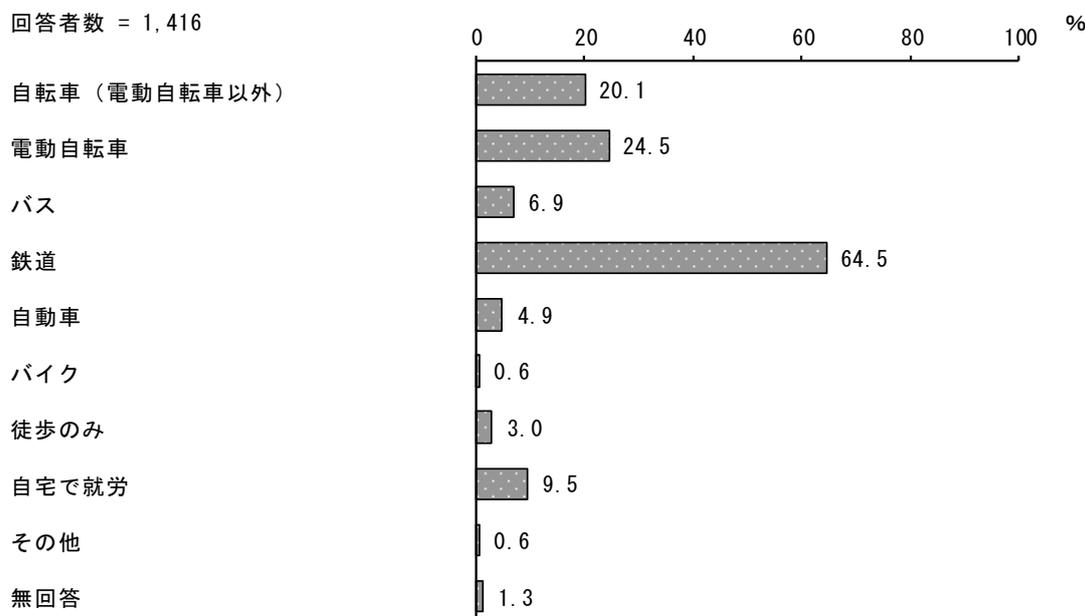


※回答対象は問17で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

(8) 通勤手段

「鉄道」の割合が64.5%と最も高く、次いで「電動自転車」の割合が24.5%、「自転車（電動自転車以外）」の割合が20.1%となっている。

図表 35 通勤手段（フルタイムの母親）



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は問17で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

調査結果 就学前児童

1-4-1-3 パート・アルバイト等の母親の就労状況

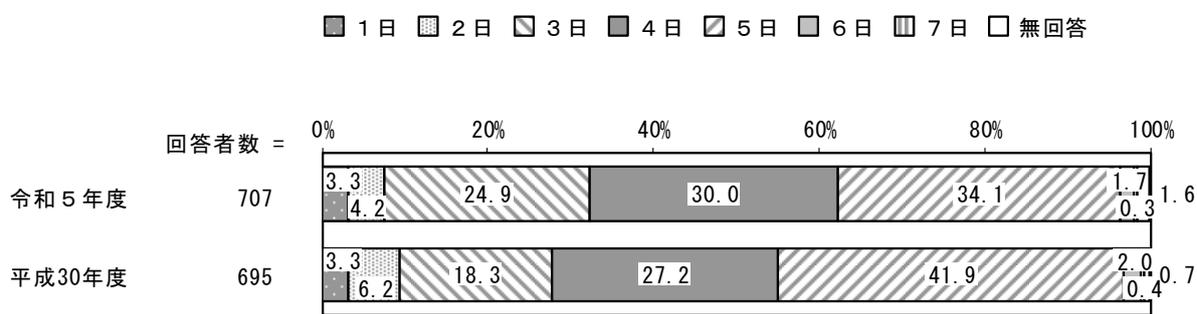
問 17-1 お母さまの就労状況について、下の表の(1)～(8)にお答えください。

(1) 1週あたりの就労日数

「5日」の割合が34.1%と最も高く、次いで「4日」の割合が30.0%、「3日」の割合が24.9%となっている。

平成30年度と比較すると、「3日」の割合が増加している。一方、「5日」の割合が減少している。

図表 36 1週あたりの就労日数（パート・アルバイト等の母親）



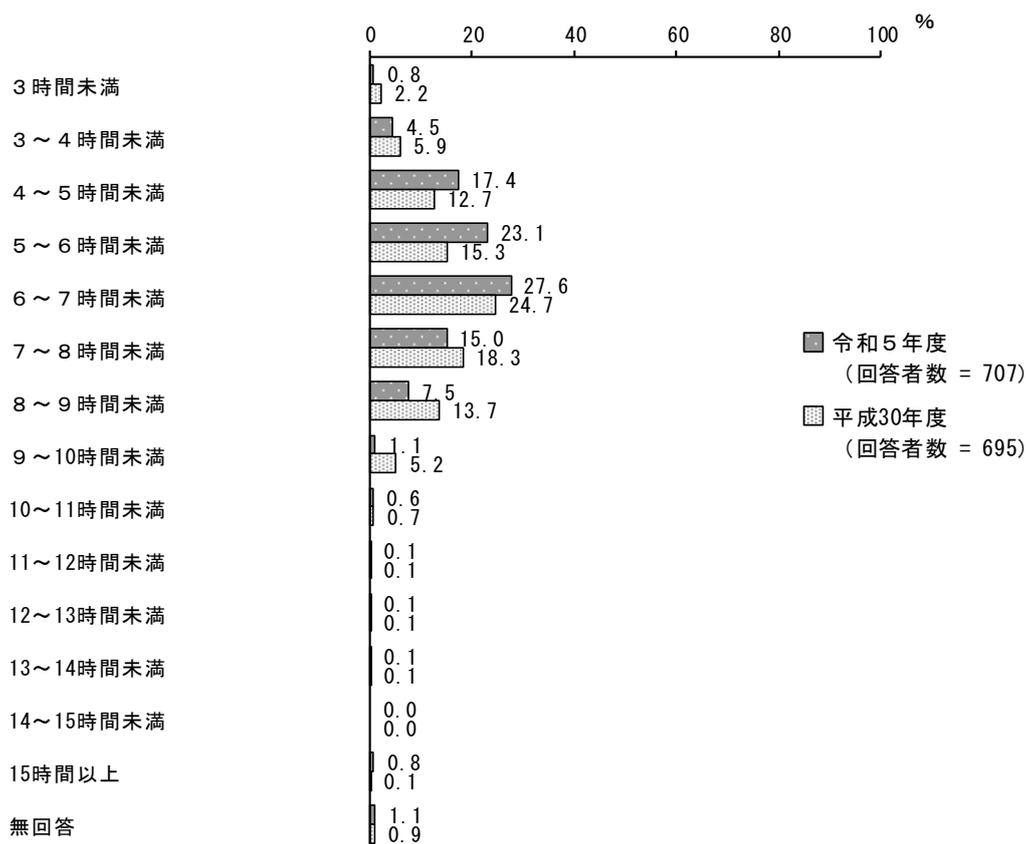
※回答対象は問17で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

(2) 1日あたり就労時間（残業時間を含む）

「6～7時間未満」の割合が27.6%と最も高く、次いで「5～6時間未満」の割合が23.1%、「4～5時間未満」の割合が17.4%となっている。

平成30年度と比較すると、「5～6時間未満」の割合が増加している。一方、「8～9時間未満」の割合が減少している。

図表 37 1日あたり就労時間（パート・アルバイト等の母親）



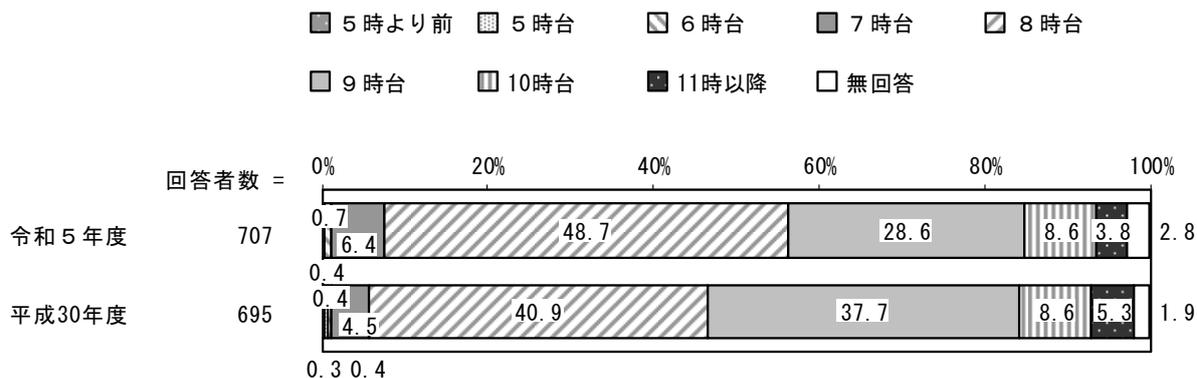
※回答対象は問17で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

調査結果 就学前児童

(3) 出勤時刻

「8時台」の割合が48.7%と最も高く、次いで「9時台」の割合が28.6%となっている。
 平成30年度と比較すると、「8時台」の割合が増加している。一方、「9時台」の割合が減少している。

図表 38 出勤時刻（パート・アルバイト等の母親）



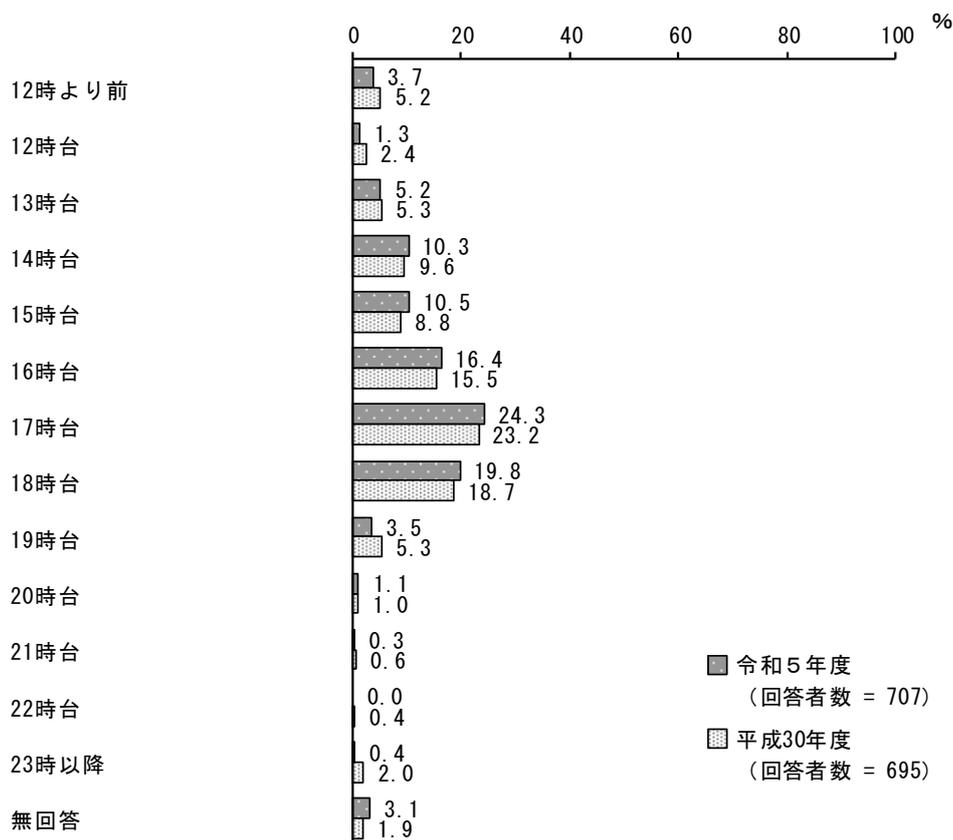
※回答には12時制で表記したと考えられるものも含まれる（設問上は24時制で回答依頼）
 ※回答対象は問17で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

(4) 帰宅時刻

「17時台」の割合が24.3%と最も高く、次いで「18時台」の割合が19.8%、「16時台」の割合が16.4%となっている。

平成30年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 39 帰宅時刻（パート・アルバイト等の母親）



※回答には12時制で表記したと考えられるものも含まれる（設問上は24時制で回答依頼）

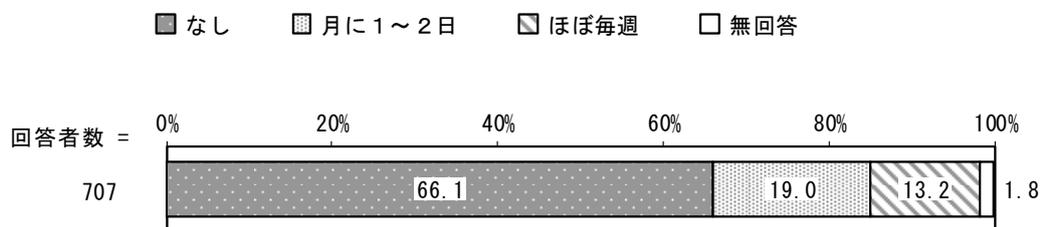
※回答対象は問17で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

調査結果 就学前児童

(5) 土曜日の就労日数

「なし」の割合が 66.1%と最も高く、次いで「月に1～2日」の割合が 19.0%、「ほぼ毎週」の割合が 13.2%となっている。

図表 40 土曜日の就労日数（パート・アルバイト等の母親）

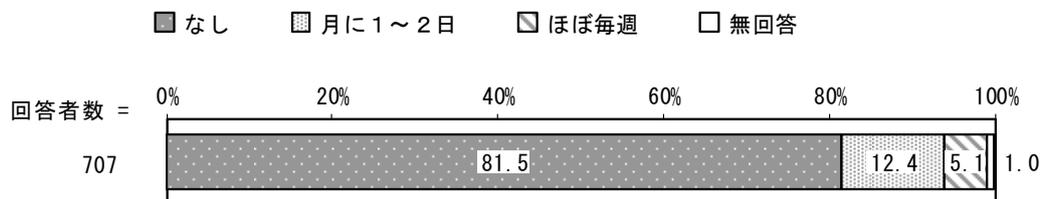


※回答対象は問 17 で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

(6) 日曜日・祝日の就労日数

「なし」の割合が 81.5%と最も高く、次いで「月に1～2日」の割合が 12.4%となっている。

図表 41 日曜日・祝日の就労日数（パート・アルバイト等の母親）

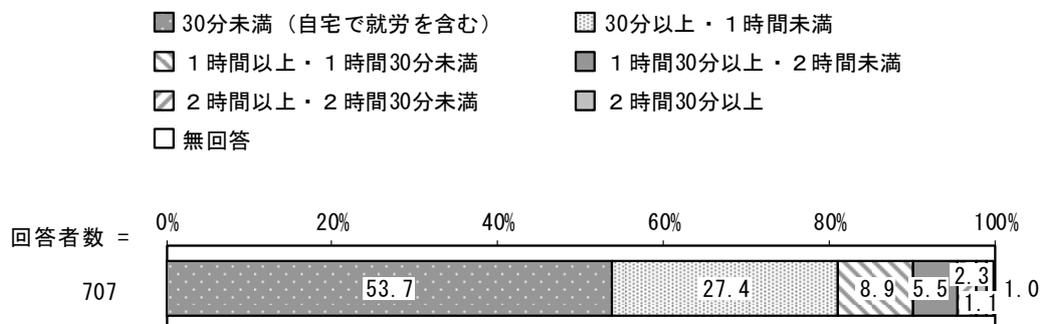


※回答対象は問 17 で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

(7) 通勤時間

「30分未満（自宅で就労を含む）」の割合が53.7%と最も高く、次いで「30分以上・1時間未満」の割合が27.4%となっている。

図表 42 通勤時間（パート・アルバイト等の母親）

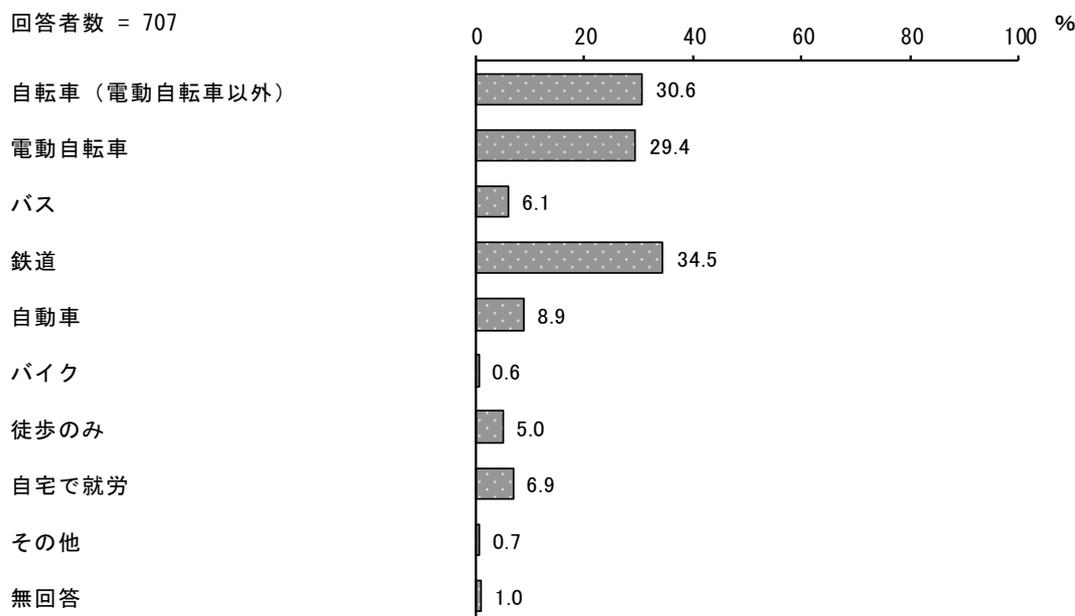


※回答対象は問17で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

(8) 通勤手段

「鉄道」の割合が34.5%と最も高く、次いで「自転車（電動自転車以外）」の割合が30.6%、「電動自転車」の割合が29.4%となっている。

図表 43 通勤手段（パート・アルバイト等の母親）



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は問17で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

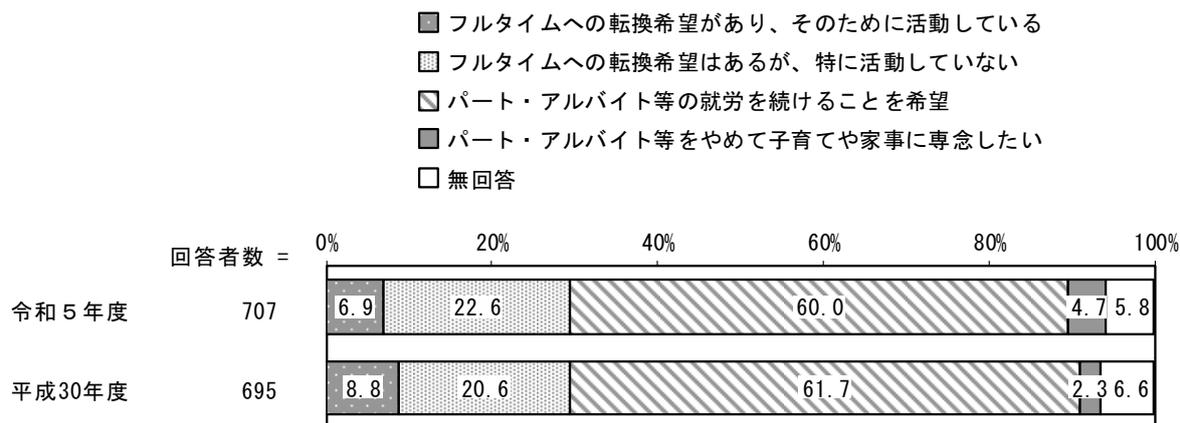
調査結果 就学前児童

1-4-1-4 パート・アルバイト等の母親の今後の就労希望

問 18 今後の就労希望は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」の割合が 60.0%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、特に活動していない」の割合が 22.6%となっている。平成 30 年度と比較すると、大きな差はみられない。

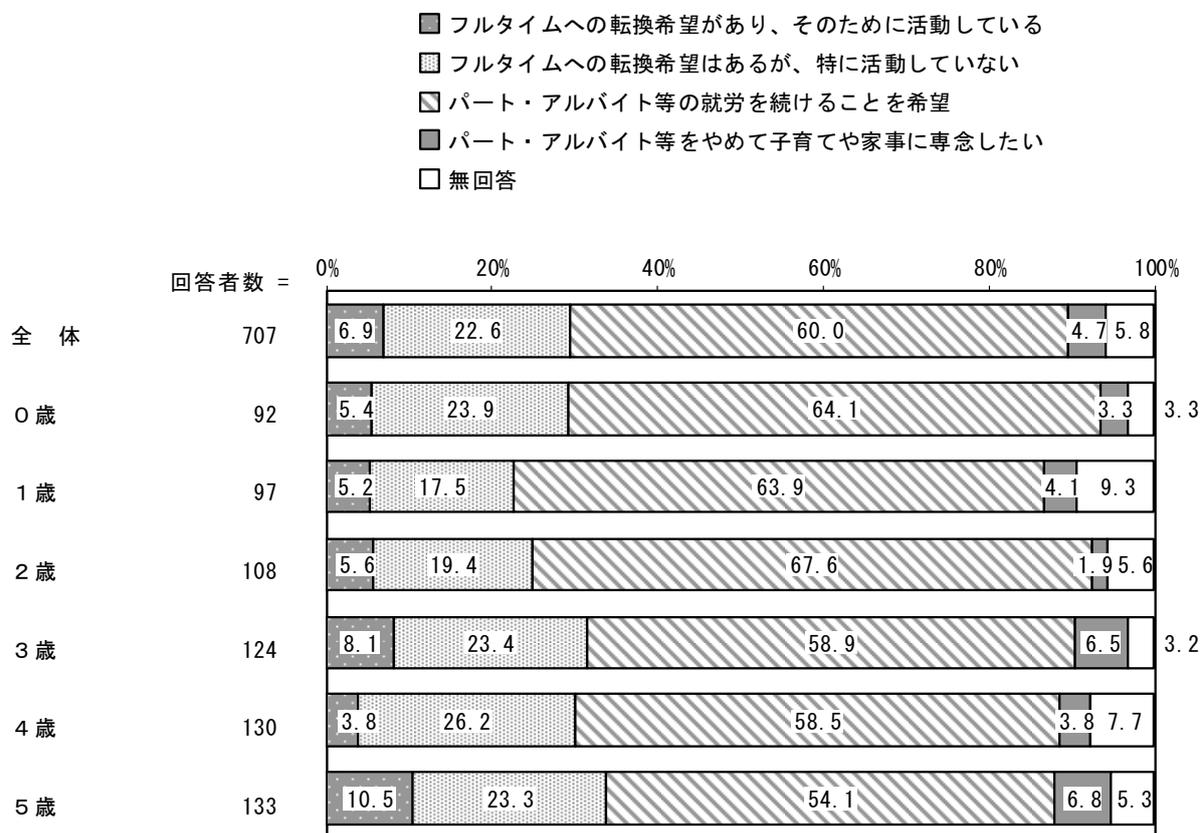
図表 44 今後の就労希望（パート・アルバイト等の母親）



※回答対象は問 17 で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

子どもの年齢別で見ると、全体と比べて、2歳で「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」の割合が高くなっている。

図表 45 今後の就労希望（パート・アルバイト等の母親）一年齢別



※回答対象は問 17 で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

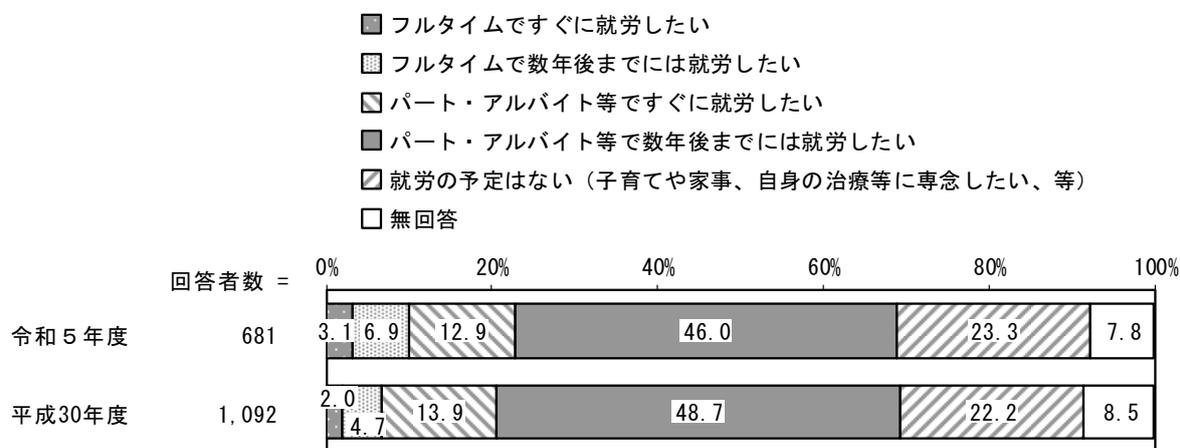
1-4-1-5 非就労の母親の今後の就労希望

問 19 今後の就労希望は次のどれにあたりますか（○はそれぞれ1つだけ）。
 また、下記で「3. または4.（パート・アルバイト等で就労したい）」に○をつけた方は、希望する「就労日数」「就労時間」「通勤時間」についてもお答えください（カッコ内に数字で）。

「パート・アルバイト等で数年後までには就労したい」の割合が 46.0%と最も高く、次いで「就労の予定はない（子育てや家事、自身の治療等に専念したい、等）」の割合が 23.3%、「パート・アルバイト等ですぐに就労したい」の割合が 12.9%となっている。

平成 30 年度と比較すると、大きな差はみられない。

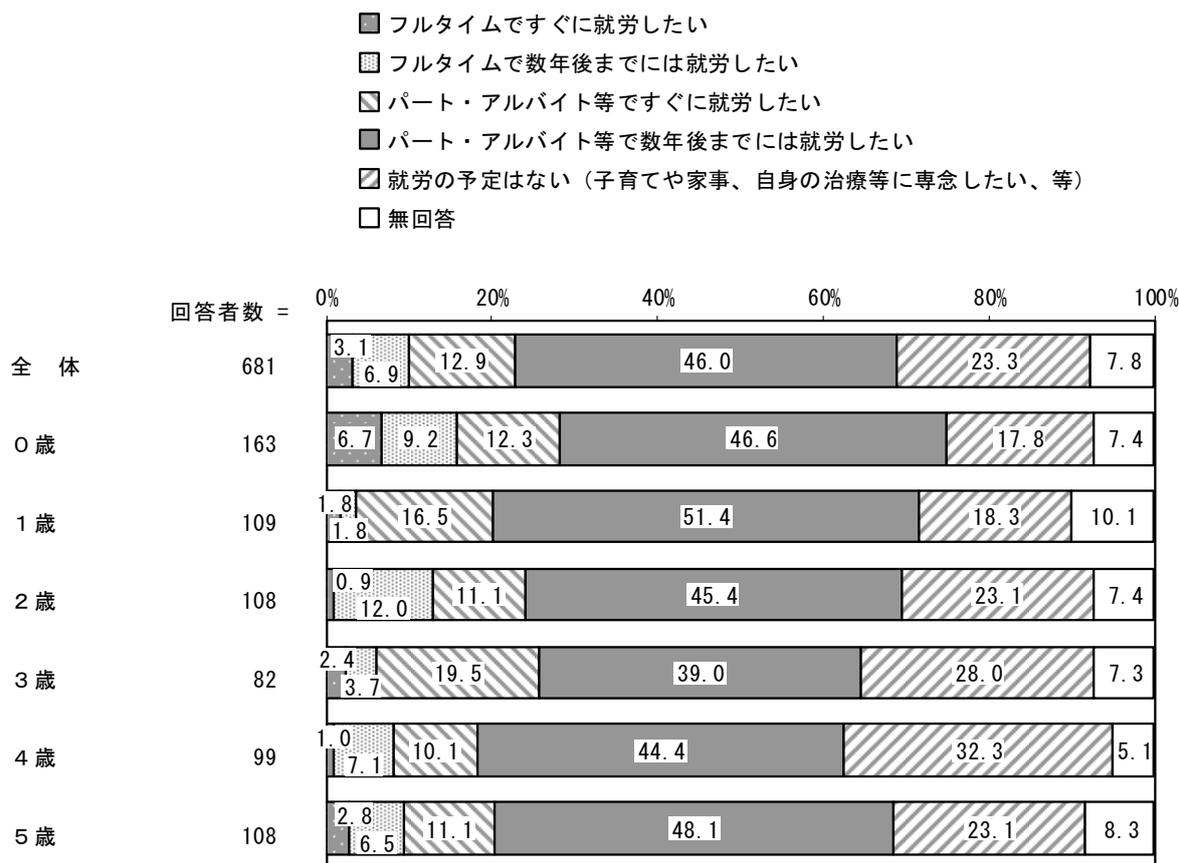
図表 46 非就労の母親の今後の就労希望



※回答対象は問 17 で「就労していない・就労したことがない」と回答した人

子どもの年齢別で見ると、全体と比べて、4歳で「就労の予定はない（子育てや家事、自身の治療等に専念したい、等）」の割合が、3歳で「パート・アルバイト等ですぐに就労したい」の割合が、1歳で「パート・アルバイト等で数年後までには就労したい」の割合が高くなって

図表 47 非就労の母親の今後の就労希望一年齢別



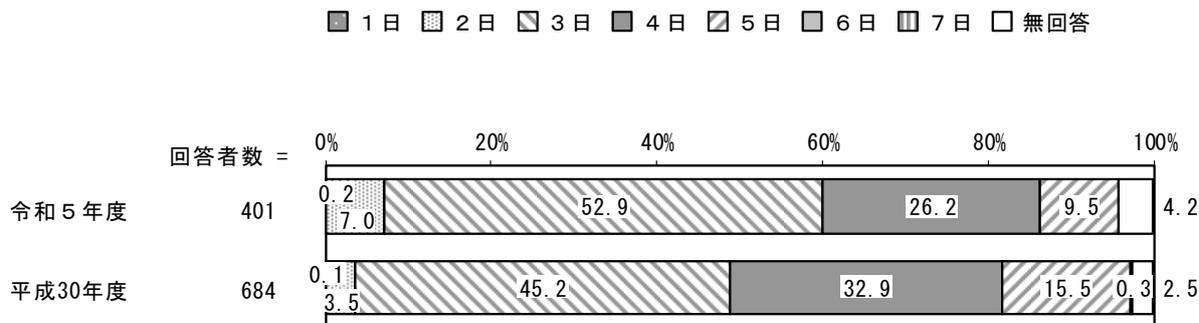
※回答対象は問 17 で「就労していない・就労したことがない」と回答した人

調査結果 就学前児童

(1) パート・アルバイト等で就労したい母親の希望する就労日数（1週あたり）

「3日」の割合が52.9%と最も高く、次いで「4日」の割合が26.2%となっている。
 平成30年度と比較すると、「3日」の割合が増加している。一方、「4日」「5日」の割合が減少している。

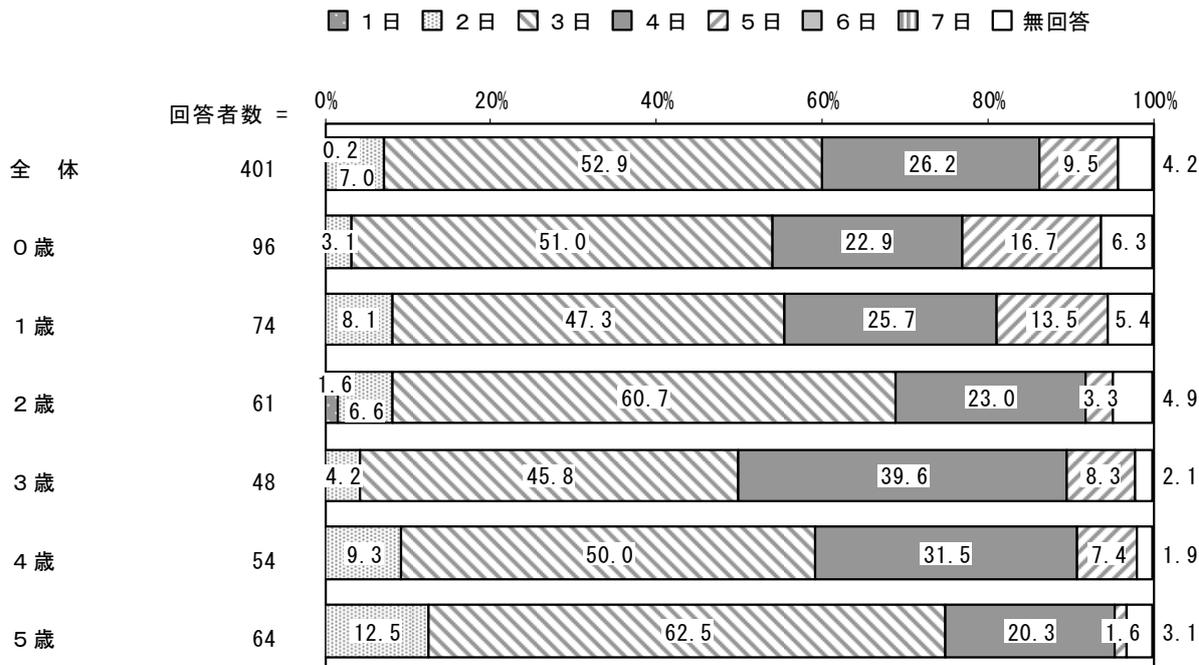
図表 48 パート・アルバイト等で就労したい母親の希望する就労日数



※回答対象は問19で「パート・アルバイト等で就労したい」と回答した人

子どもの年齢別でみると、全体と比べて、3歳で「4日」の割合が、2歳、5歳で「3日」の割合が高くなっている。

図表 49 パート・アルバイト等で就労したい母親の希望する就労日数一年齢別



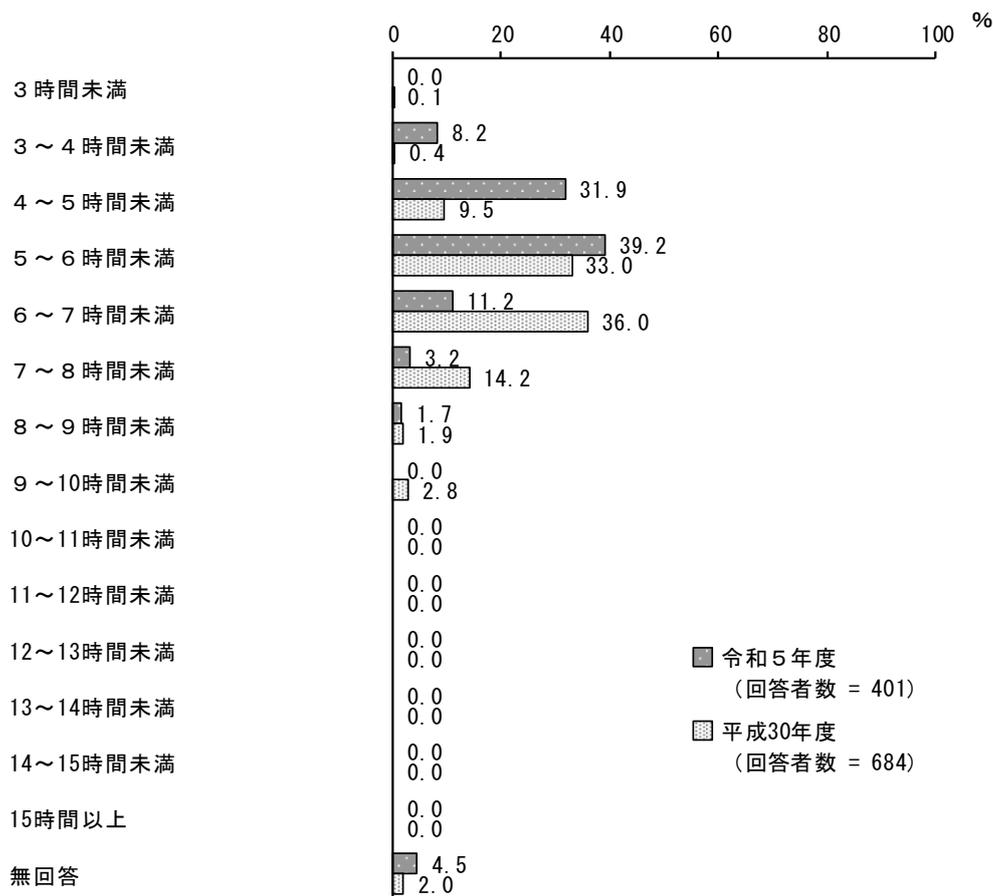
※回答対象は問19で「パート・アルバイト等で就労したい」と回答した人

(2) パート・アルバイト等で就労したい母親の希望する就労時間（1日あたり）

「5～6時間未満」の割合が39.2%と最も高く、次いで「4～5時間未満」の割合が31.9%、「6～7時間未満」の割合が11.2%となっている。

平成30年度と比較すると、「3～4時間未満」「4～5時間未満」「5～6時間未満」の割合が増加している。一方、「6～7時間未満」「7～8時間未満」の割合が減少している。

図表 50 パート・アルバイト等で就労したい母親の希望する就労時間

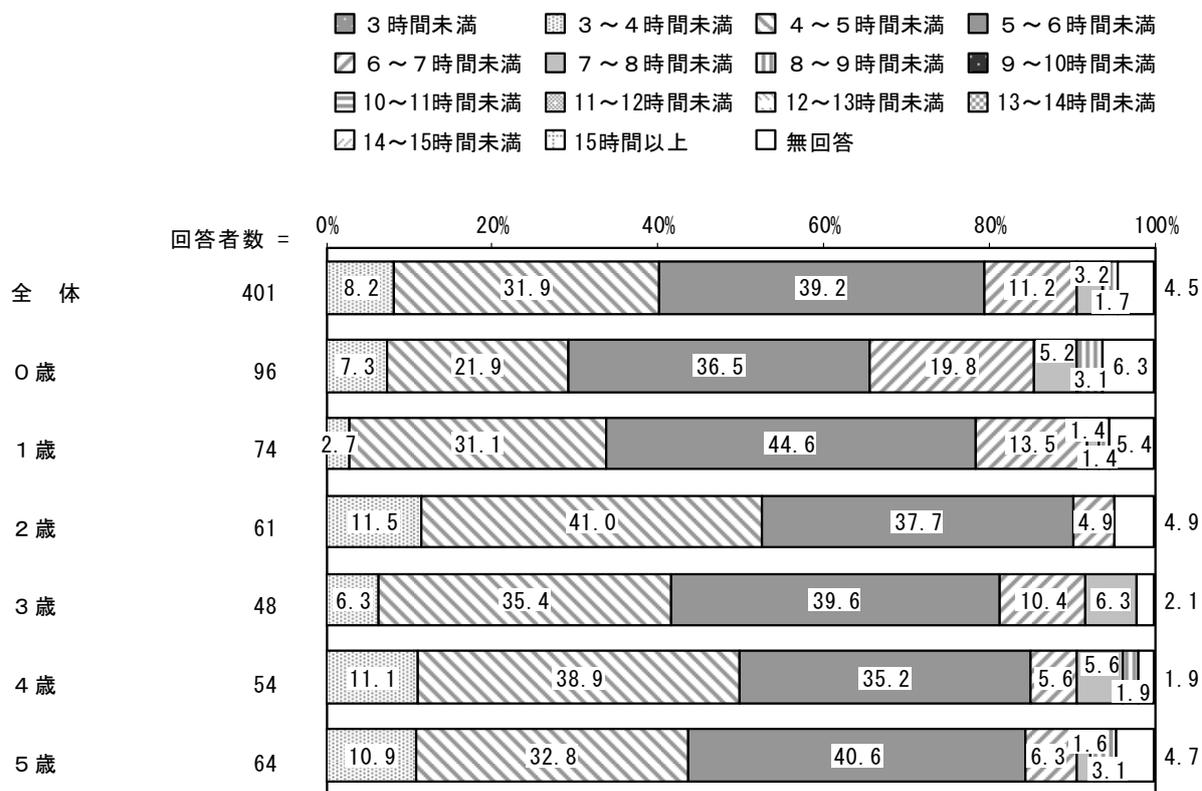


※回答対象は問19で「パート・アルバイト等で就労したい」と回答した人

調査結果 就学前児童

子どもの年齢別で見ると、全体と比べて、2歳、4歳で「4～5時間未満」の割合が、0歳で「6～7時間未満」の割合が高くなっている。

図表 51 パート・アルバイト等で就労したい母親の希望する就労時間一年齢別

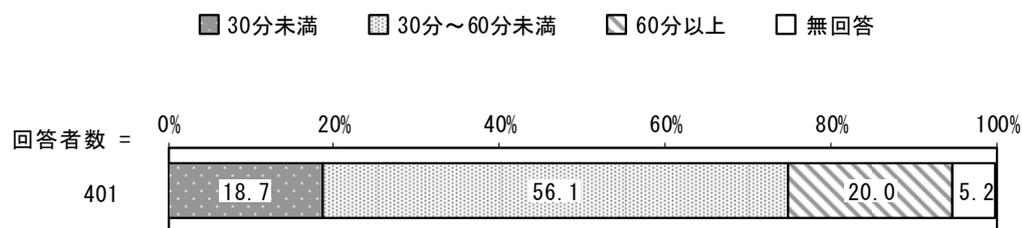


※回答対象は問19で「パート・アルバイト等で就労したい」と回答した人

(3) パート・アルバイト等で就労したい母親の希望する通勤時間（1日あたり往復）

「30分～60分未満」の割合が56.1%と最も高く、次いで「60分以上」の割合が20.0%、「30分未満」の割合が18.7%となっている。

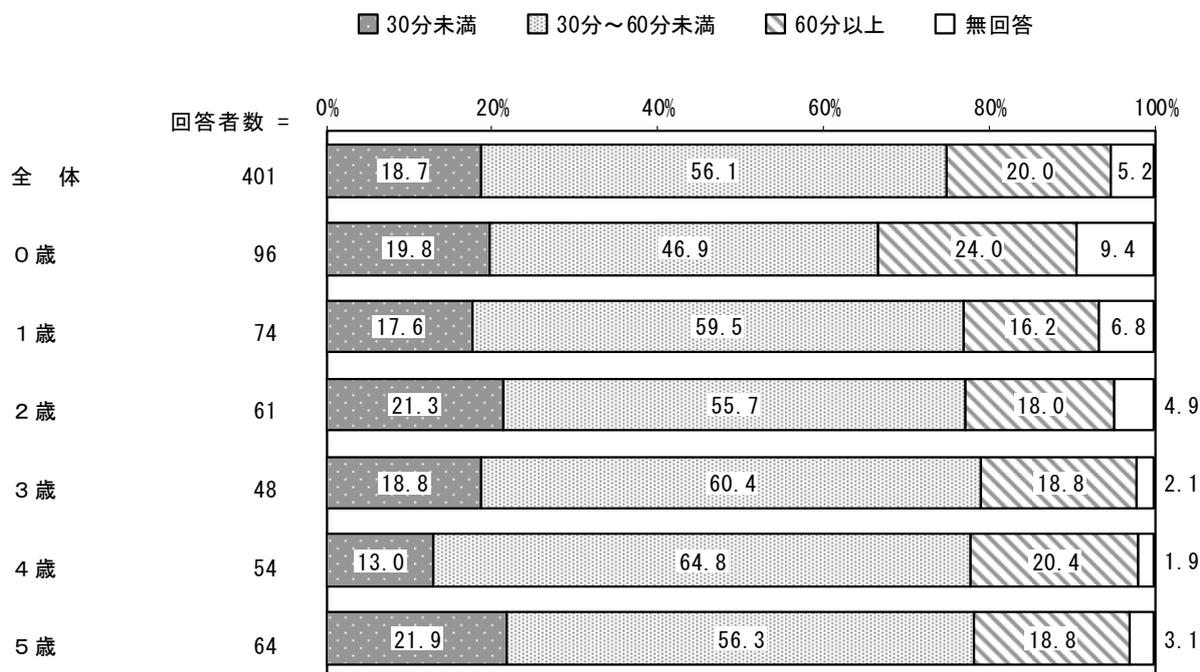
図表 52 パート・アルバイト等で就労したい母親の希望する通勤時間



※回答対象は問19で「パート・アルバイト等で就労したい」と回答した人

子どもの年齢別で見ると、全体と比べて、4歳で「30分～60分未満」の割合が高くなっている。

図表 53 パート・アルバイト等で就労したい母親の希望する通勤時間一年齢別



※回答対象は問19で「パート・アルバイト等で就労したい」と回答した人

調査結果 就学前児童

1-4-2 父親

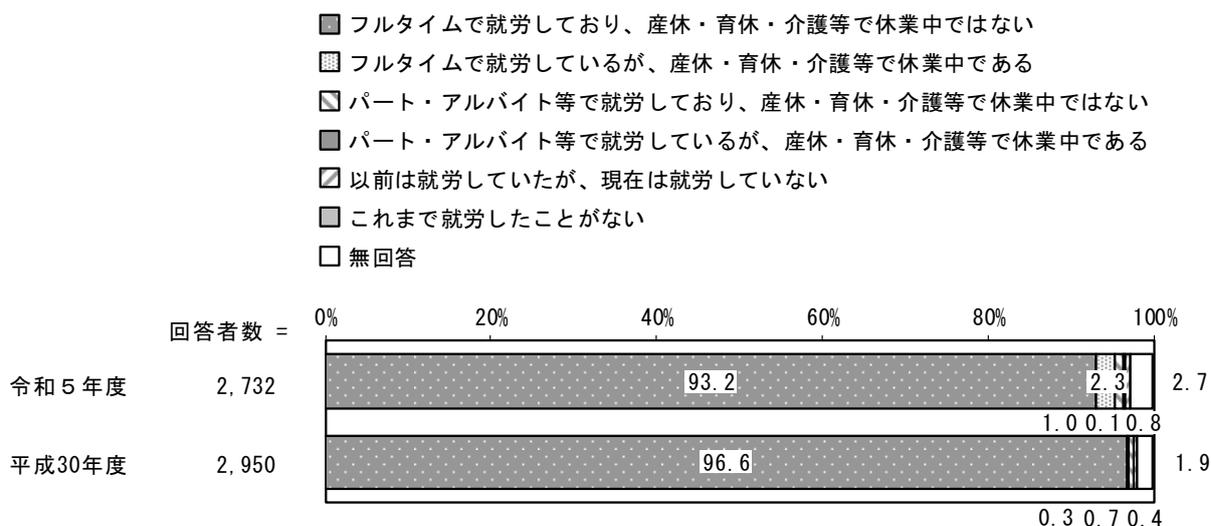
1-4-2-1 父親の就労状況

問 17 お父さまの現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）は次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護等で休業中ではない」の割合が 93.2%と最も高くなっている。

平成 30 年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 54 父親の就労状況



※回答対象は就学前児童対象調査の全員（母子家庭を除く）

1-4-2-2 フルタイムの父親の就労状況

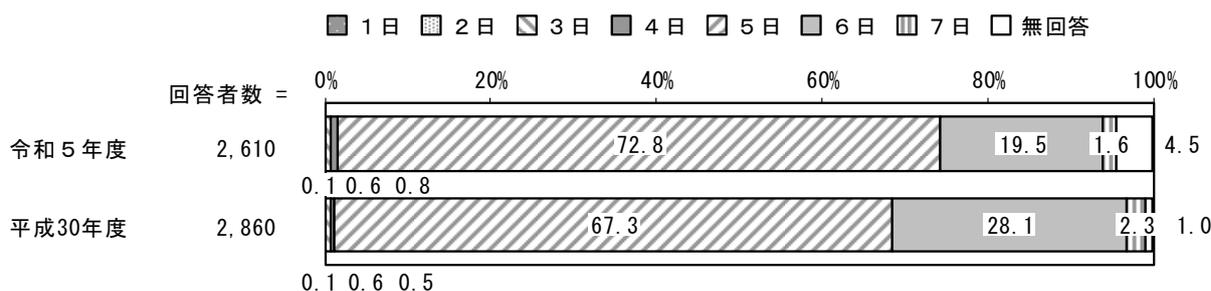
問 17-1 お父さまの就労状況について、下の表の(1)～(8)にお答えください。

(1) 1週あたりの就労日数

「5日」の割合が 72.8%と最も高く、次いで「6日」の割合が 19.5%となっている。

平成 30 年度と比較すると、「5日」の割合が増加している。一方、「6日」の割合が減少している。

図表 55 1週あたりの就労日数（フルタイムの父親）



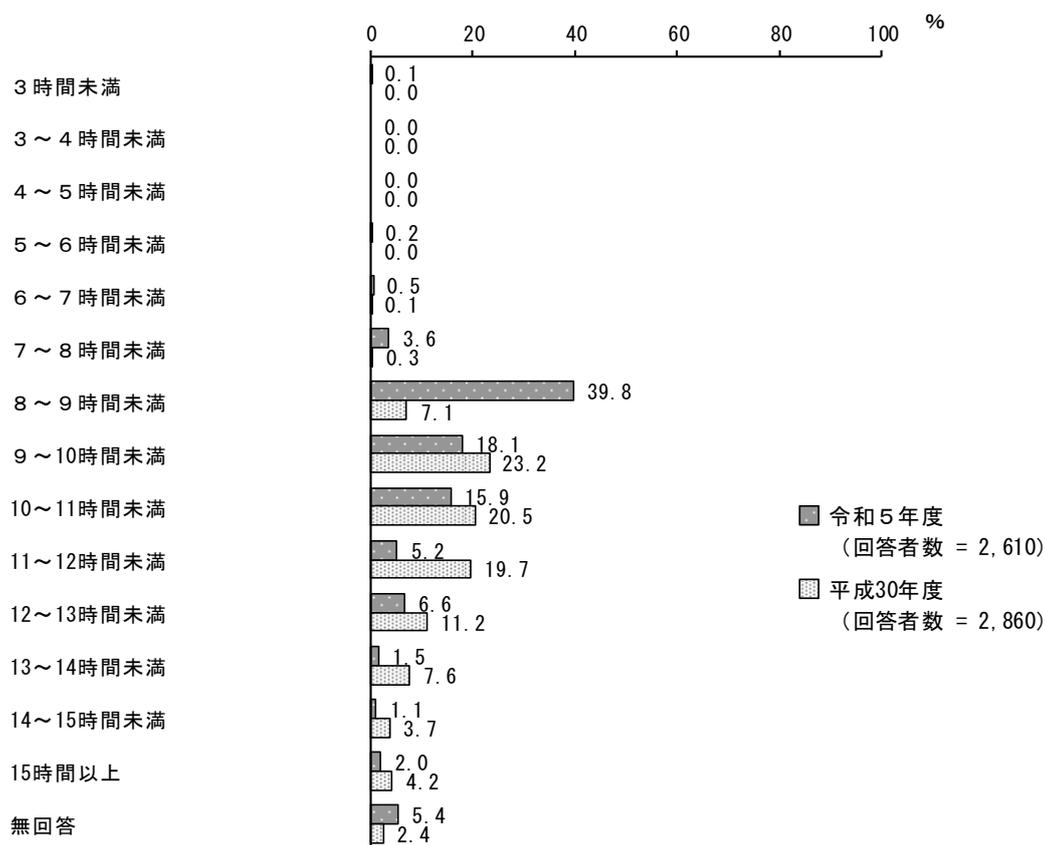
※回答対象は問 17 で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

(2) 1日あたり就労時間（残業時間を含む）

「8～9時間未満」の割合が39.8%と最も高く、次いで「9～10時間未満」の割合が18.1%、「10～11時間未満」の割合が15.9%となっている。

平成30年度と比較すると、「8～9時間未満」の割合が増加している。一方、「9～10時間未満」「11～12時間未満」「13～14時間未満」の割合が減少している。

図表 56 1日あたり就労時間（フルタイムの父親）



※回答対象は問17で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

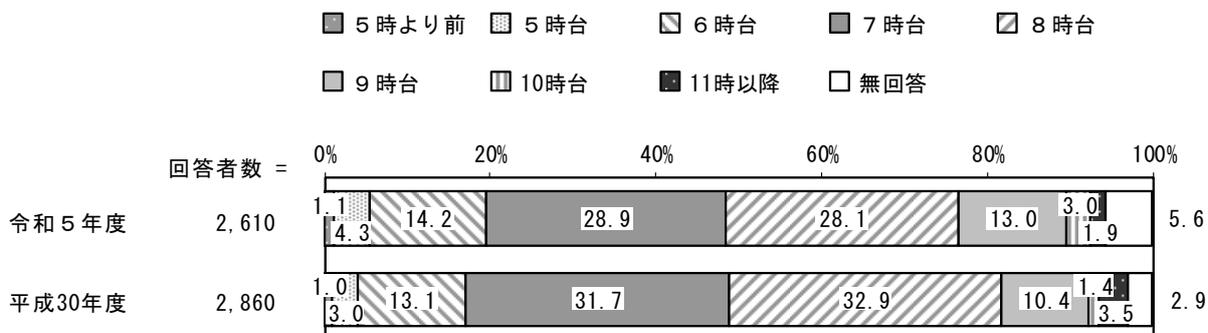
調査結果 就学前児童

(3) 出勤時刻

「7時台」の割合が28.9%と最も高く、次いで「8時台」の割合が28.1%、「6時台」の割合が14.2%となっている。

平成30年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 57 1日あたり就労時間（フルタイムの父親）



※回答には12時制で表記したと考えられるものも含まれる（設問上は24時制で回答依頼）

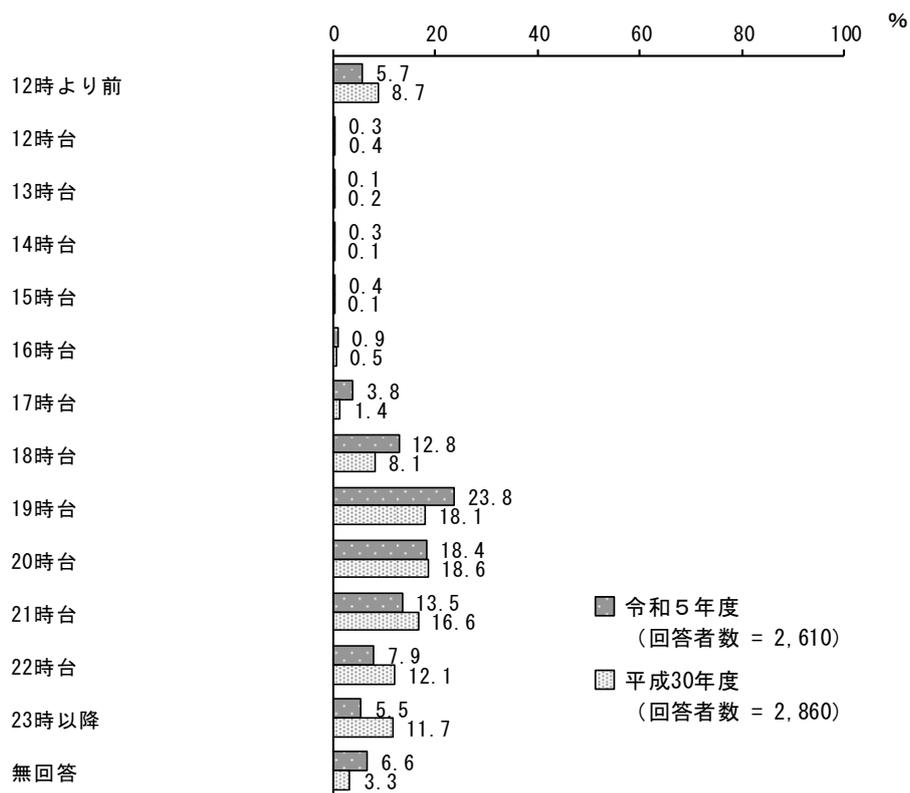
※回答対象は問17で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

(4) 帰宅時刻

「19 時台」の割合が 23.8%と最も高く、次いで「20 時台」の割合が 18.4%、「21 時台」の割合が 13.5%となっている。

平成 30 年度と比較すると、「19 時台」の割合が増加している。一方、「23 時以降」の割合が減少している。

図表 58 帰宅時刻（フルタイムの父親）



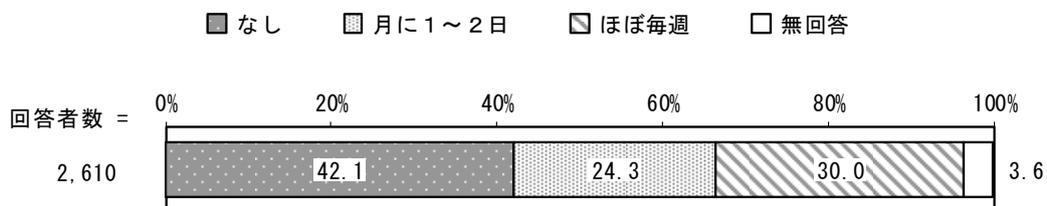
※回答には 12 時制で表記したと考えられるものも含まれる（設問上は 24 時制で回答依頼）
 ※回答対象は問 17 で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

調査結果 就学前児童

(5) 土曜日の就労日数

「なし」の割合が 42.1%と最も高く、次いで「ほぼ毎週」の割合が 30.0%、「月に1～2日」の割合が 24.3%となっている。

図表 59 土曜日の就労日数（フルタイムの父親）

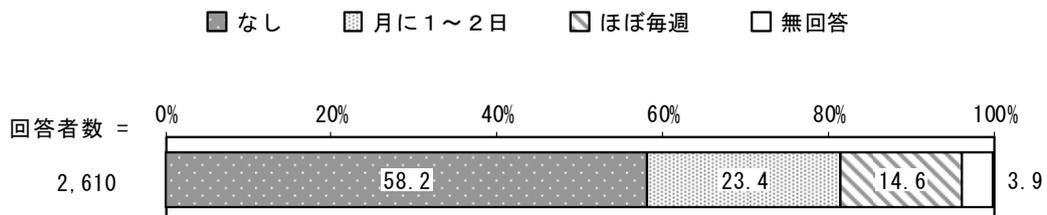


※回答対象は問 17 で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

(6) 日曜日・祝日の就労日数

「なし」の割合が 58.2%と最も高く、次いで「月に1～2日」の割合が 23.4%、「ほぼ毎週」の割合が 14.6%となっている。

図表 60 日曜日・祝日の就労日数（フルタイムの父親）

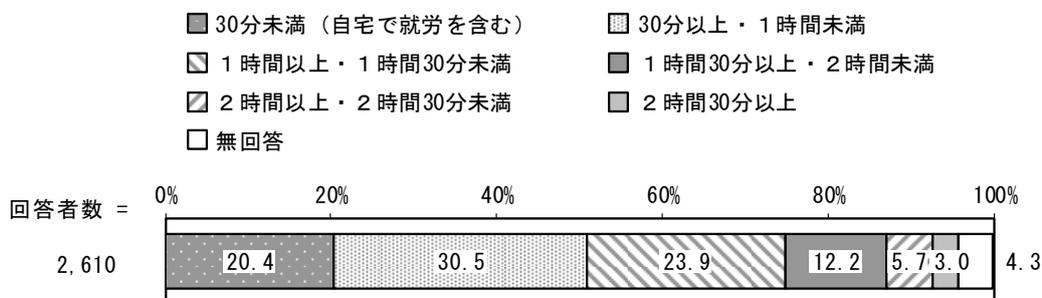


※回答対象は問 17 で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

(7) 通勤時間

「30分以上・1時間未満」の割合が30.5%と最も高く、次いで「1時間以上・1時間30分未満」の割合が23.9%、「30分未満（自宅就労を含む）」の割合が20.4%となっている。

図表 61 通勤時間（フルタイムの父親）

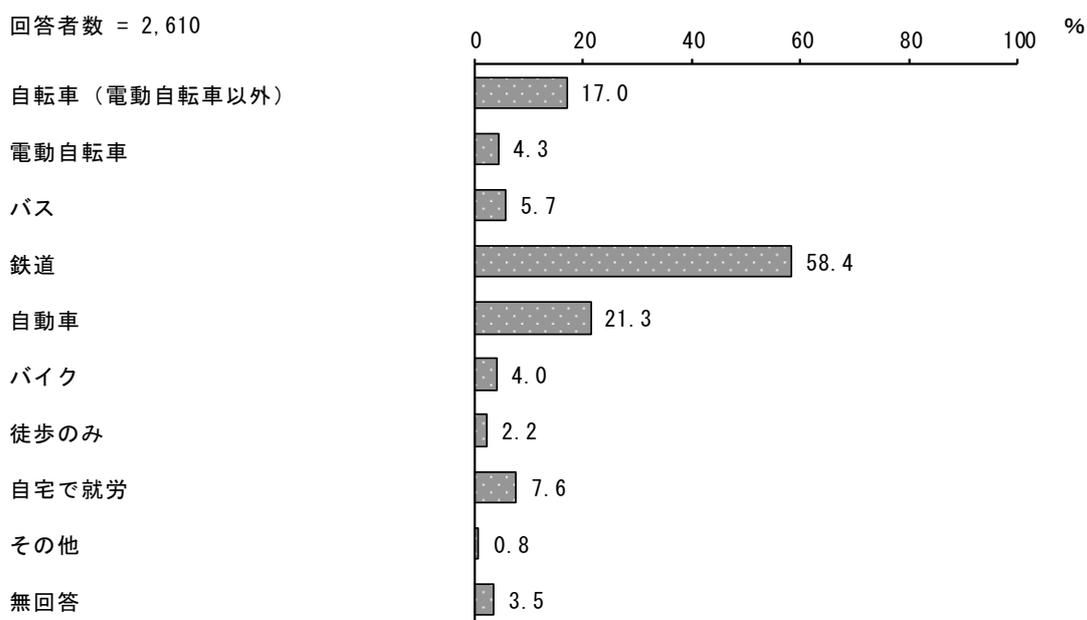


※回答対象は問17で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

(8) 通勤手段

「鉄道」の割合が58.4%と最も高く、次いで「自動車」の割合が21.3%、「自転車（電動自転車以外）」の割合が17.0%となっている。

図表 62 通勤手段（フルタイムの父親）



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は問17で「フルタイムで就労している」と回答した人（休業中を含む）

調査結果 就学前児童

1-4-2-3 パート・アルバイト等の父親の就労状況

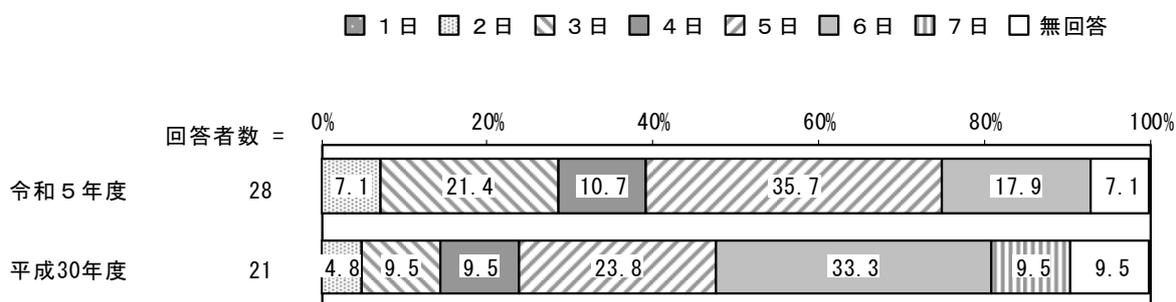
問 17-1 お父さまの就労状況について、下の表の(1)～(8)にお答えください。

(1) 1週あたりの就労日数

「5日」の割合が 35.7%と最も高く、次いで「3日」の割合が 21.4%、「6日」の割合が 17.9%となっている。

平成 30 年度と比較すると、「3日」「5日」の割合が増加している。一方、「6日」「7日」の割合が減少している。

図表 63 1週あたりの就労日数（パート・アルバイト等の父親）



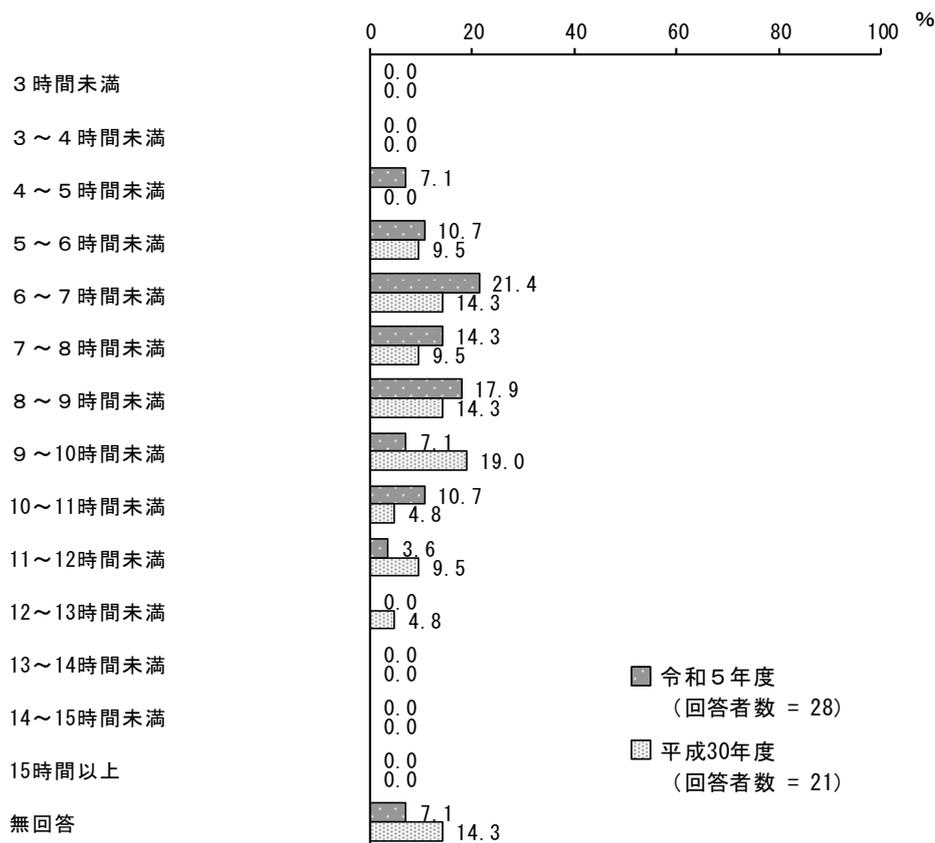
※回答対象は問 17 で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

(2) 1日あたり就労時間（残業時間を含む）

「6～7時間未満」の割合が21.4%と最も高く、次いで「8～9時間未満」の割合が17.9%、「7～8時間未満」の割合が14.3%となっている。

平成30年度と比較すると、「4～5時間未満」「6～7時間未満」「10～11時間未満」の割合が増加している。一方、「9～10時間未満」「11～12時間未満」の割合が減少している。

図表 64 1日あたり就労時間（パート・アルバイト等の父親）



※回答対象は問17で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

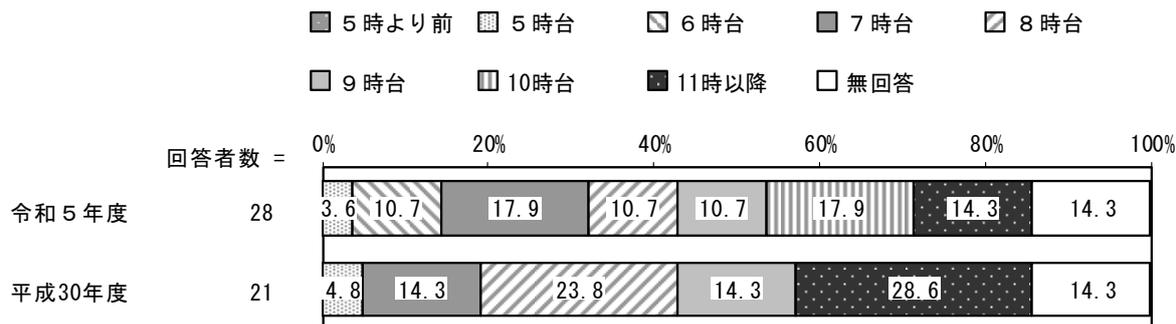
調査結果 就学前児童

(3) 出勤時刻

「7時台」、「10時台」の割合が17.9%と最も高く、次いで「11時以降」の割合が14.3%となっている。

平成30年度と比較すると、「6時台」「10時台」の割合が増加している。一方、「8時台」「11時以降」の割合が減少している。

図表 65 出勤時刻（パート・アルバイト等の父親）



※回答には12時制で表記したと考えられるものも含まれる（設問上は24時制で回答依頼）

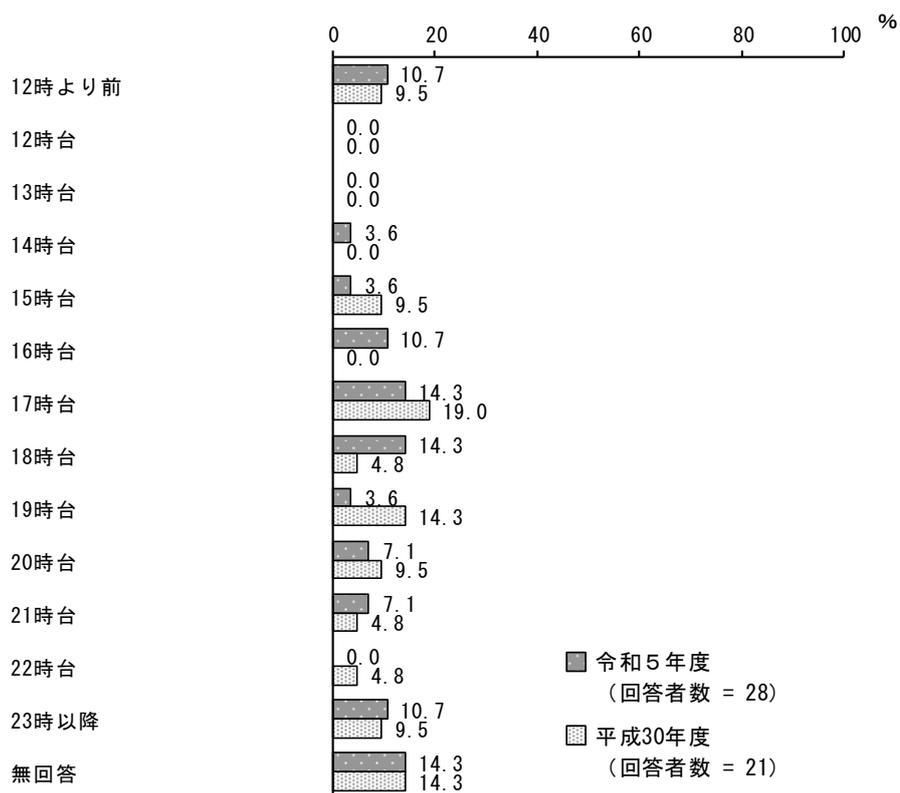
※回答対象は問17で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

(4) 帰宅時刻

「17時台」、「18時台」の割合が14.3%と最も高く、次いで「12時より前」、「16時台」、「23時以降」の割合が10.7%となっている。

平成30年度と比較すると、「16時台」「18時台」の割合が増加している。一方、「15時台」「19時台」の割合が減少している。

図表 66 帰宅時刻（パート・アルバイト等の父親）



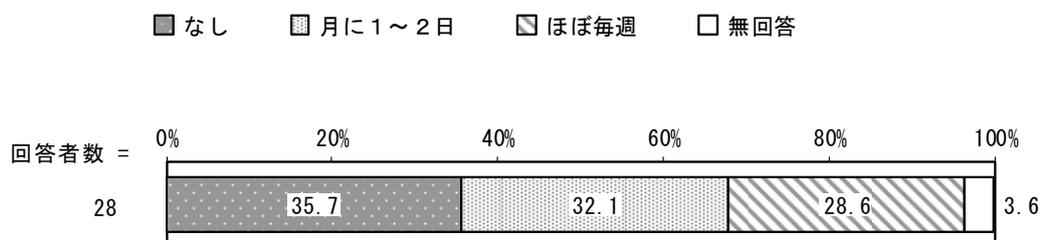
※回答には12時制で表記したと考えられるものも含まれる（設問上は24時制で回答依頼）
 ※回答対象は問17で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

調査結果 就学前児童

(5) 土曜日の就労日数

「なし」の割合が 35.7%と最も高く、次いで「月に1～2日」の割合が 32.1%、「ほぼ毎週」の割合が 28.6%となっている。

図表 67 土曜日の就労日数（パート・アルバイト等の父親）

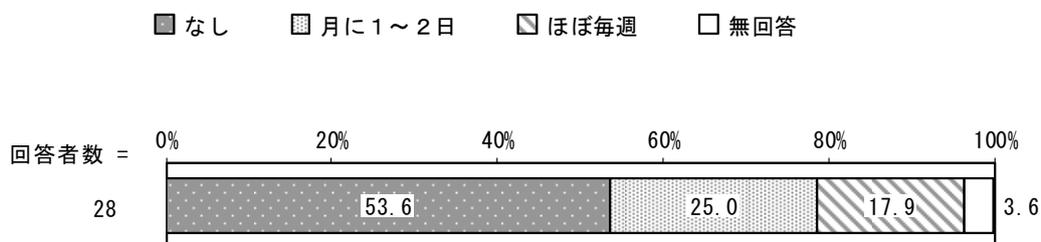


※回答対象は問17で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

(6) 日曜日・祝日の就労日数

「なし」の割合が 53.6%と最も高く、次いで「月に1～2日」の割合が 25.0%、「ほぼ毎週」の割合が 17.9%となっている。

図表 68 日曜日・祝日の就労日数（パート・アルバイト等の父親）

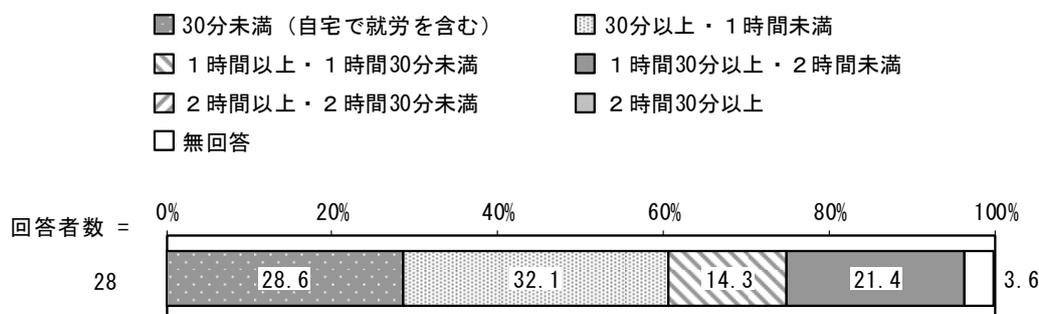


※回答対象は問17で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

(7) 通勤時間

「30分以上・1時間未満」の割合が32.1%と最も高く、次いで「30分未満（自宅で就労を含む）」の割合が28.6%、「1時間30分以上・2時間未満」の割合が21.4%となっている。

図表 69 通勤時間（パート・アルバイト等の父親）

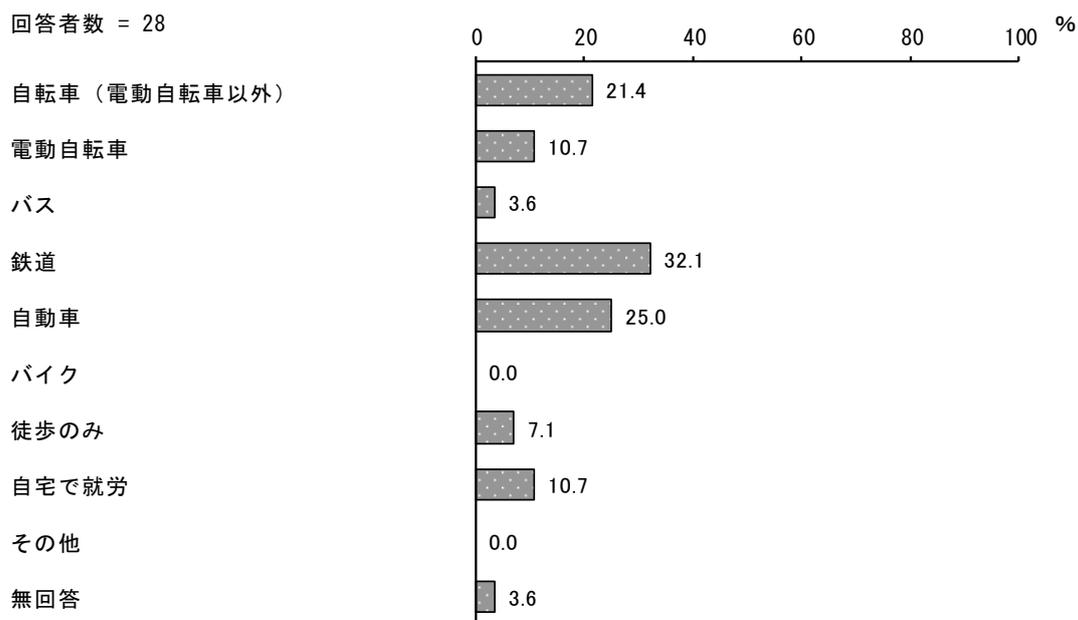


※回答対象は問17で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

(8) 通勤手段

「鉄道」の割合が32.1%と最も高く、次いで「自動車」の割合が25.0%、「自転車（電動自転車以外）」の割合が21.4%となっている。

図表 70 通勤手段（パート・アルバイト等の父親）



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は問17で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

調査結果 就学前児童

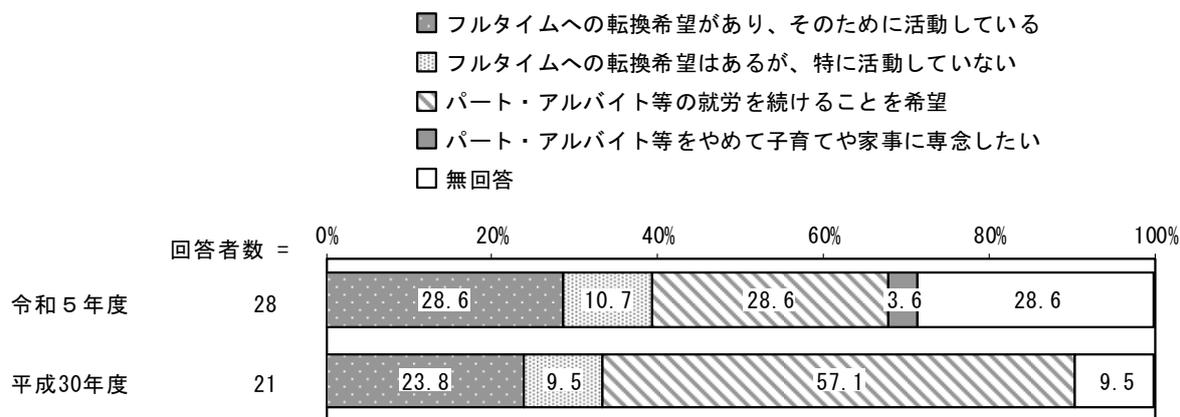
1-4-2-4 パート・アルバイト等の父親の今後の就労状況

問 18 今後の就労希望は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

「フルタイムへの転換希望があり、そのために活動している」、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」の割合が 28.6%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、特に活動していない」の割合が 10.7%となっている。

平成30年度と比較すると、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」の割合が減少している。

図表 71 今後の就労状況（パート・アルバイト等の父親）



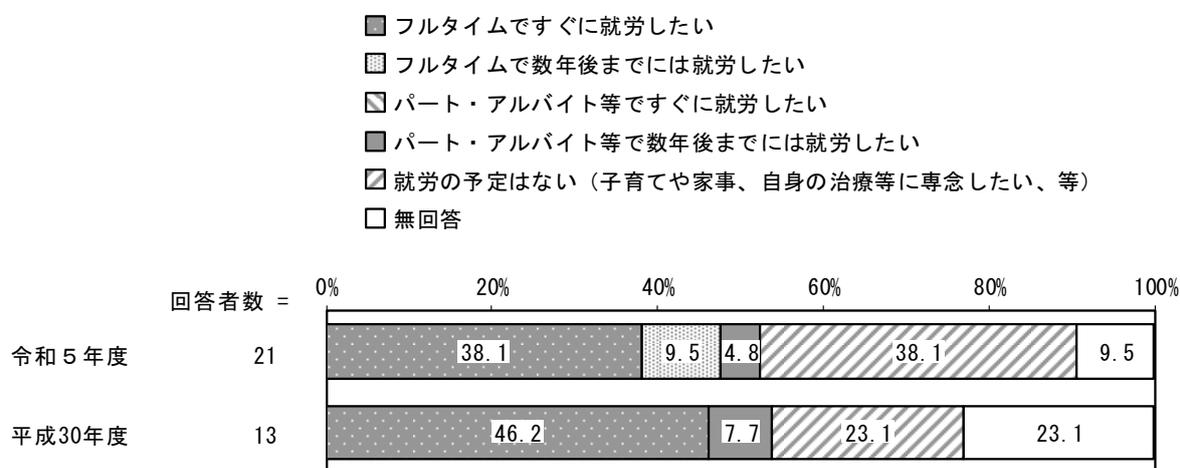
※回答対象は問 17 で「パート・アルバイト等で就労している」と回答した人（休業中を含む）

問 19 今後の就労希望は次のどれにあたりますか（○はそれぞれ1つだけ）。
 また、下記で「3. または4.（パート・アルバイト等で就労したい）」に○をつけた方は、希望する「就労日数」「就労時間」「通勤時間」についてもお答えください（カッコ内に数字で）。

「フルタイムですぐに就労したい」、「就労の予定はない（子育てや家事、自身の治療等に専念したい、等）」の割合が38.1%と最も高くなっている。

平成30年度と比較すると、「フルタイムで数年後までには就労したい」「就労の予定はない（子育てや家事、自身の治療等に専念したい、等）」の割合が増加している。一方、「フルタイムですぐに就労したい」の割合が減少している。

図表 72 今後の就労状況（パート・アルバイト等の父親）一年代別



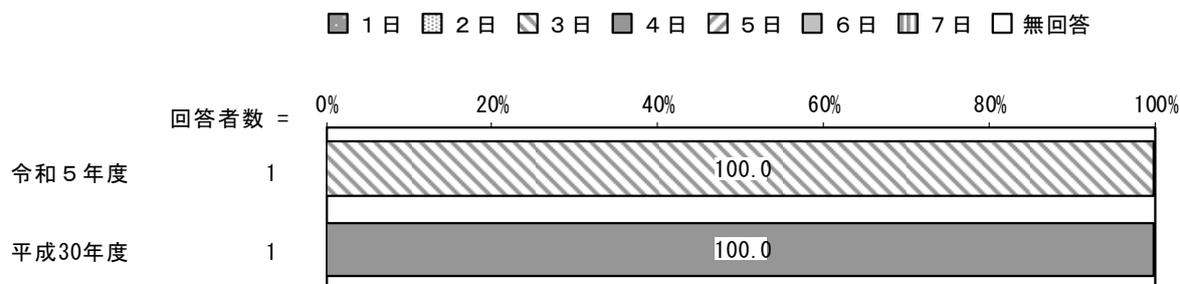
※回答対象は問17で「就労していない・就労したことがない」と回答した人（休業中を含む）

調査結果 就学前児童

(1) パート・アルバイト等で就労したい父親の希望する就労日数（1週あたり）

パート・アルバイト等で就労したい非就労の父親が希望する就労日数について、以下の図の通りである。

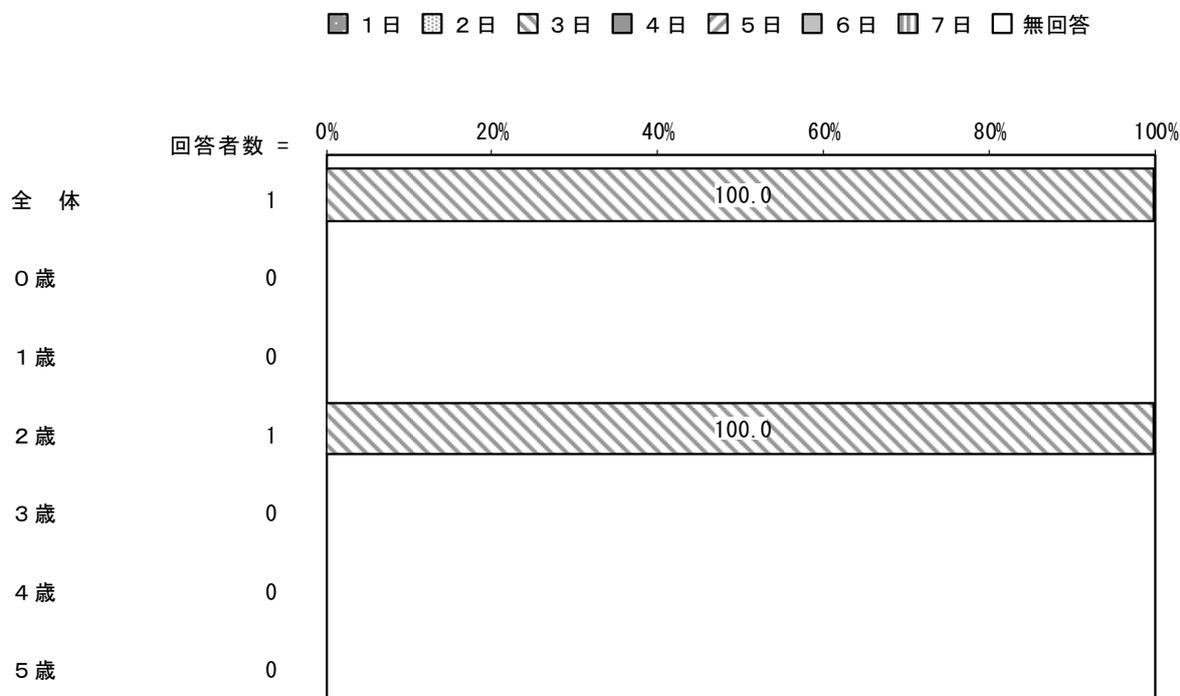
図表 73 就労日数（パート・アルバイト等の父親）



※回答対象は問19で「パート・アルバイト等で就労したい」と回答した人

子どもの年齢別では、以下の図の通りである。

図表 74 就労日数（パート・アルバイト等の父親）一年齢別

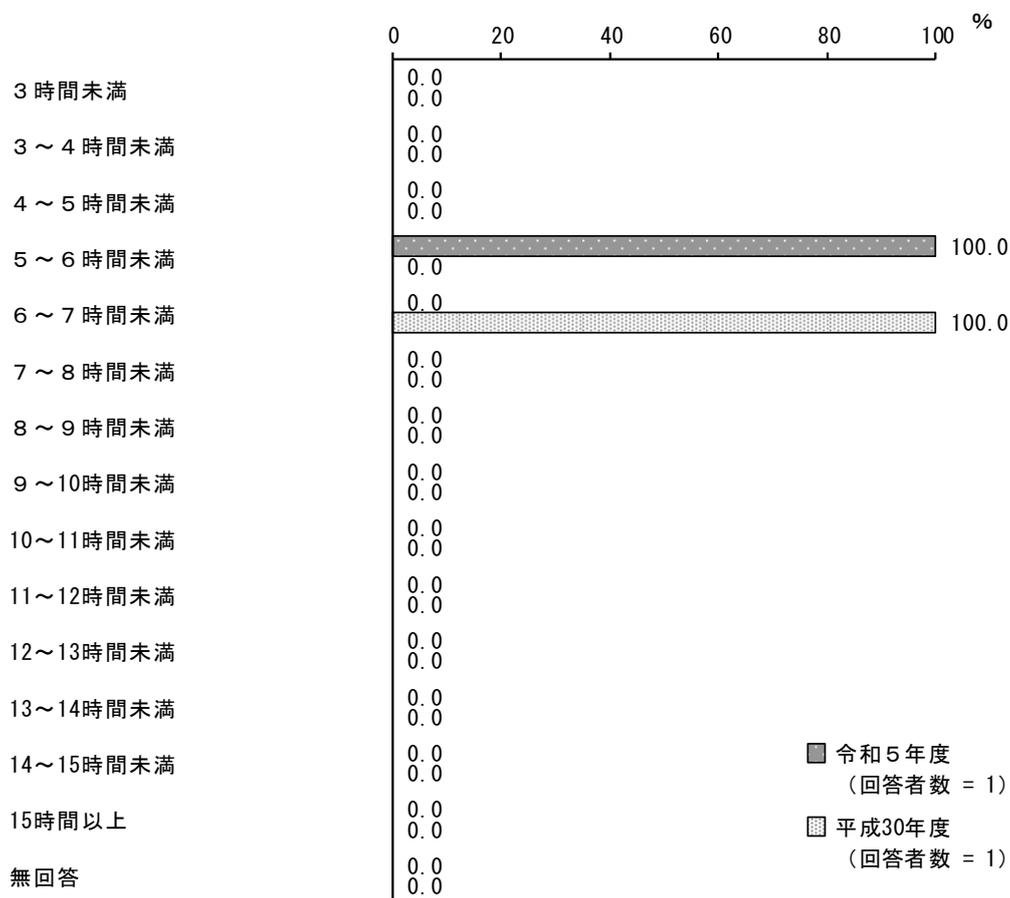


※回答対象は問19で「パート・アルバイト等で就労したい」と回答した人

(2) パート・アルバイト等で就労したい父親の希望する就労時間（1日あたり）

パート・アルバイト等で就労したい非就労の父親が希望する就労時間について、以下の図の通りである。

図表 75 就労時間（パート・アルバイト等の父親）

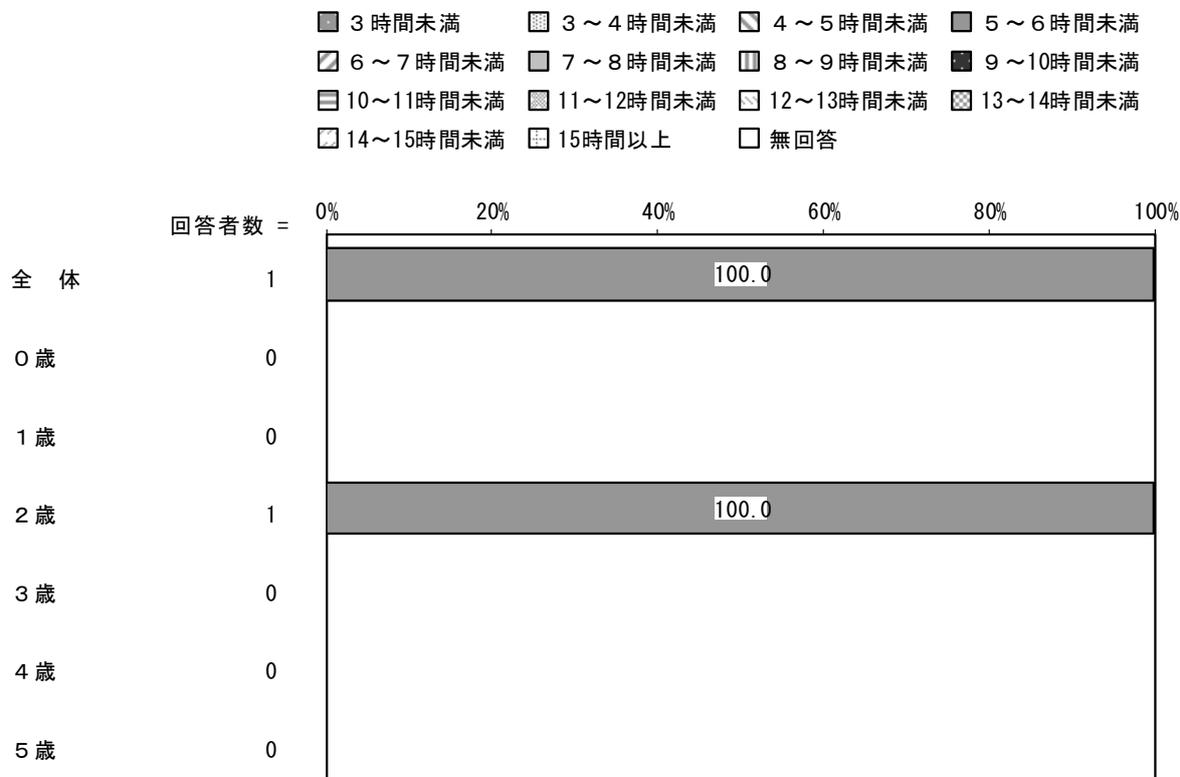


※回答対象は問19で「パート・アルバイト等で就労したい」と回答した人

調査結果 就学前児童

子どもの年齢別では、以下の図の通りである。

図表 76 就労時間（パート・アルバイト等の父親）－年齢別

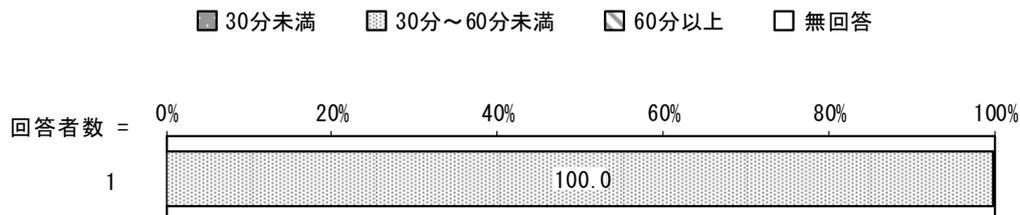


※回答対象は問19で「パート・アルバイト等で就労したい」と回答した人

(3) パート・アルバイト等で就労したい父親の希望する通勤時間（1日あたり往復）

パート・アルバイト等で就労したい非就労の父親が希望する通勤時間について、以下の図の通りである。

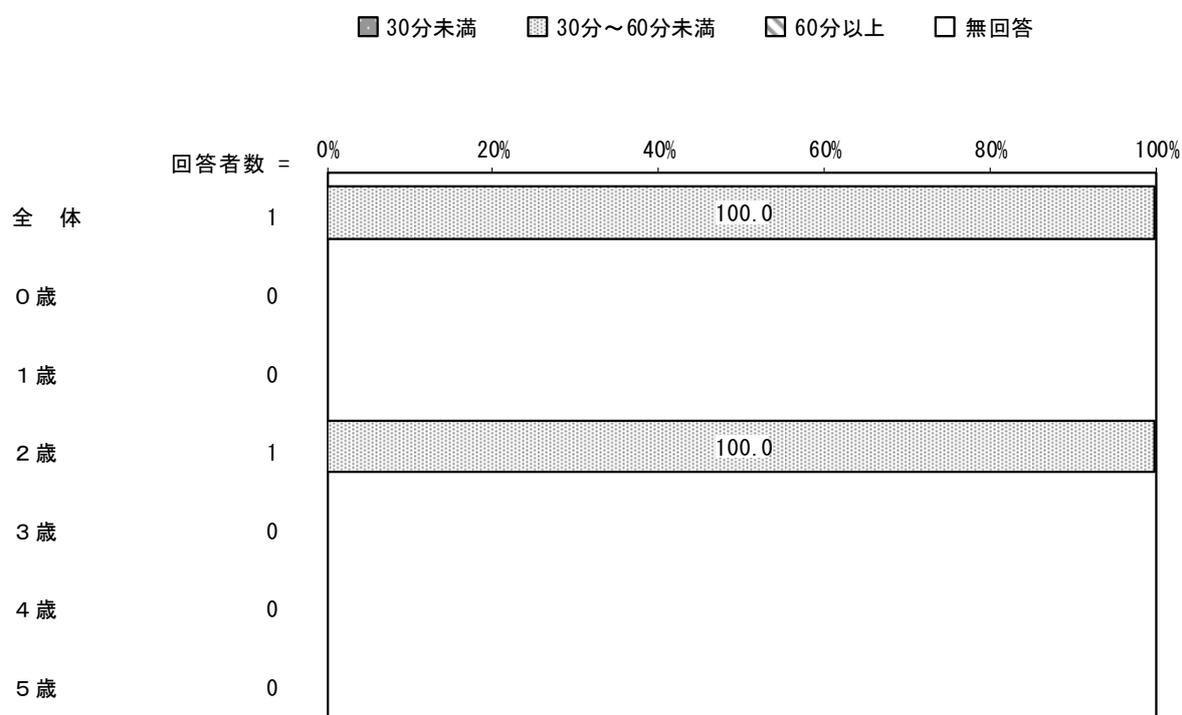
図表 77 通勤時間（パート・アルバイト等の父親）



※回答対象は問19で「パート・アルバイト等で就労したい」と回答した人

子どもの年齢別では、以下の図の通りである。

図表 78 通勤時間（パート・アルバイト等の父親）一年齢別



※回答対象は問19で「パート・アルバイト等で就労したい」と回答した人

1-5 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

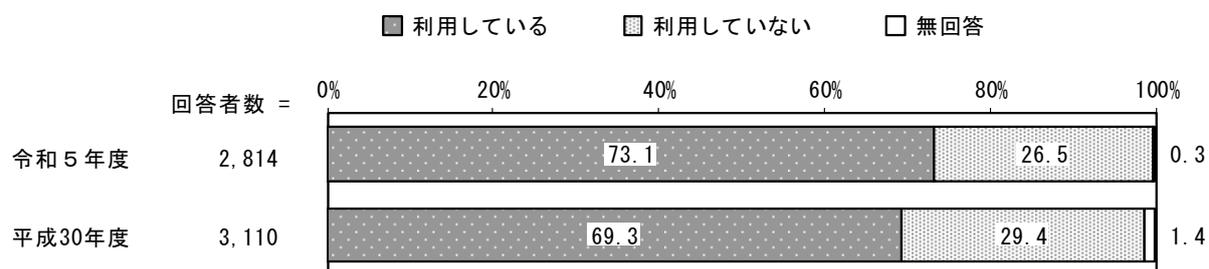
1-5-1 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

1-5-1-1 平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無

問 20 お子さんは現在、幼稚園や保育園などの平日の定期的な教育・保育事業を利用されていますか（○は1つだけ）。

「利用している」の割合が73.1%、「利用していない」の割合が26.5%となっている。平成30年度と比較すると、大きな差はみられない。

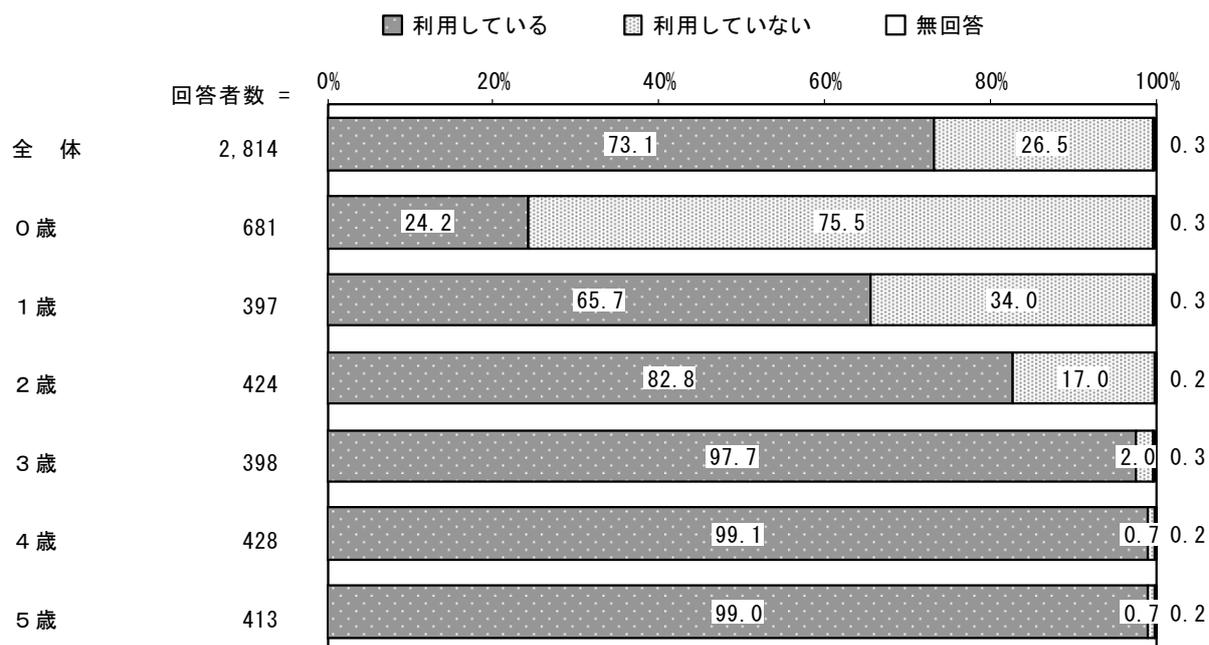
図表 79 平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

子どもの年齢別で見ると、全体と比べて、0歳で「利用していない」の割合が、4歳、5歳で「利用している」の割合が高くなっている。

図表 80 平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無一年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

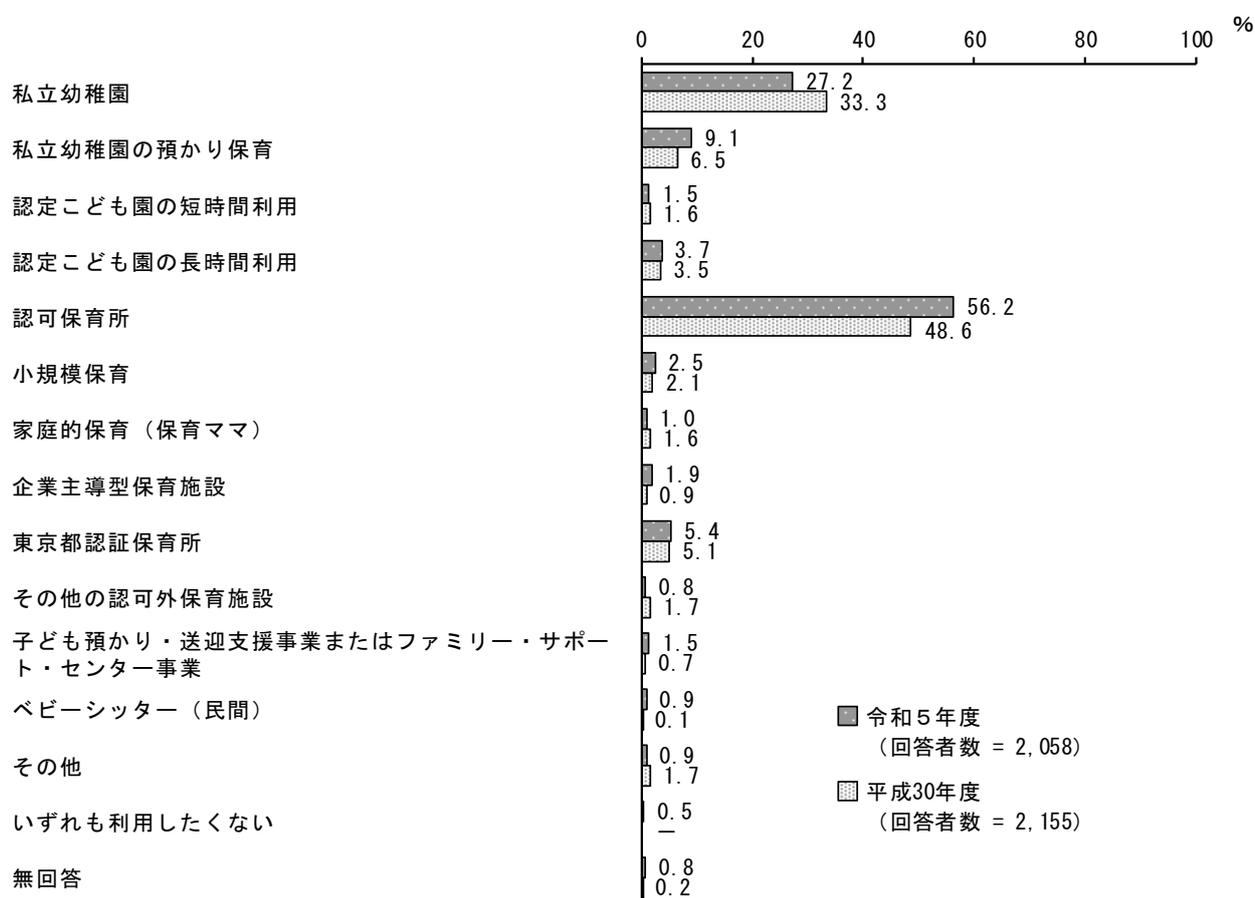
1-5-1-2 利用している教育・保育事業の内容

問 20-1 あてはまるものすべてに○をつけてください。
 問 20 で「1 利用している」とお答えの方→下記の表（1）（2）の両方にお答えください。
 「2 利用していない」とお答えの方→下記の表（2）をお答えください。
 ※（2）については、現在利用している、利用していないにかかわらずお答えください。

「認可保育所（国の基準に適合した施設で、東京都の認可を受けたもの）」の割合が 56.2%と最も高く、次いで「私立幼稚園（通常の就園時間の利用）」の割合が 27.2%となっています。

平成 30 年度と比較すると、「認可保育所」の割合が増加している。一方、「私立幼稚園」の割合が減少している。

図表 81 利用している教育・保育事業の内容

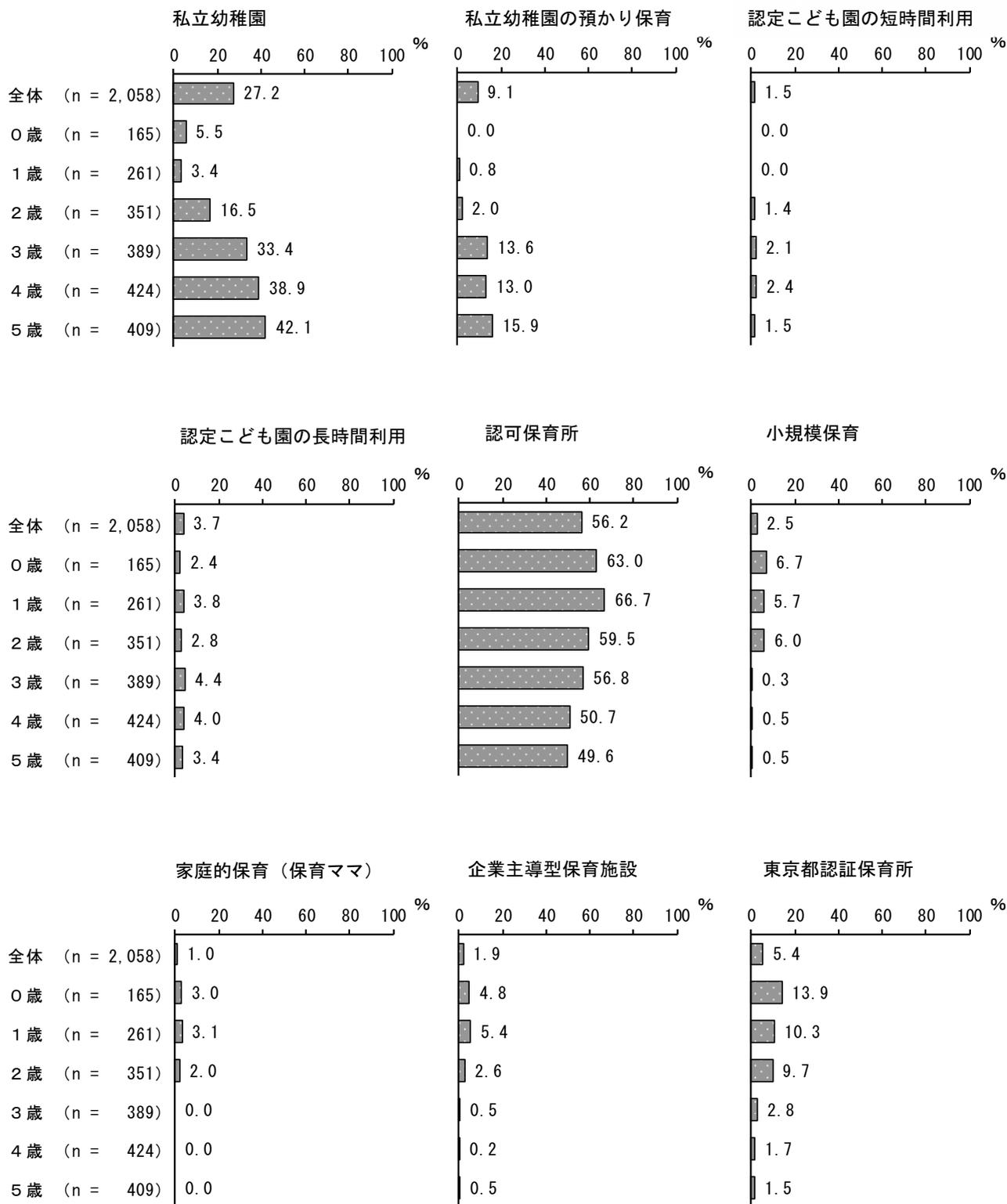


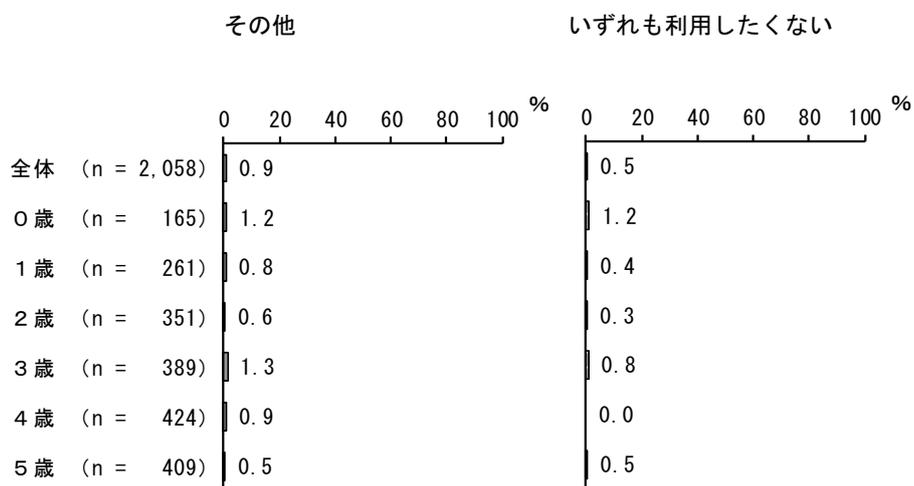
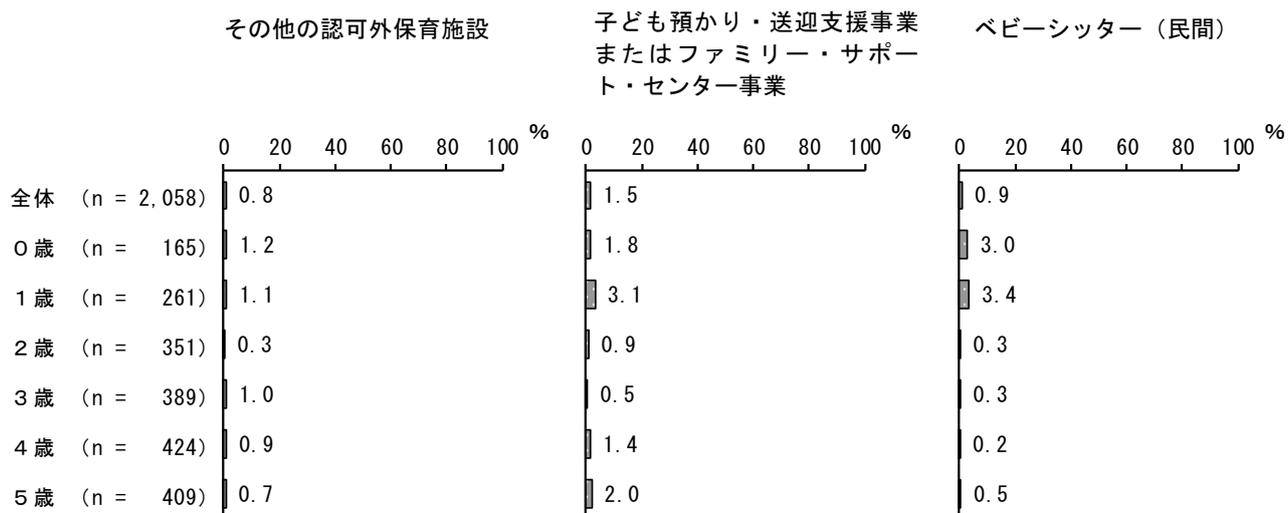
※複数回答のため、合計は100%に一致しない
 ※回答対象は問 20 で「1 利用している」と答えた人
 ※平成 30 年度調査で選択肢になかった項目は「—」としている。

調査結果 就学前児童

子どもの年齢別でみると、全体と比べて、4歳、5歳で「私立幼稚園」の割合が、1歳で「認可保育所」の割合が高くなっている。

図表 82 利用している教育・保育事業の内容一年齢別



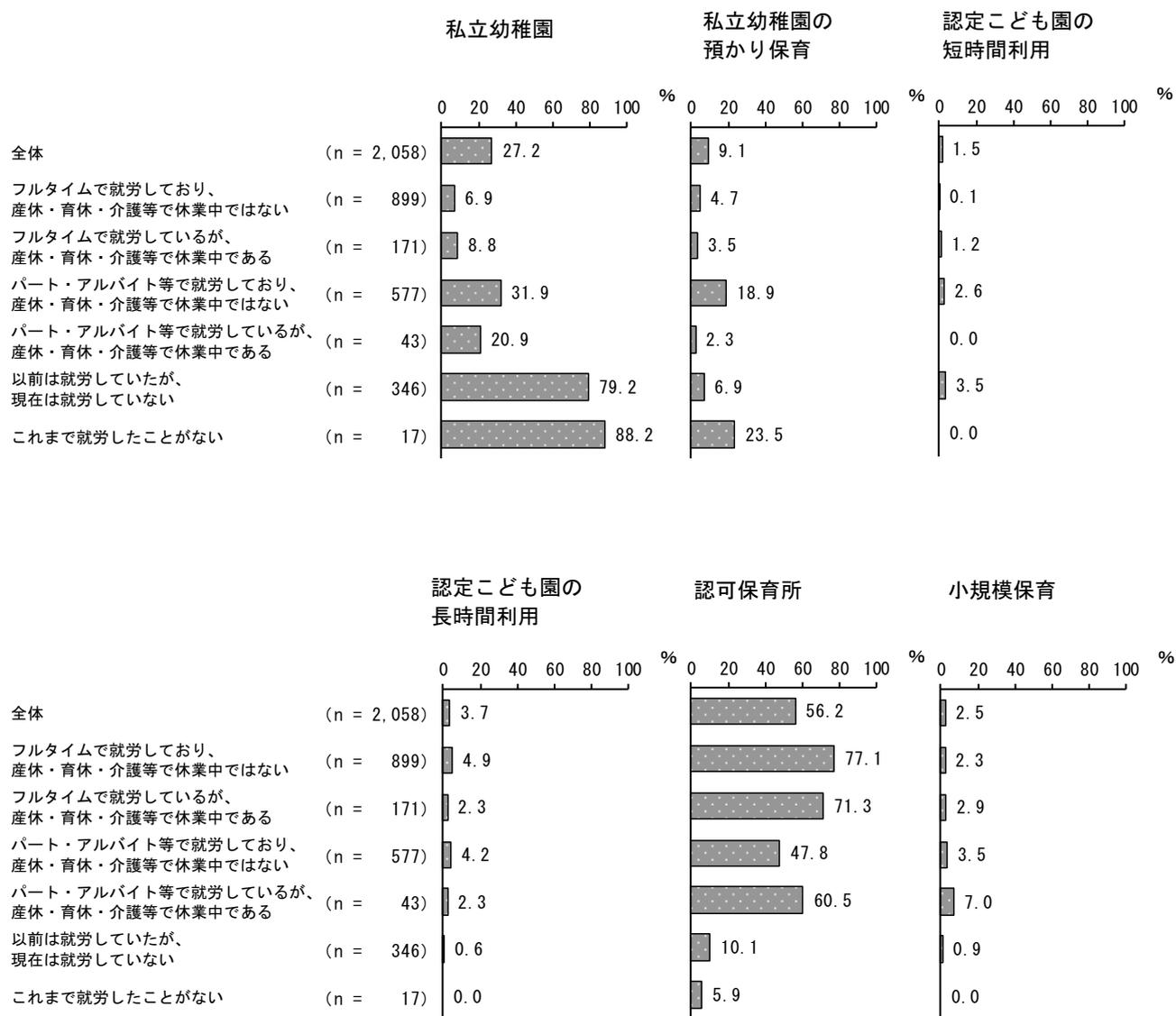


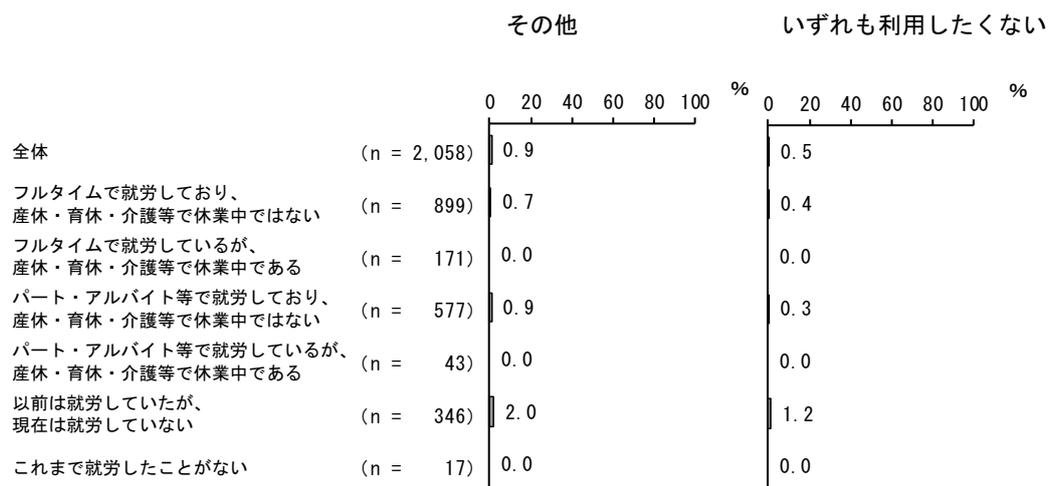
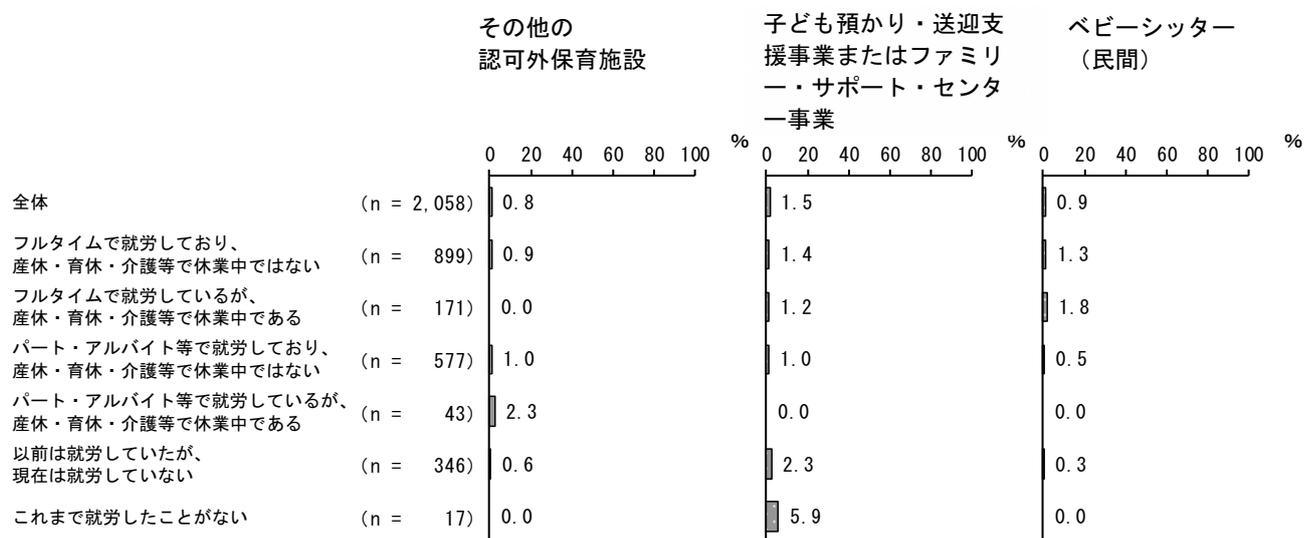
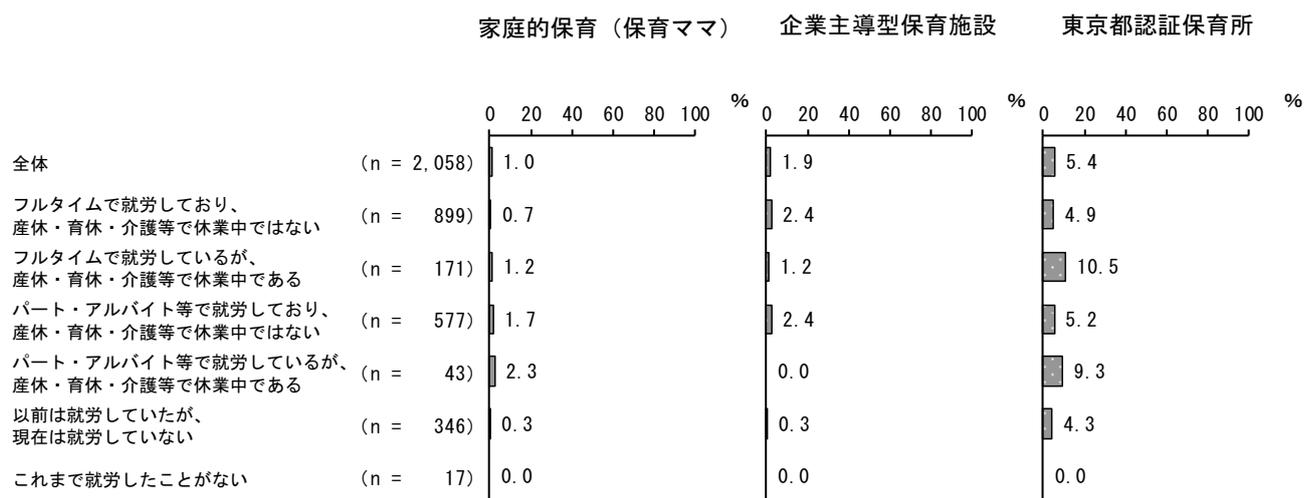
※複数回答のため、合計は100%に一致しない
 ※回答対象は問20で「1 利用している」と答えた人

調査結果 就学前児童

母親の就労状況別でみると、全体と比べて、これまで就労したことがない人、現在は就労していない人で「私立幼稚園」の割合が、フルタイムで就労しており、産休・育休・介護等で休業中ではない人で「認可保育所」の割合が高くなっている。

図表 83 利用している教育・保育事業の内容－母親の就労状況別





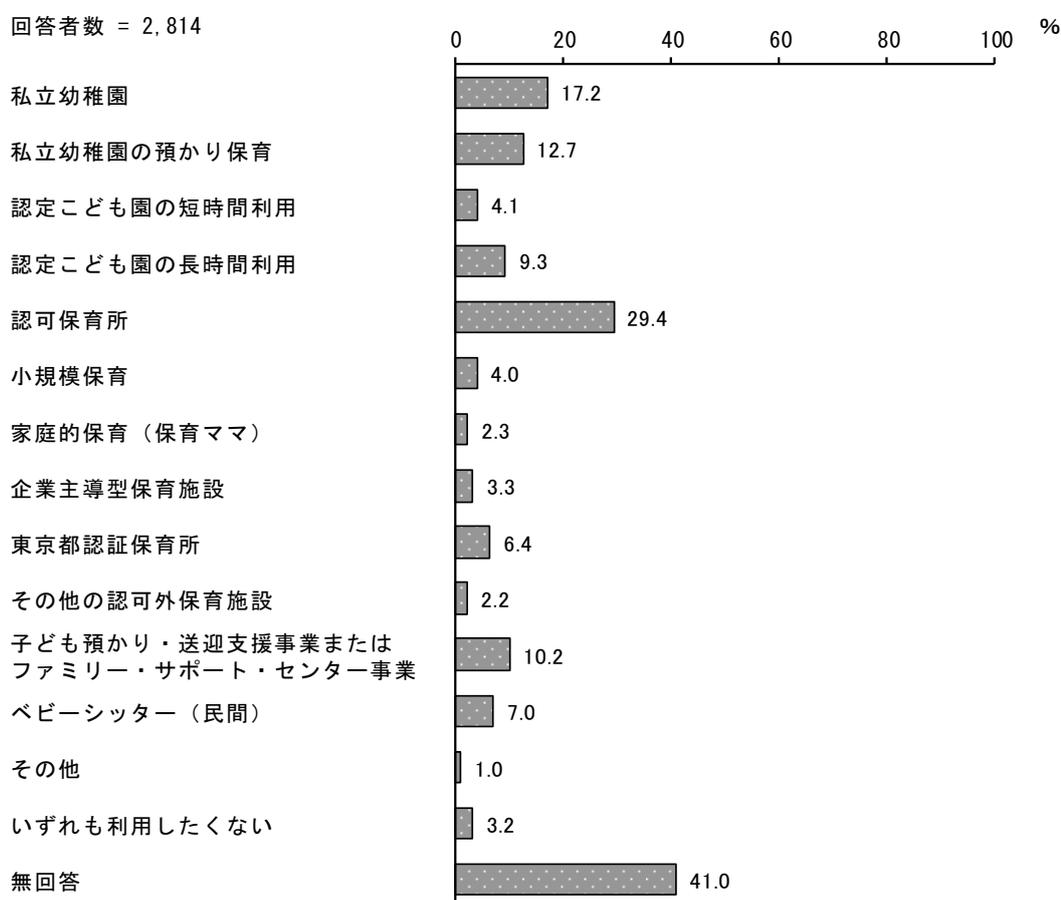
※複数回答のため、合計は100%に一致しない
 ※回答対象は問20で「1 利用している」と答えた人

1-5-1-3 利用したい教育・保育事業の内容

問 20-1 あてはまるものすべてに○をつけてください。
 問 20 で「1 利用している」とお答えの方→下記の表（1）（2）の両方にお答えください。
 「2 利用していない」とお答えの方→下記の表（2）をお答えください。
 ※（2）については、現在利用している、利用していないにかかわらずお答えください。

「認可保育所」の割合が 29.4%と最も高く、次いで「私立幼稚園」の割合が 17.2%、「私立幼稚園の預かり保育」の割合が 12.7%となっている。

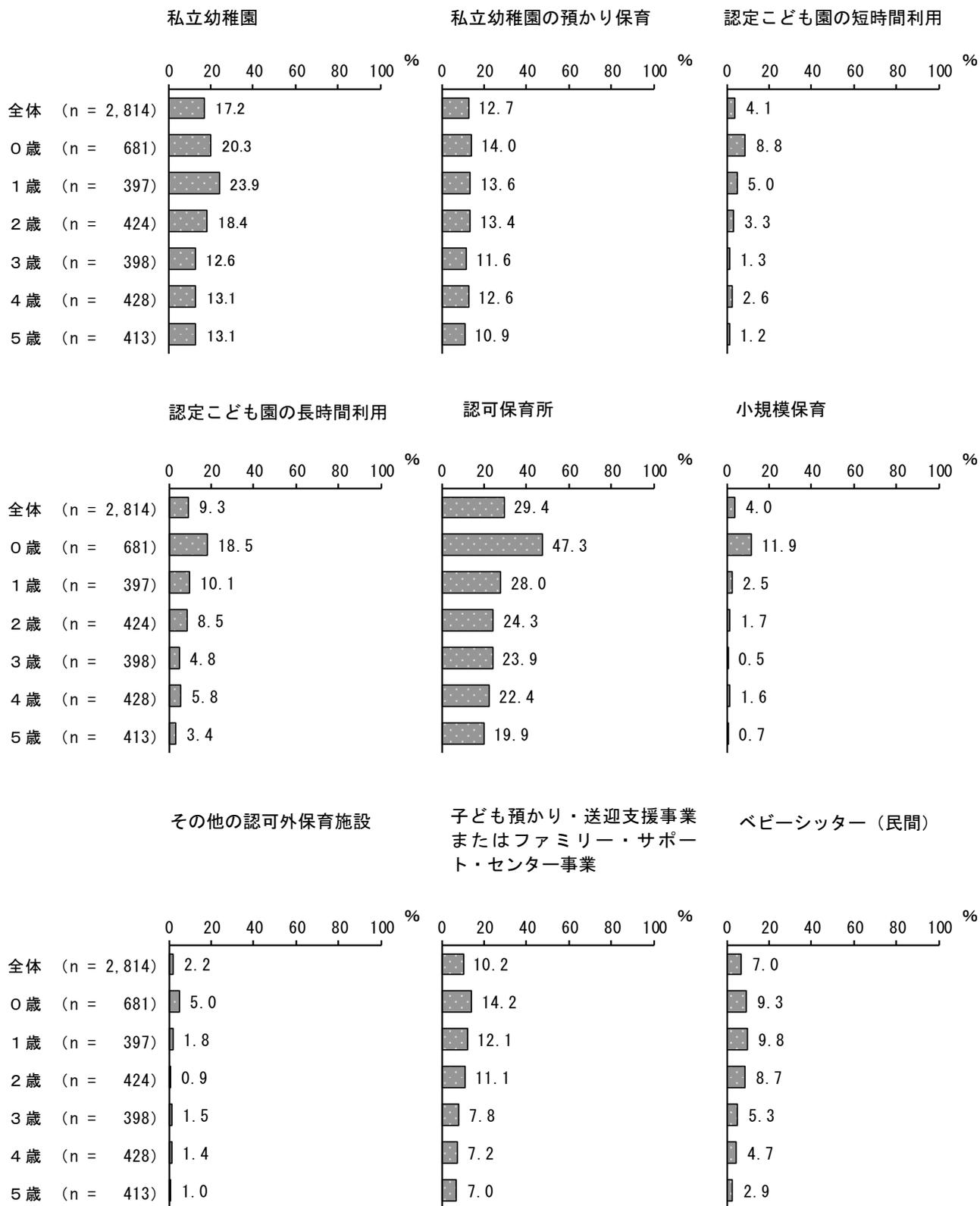
図表 84 利用したい教育・保育事業の内容



※複数回答のため、合計は100%に一致しない
 ※回答対象は就学前児童対象調査の全員

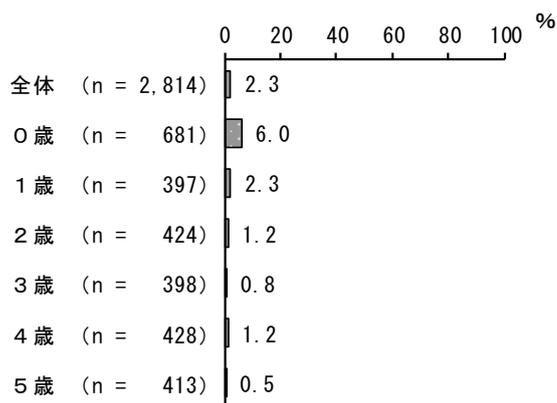
子どもの年齢別で見ると、全体と比べて、0歳で「認可保育所」の割合が、1歳で「私立幼稚園」の割合が高くなっている。

図表 85 利用したい教育・保育事業の内容一年齢別

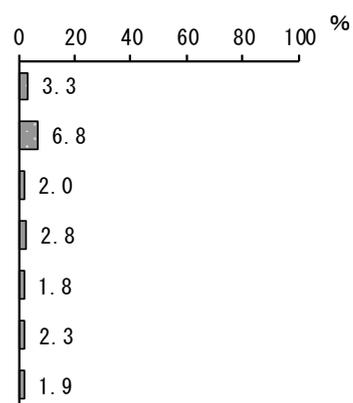


調査結果 就学前児童

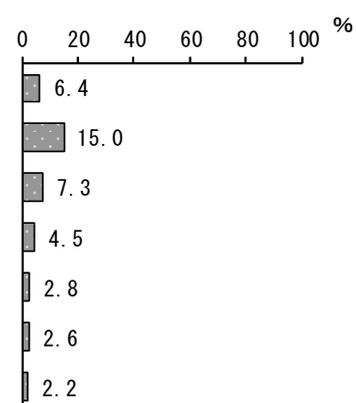
家庭的保育（保育ママ）



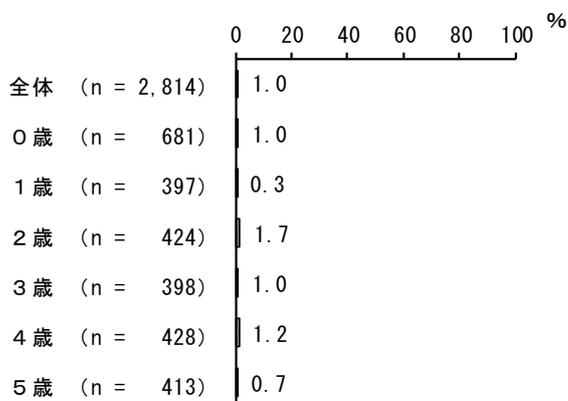
企業主導型保育施設



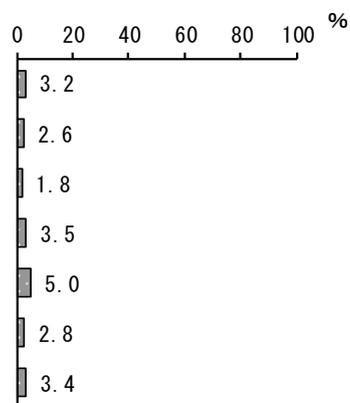
東京都認証保育所



その他



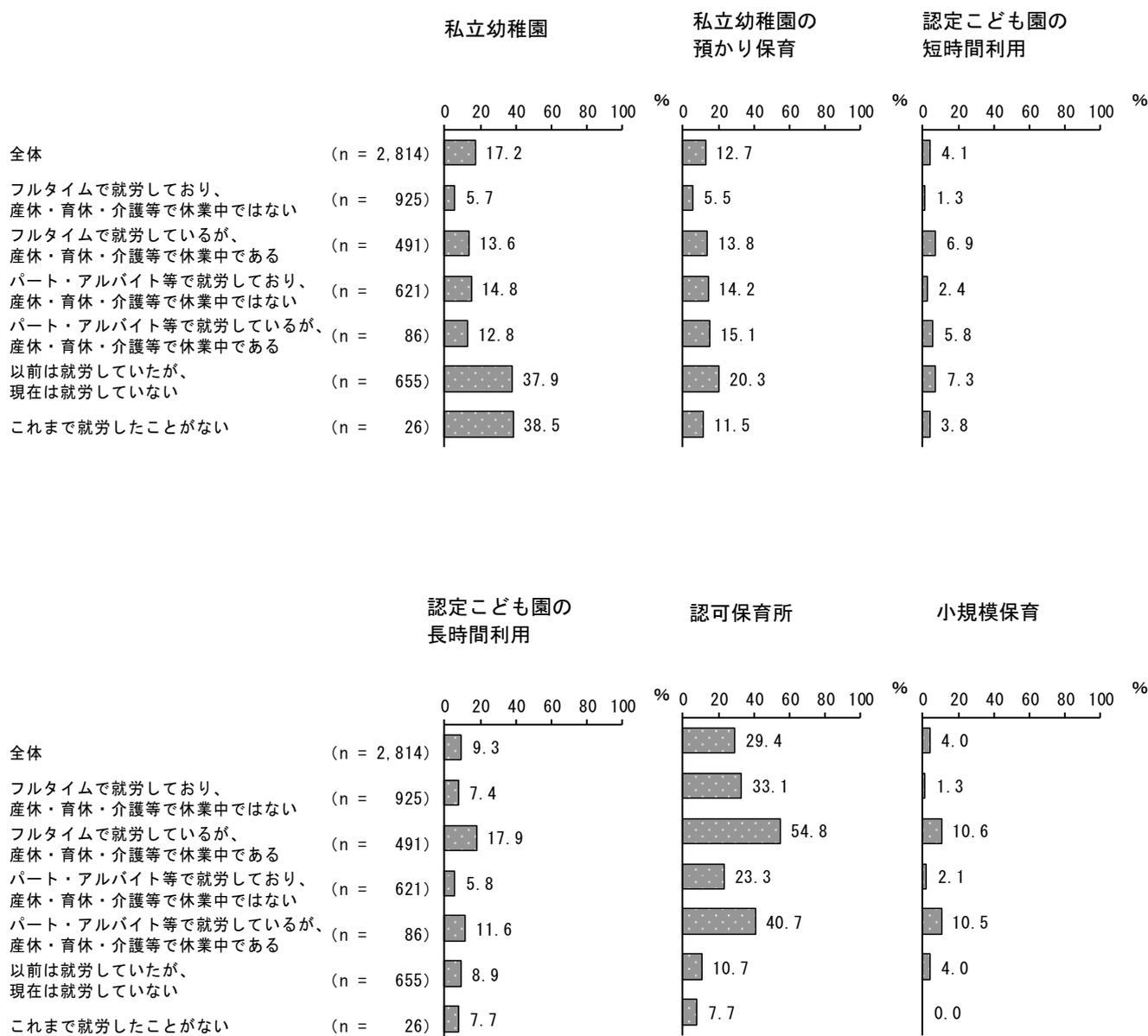
いずれも利用したくない



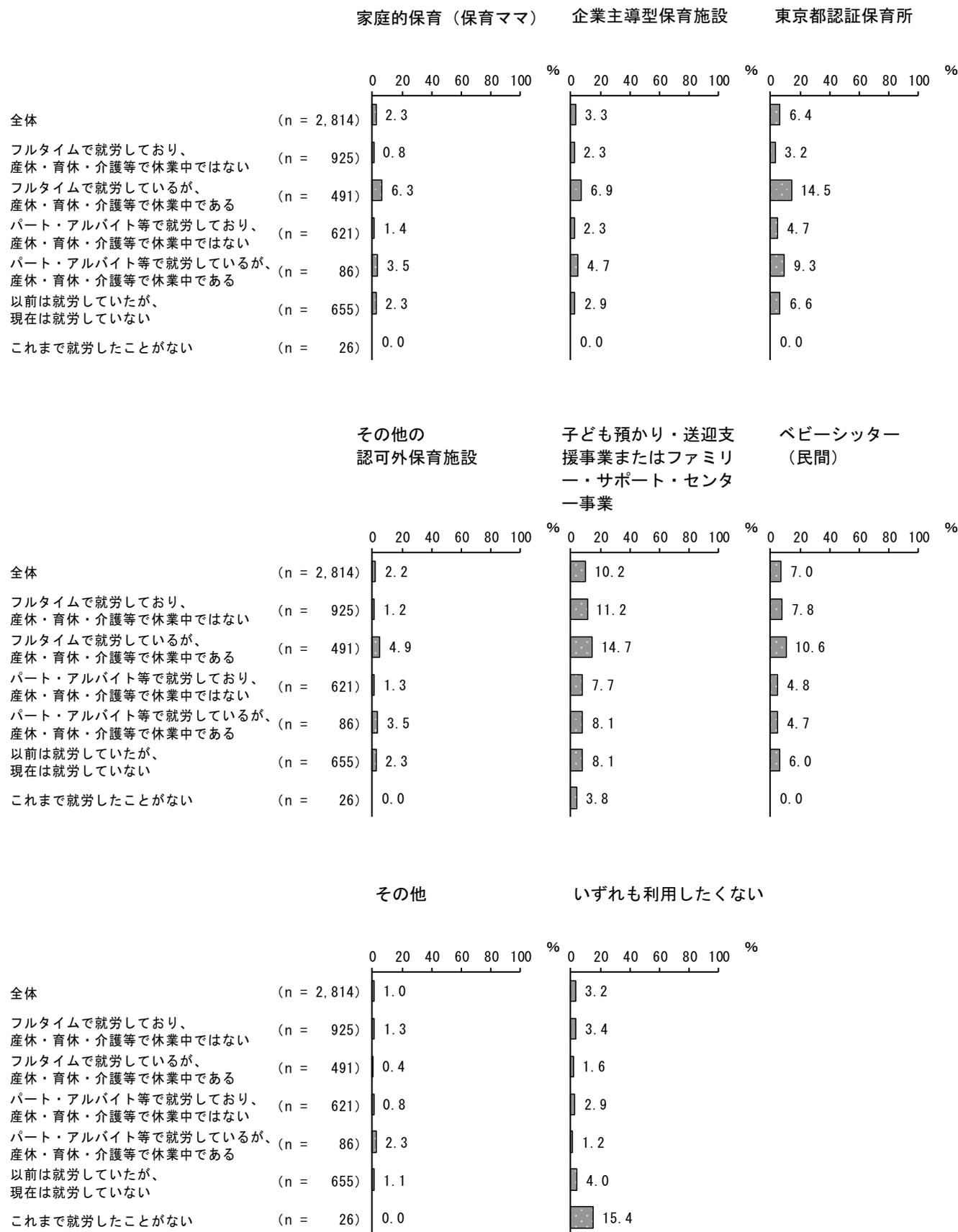
※複数回答のため、合計は100%に一致しない
 ※回答対象は就学前児童対象調査の全員

母親の就労状況別でみると、全体と比べて、フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護等で休業中である人で「認可保育所」の割合が、これまで就労したことがない人、以前は就労していたが、現在は就労していない人で「私立幼稚園」の割合が高くなっている。

図表 86 利用したい教育・保育事業の内容－母親の就労状況別



調査結果 就学前児童



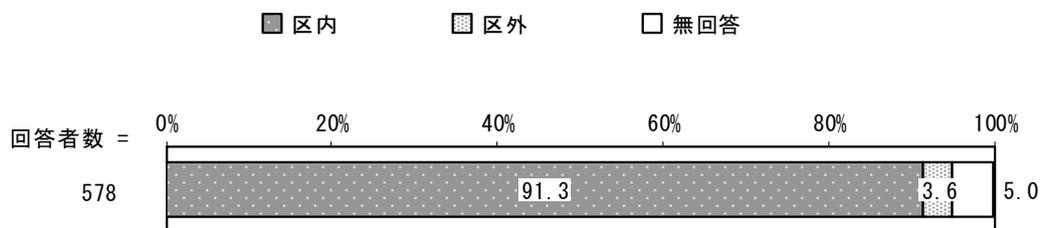
※複数回答のため、合計は100%に一致しない
 ※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-5-1-4 利用している私立幼稚園の所在地

問 20-2 利用している私立幼稚園の所在地をお答えください（○は1つだけ）。

「区内」の割合が91.3%、「区外」の割合が3.6%となっている。

図表 87 利用している私立幼稚園の所在地



※回答対象は問 20-1 で「私立幼稚園を利用している」と回答した人

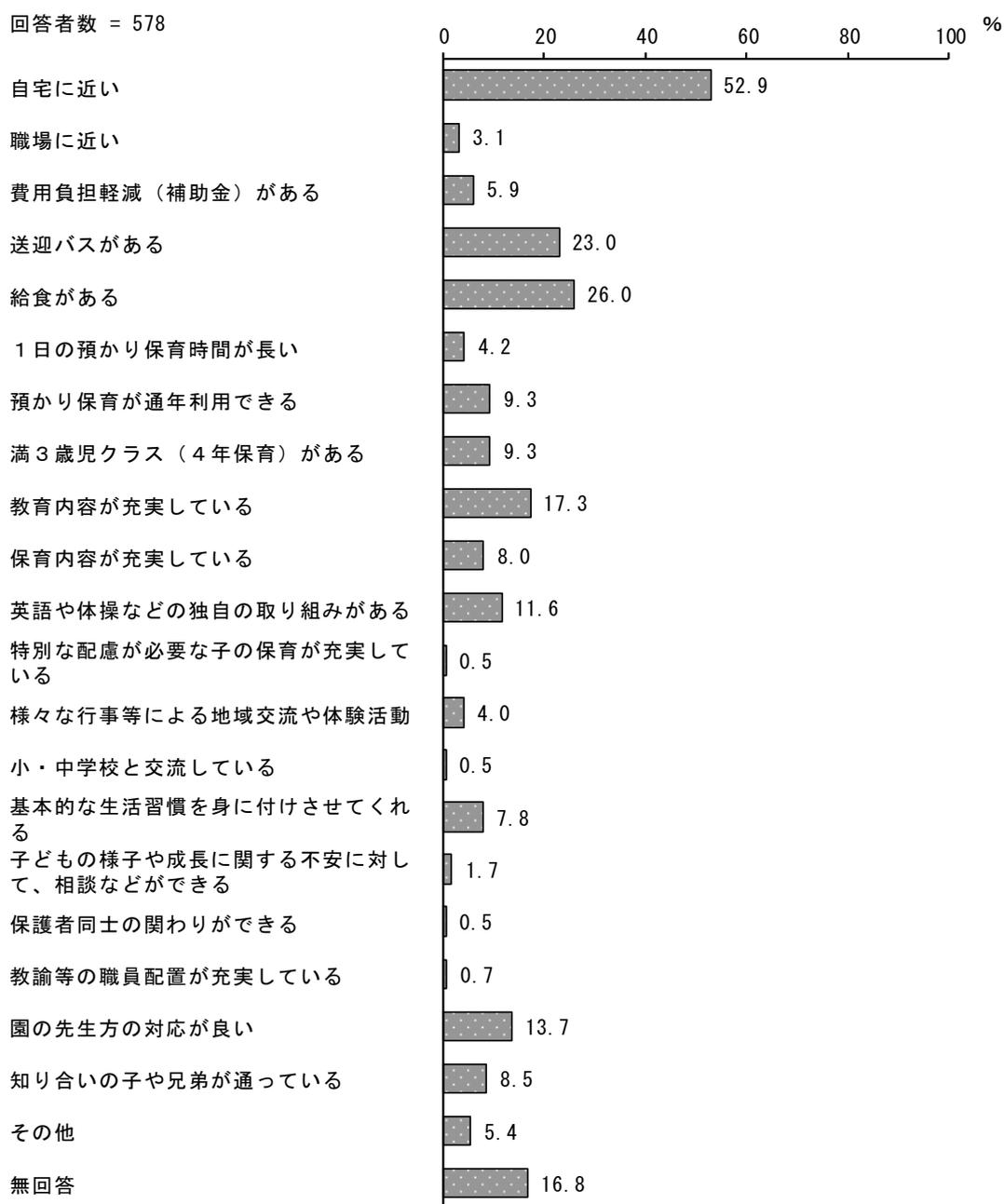
調査結果 就学前児童

1-5-1-5 利用している幼稚園を選んだ理由

問 20-3 利用している幼稚園を選んだ理由について、どのようなことを重視しましたか（○は3つ）。

「自宅に近い」の割合が52.9%と最も高く、次いで「給食がある」の割合が26.0%、「送迎バスがある」の割合が23.0%となっている。

図表 88 利用している幼稚園を選んだ理由



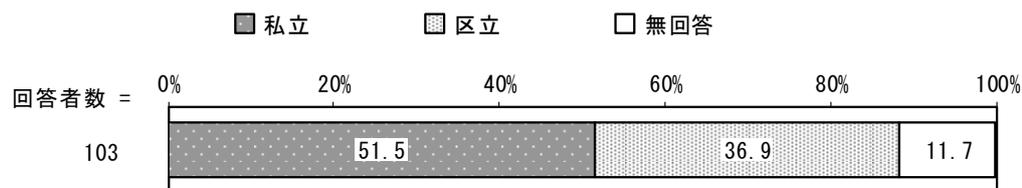
※回答対象は問 20-1 で「私立幼稚園を利用している」と回答した人

1-5-1-6 利用している認定こども園の運営主体

問 20-4 利用している認定こども園の運営主体（私立／区立）をお答えください
（○は1つだけ）。

「私立」の割合が51.5%、「区立」の割合が36.9%となっている。

図表 89 利用している認定こども園の運営主体



※回答対象は問 20-1 で「認定こども園を利用している」と回答した人

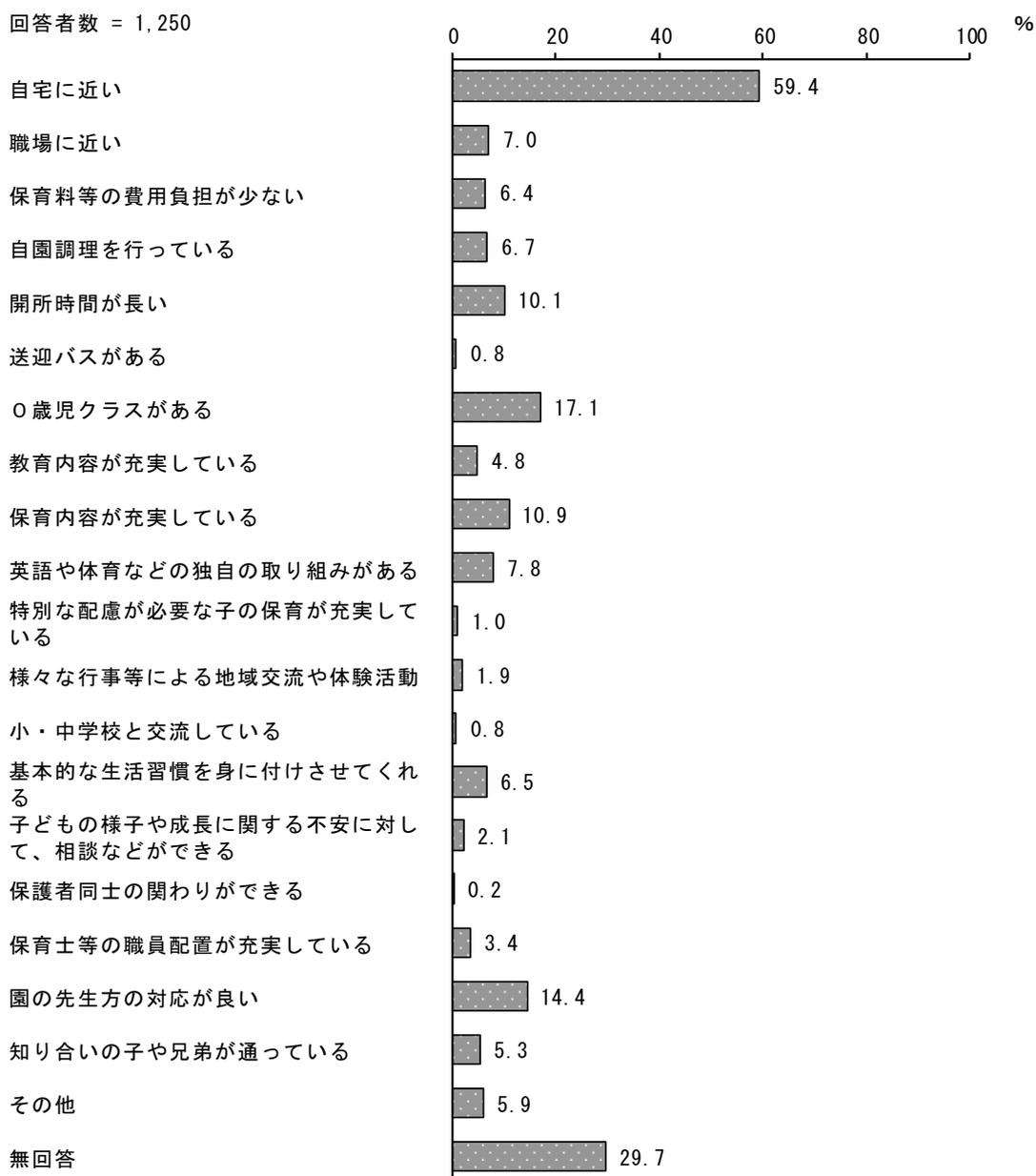
調査結果 就学前児童

1-5-1-7 保育園や認定こども園を選んだときの重視点

問 20-5 保育園や認定こども園を選ぶときにどのようなことを重視しましたか (〇は3つ)。

「自宅に近い」の割合が 59.4%と最も高く、次いで「0歳児クラスがある」の割合が 17.1%、「園の先生方の対応が良い」の割合が 14.4%となっている。

図表 90 保育園や認定こども園を選んだときの重視点



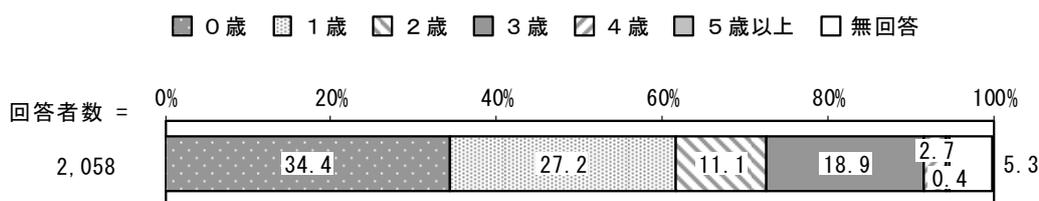
※回答対象は問 20-1 で「認定こども園、認可保育所を利用している」と回答した人

1-5-1-8 教育・保育事業の利用を開始した年齢

問 20-6 平日に定期的に利用している教育・保育事業について、お子さんが何歳のときから利用を開始しましたか（カッコ内に数字で）。

「0歳」の割合が34.4%と最も高く、次いで「1歳」の割合が27.2%、「3歳」の割合が18.9%となっている。

図表 91 教育・保育事業の利用を開始した年齢



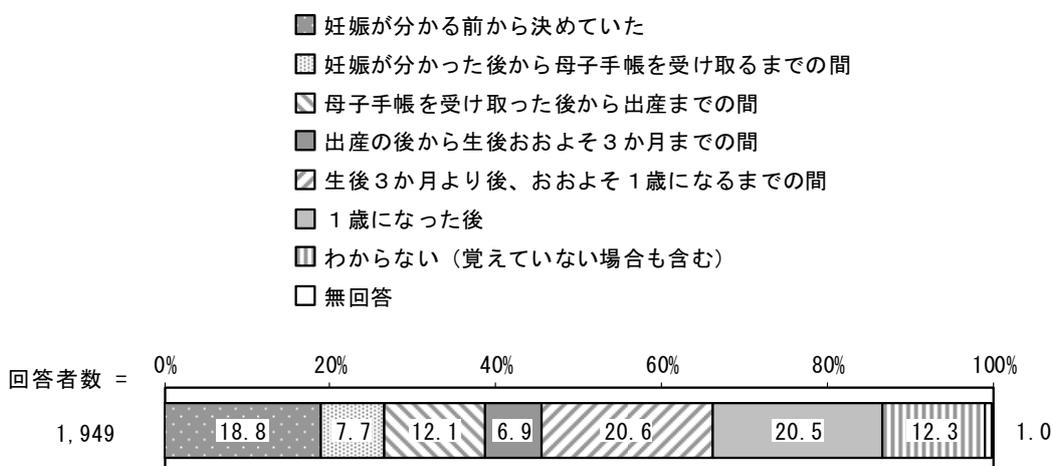
※回答対象は問 20 で「利用している」と回答した人

1-5-1-9 教育・保育事業の利用を開始する年齢を決めた時期

問 20-7 その年齢で利用することを決めた時期は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

「生後3か月より後、おおよそ1歳になるまでの間」の割合が20.6%と最も高く、次いで「1歳になった後」の割合が20.5%、「妊娠が分かる前から決めていた」の割合が18.8%となっている。

図表 92 教育・保育事業の利用を開始する年齢を決めた時期



※回答対象は問 20 で「利用している」、かつ問 20-6 で年齢を回答した人のみ

調査結果 就学前児童

1-5-1-10 教育・保育事業の現在の利用日数・時間と希望する利用日数・時間

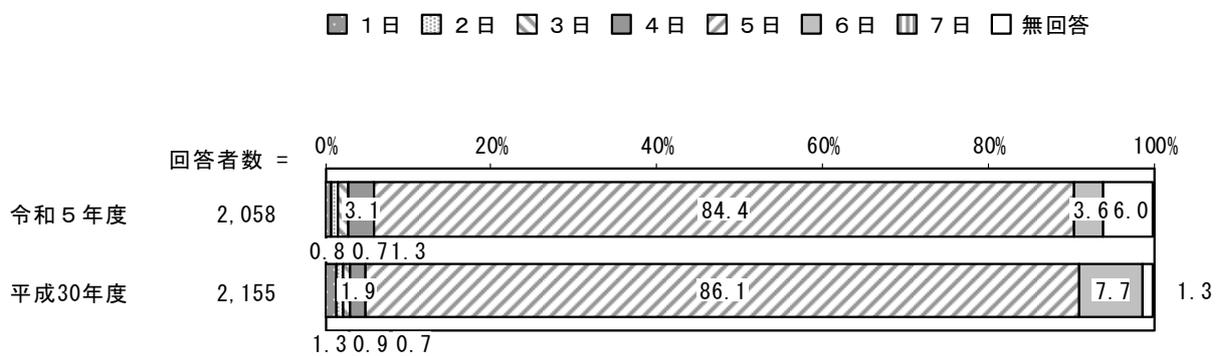
問 20-8 平日に定期的に利用している教育・保育事業について、(1) 現在どのくらい利用していますか。また、(2) 希望としてはどのくらい利用したいですか。

1 週あたりの利用日数

(a) 現在

「5日」の割合が84.4%と最も高くなっている。
 平成30年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 93 教育・保育事業の1週あたりの利用日数（現在）

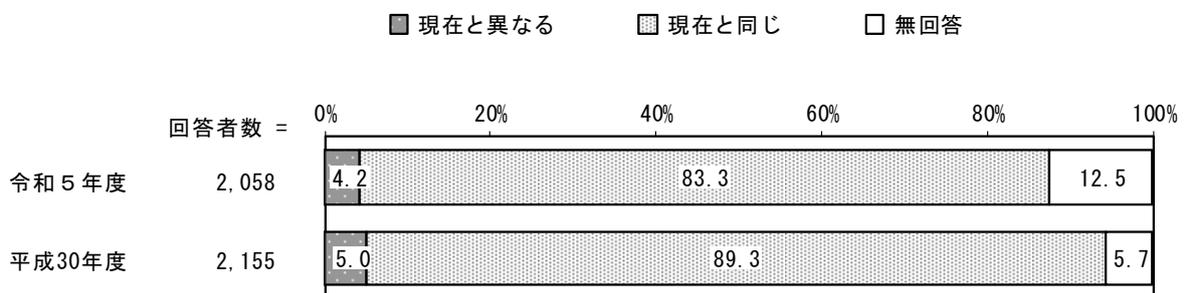


※回答対象は問20で「利用している」と回答した人

①現在と希望の相違

「現在と異なる」の割合が4.2%、「現在と同じ」の割合が83.3%となっている。
 平成30年度と比較すると、「現在と同じ」の割合が減少している。

図表 94 教育・保育事業の1週あたりの利用日数（現在と希望の相違）

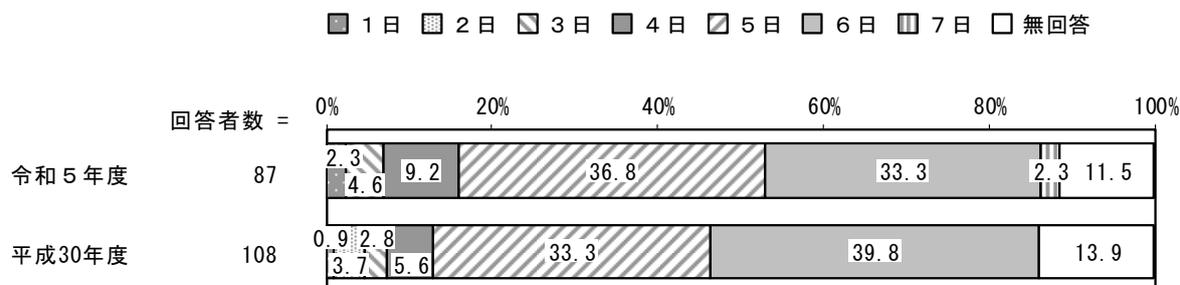


※回答対象は問20で「利用している」と回答した人

(b) 希望

「5日」の割合が36.8%と最も高く、次いで「6日」の割合が33.3%となっている。
平成30年度と比較すると、「6日」の割合が減少している。

図表 95 教育・保育事業の1週あたりの利用日数（希望）

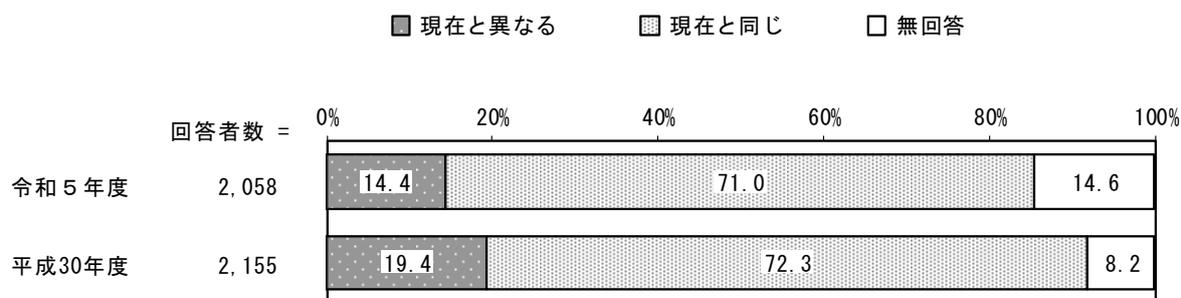


※回答対象は問20-8①で「現在と異なる」と回答した人

②現在と希望の相違

「現在と異なる」の割合が14.4%、「現在と同じ」の割合が71.0%となっている。
平成30年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 96 教育・保育事業の1週あたりの利用日数（現在と希望の相違）



※回答対象は問20で「利用している」と回答した人

調査結果 就学前児童

利用開始時間・利用終了時間

利用開始時間

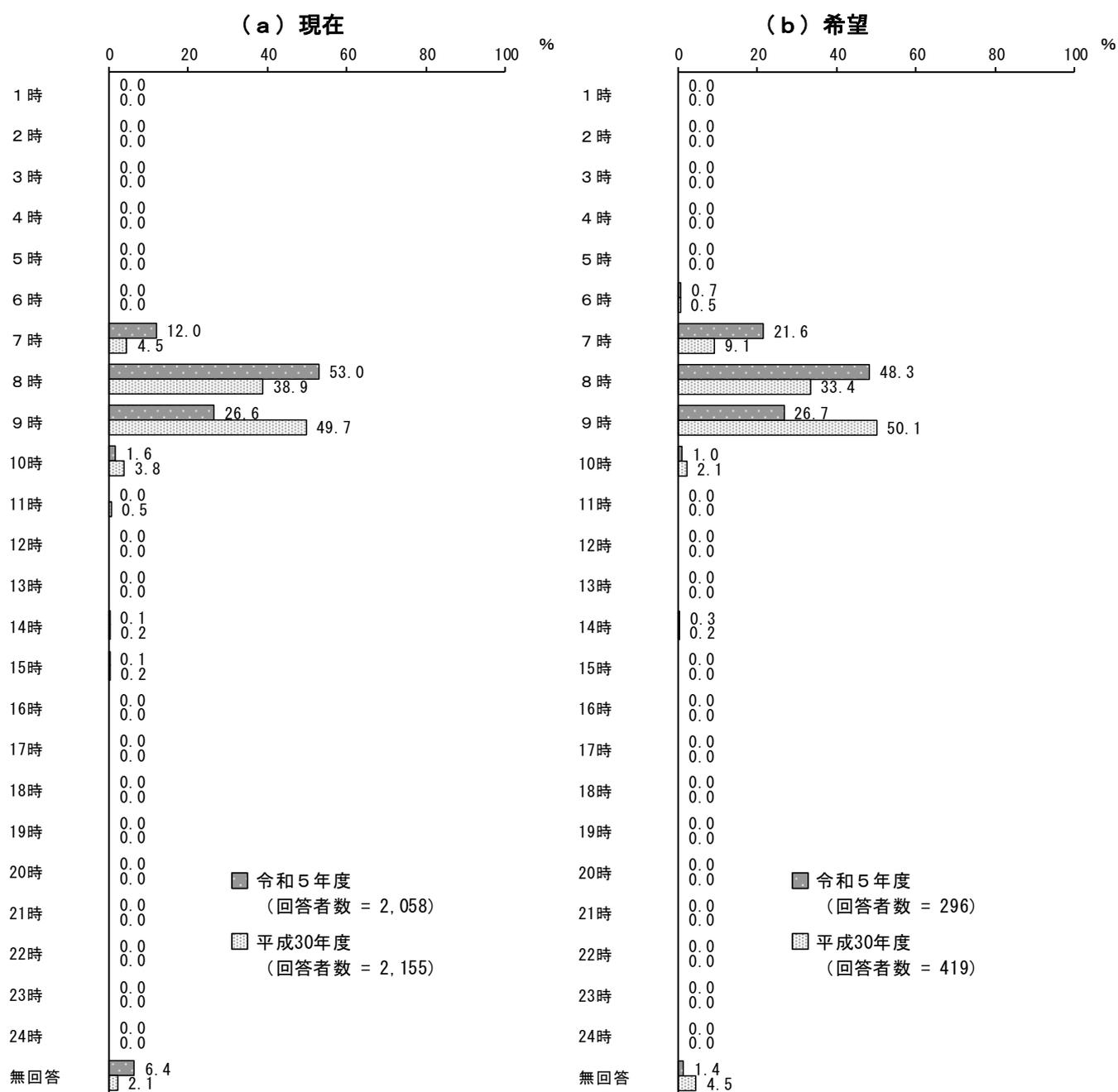
現在では、「8時」の割合が 53.0%と最も高く、次いで「9時」の割合が 26.6%、「7時」の割合が 12.0%となっている。

平成 30 年度と比較すると、「7時」「8時」の割合が増加している。一方、「9時」の割合が減少している。

希望では、「8時」の割合が 48.3%と最も高く、次いで「9時」の割合が 26.7%、「7時」の割合が 21.6%となっている。

平成 30 年度と比較すると、「7時」「8時」の割合が増加している。一方、「9時」の割合が減少している。

図表 97 教育・保育事業の利用開始時間



※回答には 12 時制で表記したと考えられるものも含まれる（設問上は 24 時制で回答依頼）

※ (a) 現在 回答対象は問 20 で「利用している」と回答した人

※ (b) 希望 回答対象は問 20-8②で「現在と異なる」と回答した人

利用終了時間

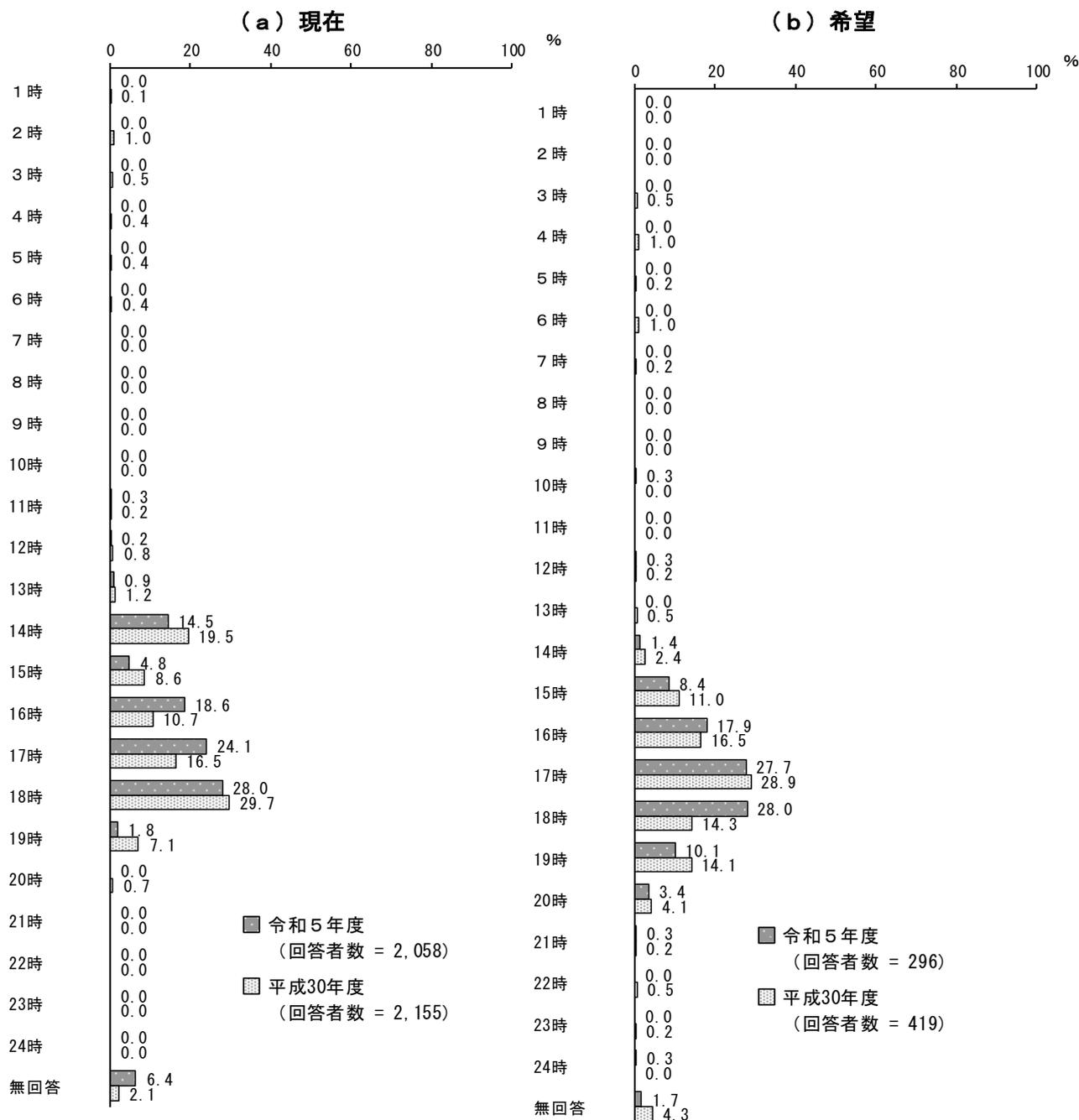
現在では、「18時」の割合が28.0%と最も高く、次いで「17時」の割合が24.1%、「16時」の割合が18.6%となっている。

平成30年度と比較すると、「16時」「17時」の割合が増加している。一方、「19時」の割合が減少している。

希望では、「18時」の割合が28.0%と最も高く、次いで「17時」の割合が27.7%、「16時」の割合が17.9%となっている。

平成30年度と比較すると、「18時」の割合が増加している。

図表 98 教育・保育事業の利用終了時間



※回答には12時制で表記したと考えられるものも含まれる（設問上は24時制で回答依頼）

※（a）現在 回答対象は問20で「利用している」と回答した人

※（b）希望 回答対象は問20-8②で「現在と異なる」と回答した人

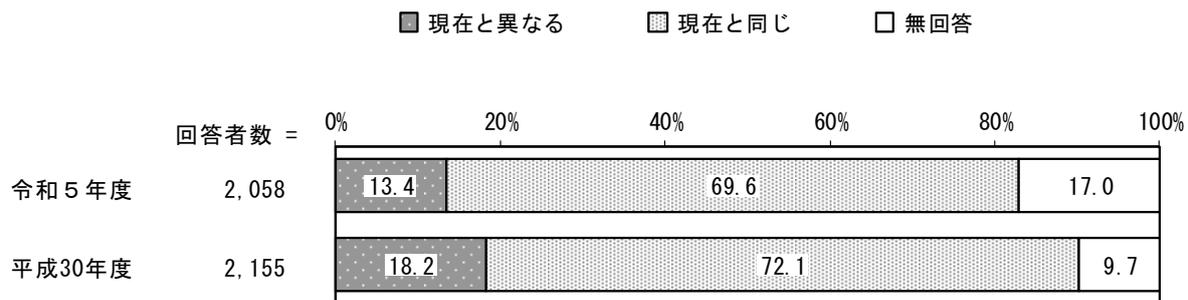
調査結果 就学前児童

1日あたりの利用時間

③現在と希望の相違

「現在と異なる」の割合が13.4%、「現在と同じ」の割合が69.6%となっている。
平成30年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 99 教育・保育事業の1日あたりの利用時間（現在と希望の相違）



※回答対象は問20で「利用している」と回答した人

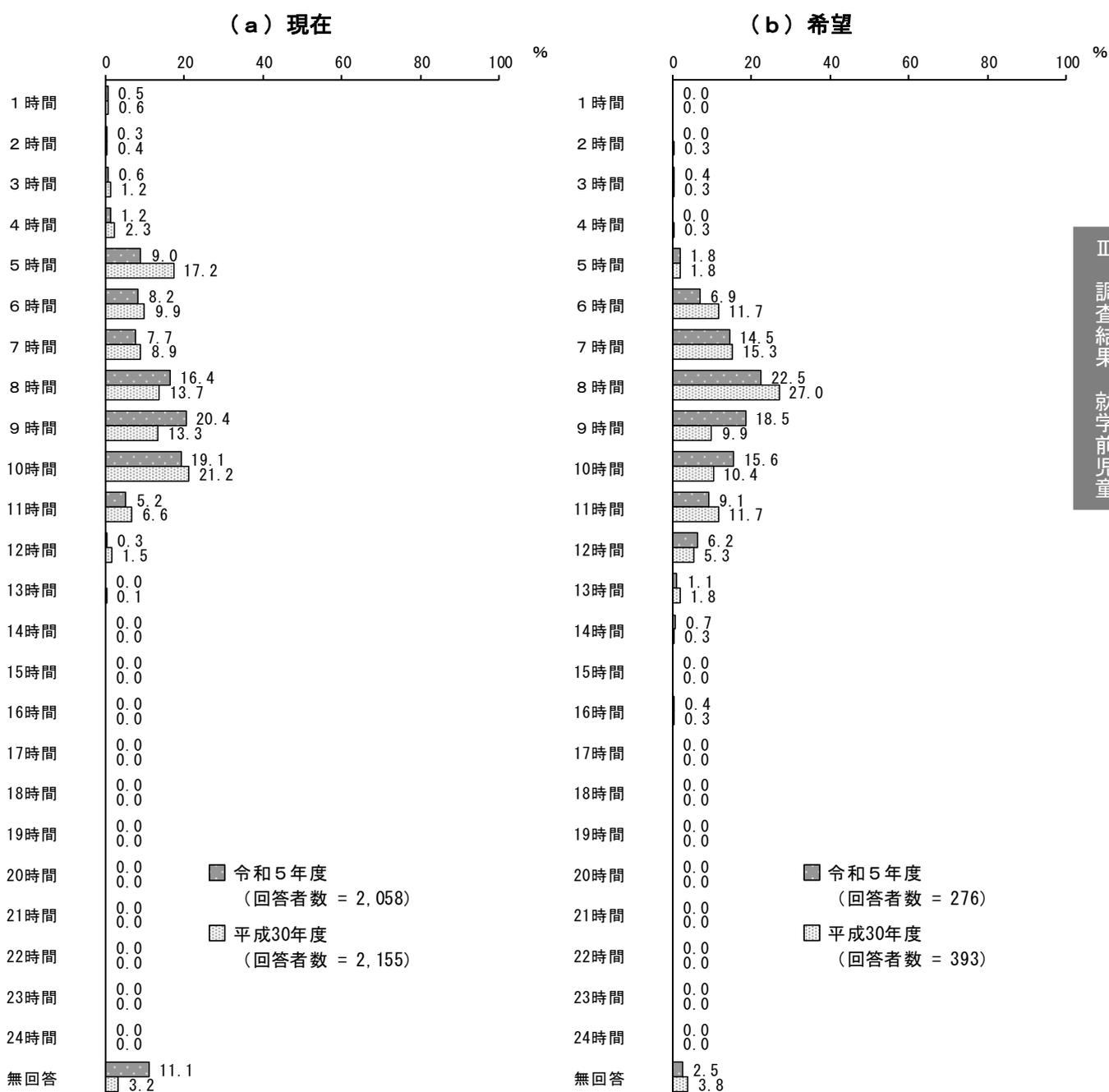
現在では、「9時間」の割合が20.4%と最も高く、次いで「10時間」の割合が19.1%、「8時間」の割合が16.4%となっている。

平成30年度と比較すると、「9時間」の割合が増加している。一方、「5時間」の割合が減少している。

希望では、「8時間」の割合が22.5%と最も高く、次いで「9時間」の割合が18.5%、「10時間」の割合が15.6%となっている。

平成30年度と比較すると、「9時間」「10時間」の割合が増加している。

図表 100 教育・保育事業の1日あたりの利用時間—時間別



III
調査結果
就学前児童

※回答には12時制で表記したと考えられるものも含まれる（設問上は24時制で回答依頼）
 ※（a）現在 回答対象は問20で「利用している」と回答した人
 ※（b）希望 回答対象は問20-8③で「現在と異なる」と回答した人

調査結果 就学前児童

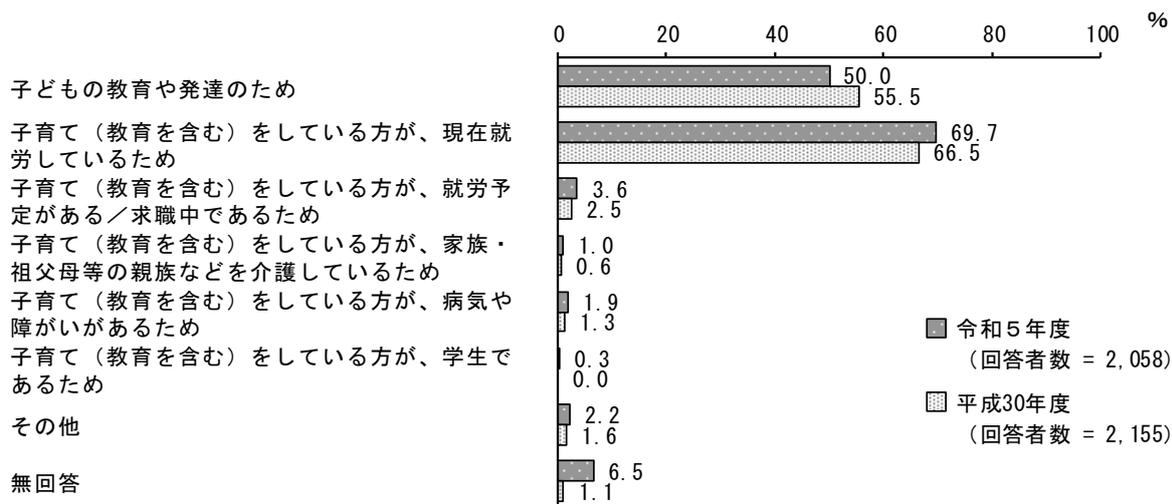
1-5-1-11 教育・保育事業を定期的にご利用している理由

問 20-9 平日に定期的な教育・保育事業を利用している理由は次のどれですか（あてはまるものすべてに○）。

「子育て（教育を含む）をしている方が、現在就労しているため」の割合が 69.7%と最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」の割合が 50.0%となっている。

平成 30 年度と比較すると、「子どもの教育や発達のため」の割合が減少している。

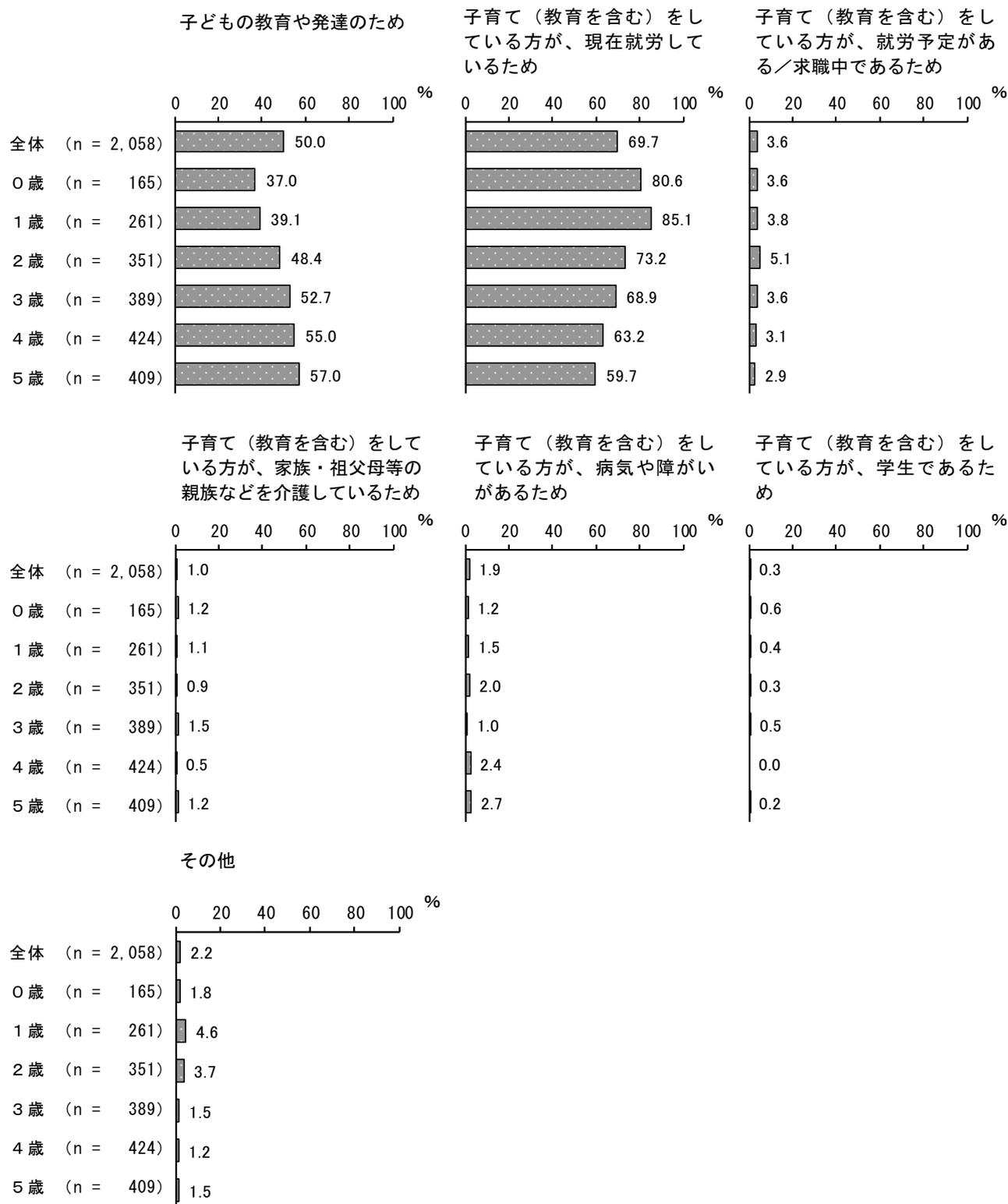
図表 101 教育・保育事業を定期的にご利用している理由



※複数回答のため、合計は100%に一致しない
 ※回答対象は問 20 で「利用している」と回答した人

子どもの年齢別にみると、全体と比べて、0歳、1歳で「子育て（教育を含む）をしている方が、現在就労しているため」の割合が、5歳で「子どもの教育や発達のため」の割合が高くなっている。

図表 102 教育・保育事業を定期的に利用している理由一年齢別

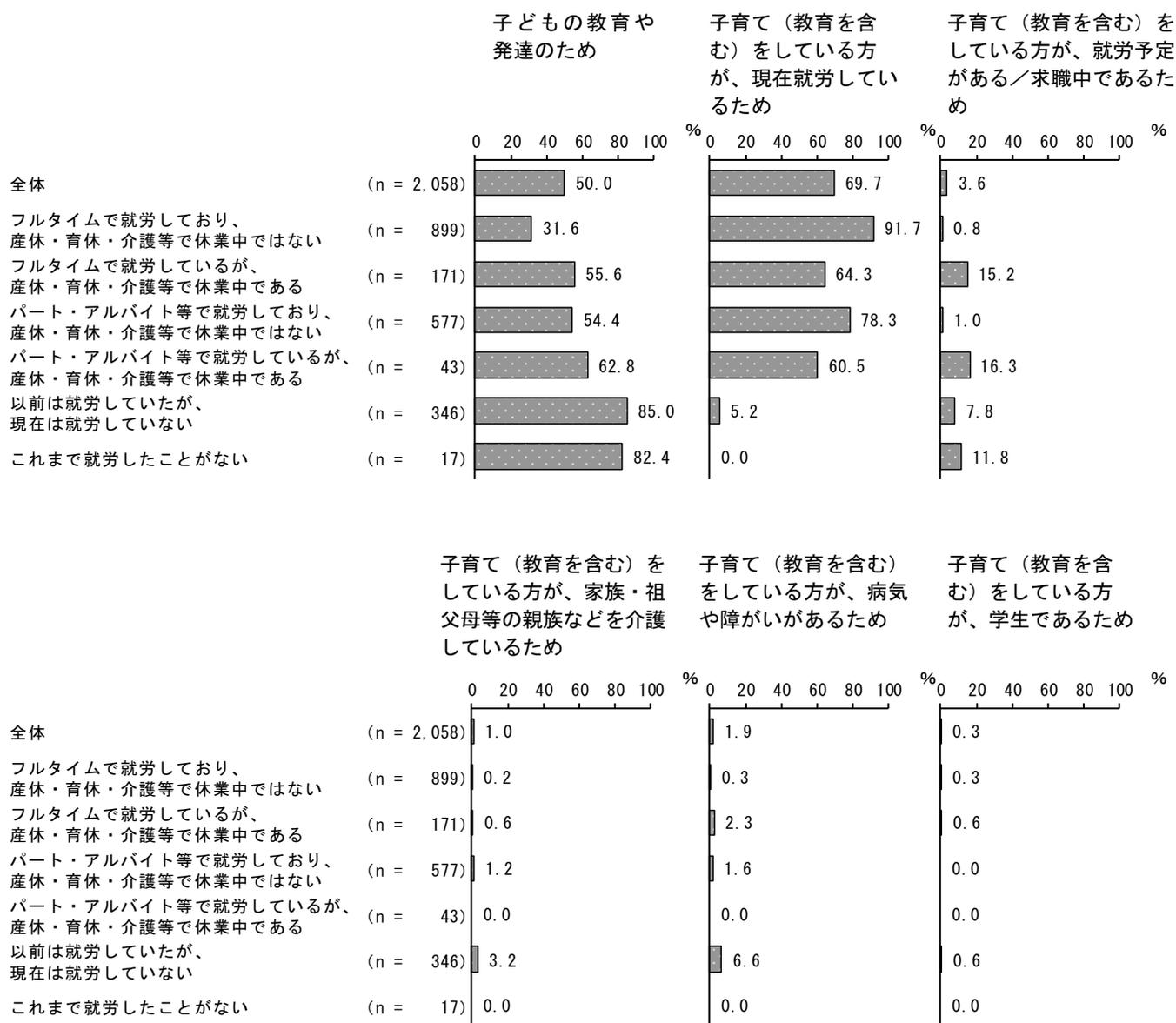


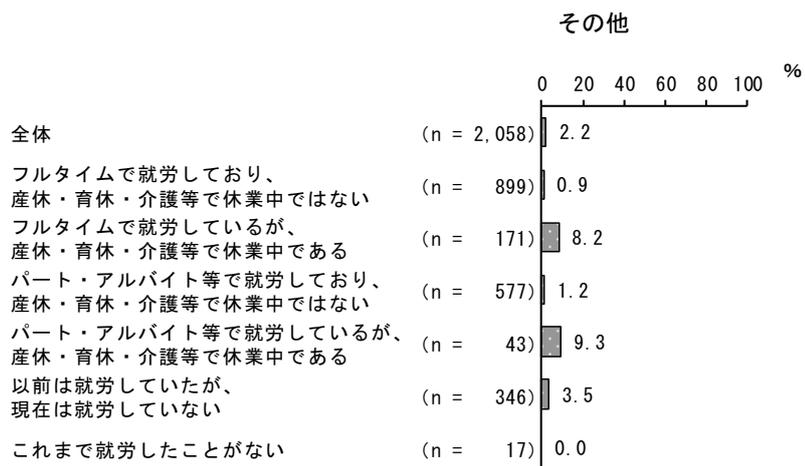
※複数回答のため、合計は100%に一致しない
 ※回答対象は問20で「利用している」と回答した人

調査結果 就学前児童

母親の就労状況別にみると、全体と比べて、以前は就労していたが、現在は就労していない人で「子どもの教育や発達のため」の割合が、これまで就労したことがない人で「子どもの教育や発達のため」の割合が、フルタイムで就労しており、産休・育休・介護等で休業中ではない人で「子育て（教育を含む）をしている方が、現在就労しているため」の割合が高くなってきている。

図表 103 教育・保育事業を定期的にご利用している理由—母親の就労状況別





※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は問20で「利用している」と回答した人

調査結果 就学前児童

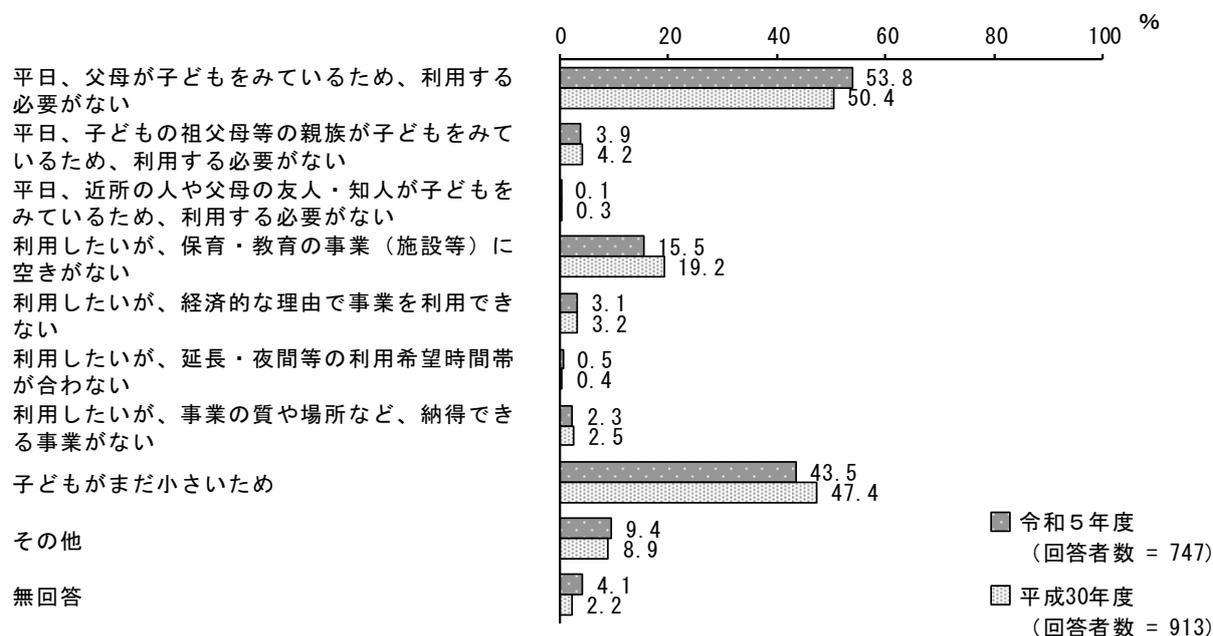
1-5-1-12 教育・保育事業を定期的に利用していない理由

問 20-10 平日に定期的に教育・保育事業を利用していない理由は次のどれですか
(あてはまるものすべてに○)。

「平日、父母が子どもをみているため、利用する必要がない」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「子どもがまだ小さいため」の割合が 43.5%、「利用したいが、保育・教育の事業（施設等）に空きがない」の割合が 15.5%となっている。

平成 30 年度と比較すると、大きな差はみられない。

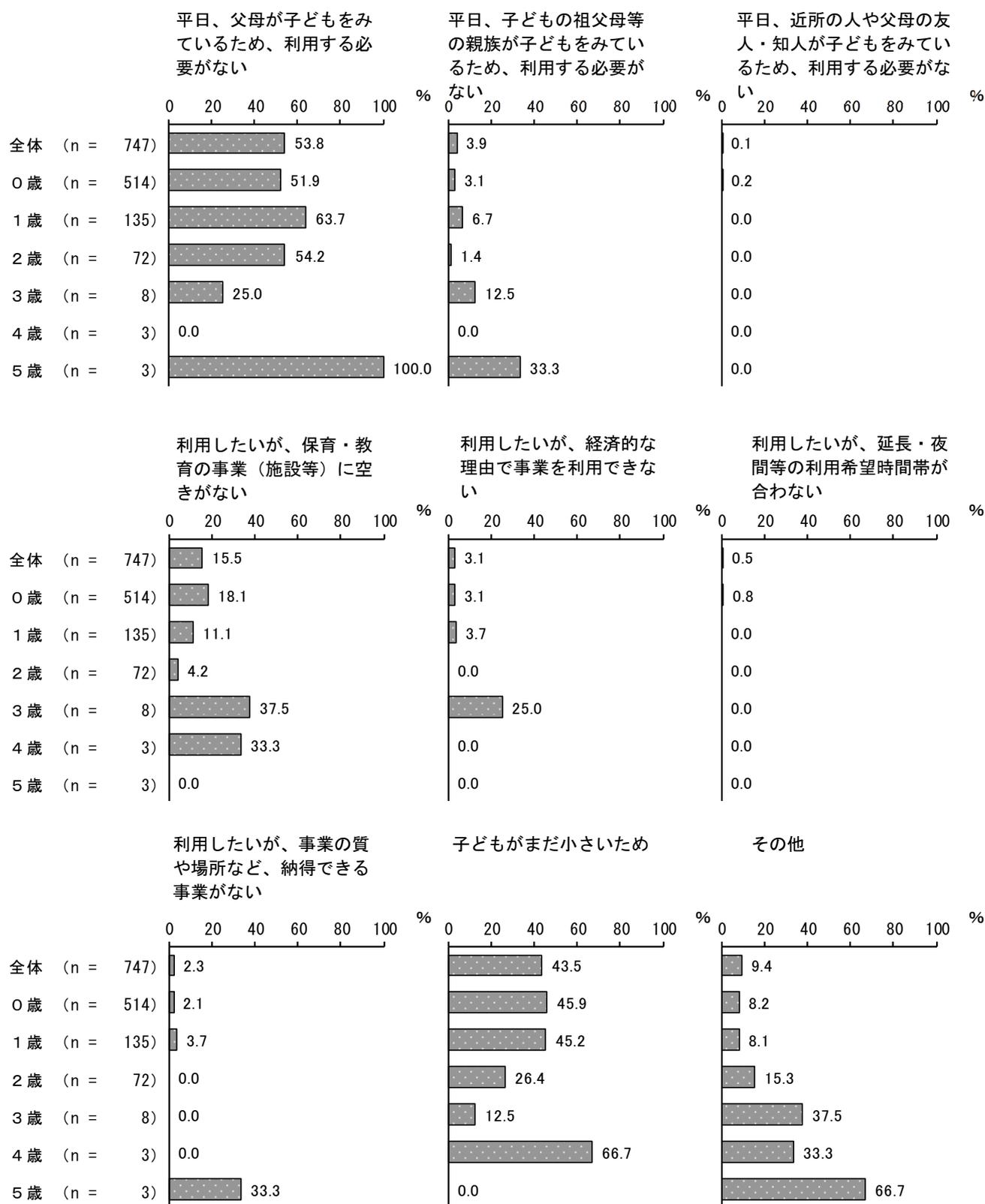
図表 104 教育・保育事業を定期的に利用していない理由



※複数回答のため、合計は100%に一致しない
 ※回答対象は問20で「利用していない」と回答した人

子どもの年齢別にみると、全体と比べて、1歳で「平日、父母が子どもをみているため、利用する必要がない」の割合が高くなっている。

図表 105 教育・保育事業を定期的に利用していない理由—子どもの年齢別

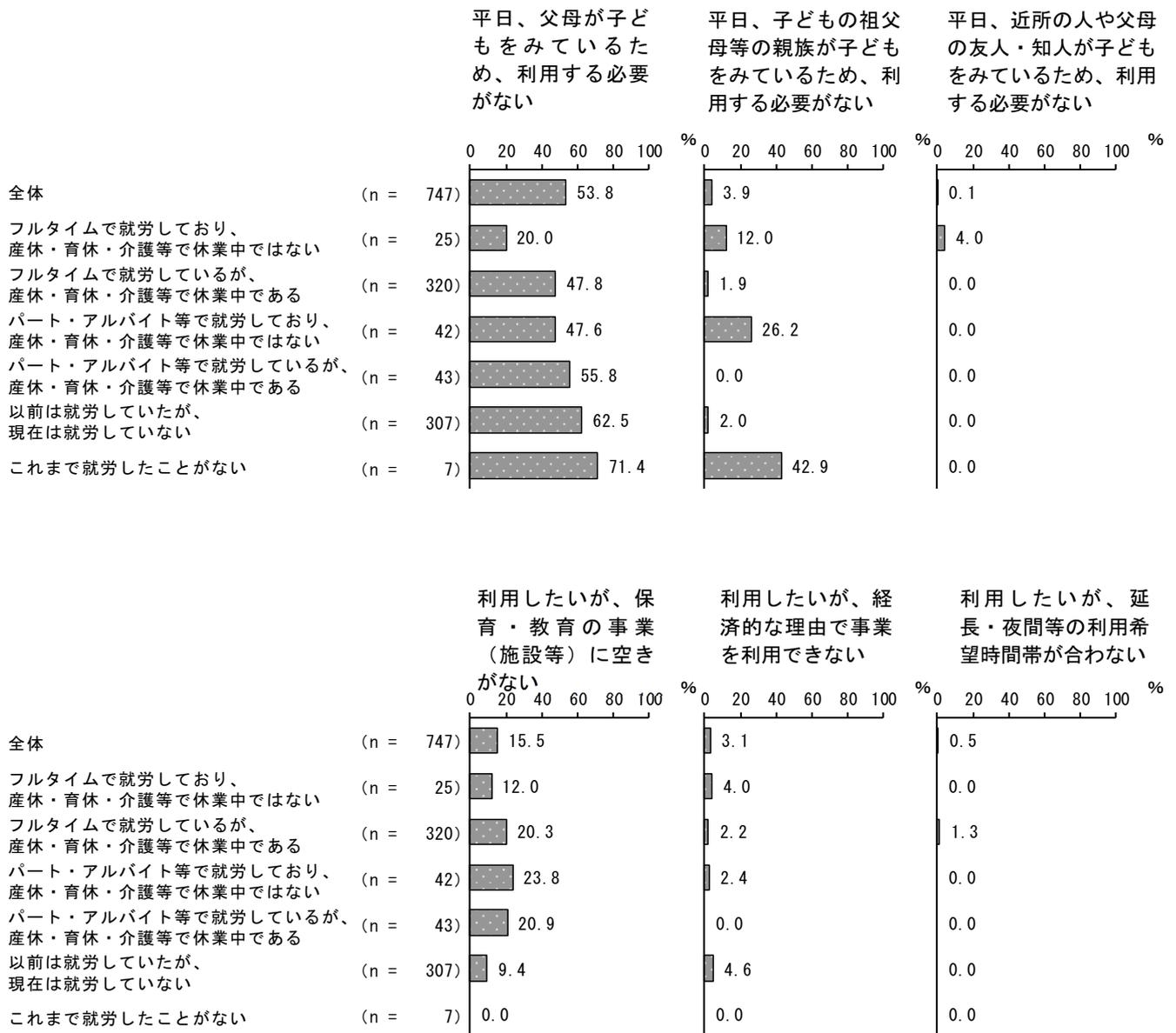


※複数回答のため、合計は100%に一致しない
 ※回答対象は問20で「利用していない」と回答した人

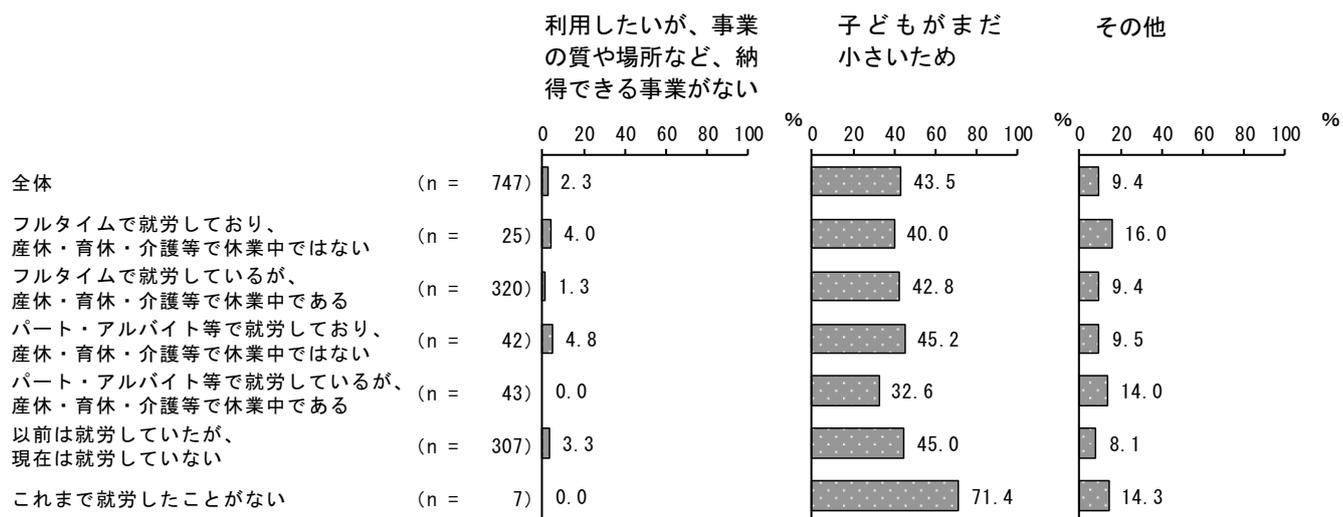
調査結果 就学前児童

母親の就労状況別にみると、全体と比べて、以前は就労していたが、現在は就労していない人で「平日、父母が子どもをみているため、利用する必要がない」の割合が、パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護等で休業中ではない人で「平日、子どもの祖父母等の親族が子どもをみているため、利用する必要がない」の割合が、パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護等で休業中である人で「利用したいが、保育・教育の事業（施設等）に空きがない」の割合が高くなっている。

図表 106 教育・保育事業を定期的にご利用していない理由—母親の就労状況別



調査結果 就学前児童



※複数回答のため、合計は100%に一致しない
 ※回答対象は問20で「利用していない」と回答した人

調査結果 就学前児童

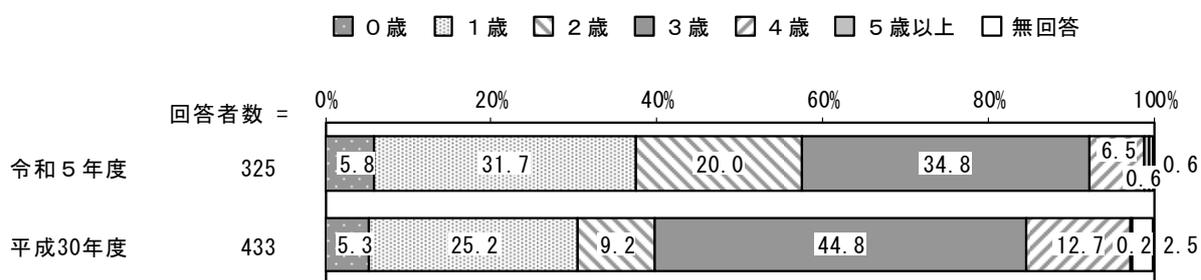
1-5-1-13 教育・保育事業の利用希望年齢

問 20-11 お子さんが何歳くらいになったら、平日に定期的に教育・保育事業を利用しようと考えていますか（カッコ内に数字で）。

「3歳」の割合が34.8%と最も高く、次いで「1歳」の割合が31.7%、「2歳」の割合が20.0%となっている。

平成30年度と比較すると、「1歳」「2歳」の割合が増加している。一方、「3歳」「4歳」の割合が減少している。

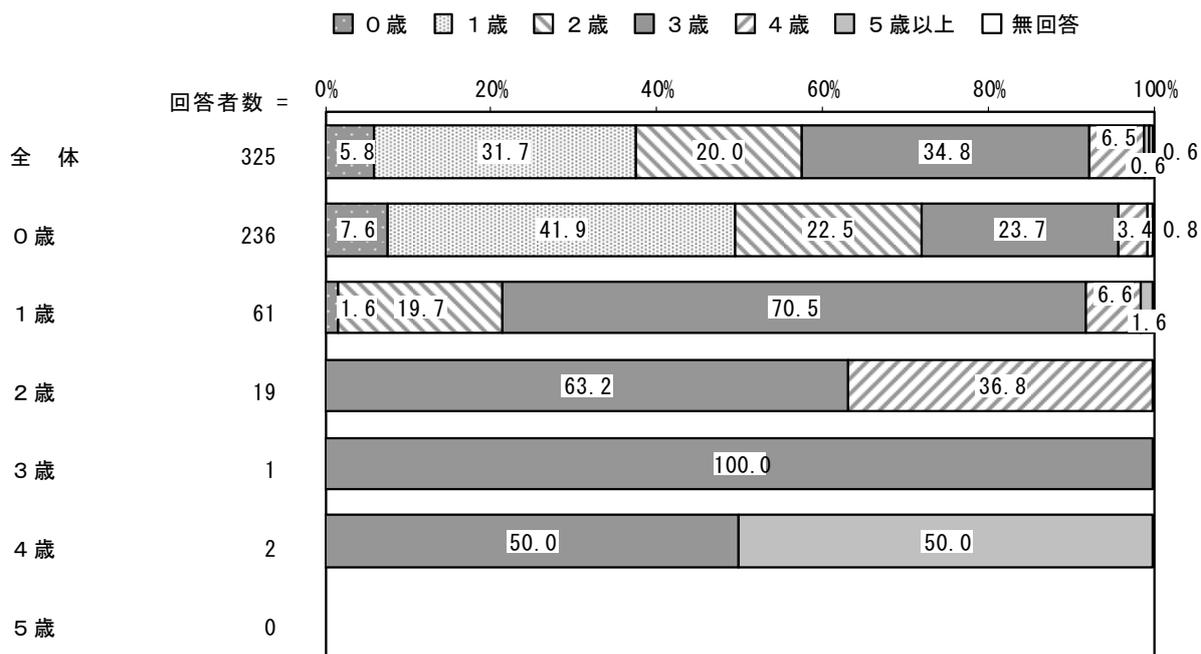
図表 107 教育・保育事業の利用希望年齢



※回答対象は問20-10で「子どもがまだ小さいため」と回答した人

子どもの年齢別で見ると、全体と比べて、1歳、2歳で「3歳」の割合が、0歳で「1歳」の割合が高くなっている。

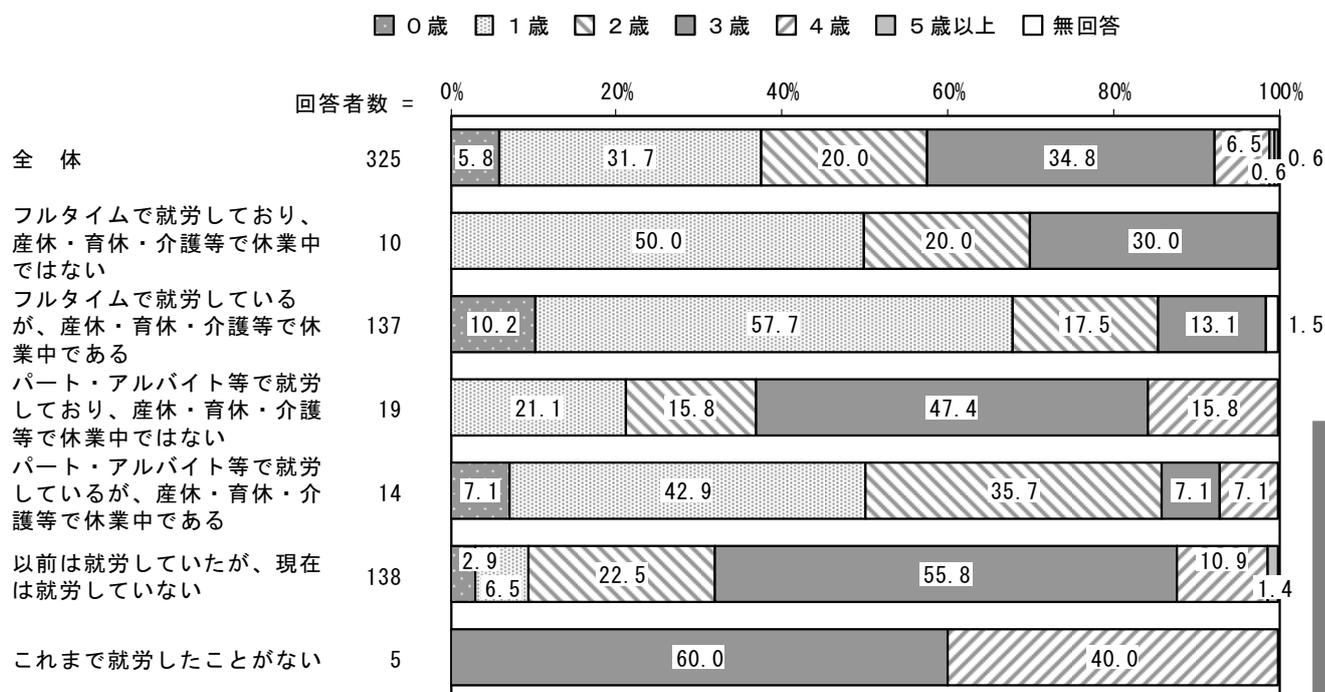
図表 108 教育・保育事業の利用希望年齢—子どもの年齢別



※回答対象は問20-10で「子どもがまだ小さいため」と回答した人

母親の就労状況別でみると、全体と比べて、フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護等で休業中である人で「1歳」の割合が、以前は就労していたが、現在は就労していない人で「3歳」の割合が、フルタイムで就労しており、産休・育休・介護等で休業中ではない人で「1歳」の割合が高くなっている。

図表 109 教育・保育事業の利用希望年齢—母親の就労状況別



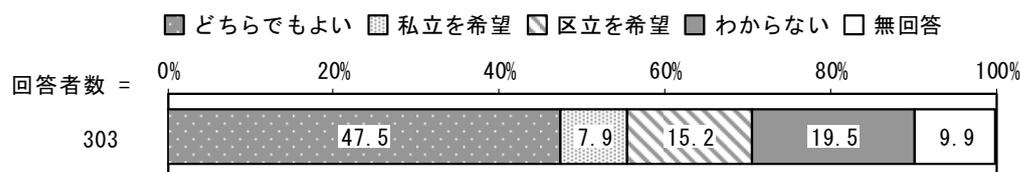
※回答対象は問20-10で「子どもがまだ小さいため」と回答した人

1-5-1-14 希望する認定こども園の運営主体

問20-12 希望する認定こども園の運営主体（私立／区立）をお答えください（○は1つだけ）。

「どちらでもよい」の割合が47.5%と最も高く、次いで「わからない」の割合が19.5%、「区立を希望」の割合が15.2%となっている。

図表 110 希望する認定こども園の運営主体



※回答対象は問20-1で「認定こども園を利用したい」と回答した人

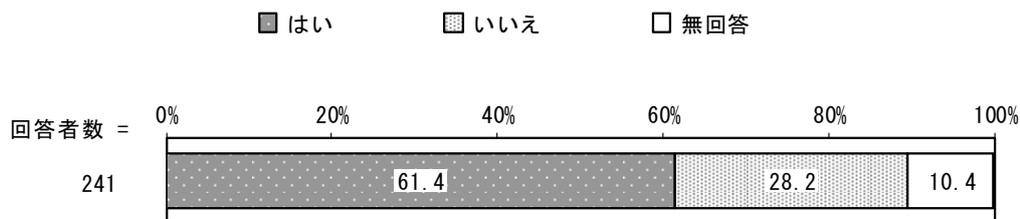
調査結果 就学前児童

1-5-1-15 幼稚園利用への強い希望の有無

問 20-13 特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか（○は1つだけ）。

「はい」の割合が61.4%、「いいえ」の割合が28.2%となっている。

図表 111 幼稚園利用への強い希望の有無



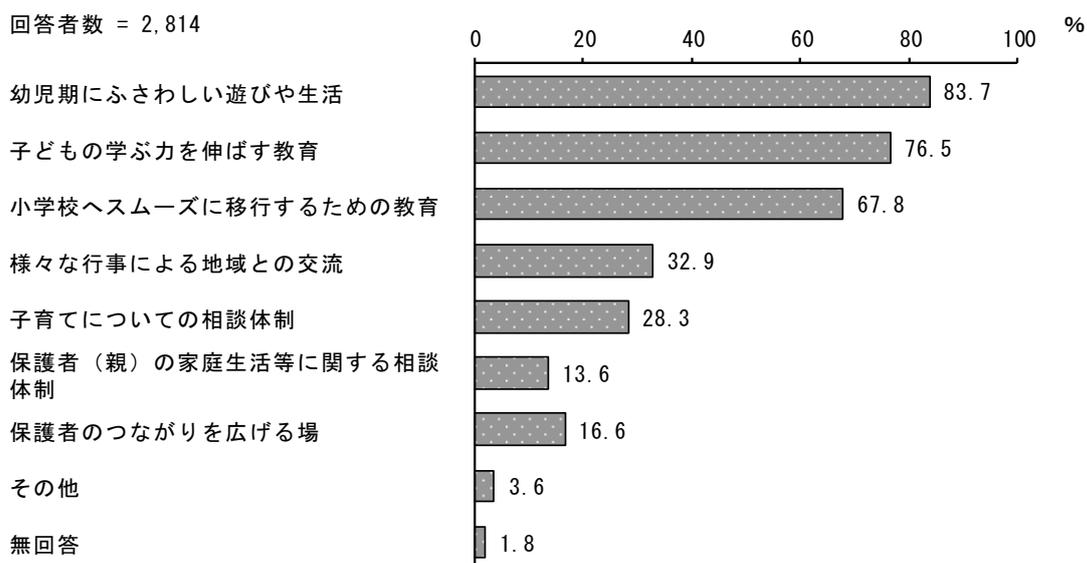
※回答対象は問 20-1 で「私立幼稚園」または「私立幼稚園の預かり保育」、かつその他の事業を回答した人

1-5-1-16 幼稚園に今後期待する役割

問 21 現在、利用している、利用していないにかかわらず、幼稚園に今後期待する役割はなんですか（あてはまるものすべてに○）。

「幼児期にふさわしい遊びや生活」の割合が83.7%と最も高く、次いで「子どもの学ぶ力を伸ばす教育」の割合が76.5%、「小学校へスムーズに移行するための教育」の割合が67.8%となっている。

図表 112 幼稚園に今後期待する役割



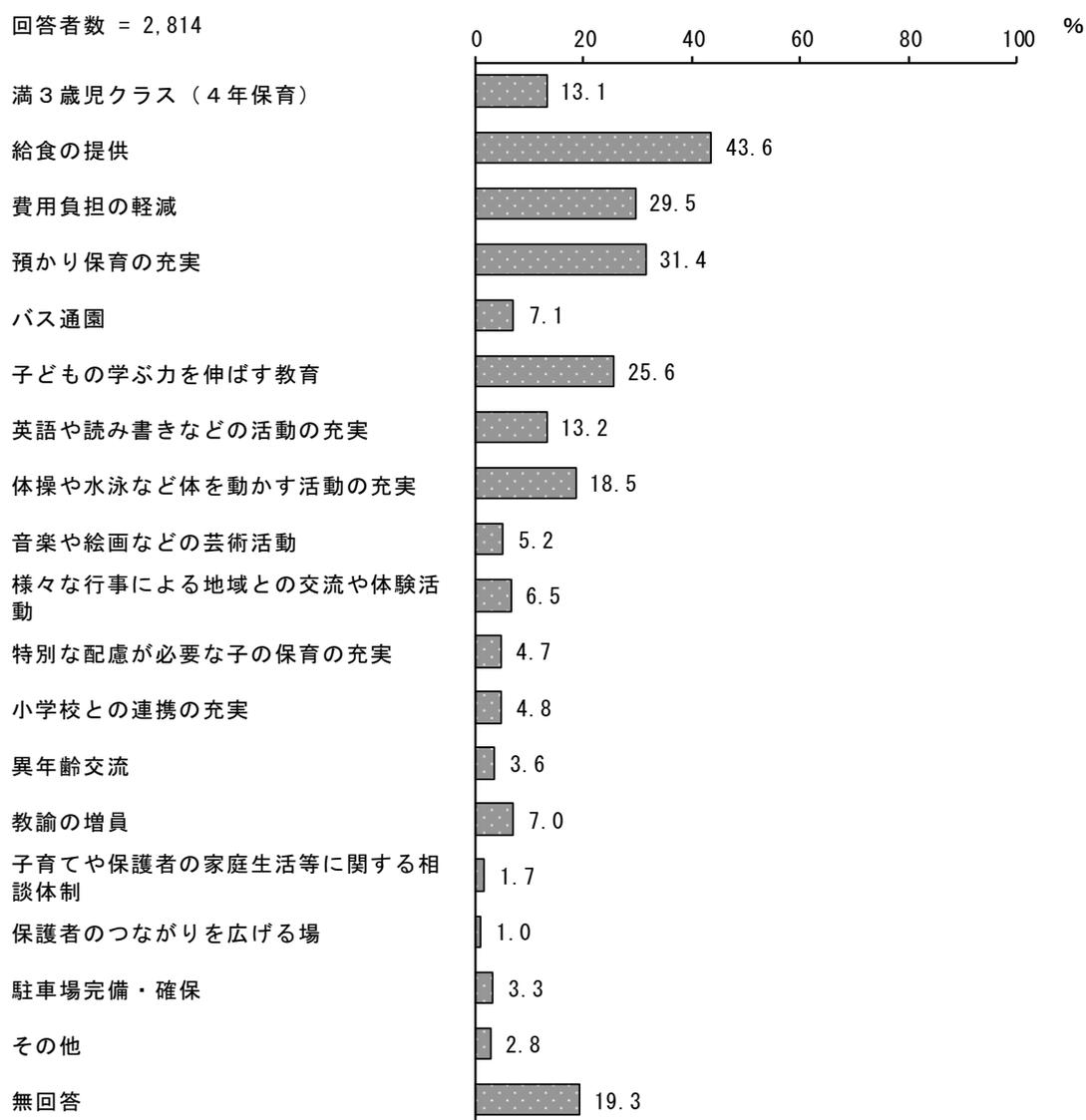
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-5-1-17 幼稚園に特に要望すること

問 22 現在、利用している、利用していないにかかわらず、幼稚園に特に要望することは何ですか（〇は3つだけ）。

「給食の提供」の割合が 43.6%と最も高く、次いで「預かり保育の充実」の割合が 31.4%、「費用負担の軽減」の割合が 29.5%となっている。

図表 113 幼稚園に特に要望すること



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

調査結果 就学前児童

1-5-1-18 平日、土、日曜祝日の一時保育の利用希望

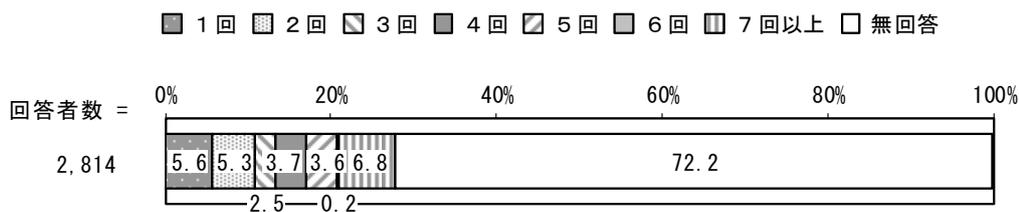
問 23 あなたは、平日、土、日曜祝日に一時保育を利用したいですか。

(1) 平日

希望する利用回数

1か月に「7回以上」の割合が6.8%と最も高くなっている。

図表 114 平日に一時保育を希望する1か月あたりの利用回数



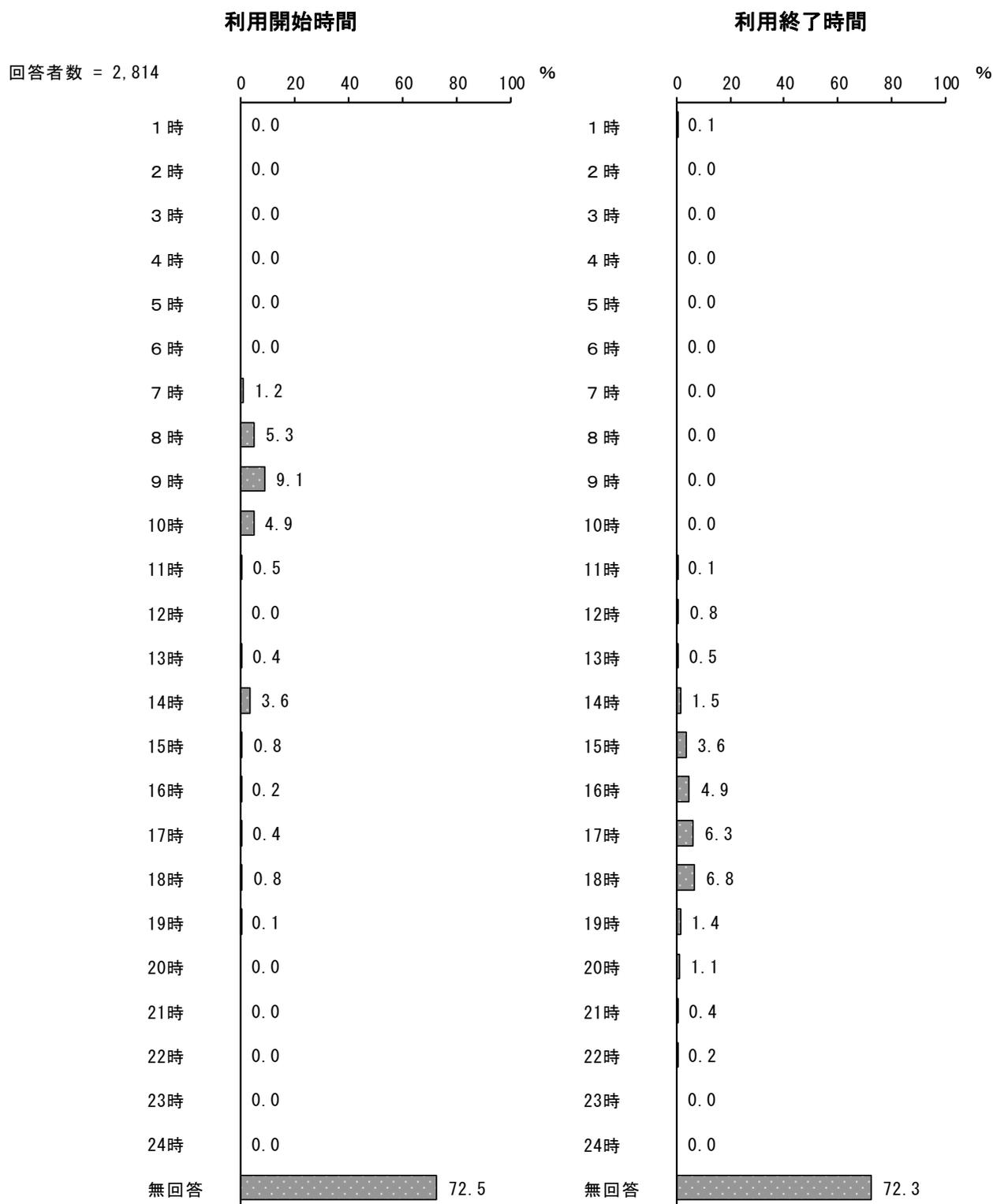
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

希望する利用開始時間・利用終了時間

利用開始時間では「9時」の割合が9.1%と最も高くなっている。

利用終了時間では「18時」の割合が6.8%と最も高くなっている。

図表 115 平日に一時保育を希望する利用開始時間・利用終了時間



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

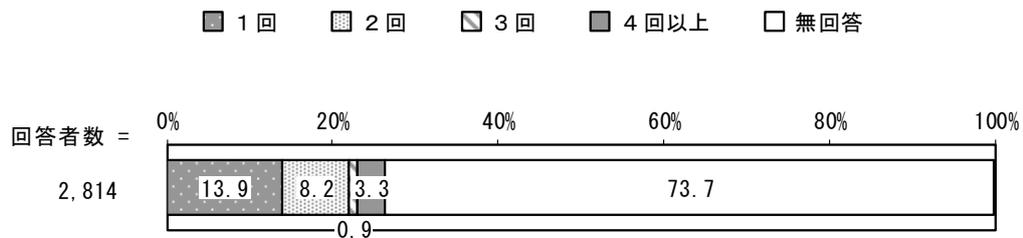
調査結果 就学前児童

(2) 土曜日

希望する利用回数

1か月に「1回」の割合が13.9%と最も高くなっている。

図表 116 土曜日に一時保育を希望する1か月あたりの利用回数



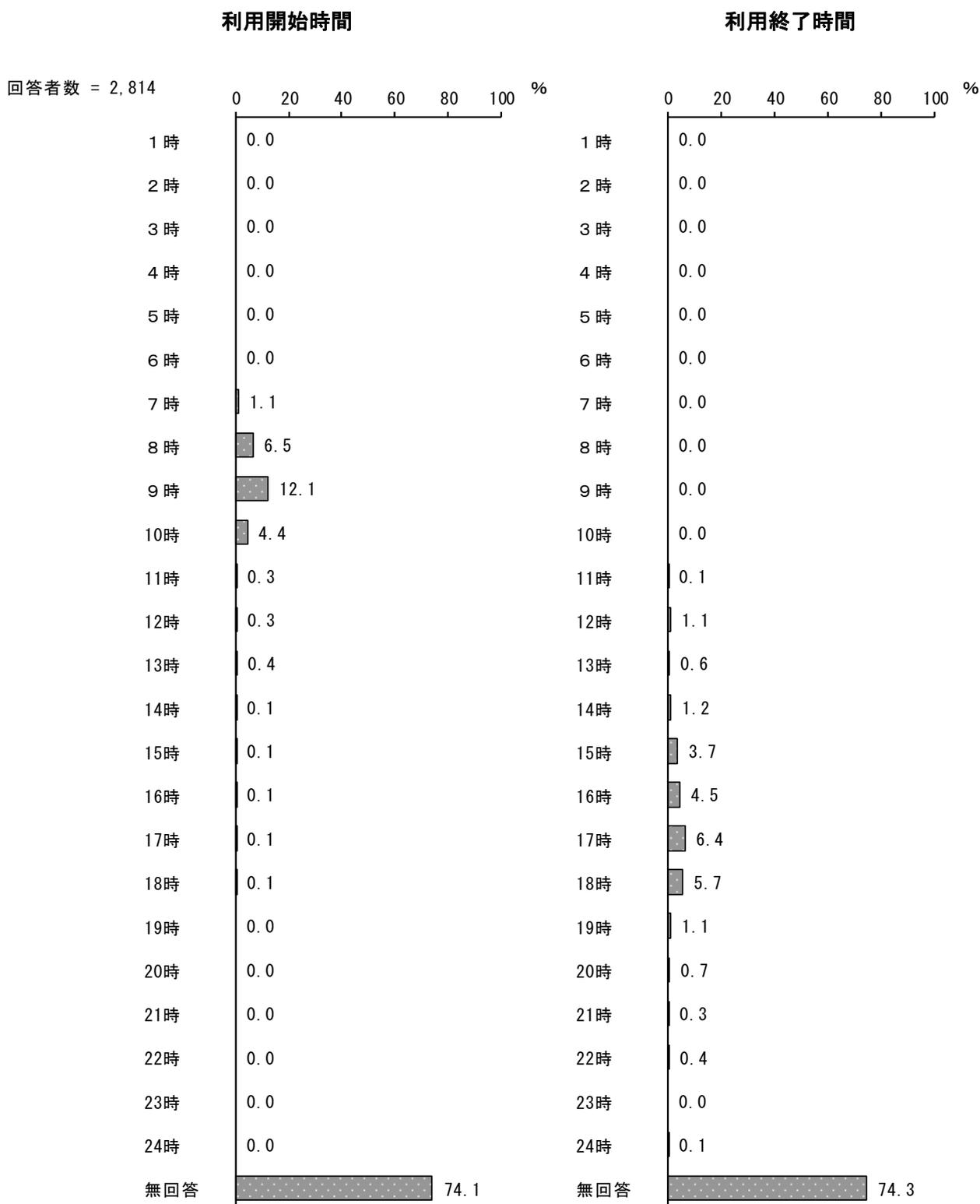
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

希望する利用開始時間・利用終了時間

利用開始時間では「9時」の割合が12.1%と最も高くなっている。

利用終了時間「17時」の割合が6.4%と最も高くなっている。

図表 117 土曜日に一時保育を希望する利用開始時間・利用終了時間



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

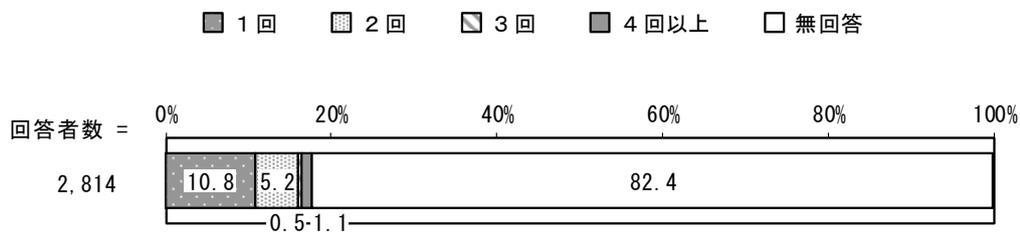
調査結果 就学前児童

(3) 日曜祝日

希望する利用回数

1か月に「1回」の割合が10.8%と最も高くなっている。

図表 118 日曜祝日に一時保育を希望する1か月あたりの利用回数



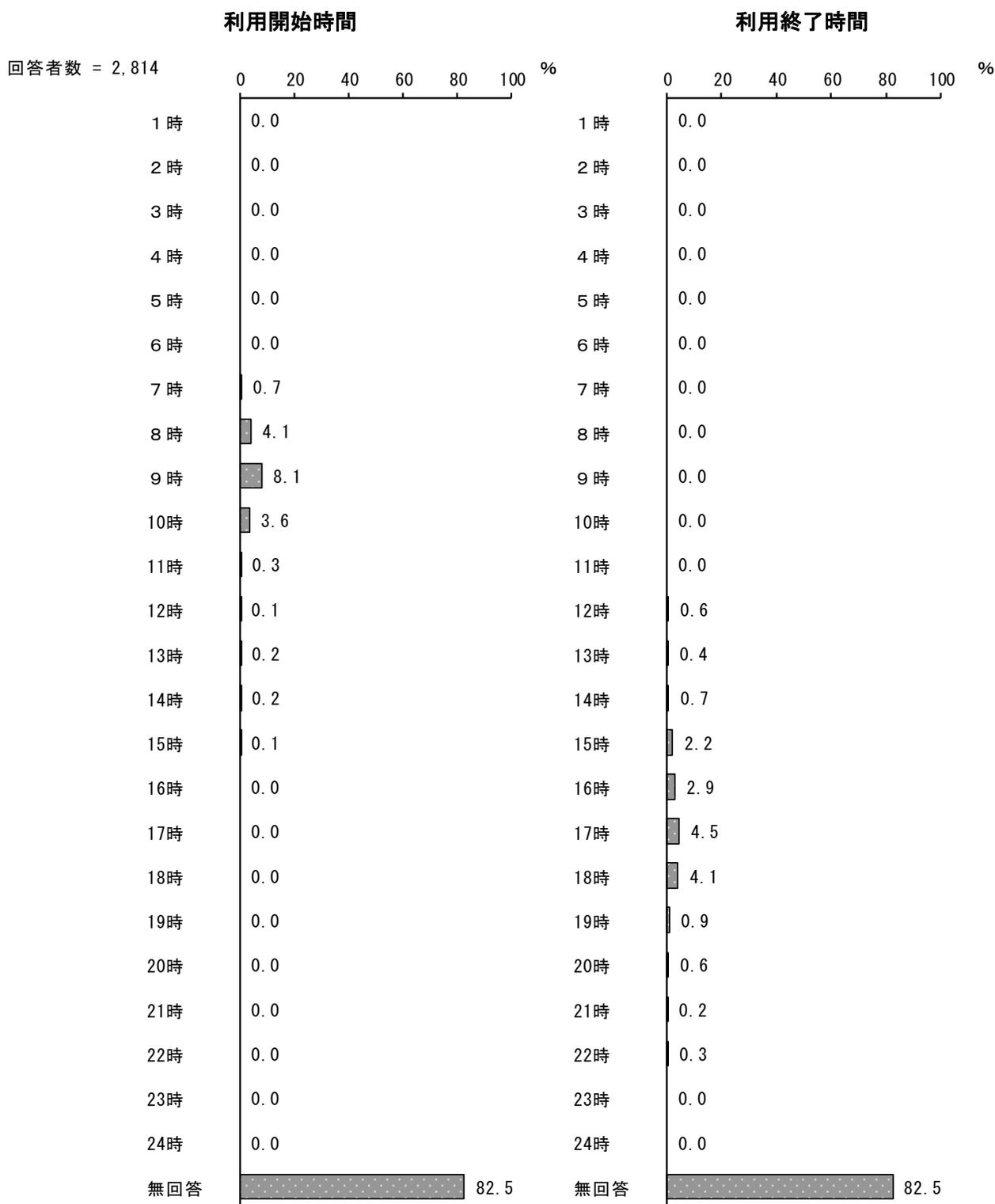
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

希望する利用開始時間・利用終了時間

利用開始時間では「9時」の割合が8.1%と最も高くなっている。

利用終了時間では「17時」の割合が4.5%と最も高くなっている。

図表 119 日曜祝日に一時保育を希望する利用開始時間・利用終了時間



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

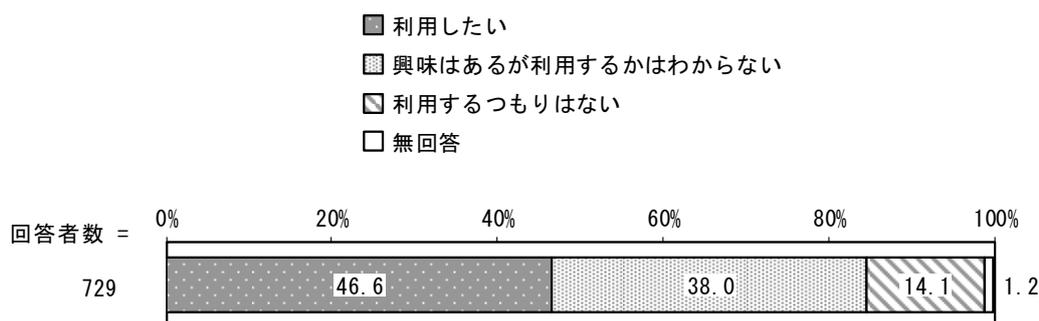
調査結果 就学前児童

1-5-1-19 保育所等を定期的に利用できる制度（国の事業の利用希望）

問 24 足立区では、保護者が働いていなくても保育所等を定期的に利用できる制度（国の事業『こども誰でも通園制度（仮称）』）の実施を検討しています。あなたはこのような取り組みを利用したいと思いますか。（○は1つだけ）。

「利用したい」の割合が46.6%と最も高く、次いで「興味はあるが利用するかはわからない」の割合が38.0%、「利用するつもりはない」の割合が14.1%となっている。

図表 120 保育所等を定期的に利用できる制度（国の事業の利用希望）



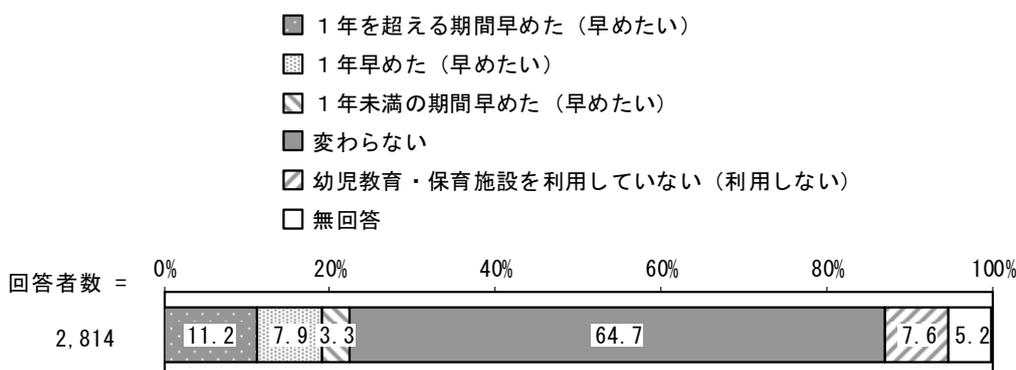
※回答対象は未就園児のいる方

1-5-1-20 無償化による教育・保育施設に通わせ始める時期への影響

問 25 幼児教育・保育の無償化等により、現在は0～2歳児（課税世帯・第1子）以外のお子さんの保育料が無償相当となっています。保育料がかかる場合と比べ、無償化により教育・保育施設に通わせ始める時期に影響はありますか（○は1つだけ）。

「変わらない」の割合が64.7%と最も高く、次いで「1年を超える期間早めた（早めたい）」の割合が11.2%となっている。

図表 121 無償化による教育・保育施設に通わせ始める時期への影響



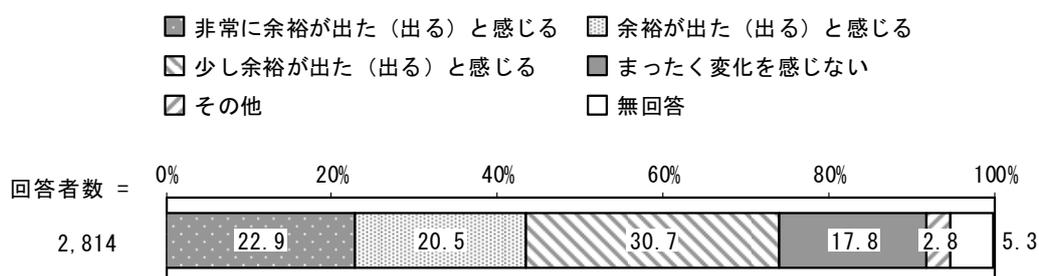
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-5-1-21 幼児教育・保育の無償化等による、家計への影響

問 26 以前は、0～2歳児（課税世帯・第2子）と3～5歳児（課税世帯）は保育料【認可保育所：月額3,350円～37,750円】がかかりました。保育料がかかる場合と比べ、幼児教育・保育の無償化等によって、家計に余裕が出た（出る）と感じますか（○は1つだけ）。

「少し余裕が出た（出る）と感じる」の割合が30.7%と最も高く、次いで「非常に余裕が出た（出る）と感じる」の割合が22.9%、「非常に余裕が出た（出る）と感じる」の割合が22.9%、「余裕が出た（出る）と感じる」の割合が20.5%となっている。

図表 122 幼児教育・保育の無償化等による、家計への影響



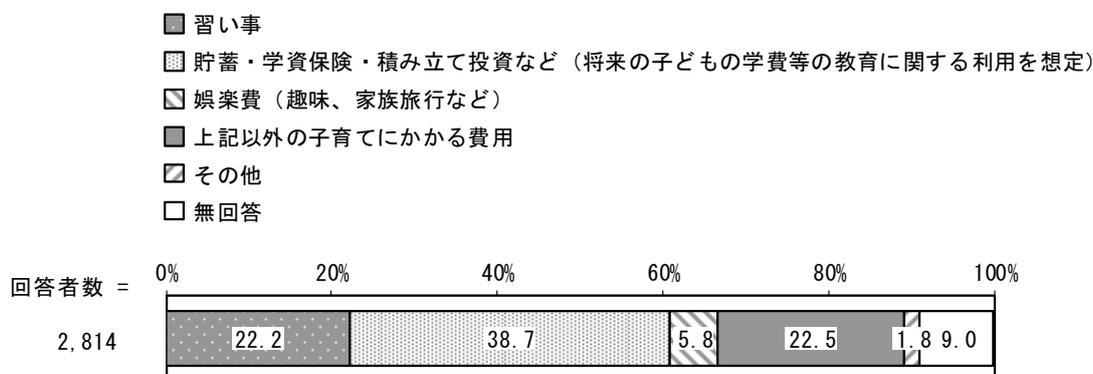
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-5-1-22 保育料として支払う必要がなくなったお金の主な用途

問 27 幼児教育・保育の無償化等によって、保育料として支払う必要がなくなったお金の主な用途をお聞かせください（○は1つだけ）。

「貯蓄・学資保険・積み立て投資など（将来の子どもの学費等の教育に関する利用を想定）」の割合が38.7%と最も高く、次いで「上記以外の子育てにかかる費用」の割合が22.5%、「習い事」の割合が22.2%となっている。

図表 123 保育料として支払う必要がなくなったお金の主な用途



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

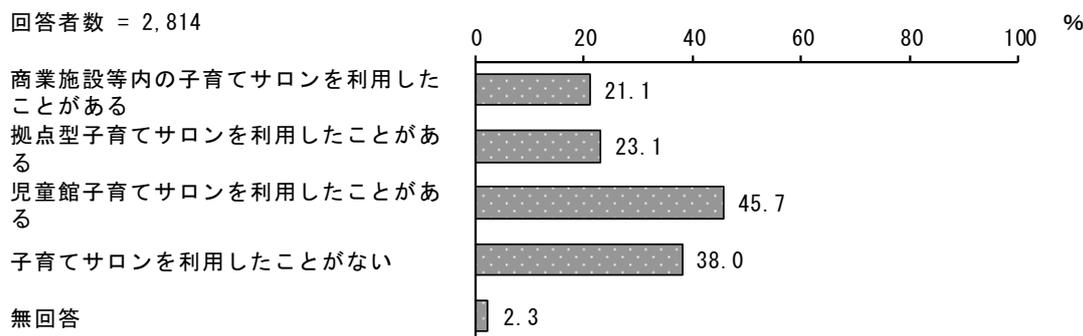
1-6 「地域の子育て支援事業の利用状況」について

1-6-1 子育てサロンの利用状況

問 28 子育てサロンを利用したことはありますか（あてはまるものすべてに○）。

「児童館子育てサロンを利用したことがある」の割合が 45.7%と最も高く、次いで「子育てサロンを利用したことがない」の割合が 38.0%、「拠点型子育てサロンを利用したことがある」の割合が 23.1%となっている。

図表 124 子育てサロンの利用状況



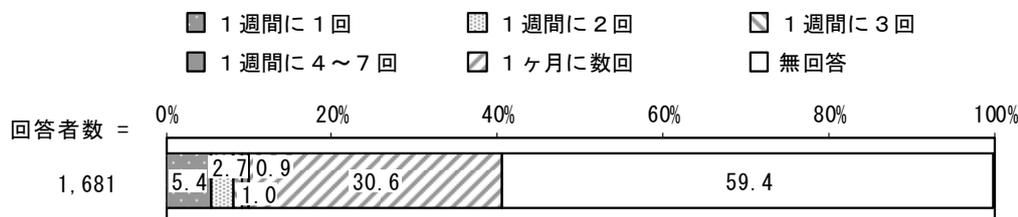
※複数回答のため、合計は100%に一致しない

1-6-2 子育てサロンの利用回数

問 28-1 おおよその利用回数（利用頻度）をお答えください。

「1ヶ月に数回」の割合が 30.6%と最も高くなっている。

図表 125 子育てサロンの利用回数

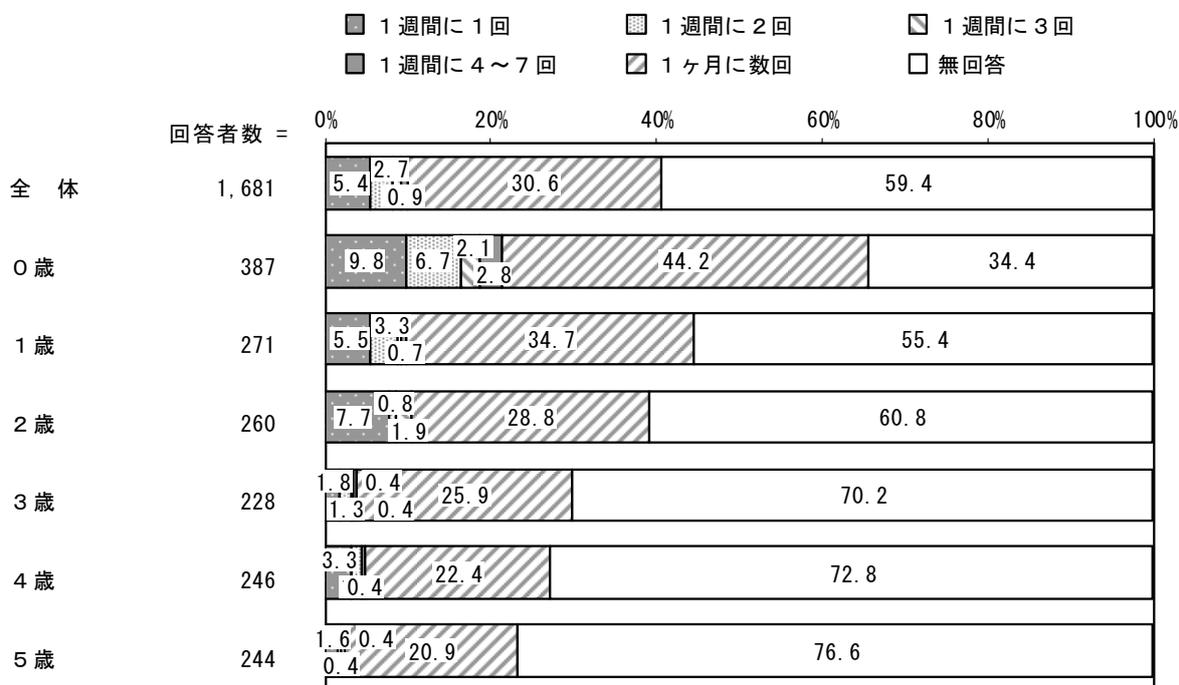


※回答対象は就学前児童対象調査の全員

※現在も定期的に利用している人

子どもの年齢別で見ると、全体と比べて、0歳で「1ヶ月に数回」の割合が高くなっている。

図表 126 子育てサロンの利用回数一年齢別



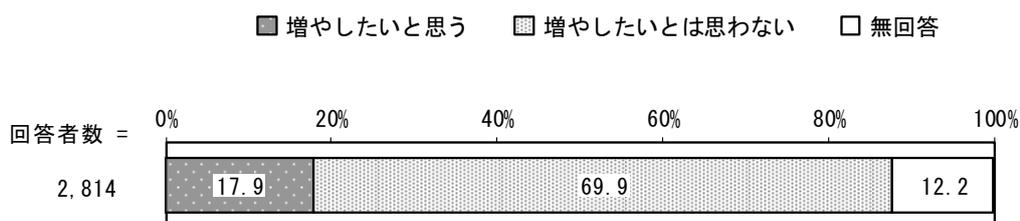
※回答対象は就学前児童対象調査の全員
 ※現在も定期的に利用している人

1-6-3 希望する利用頻度

問 28-2 今後、利用回数を増やしたいと思いますか。1についてはご記入ください。2については○をつけてください。

「増やしたいと思う」の割合が17.9%、「増やしたいとは思わない」の割合が69.9%となっている。

図表 127 希望する利用頻度



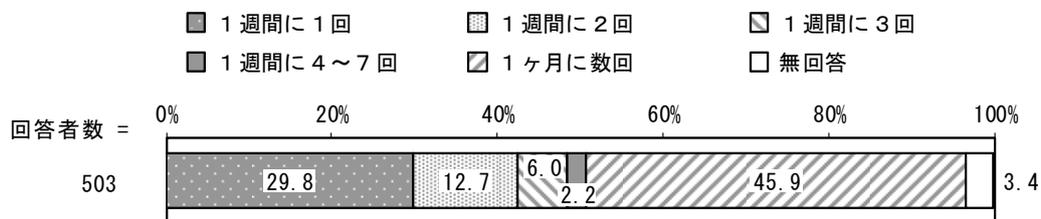
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

調査結果 就学前児童

(1) 希望するおおよその利用回数

「1ヶ月に数回」の割合が45.9%と最も高く、次いで「1週間に1回」の割合が29.8%、「1週間に2回」の割合が12.7%となっている。

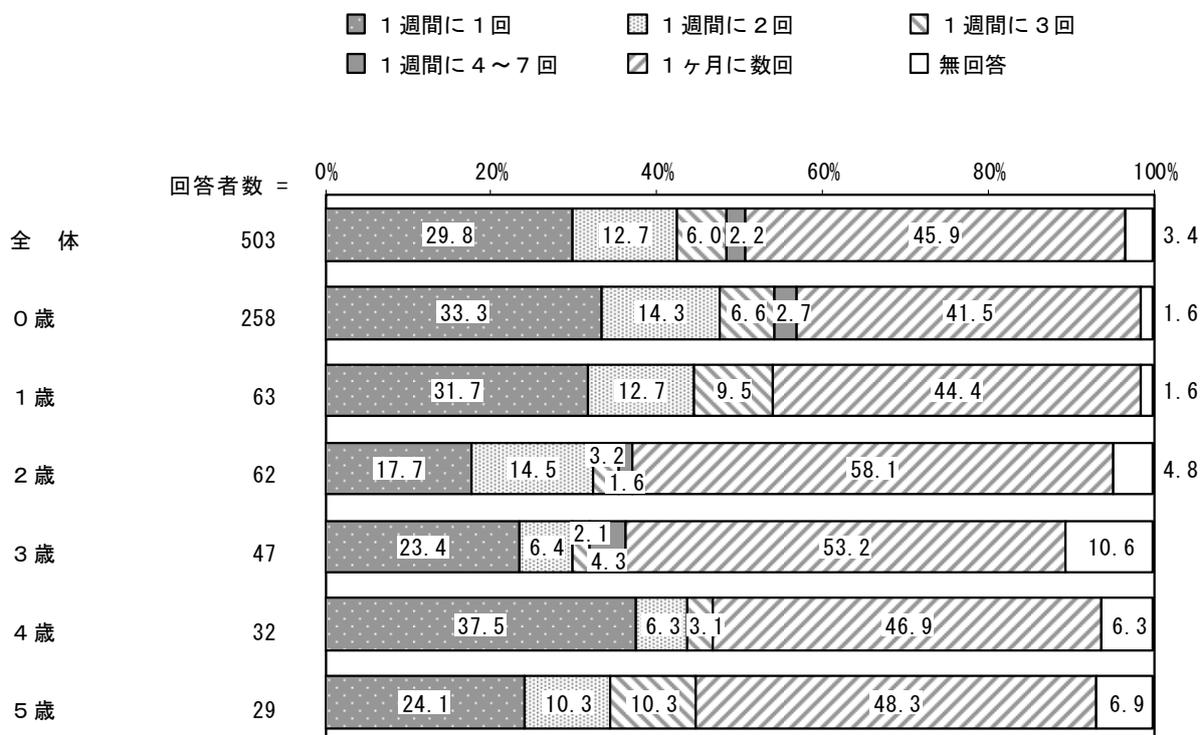
図表 128 希望する利用頻度（おおよその利用回数）



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

子どもの年齢別で見ると、全体と比べて、2歳、3歳で「1ヶ月に数回」の割合が、4歳で「1週間に1回」の割合が高くなっている。

図表 129 希望する利用頻度一年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

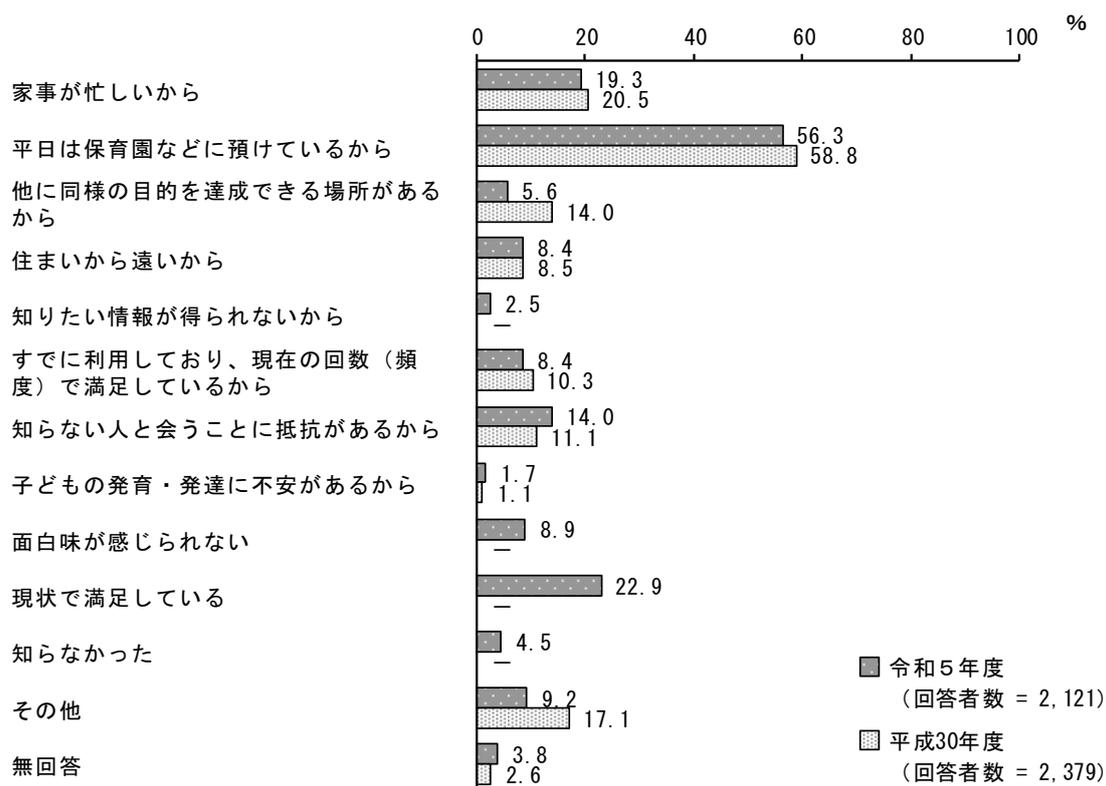
1-6-4 新たな利用・利用回数を増やしたいと思わない理由

問 28-3 あてはまる理由すべてに○をつけてください。

「平日は保育園などに預けているから」の割合が 56.3%と最も高く、次いで「現状で満足している」の割合が 22.9%、「家事が忙しいから」の割合が 19.3%となっている。

平成30年度と比較すると、「他に同様の目的を達成できる場所があるから」の割合が減少している。

図表 130 新たな利用・利用回数を増やしたいと思わない理由



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

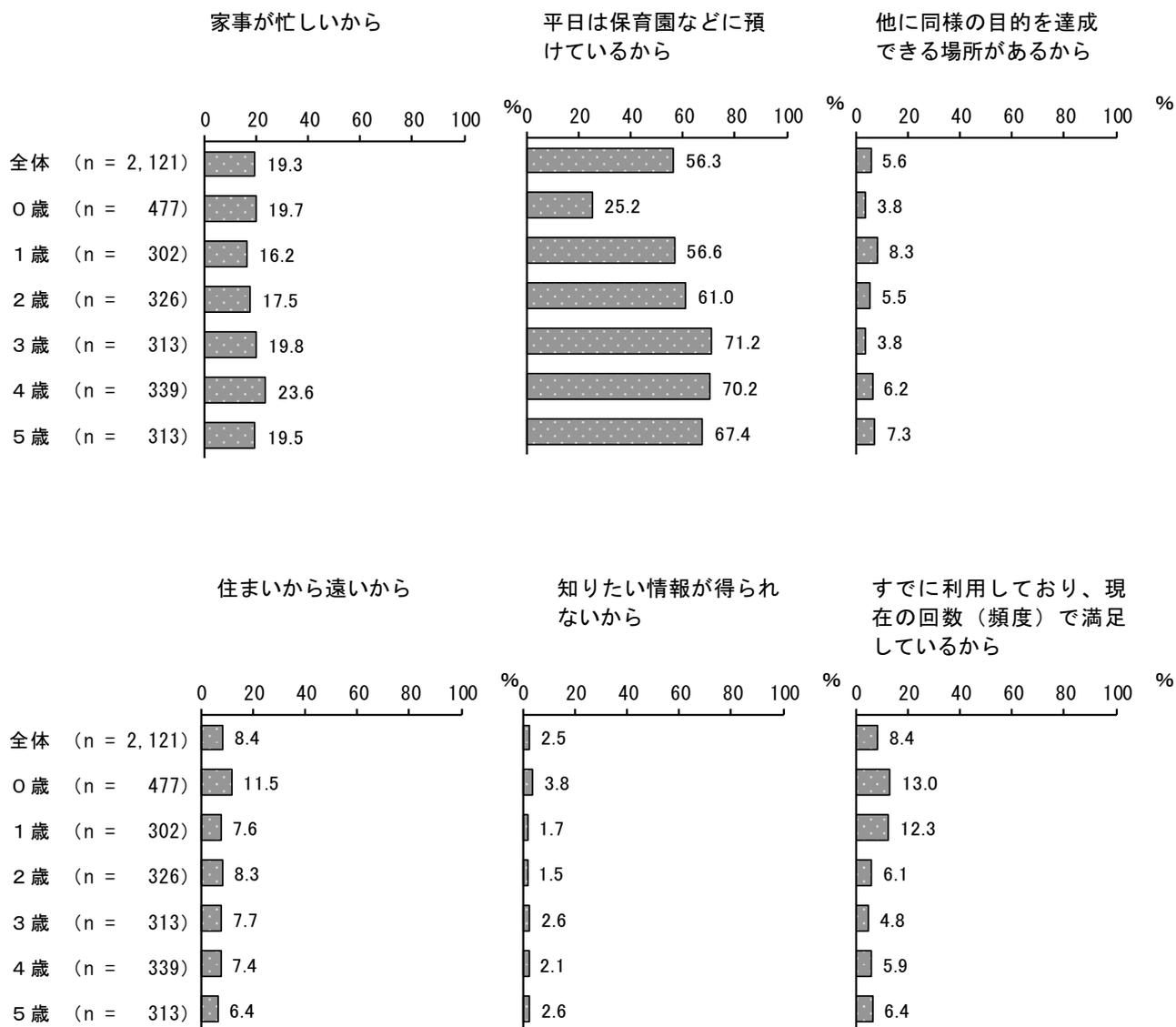
※回答対象は、問28で子育てサロンについて「利用していない」方、または「増やしたいとは思わない」と答えた人

※平成30年度調査で選択肢になかった項目は「-」としている。

調査結果 就学前児童

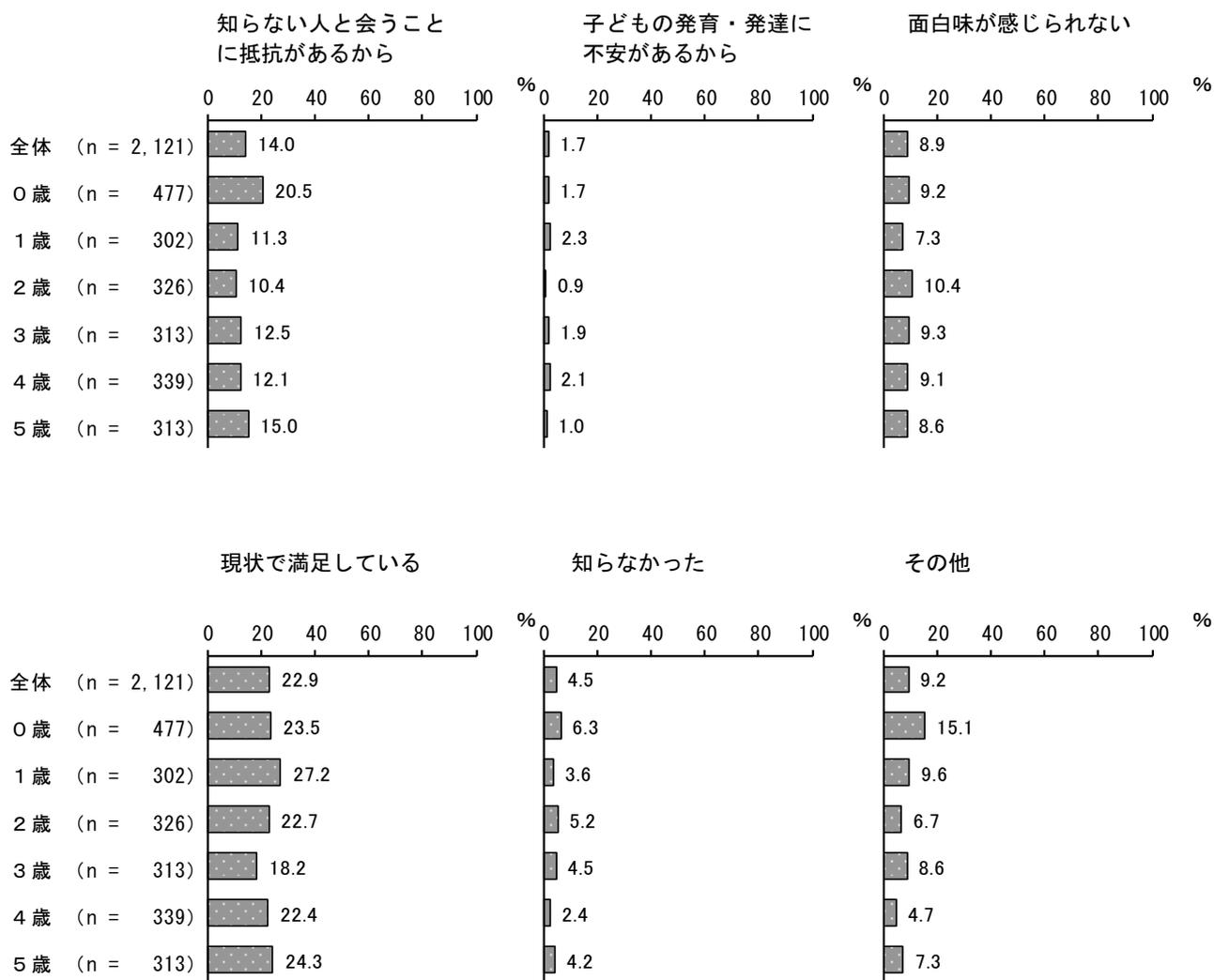
子どもの年齢別にみると、全体と比べて、3歳、4歳、5歳で「平日は保育園などに預けているから」の割合が高くなっている。

図表 131 新たな利用・利用回数を増やしたいと思わない理由一年齢別



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は、問28で子育てサロンについて「利用していない」方、または「増やしたいとは思わない」と答えた人



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は、問28で子育てサロンについて「利用していない」方、または「増やしたいとは思わない」と答えた人

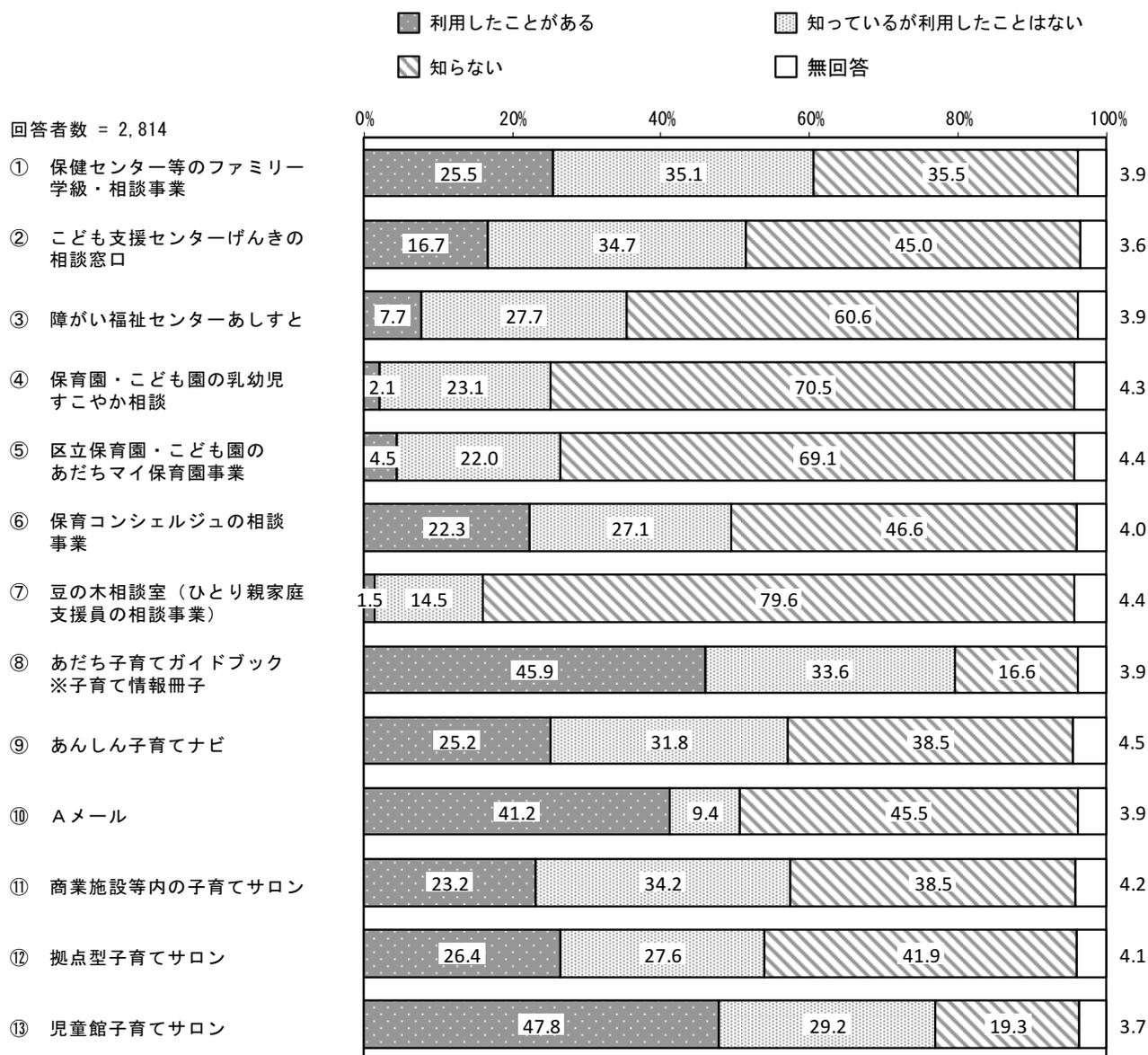
1-6-5 足立区で実施している相談・情報提供事業について

問 29 足立区で実施している下記の相談・情報提供事業について、あなたの（１）利用状況、（２）今後の利用意向について、あてはまるものをお答えください（○はいずれも、それぞれ１つずつ）。
 ※事業によっては、お住まいの地域で実施されていないものもあります。

（１）利用状況

相談・情報提供事業の利用状況について、事業別でみると、『利用したことがある』では「⑬児童館子育てサロン」が 47.8%と最も多く、次いで「⑧あだち子育てガイドブック※子育て情報冊子」が 45.9%、「⑩Aメール」が 41.2%となっている。『知っているが利用したことはない』では「①保健センター等のファミリー学級・相談事業」が 35.1%と最も多く、次いで「②こども支援センターげんきの相談窓口」が 34.7%、「⑪商業施設等内の子育てサロン」が 34.2%となっている。

図表 132 足立区で実施している相談・情報提供事業（利用状況）

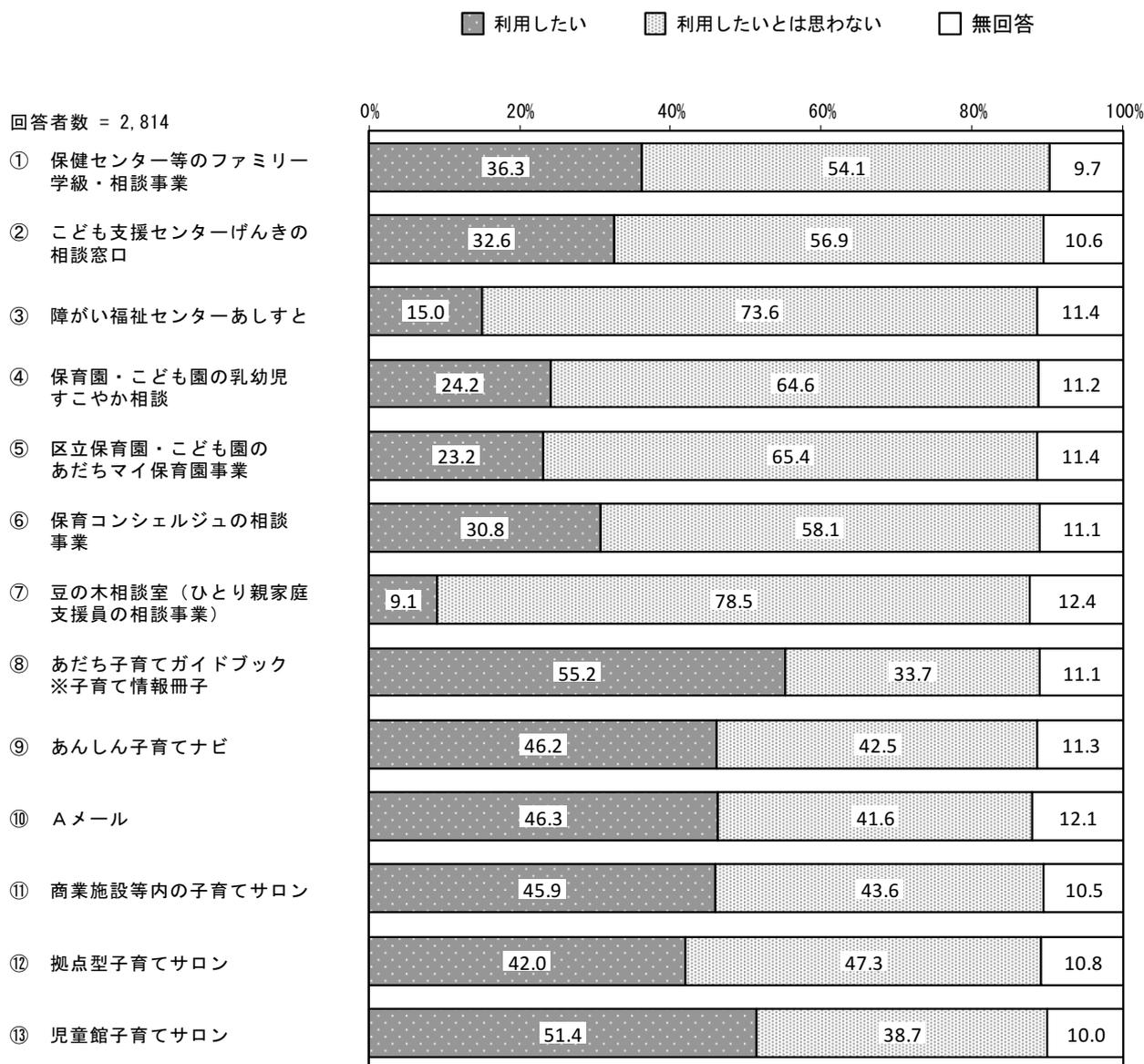


※回答対象は就学前児童対象調査の全員

(2) 今後の利用意向

相談・情報提供事業の今後の利用意向について、事業別でみると、『利用したい』では「⑧あだち子育てガイドブック※子育て情報冊子」が55.2%と最も多く、次いで、「⑬児童館子育てサロン」が51.4%、「⑩Aメール」が46.3%となっている。

図表 133 足立区で実施している相談・情報提供事業（今後の利用意向）



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-7 「土曜日や休日の教育・保育事業の定期的な利用希望」について

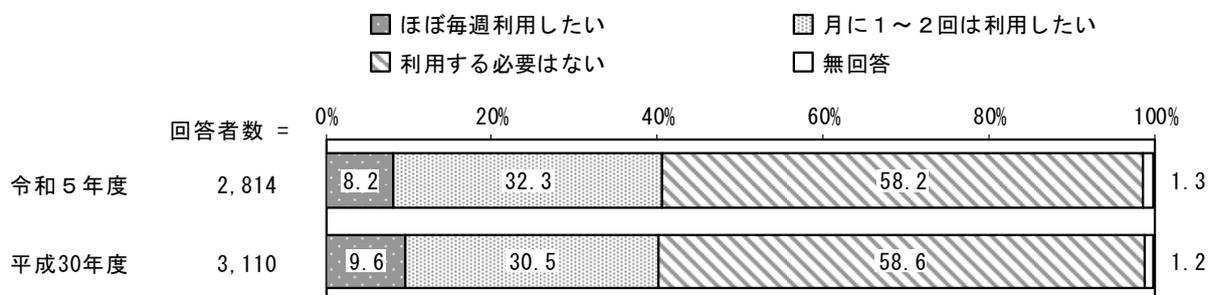
1-7-1 土曜日の教育・保育事業の利用意向

問 30 お子さんについて、土曜日に、定期的に教育・保育事業を利用したいと思いますか（一時的な利用は除きます）（○は1つだけ）。

「利用する必要はない」の割合が 58.2%と最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」の割合が 32.3%となっている。

平成30年度と比較すると、大きな差はみられない。

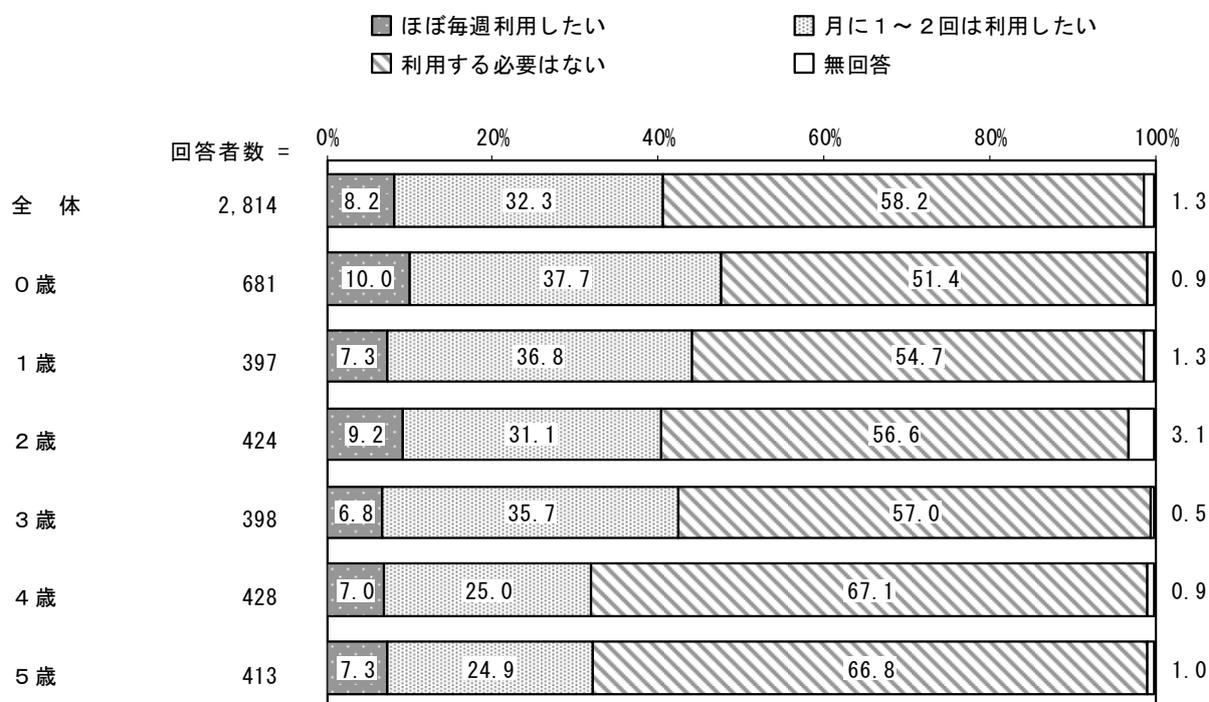
図表 134 土曜日の教育・保育事業の利用意向



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

子どもの年齢別で見ると、全体と比べて、4歳、5歳で「利用する必要はない」の割合が、0歳で「月に1～2回は利用したい」の割合が高くなっている。

図表 135 土曜日の教育・保育事業の利用意向—年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

調査結果 就学前児童

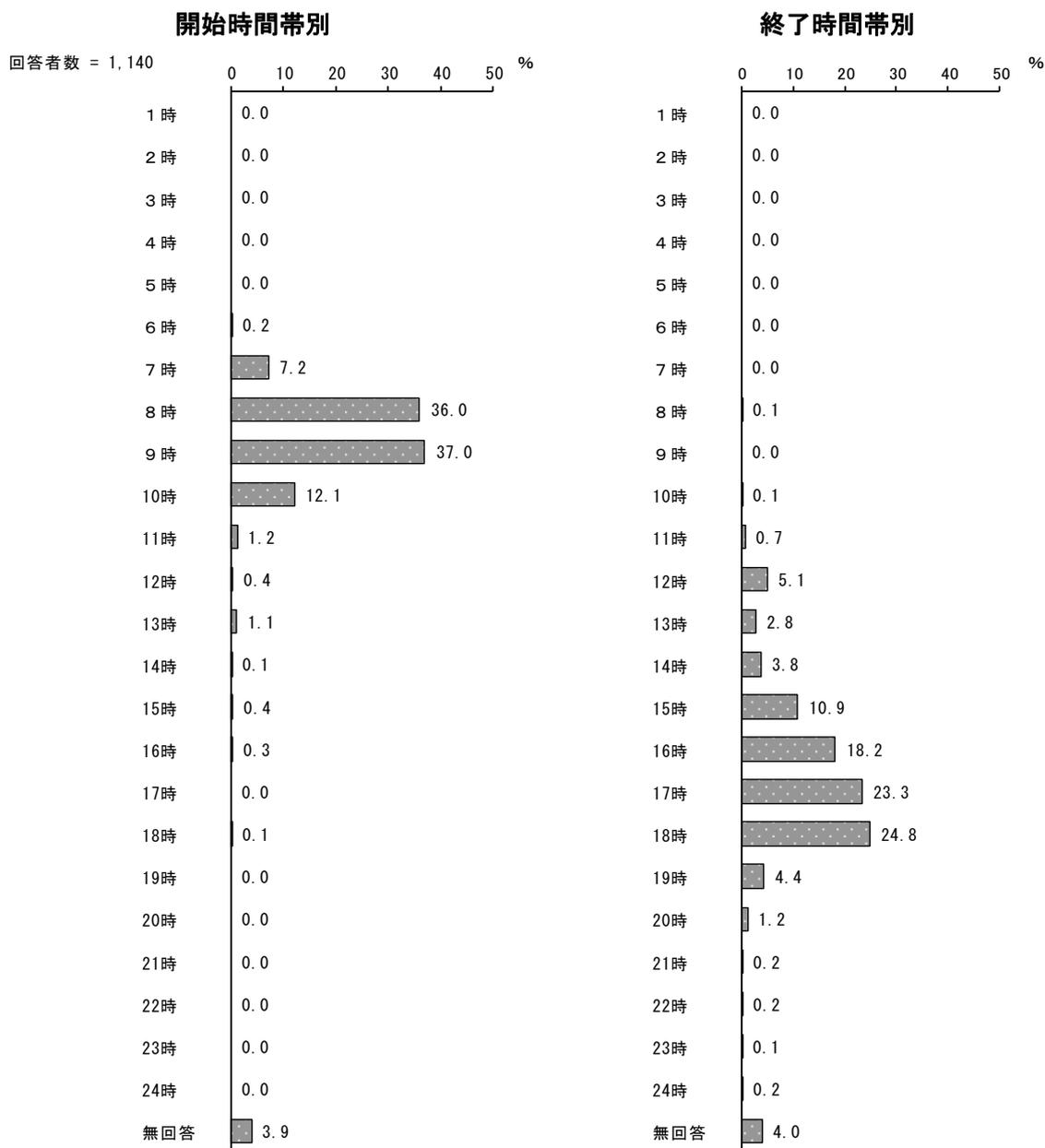
1-7-2 土曜日の教育・保育事業を希望する時間帯

問 30-1 利用したい時間帯をお答えください（カッコ内に数字で）。

開始時間帯別で見ると、「9時」の割合が37.0%と最も高く、次いで「8時」の割合が36.0%、「10時」の割合が12.1%となっている。

終了時間帯別で見ると、「18時」の割合が24.8%と最も高く、次いで「17時」の割合が23.3%、「16時」の割合が18.2%となっている。

図表 136 土曜日の教育・保育事業を希望する時間帯



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

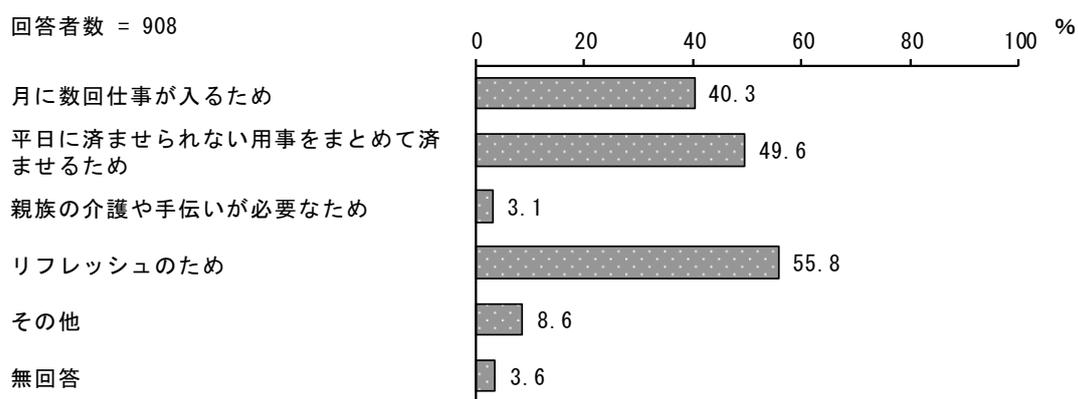
※回答対象は、問30で「1 ほぼ毎週利用したい」または「2 月に1~2回は利用したい」と答えた人

1-7-3 土曜日の教育・保育事業を「月に1～2日」利用したい理由

問 30-2 毎週ではなく、「月に1～2回」利用したい理由は何ですか
(あてはまるものすべてに○)。

「リフレッシュのため」の割合が 55.8%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」の割合が 49.6%、「月に数回仕事が入るため」の割合が 40.3%となっている。

図表 137 土曜日の教育・保育事業を「月に1～2日」利用したい理由



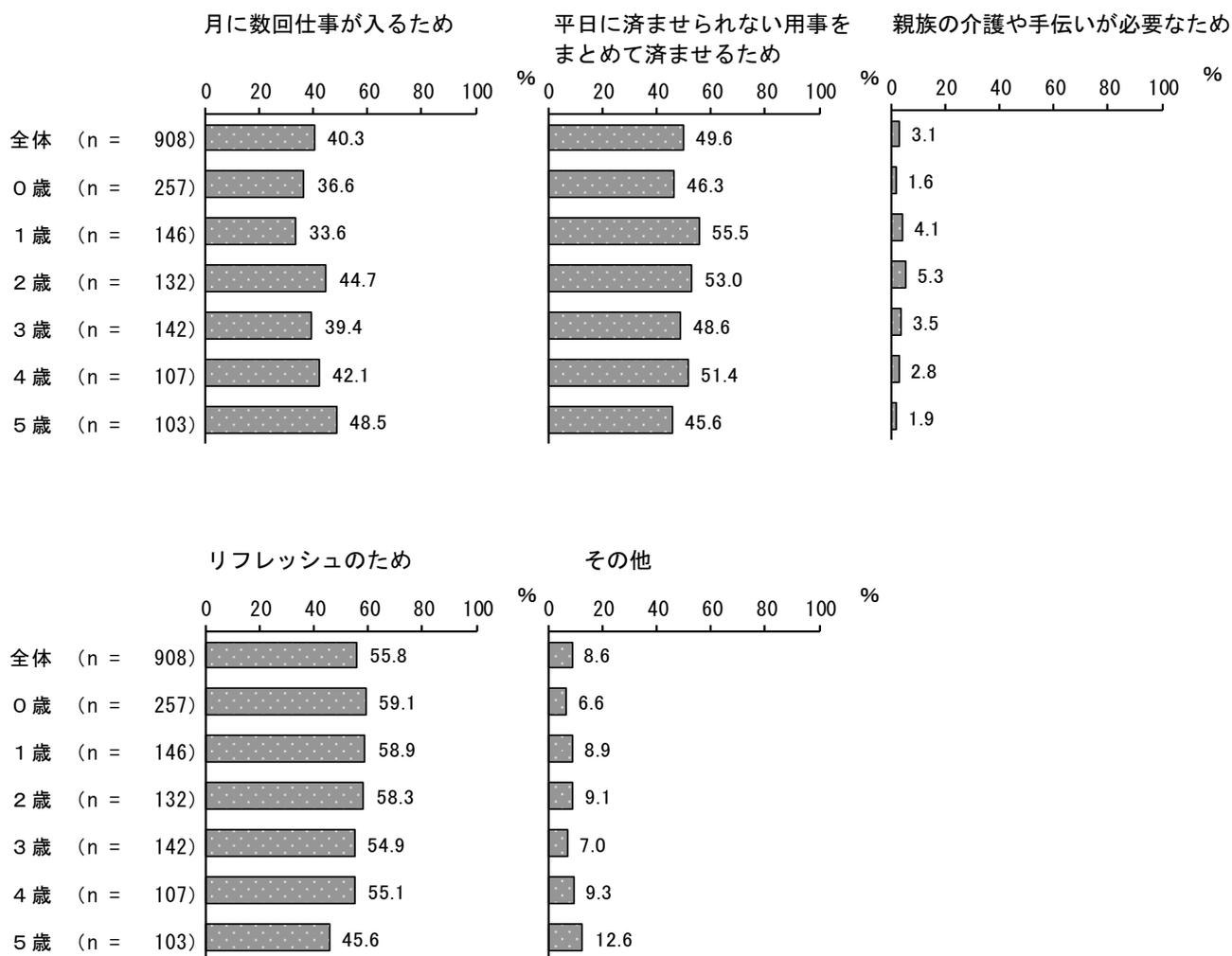
※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は、問 30 で「2 月に1～2回は利用したい」と答えた人

調査結果 就学前児童

子どもの年齢別にみると、全体と比べて、5歳で「月に数回仕事が入るため」の割合が、1歳で「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」の割合が高くなっている。

図表 138 土曜日の教育・保育事業を「月に1～2日」利用したい理由一年齢別



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

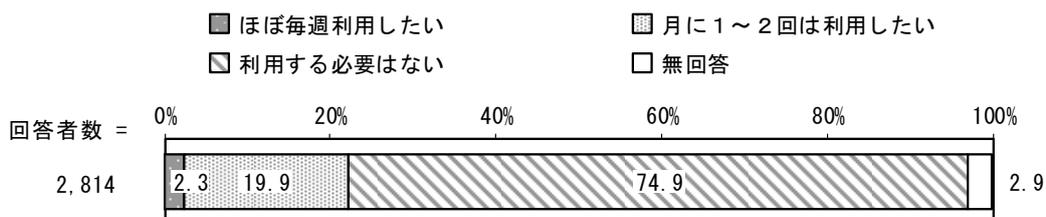
※回答対象は、問30で「2月に1～2回は利用したい」と答えた人

1-7-4 日曜日・祝日の教育・保育事業の利用意向

問 31 お子さんについて、日曜日・祝日に、定期的に教育・保育事業を利用したいと思いますか（一時的な利用は除きます）（○は1つだけ）。

「利用する必要はない」の割合が 74.9%と最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」の割合が 19.9%となっている。

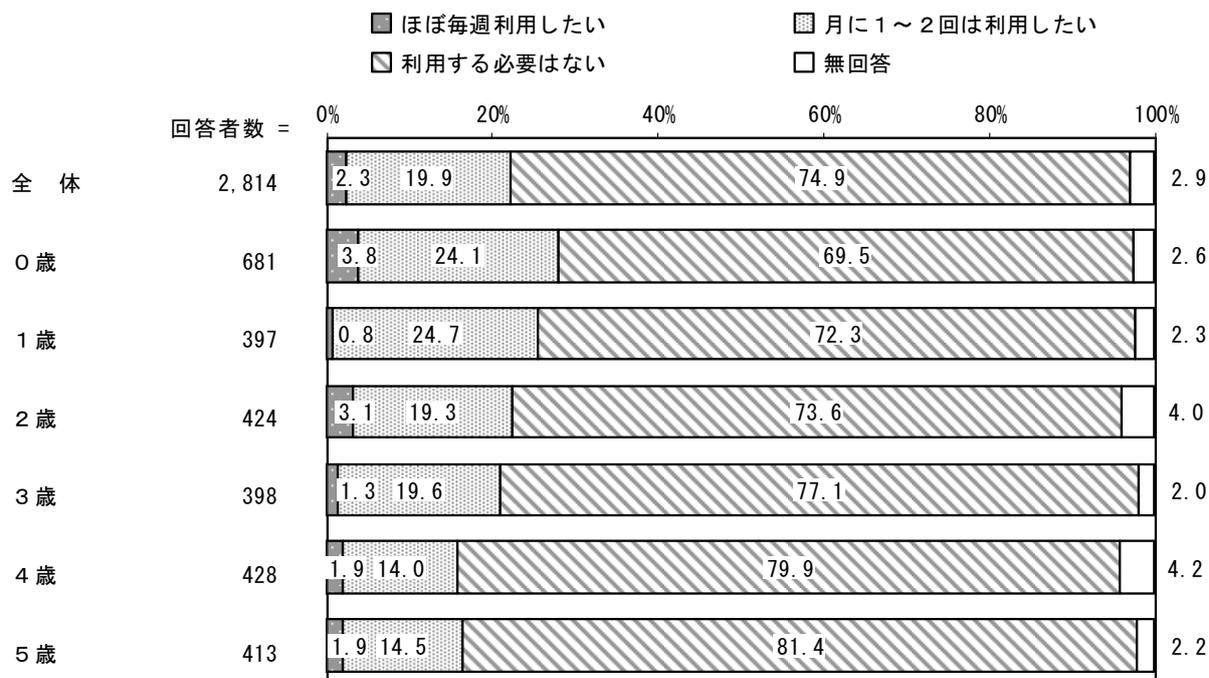
図表 139 日曜日・祝日の教育・保育事業の利用意向



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

子どもの年齢別で見ると、全体と比べて、4歳、5歳で「利用する必要はない」の割合が高くなっている。

図表 140 日曜日・祝日の教育・保育事業の利用意向一年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

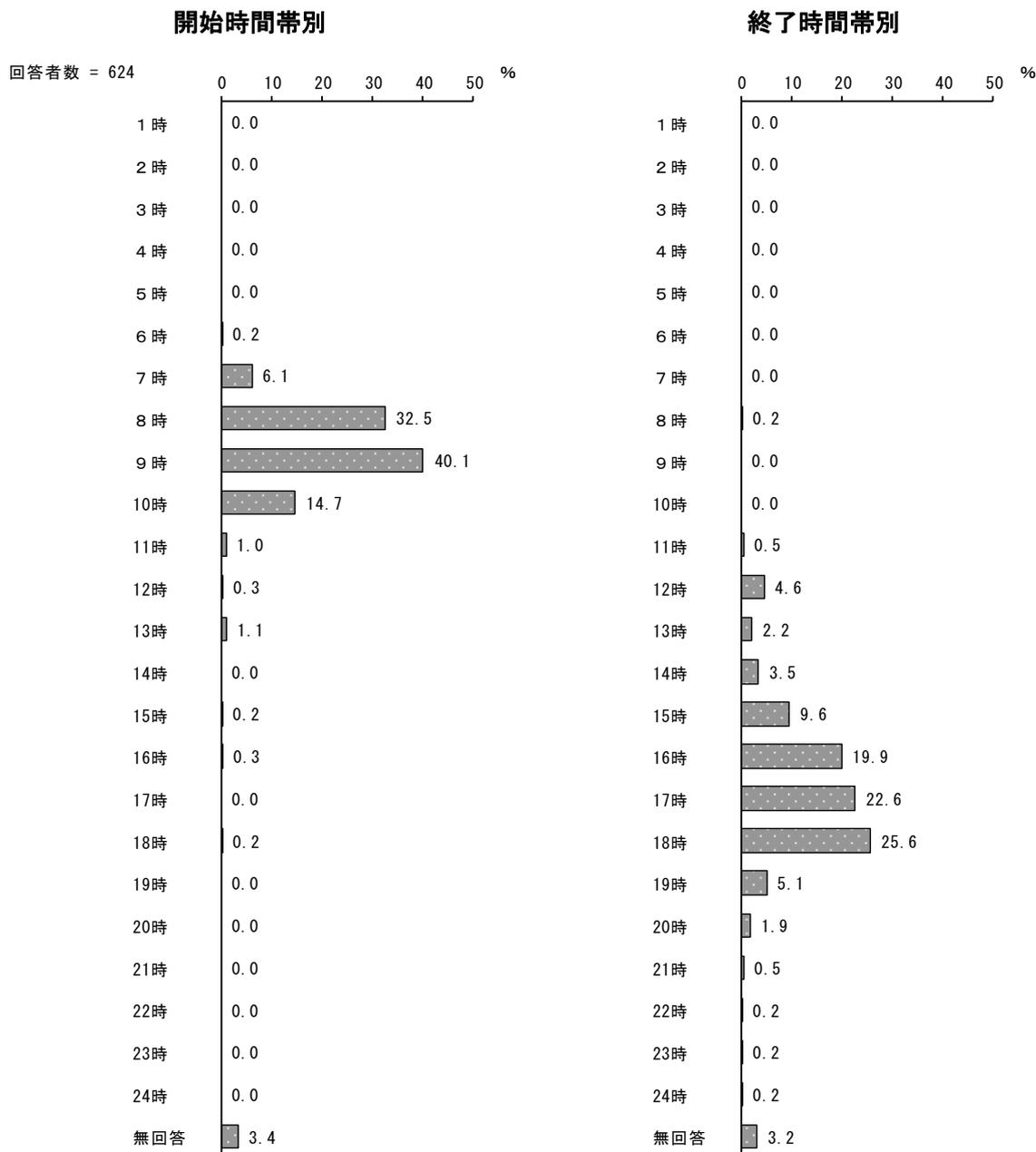
1-7-5 日曜日・祝日の教育・保育事業を希望する時間帯

問 31-1 利用したい時間帯をお答えください（カッコ内に数字で）。

開始時間帯別で見ると、「9時」の割合が40.1%と最も高く、次いで「8時」の割合が32.5%、「10時」の割合が14.7%となっている。

終了時間帯別で見ると、「18時」の割合が25.6%と最も高く、次いで「17時」の割合が22.6%、「16時」の割合が19.9%となっている。

図表 141 日曜日・祝日の教育・保育事業を希望する時間帯



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

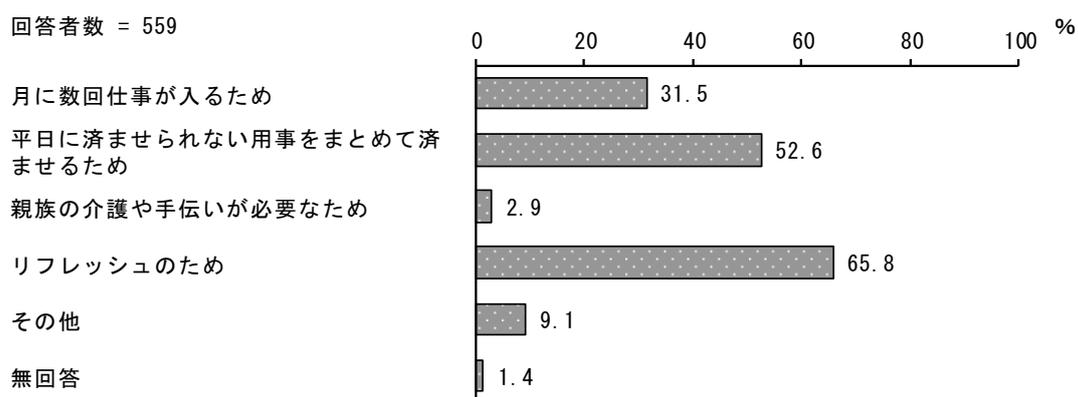
※回答対象は、問31で「1 ほぼ毎週利用したい」または「2 月に1~2回は利用したい」と答えた人

1-7-6 日曜日・祝日の教育・保育事業を「月に1～2日」利用したい理由

問 31-2 毎週ではなく、「月に1～2回」利用したい理由は何ですか
(あてはまるものすべてに○)。

「リフレッシュのため」の割合が65.8%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」の割合が52.6%、「月に数回仕事が入るため」の割合が31.5%となっている。

図表 142 日曜日・祝日の教育・保育事業を「月に1～2日」利用したい理由



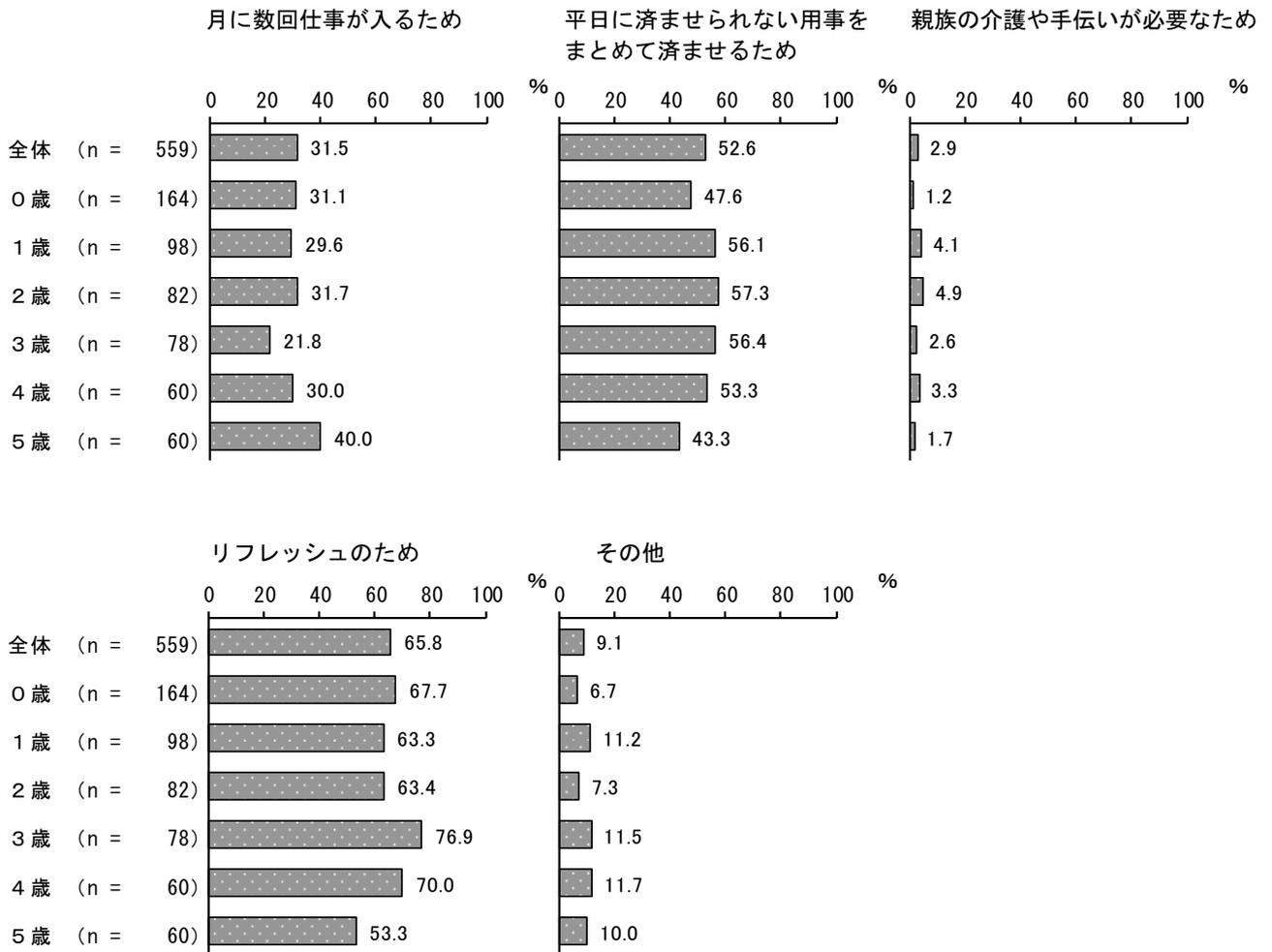
※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は、問31で日曜日・祝日に「2 月に1～2回は利用したい」と答えた人

調査結果 就学前児童

子どもの年齢別にみると、全体と比べて、3歳で「リフレッシュのため」の割合が、5歳で「月に数回仕事が入るため」の割合が高くなっている。

図表 143 日曜日・祝日の教育・保育事業を「月に1～2日」利用したい理由一年齢別



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

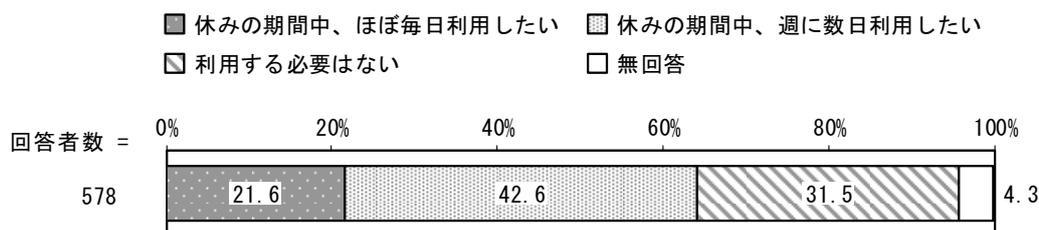
※回答対象は、問31で日曜日・祝日に「2月に1～2回は利用したい」と答えた人

1-7-7 夏休み・冬休みなど長期休業中の定期的な教育・保育事業の利用希望

問 32 お子さんについて、夏休み・冬休みなど長期休業中に、どのくらい教育・保育事業を利用したいと思いますか（○は1つだけ）。

「休みの期間中、週に数日利用したい」の割合が 42.6%と最も高く、次いで「利用する必要はない」の割合が 31.5%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」の割合が 21.6%となっている。

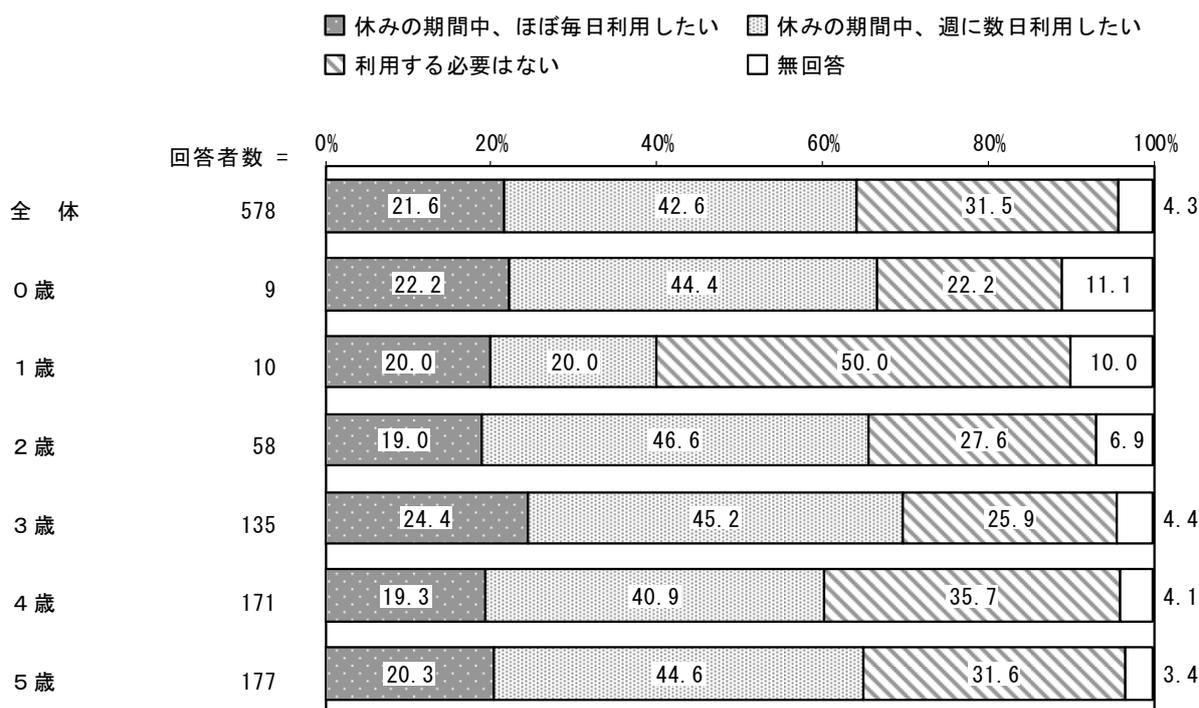
図表 144 夏休み・冬休みなど長期休業中の定期的な教育・保育事業の利用希望



※回答対象は、問 20-1 で「私立幼稚園を利用している」と答えた人

子どもの年齢別で見ると、全体と比べて、1歳で「利用する必要はない」の割合が高くなっている。

図表 145 夏休み・冬休みなど長期休業中の定期的な教育・保育事業の利用希望一年齢別



※回答対象は、問 20-1 で「私立幼稚園を利用している」と答えた人

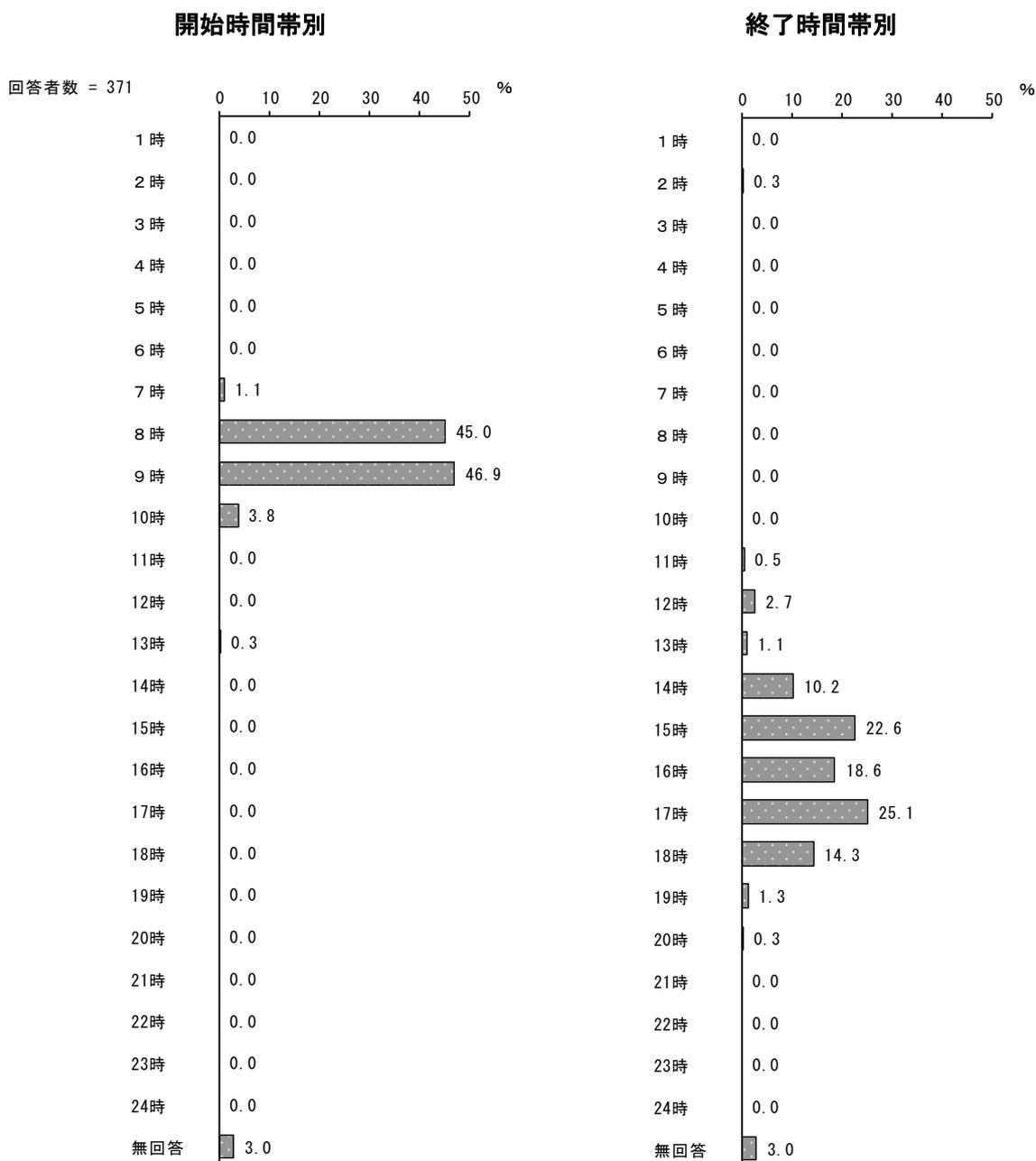
1-7-8 長期休業中の教育・保育事業を希望する時間帯

問 32-1 利用したい時間帯をお答えください（カッコ内に数字で）。

開始時間帯別で見ると、「9時」の割合が46.9%と最も高く、次いで「8時」の割合が45.0%となっている。

終了時間帯別で見ると、「17時」の割合が25.1%と最も高く、次いで「15時」の割合が22.6%、「16時」の割合が18.6%となっている。

図表 146 長期休業中の教育・保育事業を希望する時間帯



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※現在、平日の定期的な教育・保育事業として、「私立幼稚園」を利用している人

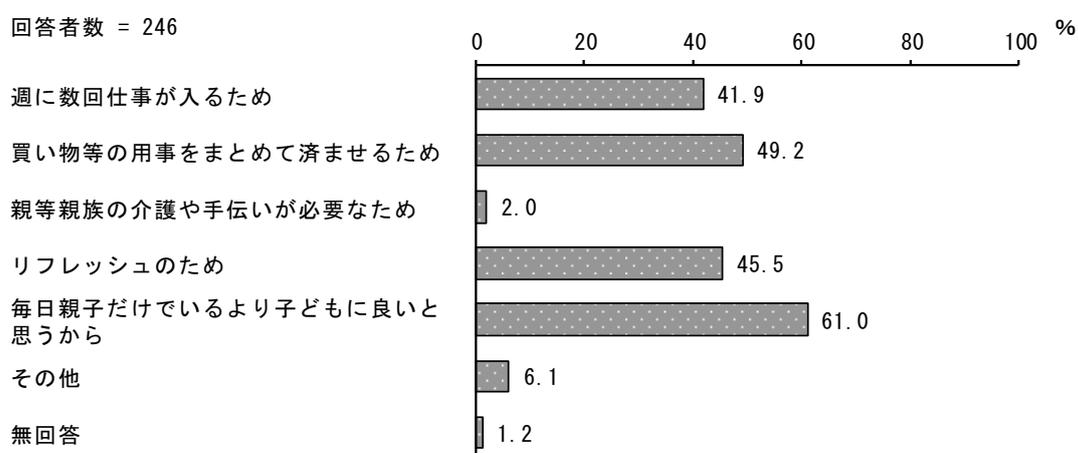
※回答対象は、問32で「1 休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」または「2 休みの期間中、週に数日利用したい」と答えた人

1-7-9 長期休業中の教育・保育事業を「週に数回」利用したい理由

問 32-2 毎日ではなく、「週に数日」利用したい理由は何ですか
(あてはまるものすべてに○)。

「毎日親子だけでいるより子どもに良いと思うから」の割合が 61.0%と最も高く、次いで「買い物等の用事をまとめて済ませるため」の割合が 49.2%、「リフレッシュのため」の割合が 45.5%となっている。

図表 147 長期休業中の教育・保育事業を「週に数回」利用したい理由



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

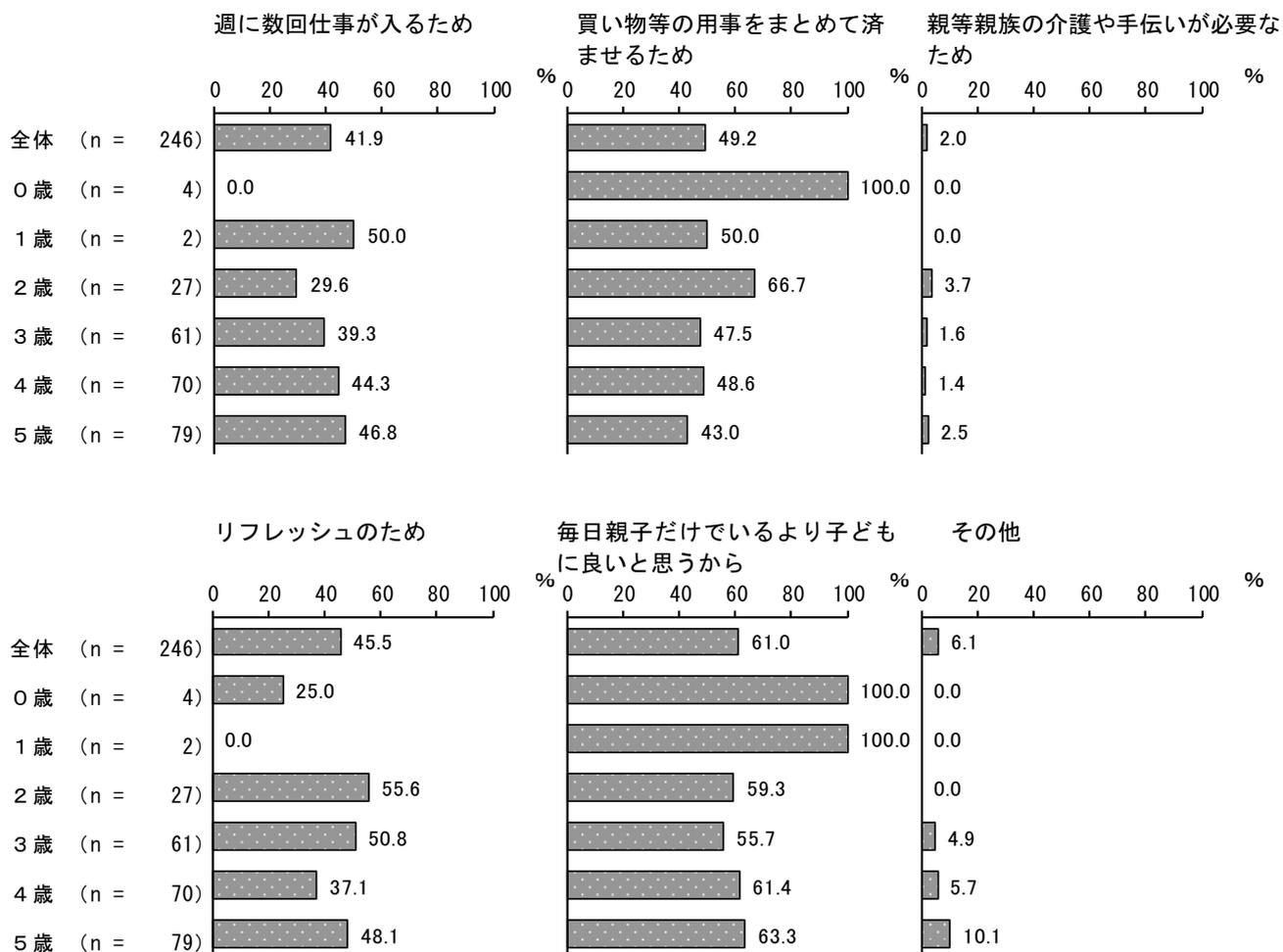
※現在、平日の定期的な教育・保育事業として、「私立幼稚園」を利用している人

※回答対象は、問 32 で「2 休みの期間中、週に数日利用したい」と答えた人

調査結果 就学前児童

子どもの年齢別にみると、全体と比べて、2歳で「買い物等の用事をまとめて済ませるため」「リフレッシュのため」の割合が、3歳で「リフレッシュのため」の割合が高くなっている。

図表 148 長期休業中の教育・保育事業を「週に数回」利用したい理由一年齢別



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※現在、平日の定期的な教育・保育事業として、「私立幼稚園」を利用している人

※回答対象は、問32で「2 休みの期間中、週に数回利用したい」と答えた人

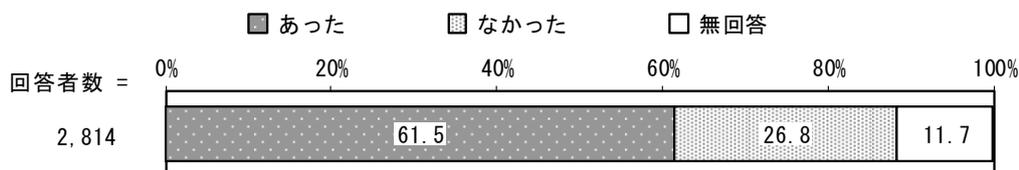
1-8 「病気の際の対応」について

1-8-1 病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった経験の有無

問 33 この1年間に、お子さんが病気やケガで普段利用している教育・保育事業が利用できなかったことはありますか（○は1つだけ）。

「あった」の割合が61.5%、「なかった」の割合が26.8%となっている。

図表 149 病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった経験の有無



※回答対象は、問20で「1 平日の定期的な教育・保育事業を利用している」と答えた人

1-8-2 病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった際の対処方法・日数

問 33-1 その際、この1年間に行った対処方法は次のどれですか（あてはまる番号すべてに○）。

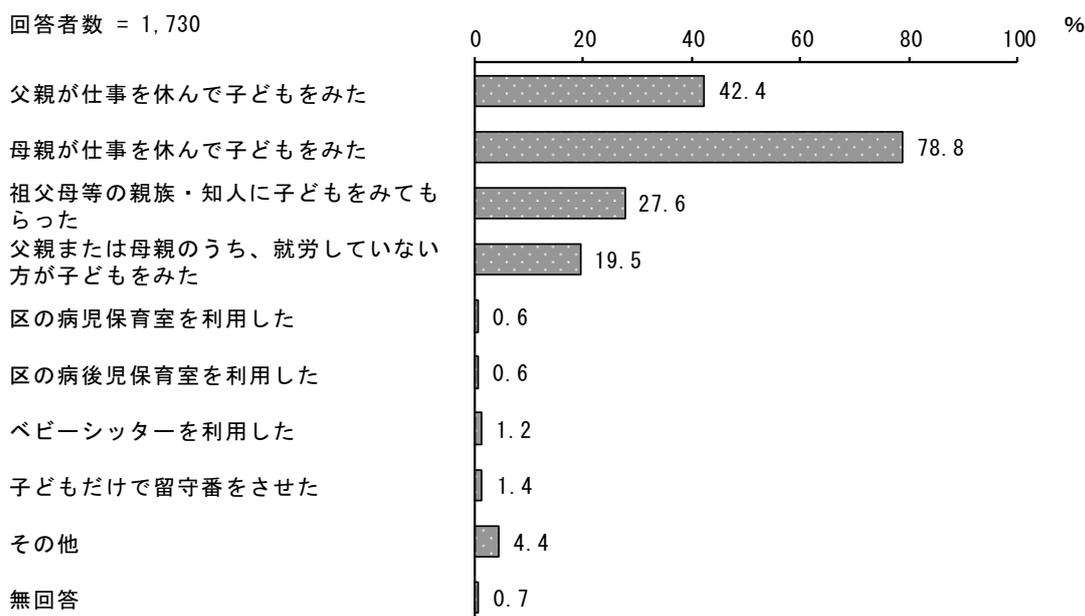
また、それぞれのおおよその日数（年間）をお答えください（それぞれ○は1つだけ）。

※日数については、半日程度の場合も1日とカウントしてください。

(1) 対処方法

「母親が仕事を休んで子どもをみた」の割合が78.8%と最も高く、次いで「父親が仕事を休んで子どもをみた」の割合が42.4%、「祖父母等の親族・知人に子どもをみてもらった」の割合が27.6%となっている。

図表 150 病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった際の対処方法



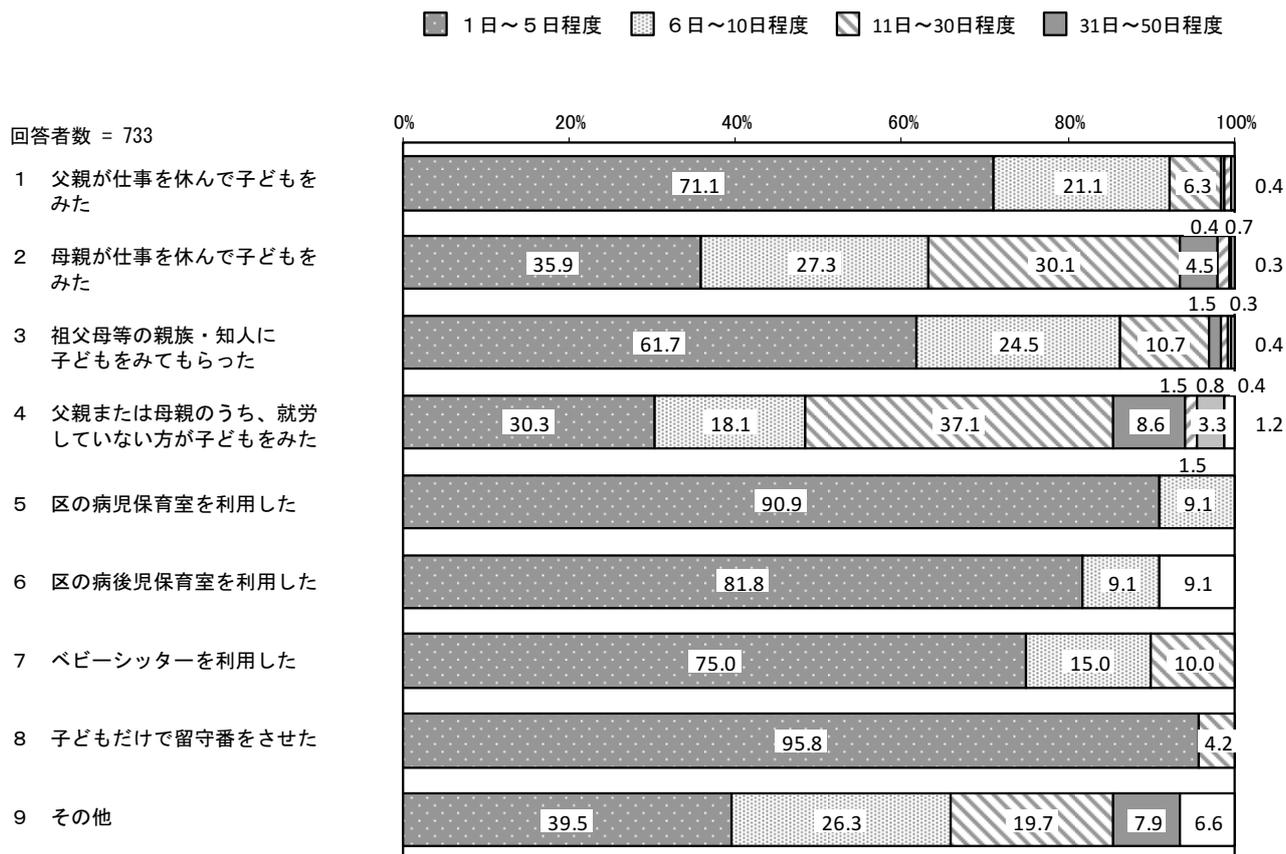
※複数回答のため、合計は100%に一致しない

調査結果 就学前児童

(2) 対処日数

病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった際の対処日数について、対処方法別で見ると、『1日～5日程度』では「8 子どもだけで留守番をさせた」が95.8%と最も多く、次いで、「5 区の病児保育室を利用した」が90.9%、「6 区の病後児保育室を利用した」が81.8%となっている。

図表 151 病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった際の対処日数



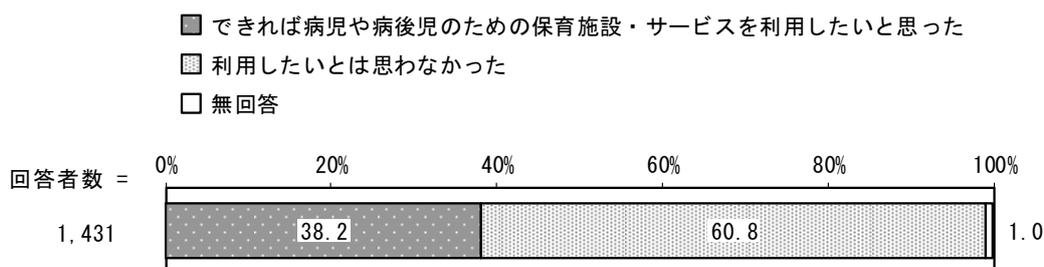
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-8-3 病児や病後児のための保育施設やサービスの利用意向

問 33-2 父親または母親が休んだ際、「できれば病児や病後児のための保育施設・保育サービスを利用したい」と思われましたか（○は1つだけ）。

「できれば病児や病後児のための保育施設・サービスを利用したいと思った」の割合が38.2%、「利用したいとは思わなかった」の割合が60.8%となっている。

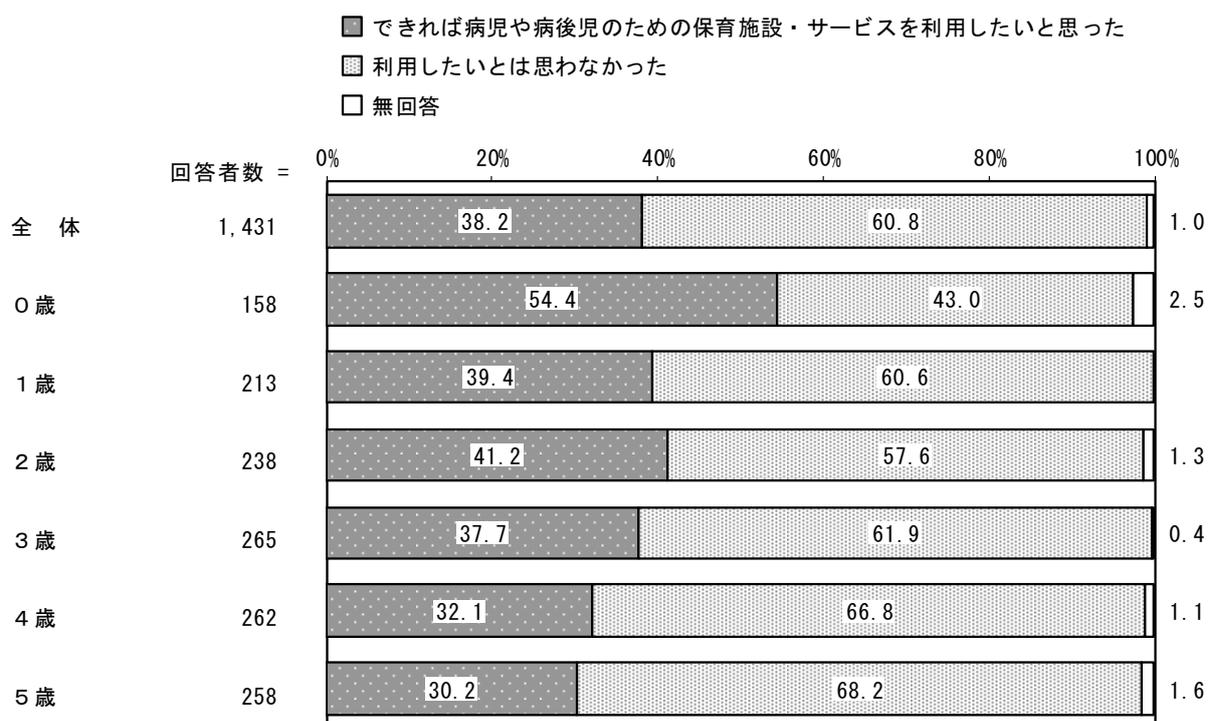
図表 152 病児や病後児のための保育施設やサービスの利用意向



※回答対象は、問 33-1 で「父親または母親が仕事を休んで子どもをみた」と答えた人

子どもの年齢別でみると、全体と比べて、0歳で「できれば病児や病後児のための保育施設・サービスを利用したいと思った」の割合が、4歳、5歳で「利用したいとは思わなかった」の割合が高くなっている。

図表 153 病児や病後児のための保育施設やサービスの利用意向一年齢別



※回答対象は、問 33-1 で「父親または母親が仕事を休んで子どもをみた」と答えた人

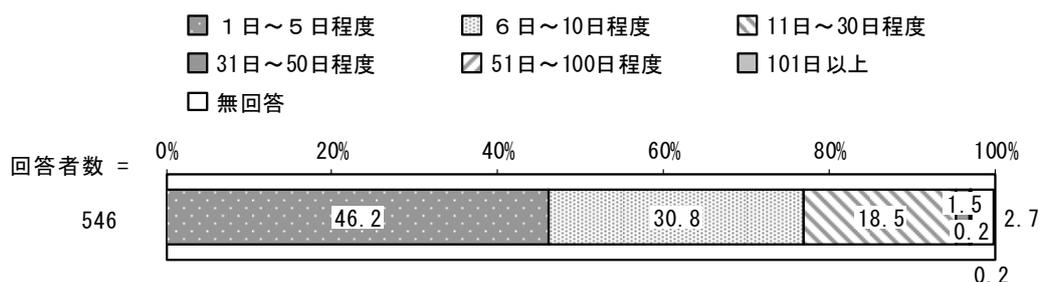
調査結果 就学前児童

1-8-4 病児や病後児のための保育施設やサービスを希望した日数

問 33-3 病児・病後児のための保育施設やサービスを利用したいと思った日は何日くらいありましたか。おおよその日数（年間）をお答えください（カッコ内に数字で）。

「1日～5日程度」の割合が46.2%と最も高く、次いで「6日～10日程度」の割合が30.8%、「11日～30日程度」の割合が18.5%となっている。

図表 154 病児や病後児のための保育施設やサービスを希望した日数



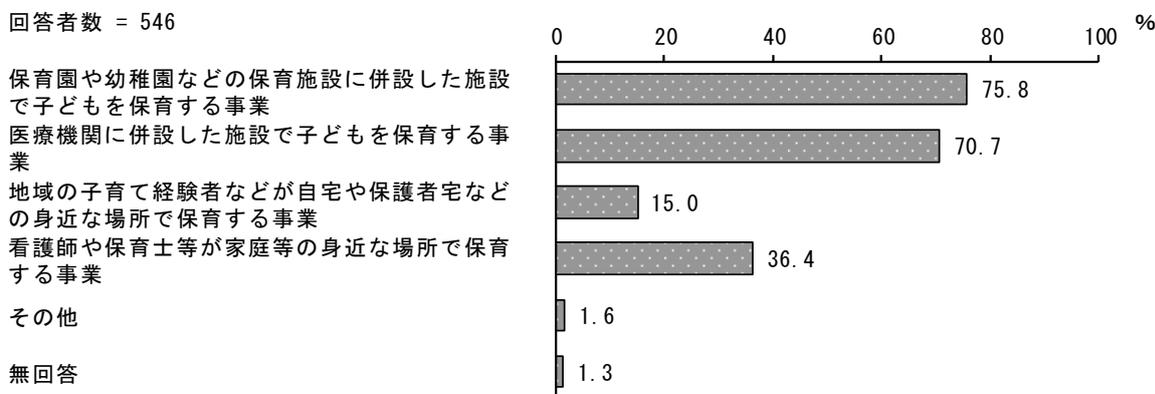
※回答対象は、問 33-2 で「1 できれば病児や病後児のための保育施設・サービスを利用したいと思った」と答えた人

1-8-5 病児や病後児のための保育施設やサービスの望ましい事業形態

問 33-4 病児・病後児のための保育施設やサービスにお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか（あてはまるものすべてに○）。

「保育園や幼稚園などの保育施設に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が75.8%と最も高く、次いで「医療機関に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が70.7%、「看護師や保育士等が家庭等の身近な場所で保育する事業」の割合が36.4%となっている。

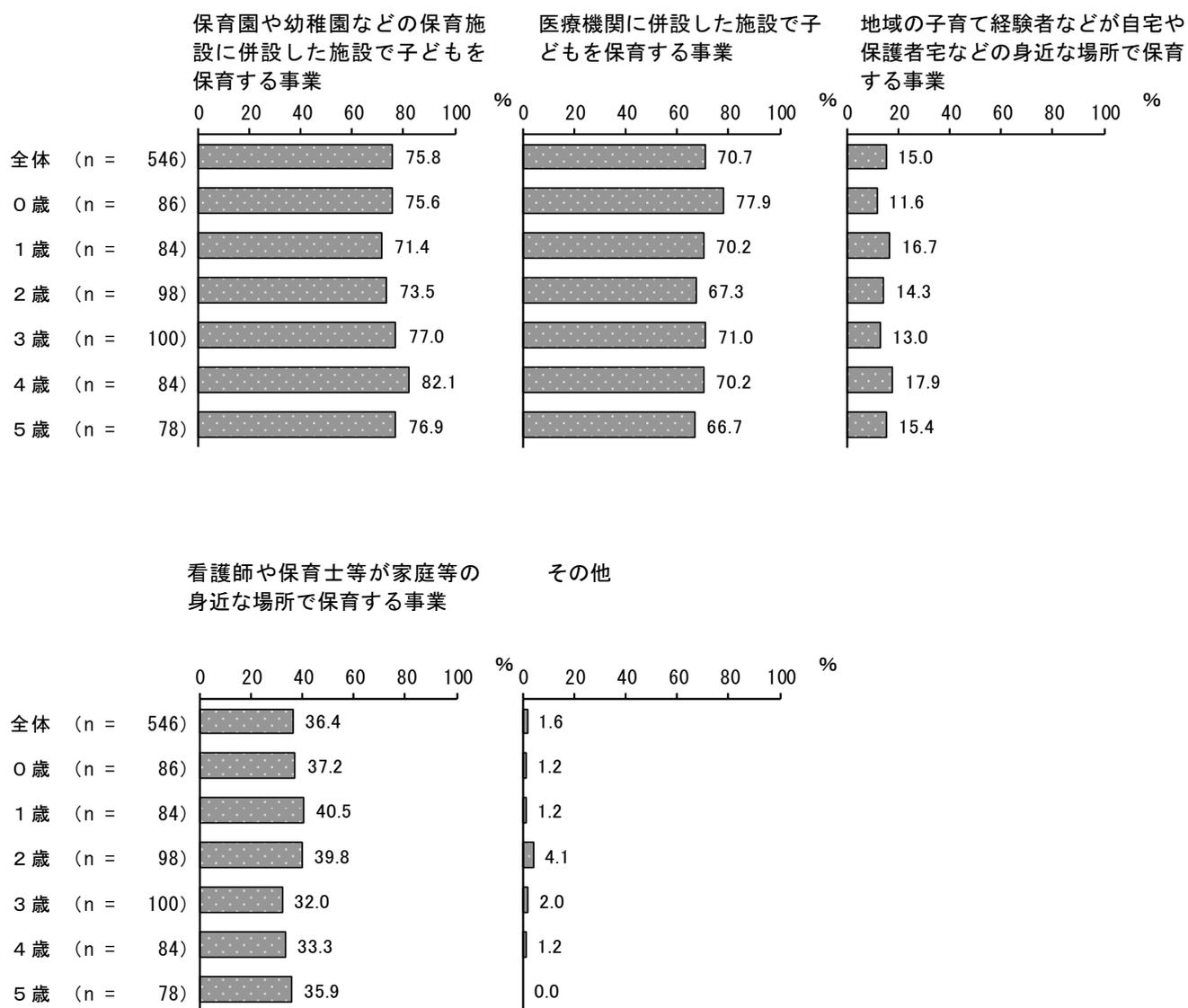
図表 155 病児や病後児のための保育施設やサービスの望ましい事業形態



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

子どもの年齢別にみると、全体と比べて、0歳で「医療機関に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が、4歳で「保育園や幼稚園などの保育施設に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が高くなっている。

図表 156 病児や病後児のための保育施設やサービスの望ましい事業形態一年齢別



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

1-9 不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

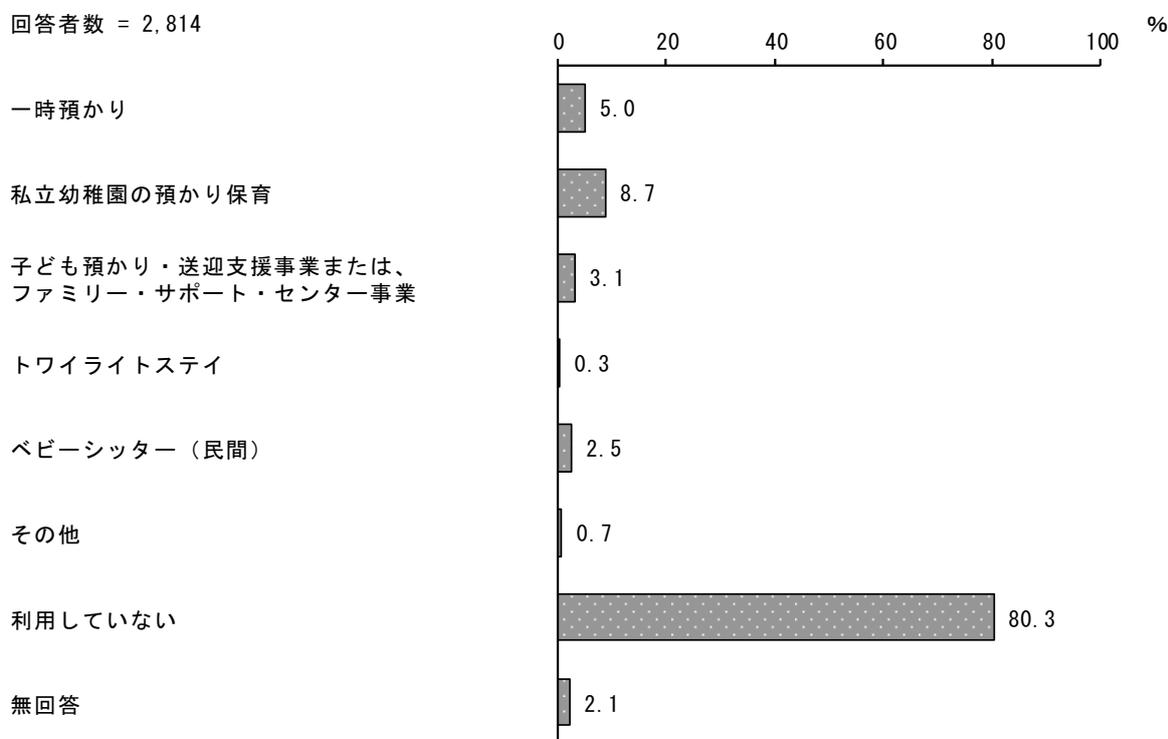
1-9-1 不特定の教育・保育事業の利用状況

問 34 お子さんについて、私用、親の通院、不特定の就労等の目的で現在、不特定に利用している事業は次のうちのどれですか（あてはまる番号すべてに○）。
また、それぞれのおおよその年間利用日数をお答えください
（○はそれぞれ1つだけ）。
※半日程度の場合も1日とカウントしてください。

(1) 現在、不特定に利用している事業

「利用していない」の割合が80.3%と最も高くなっている。

図表 157 現在、不特定に利用している事業

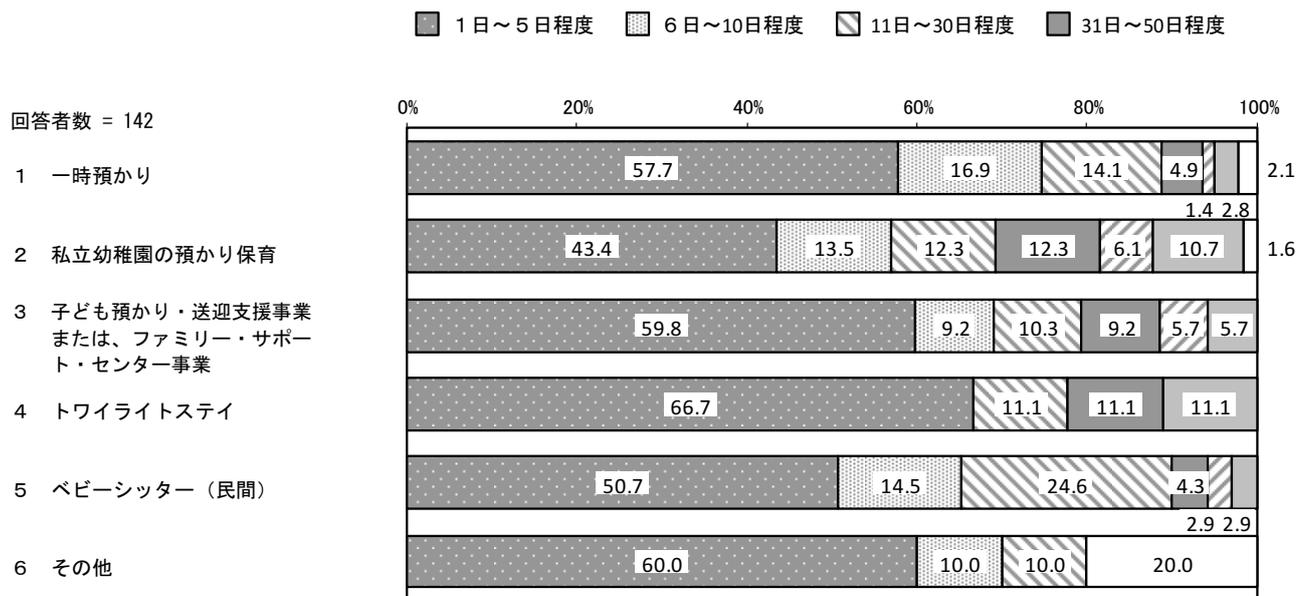


※複数回答のため、合計は100%に一致しない

(2) 年間利用日数

現在、不定期に利用している事業の年間利用日数について、事業別でみると、『1日～5日程度』では「4 トワイライトステイ」が66.7%と最も多く、次いで、「3 子ども預かり・送迎支援事業または、ファミリー・サポート・センター事業」が59.8%、「1 一時預かり」が57.7%となっている。

図表 158 現在、不定期に利用している事業一年間利用日数



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

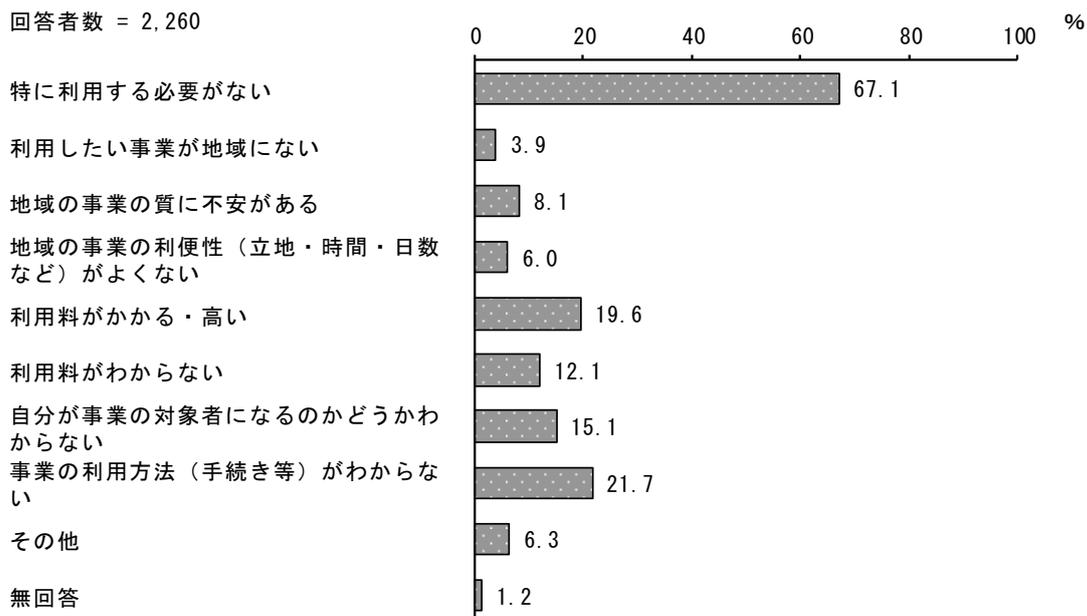
調査結果 就学前児童

1-9-2 現在不定期の教育・保育事業を利用していない理由

問 34-1 現在利用していない理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）。

「特に利用する必要がない」の割合が 67.1%と最も高く、次いで「事業の利用方法（手続き等）がわからない」の割合が 21.7%、「利用料がかかる・高い」の割合が 19.6%となっている。

図表 159 現在不定期の教育・保育事業を利用していない理由

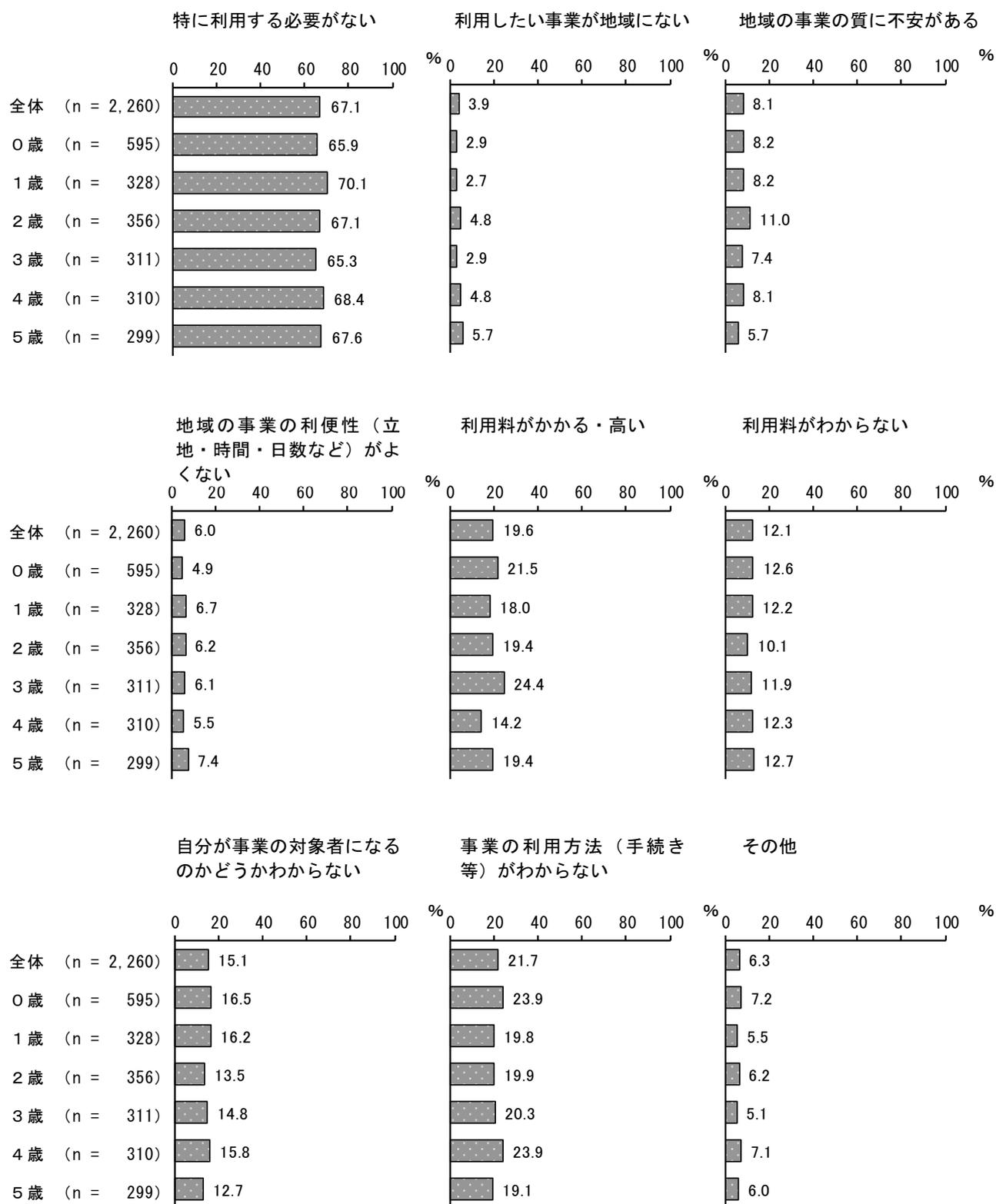


※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は、問 34 で「7 利用していない」と答えた人

子どもの年齢別でみると、全体と比べて、大きな差はみられない。

図表 160 現在不定期の教育・保育事業を利用していない理由一年齢別

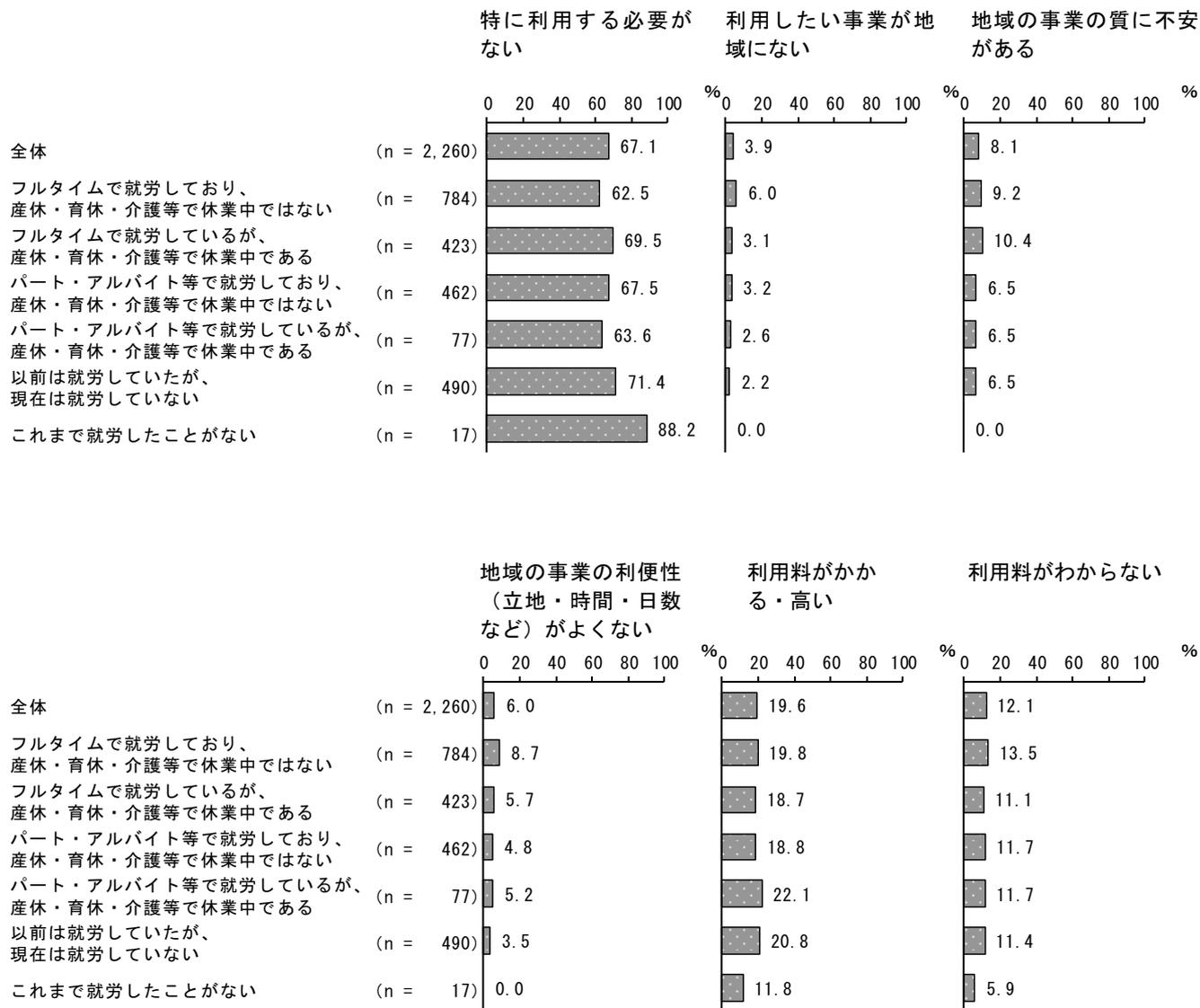


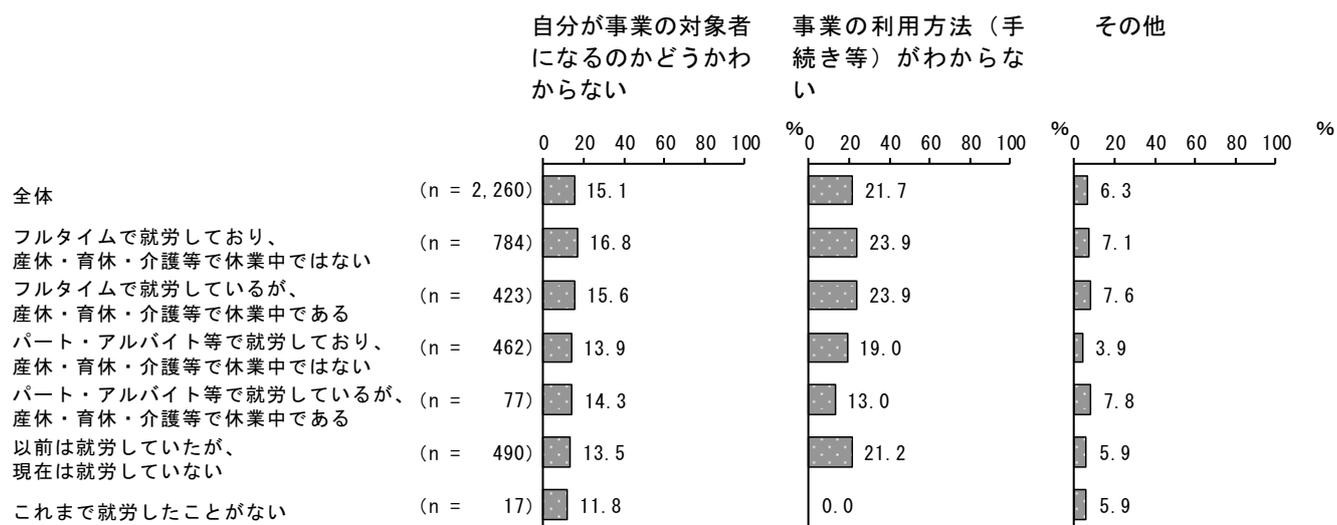
※複数回答のため、合計は100%に一致しない

調査結果 就学前児童

母親の就労状況別にみると、全体と比べて、これまで就労したことがない人で「特に利用する必要がない」の割合が高くなっている。

図表 161 現在不定期の教育・保育事業を利用していない理由—母親の就労状況別





※複数回答のため、合計は100%に一致しない

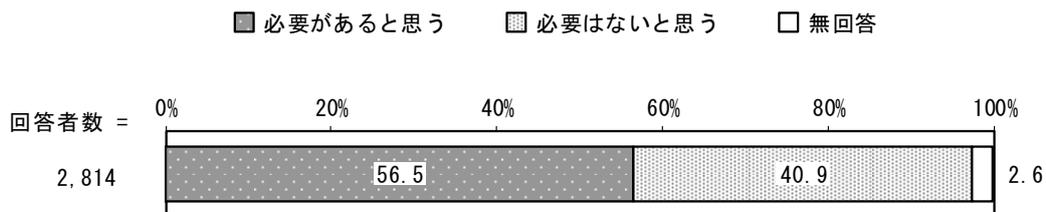
調査結果 就学前児童

1-9-3 不定期の教育・保育事業利用の必要の有無

問 35 お子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、問 35-2 に示すような事業を利用する必要があると思いますか（○は1つだけ）。

「必要があると思う」の割合が56.5%、「必要はないと思う」の割合が40.9%となっている。

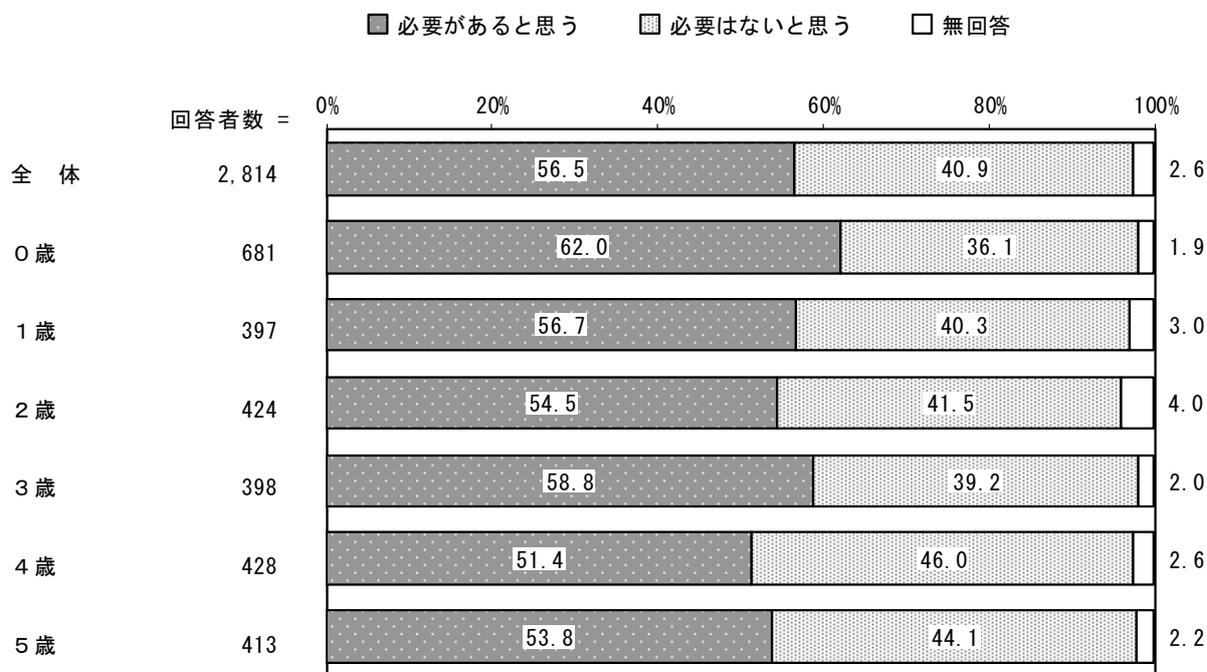
図表 162 不定期の教育・保育事業利用の必要の有無



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

子どもの年齢別でみると、全体と比べて、0歳で「必要があると思う」の割合が、4歳で「必要はないと思う」の割合が高くなっている。

図表 163 不定期の教育・保育事業利用の必要の有無一年齢別



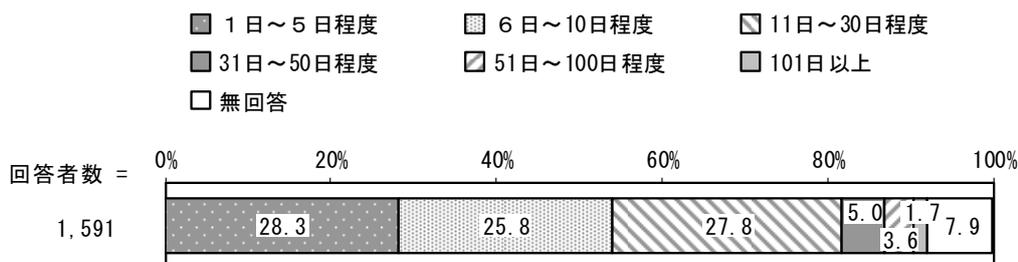
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-9-4 不定期の教育・保育事業利用を希望する日数

問 35-1 1年間に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で事業の利用を必要とする日数はどのくらいあると思いますか（カッコ内に数字で）。

「1日～5日程度」の割合が28.3%と最も高く、次いで「11日～30日程度」の割合が27.8%、「6日～10日程度」の割合が25.8%となっている。

図表 164 不定期の教育・保育事業利用を希望する日数



※回答対象は、問 35 で「1 必要があると思う」と答えた人

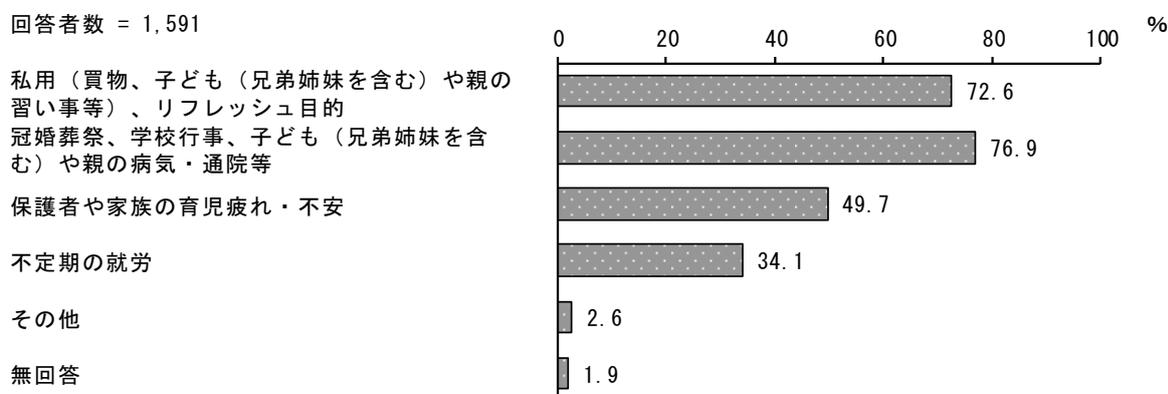
1-9-5 不定期の教育・保育事業の利用目的

問 35-2 どのような利用目的が考えられますか（あてはまる番号すべてに○）。また、それぞれの目的でのおおよその年間利用日数をお答えください（○はそれぞれ1つだけ）。

(1) 利用目的

「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の病気・通院等」の割合が76.9%と最も高く、次いで「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」の割合が72.6%、「保護者や家族の育児疲れ・不安」の割合が49.7%となっている。

図表 165 不定期の教育・保育事業の利用目的



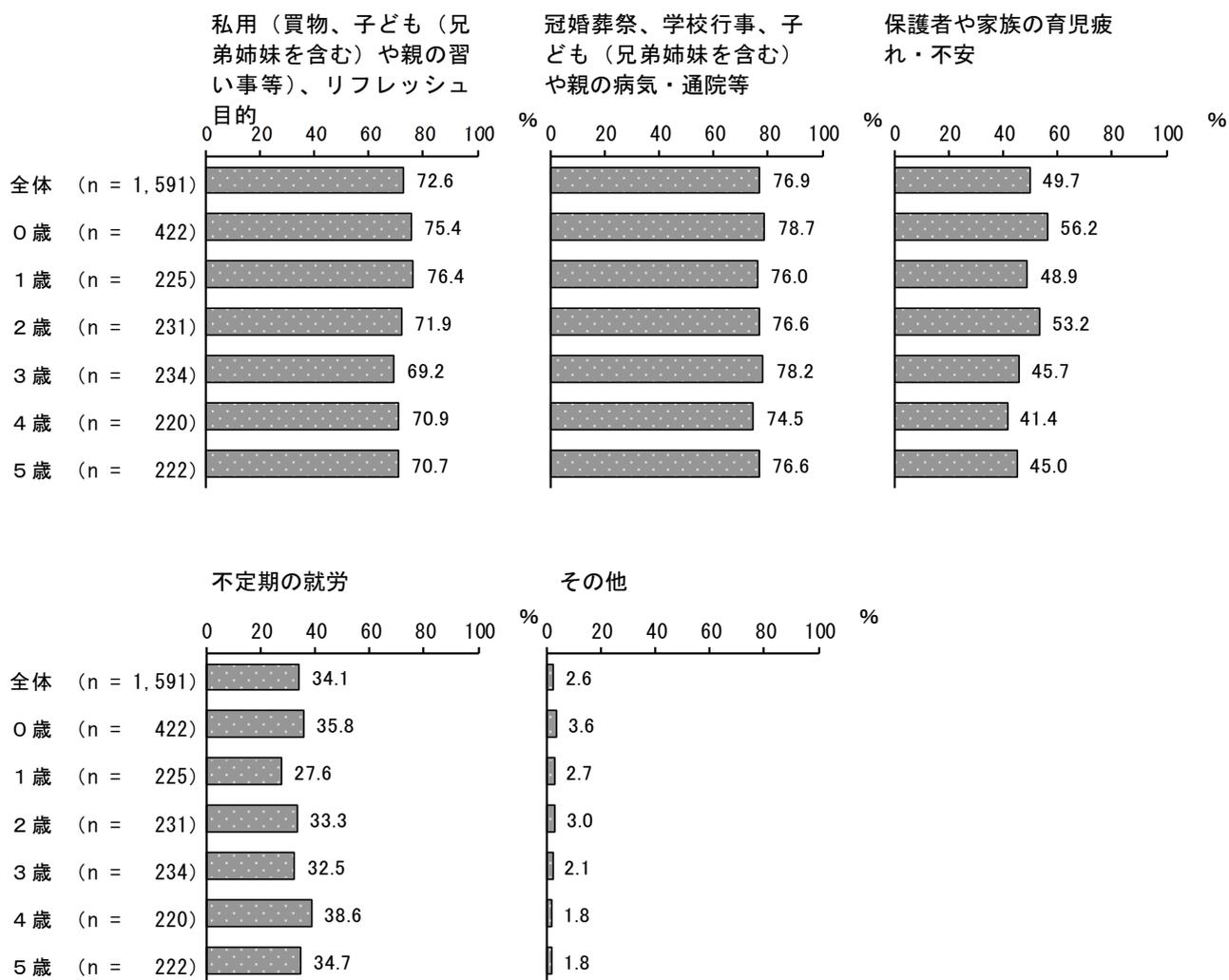
※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は、問 35 で「1 必要があると思う」と答えた人

調査結果 就学前児童

子どもの年齢別にみると、全体と比べて、0歳で「保護者や家族の育児疲れ・不安」の割合が高くなっている。

図表 166 不定期の教育・保育事業の利用目的一年齢別

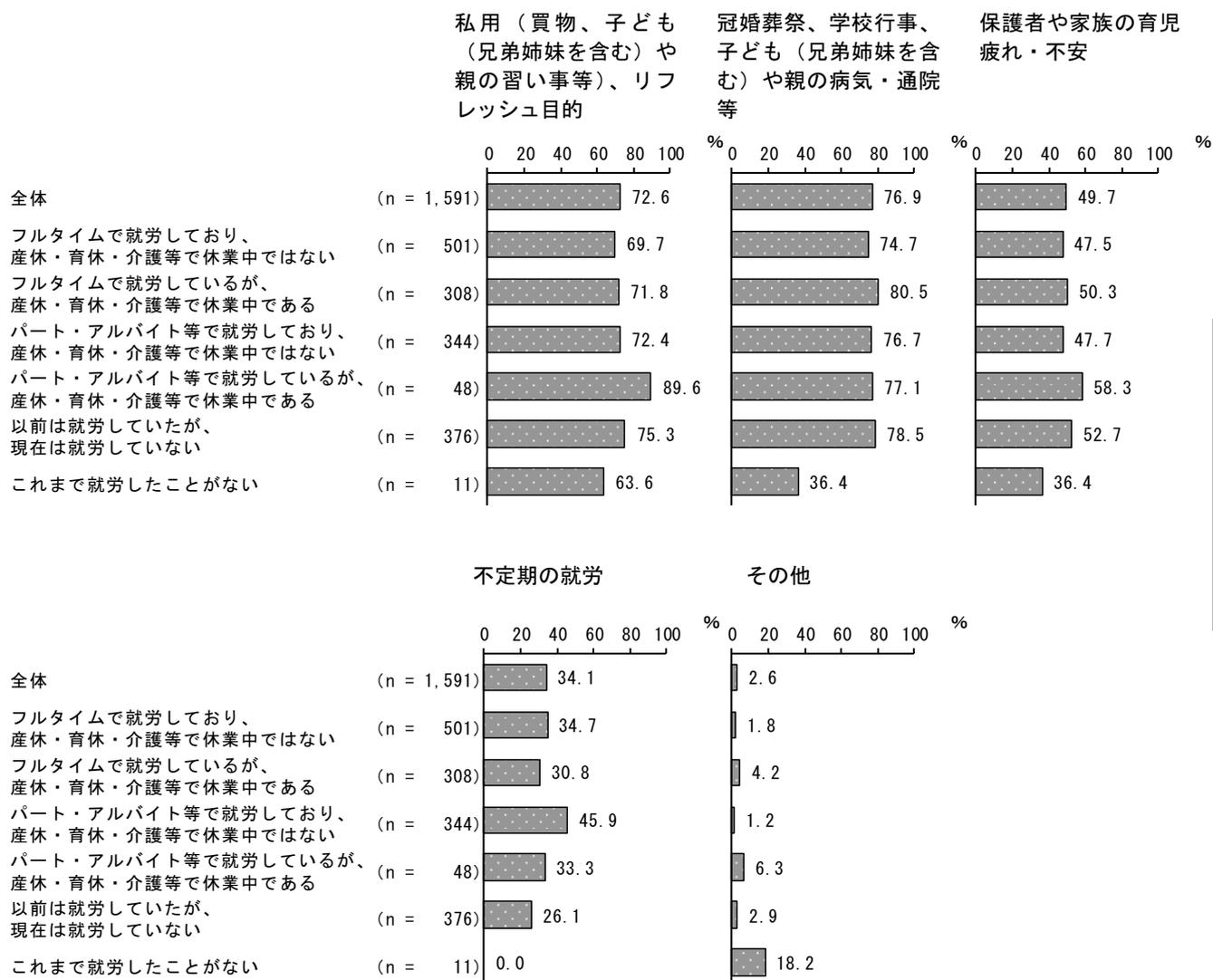


※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は、問35で「1 不定期の教育・保育事業を利用する必要があると思う」と答えた人

母親の就労状況別にみると、全体と比べて、パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護等で休業中である人で「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」「保護者や家族の育児疲れ・不安」の割合が、パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護等で休業中ではない人で「不定期の就労」の割合が高くなっている。

図表 167 不定期の教育・保育事業の利用目的—母親の就労状況別



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は、問35で「1 不定期の教育・保育事業を利用する必要があると思う」と答えた人

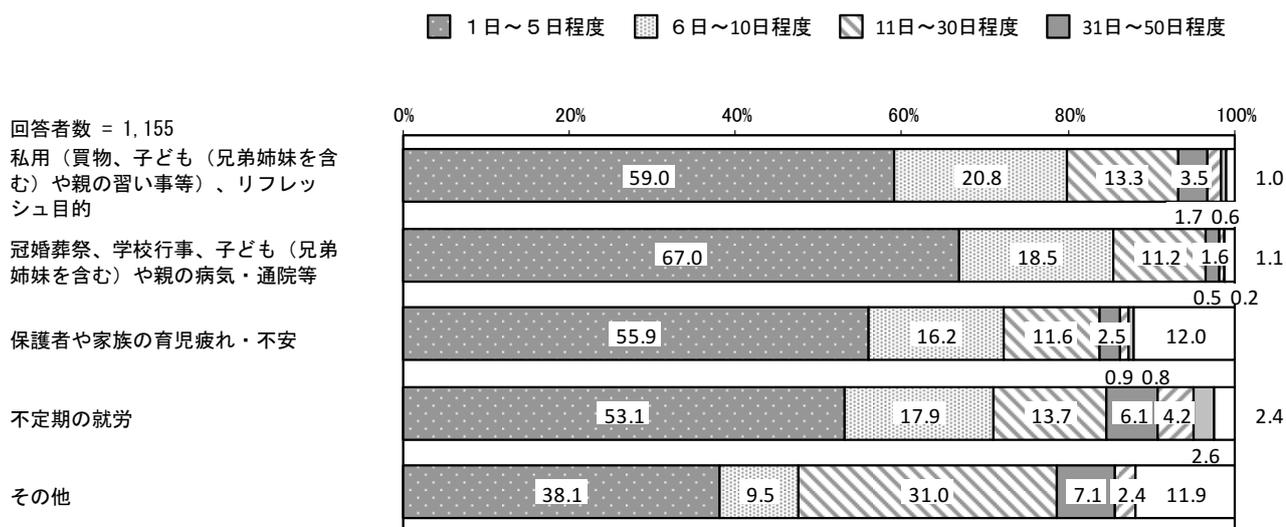
調査結果 就学前児童

1-9-6 不特定の教育・保育事業利用を希望する日数

(2) 年間利用希望日数

不特定の教育・保育事業利用を希望する日数について、事業別でみると、『1日～5日程度』では「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の病気・通院等」が67.0%と最も多く、次いで、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が59.0%、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が55.9%となっている。

図表 168 不特定の教育・保育事業利用を希望する日数



※回答対象は、問35で「1 不特定の教育・保育事業を利用する必要があると思う」と答えた人

1-9-7 不定期にお子さんを預ける場合の望ましい事業形態

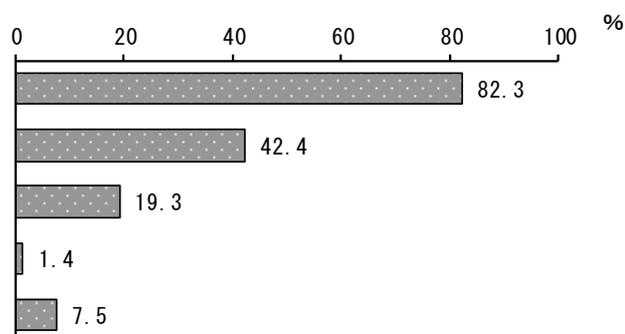
問 35-3 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期にお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか（あてはまるものすべてに○）。

「保育園や幼稚園などの特定の園児がいる施設で子どもを保育する事業」の割合が 82.3%と最も高く、次いで「子育てサロンなどの事業を行う施設で子どもを保育する事業」の割合が 42.4%、「地域の子育て経験者などが自宅や保護者宅で保育する事業」の割合が 19.3%となっている。

図表 169 不定期にお子さんを預ける場合の望ましい事業形態

回答者数 = 1,591

保育園や幼稚園などの特定の園児がいる施設で子どもを保育する事業
 子育てサロンなどの事業を行う施設で子どもを保育する事業
 地域の子育て経験者などが自宅や保護者宅で保育する事業
 その他
 無回答



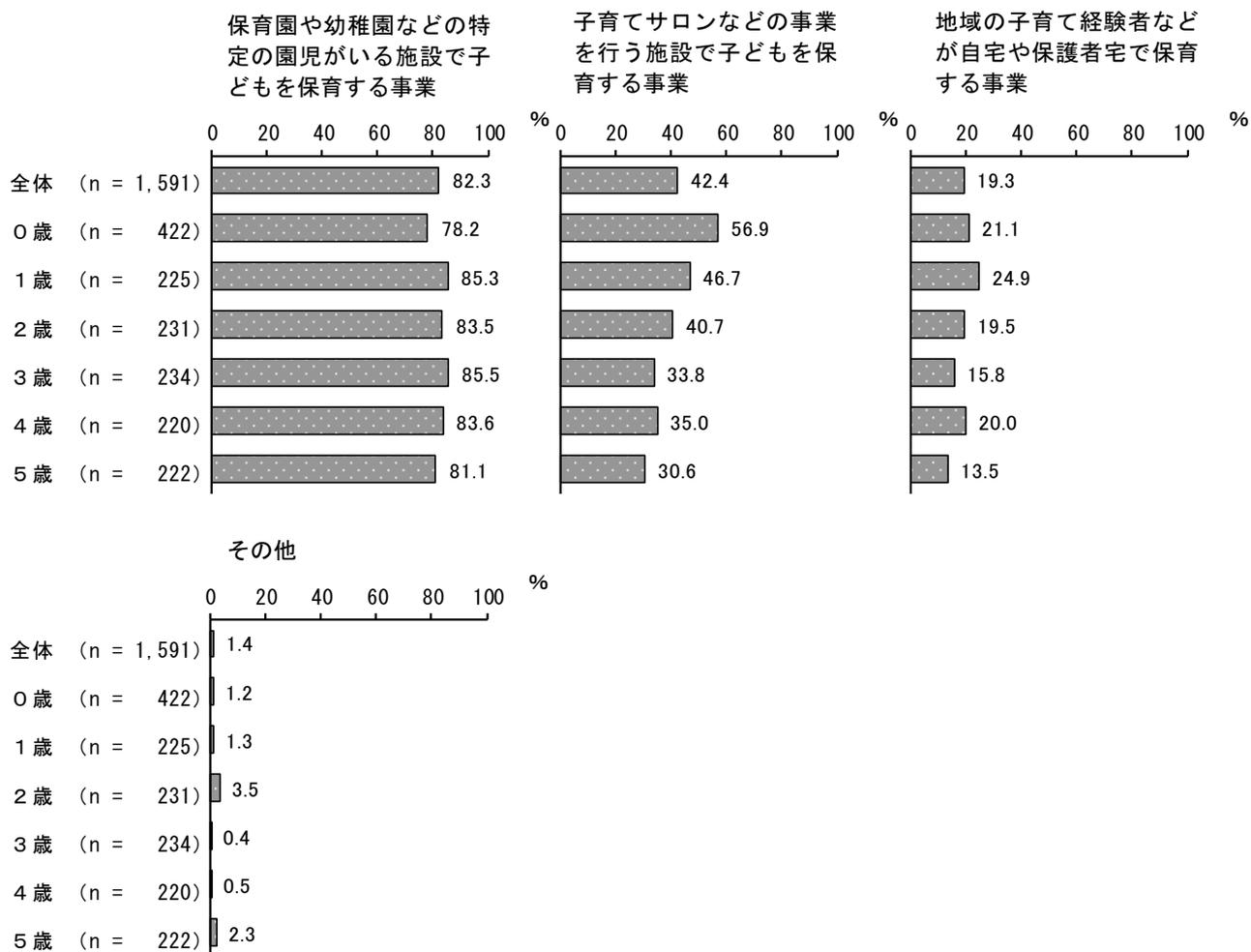
※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は、問35で「1 不定期の教育・保育事業を利用する必要があると思う」と答えた人

調査結果 就学前児童

子どもの年齢別にみると、全体と比べて、0歳で「子育てサロンなどの事業を行う施設で子どもを保育する事業」の割合が、1歳で「地域の子育て経験者などが自宅や保護者宅で保育する事業」の割合が高くなっている。

図表 170 不定期にお子さんを預ける場合の望ましい事業形態—年齢別



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

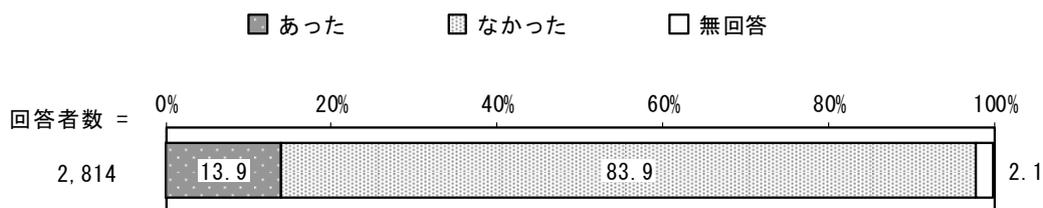
※回答対象は、問35で「1 不定期の教育・保育事業を利用する必要があると思う」と答えた人

1-9-8 宿泊を伴う一時預かり等の状況

問 36 この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、お子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）（○は1つだけ）。

「あった」の割合が13.9%、「なかった」の割合が83.9%となっている。

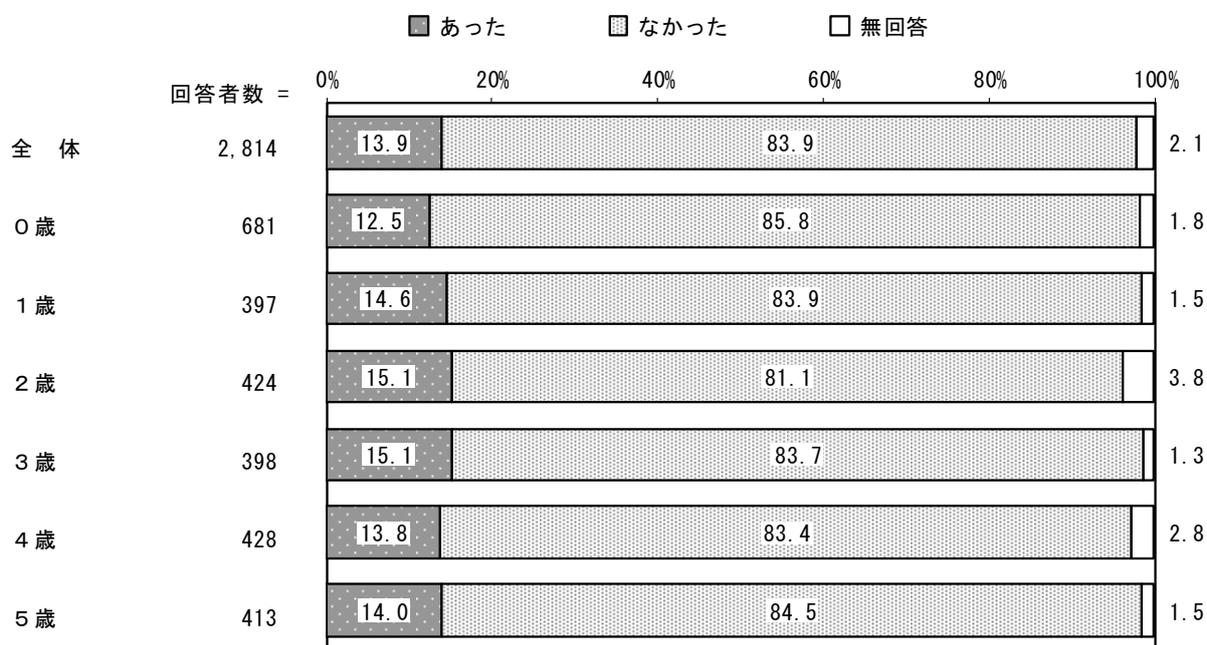
図表 171 宿泊を伴う一時預かり等の状況



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

子どもの年齢別でみると、全体と比べて、大きな差はみられない。

図表 172 宿泊を伴う一時預かり等の状況一年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

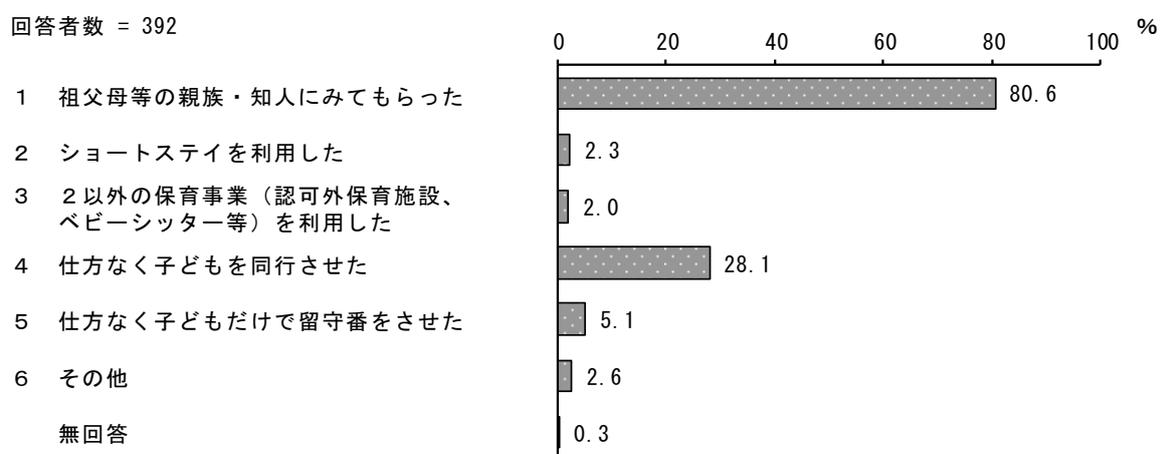
1-9-9 宿泊を伴う一時預かり等の必要があった際の対処方法

問 36-1 その際、この1年間に行った対処方法は次のどれですか
(あてはまるものすべてに○)。また、それぞれのおおよその日数(年間)を
お答えください。(それぞれ○は1つだけ)。

(1) この1年間に行った対処方法

「祖父母等の親族・知人にみてもらった」の割合が80.6%と最も高く、次いで「仕方なく子どもを同行させた」の割合が28.1%となっている。

図表 173 宿泊を伴う一時預かり等の必要があった際の対処方法

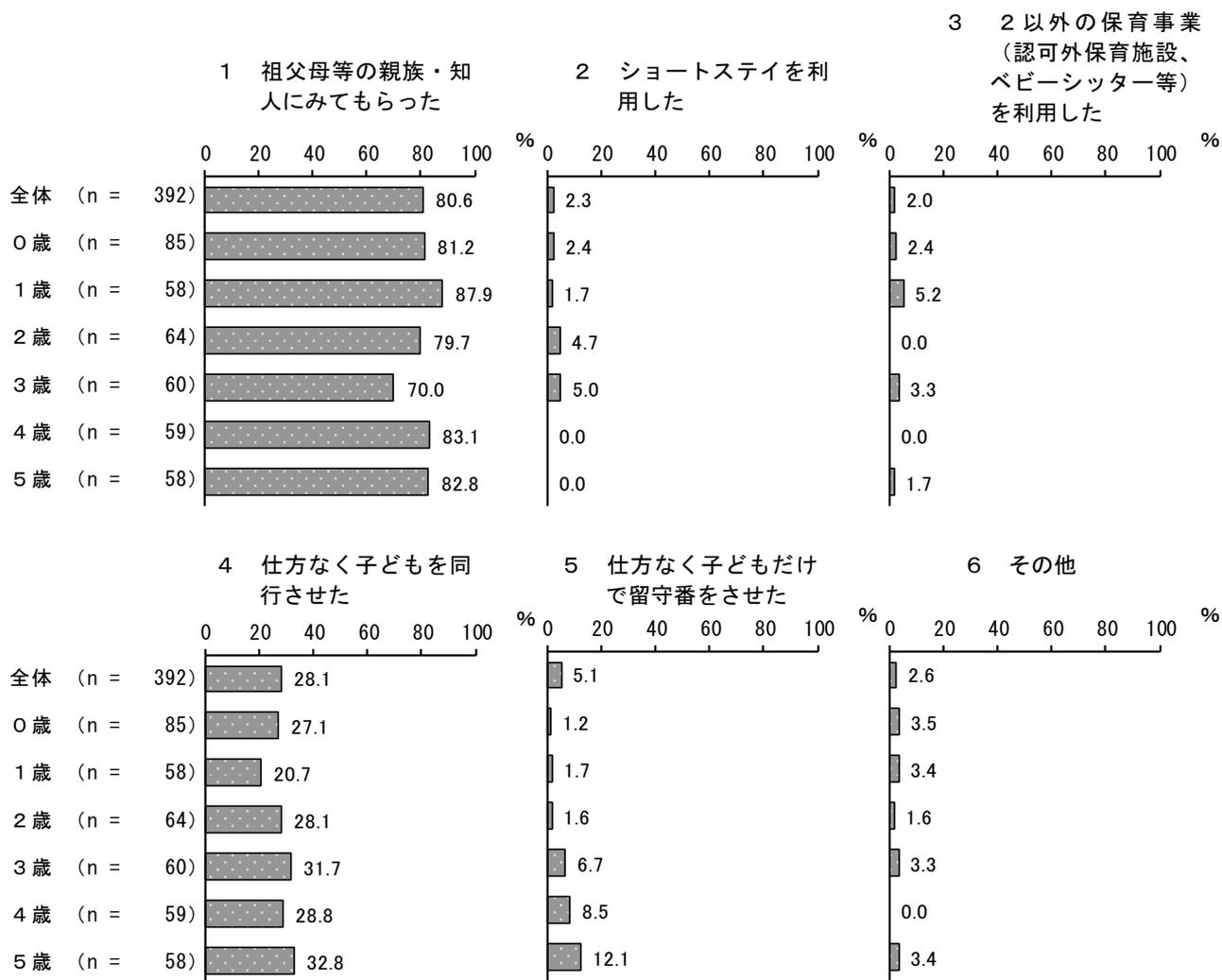


※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は、問 36 で「1 この1年間に保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)により、お子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことがあった」と答えた人

子どもの年齢別にみると、全体と比べて、1歳で「祖父母等の親族・知人にみてもらった」の割合が高くなっている。

図表 174 宿泊を伴う一時預かり等の必要があった際の対処方法一年齢別



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

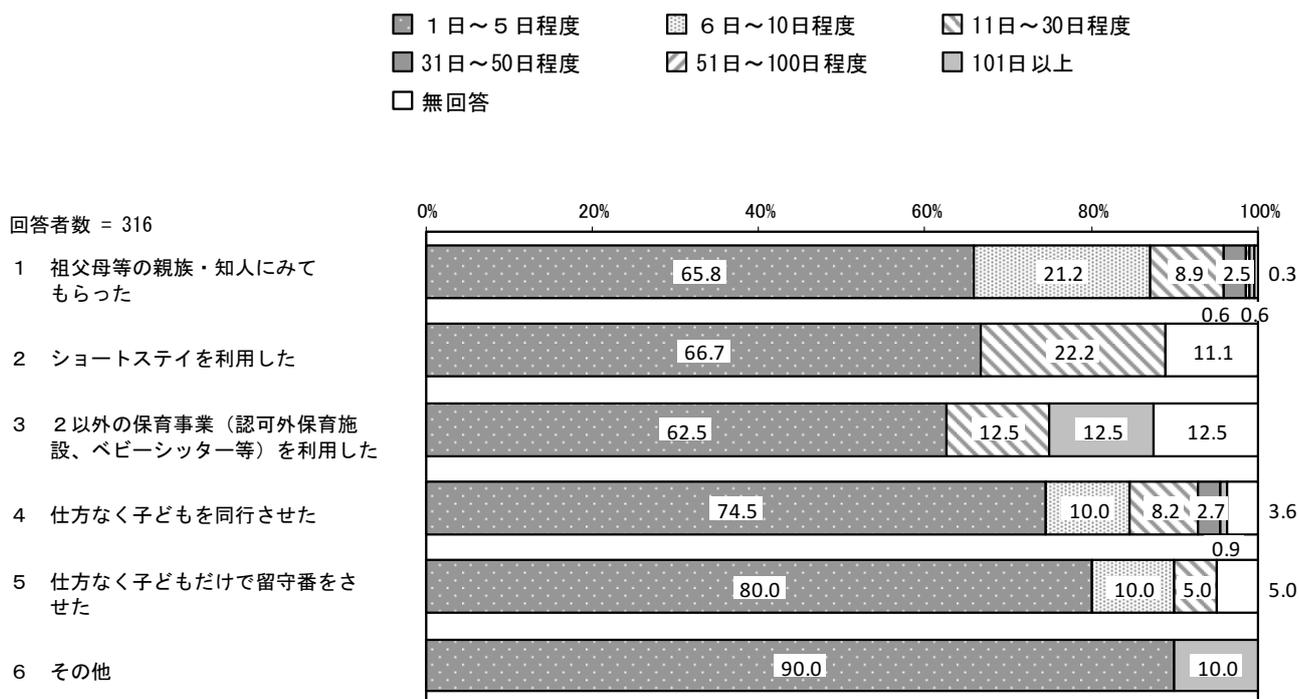
※回答対象は、問36で「1 この1年間に保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)により、お子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことがあった」と答えた人

調査結果 就学前児童

(2) 対処日数

宿泊を伴う一時預かり等の必要があった際の対処日数について、対処方法別でみると、『1日～5日程度』では「5 仕方なく子どもだけで留守番をさせた」が 80.0%と最も多く、次いで、「4 仕方なく子どもを同行させた」が 74.5%、「2 ショートステイを利用した」が 66.7%となっている。

図表 175 宿泊を伴う一時預かり等の必要があった際の対処日数



※回答対象は、問 36 で「この 1 年間に保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、お子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことがあった」と答えた人

1-10 育児休業など、「職場の両立支援制度」について

1-10-1 育児休業及び短時間勤務の取得状況

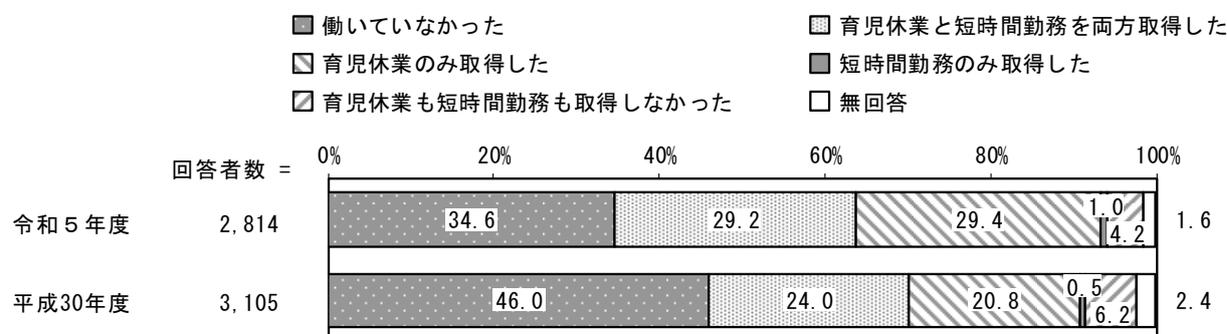
問 37 お子さんが生まれたとき、母親・父親のいずれかもしくは双方が、育児休業または短時間勤務を取得しましたか。母親・父親それぞれについてお答えください。なお、ひとり親の方はどちらか一方にお答えください。

(1) 母親の取得状況

「働いていなかった」の割合が 34.6%と最も高く、次いで「育児休業のみ取得した」の割合が 29.4%、「育児休業と短時間勤務を両方取得した」の割合が 29.2%となっている。

平成 30 年度と比較すると、「育児休業と短時間勤務を両方取得した」「育児休業のみ取得した」の割合が増加している。一方、「働いていなかった」の割合が減少している。

図表 176 育児休業及び短時間勤務の取得状況（母親）



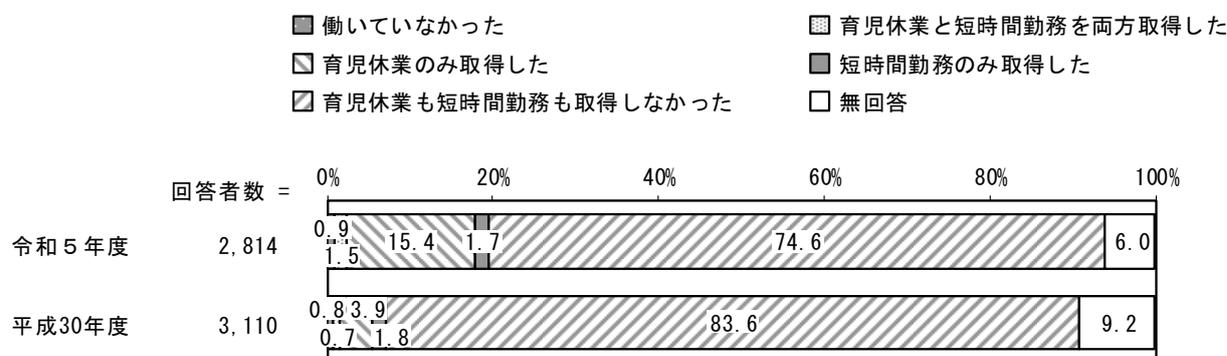
※回答対象は就学前児童対象調査の全員（父子家庭を除く）

(2) 父親の取得状況

「育児休業も短時間勤務も取得しなかった」の割合が 74.6%と最も高く、次いで「育児休業のみ取得した」の割合が 15.4%となっている。

平成 30 年度と比較すると、「育児休業のみ取得した」の割合が増加している。一方、「育児休業も短時間勤務も取得しなかった」の割合が減少している。

図表 177 育児休業及び短時間勤務の取得状況（父親）



※回答対象は就学前児童対象調査の全員（母子家庭を除く）

1-10-2 育児休業または短時間勤務を取得しなかった理由

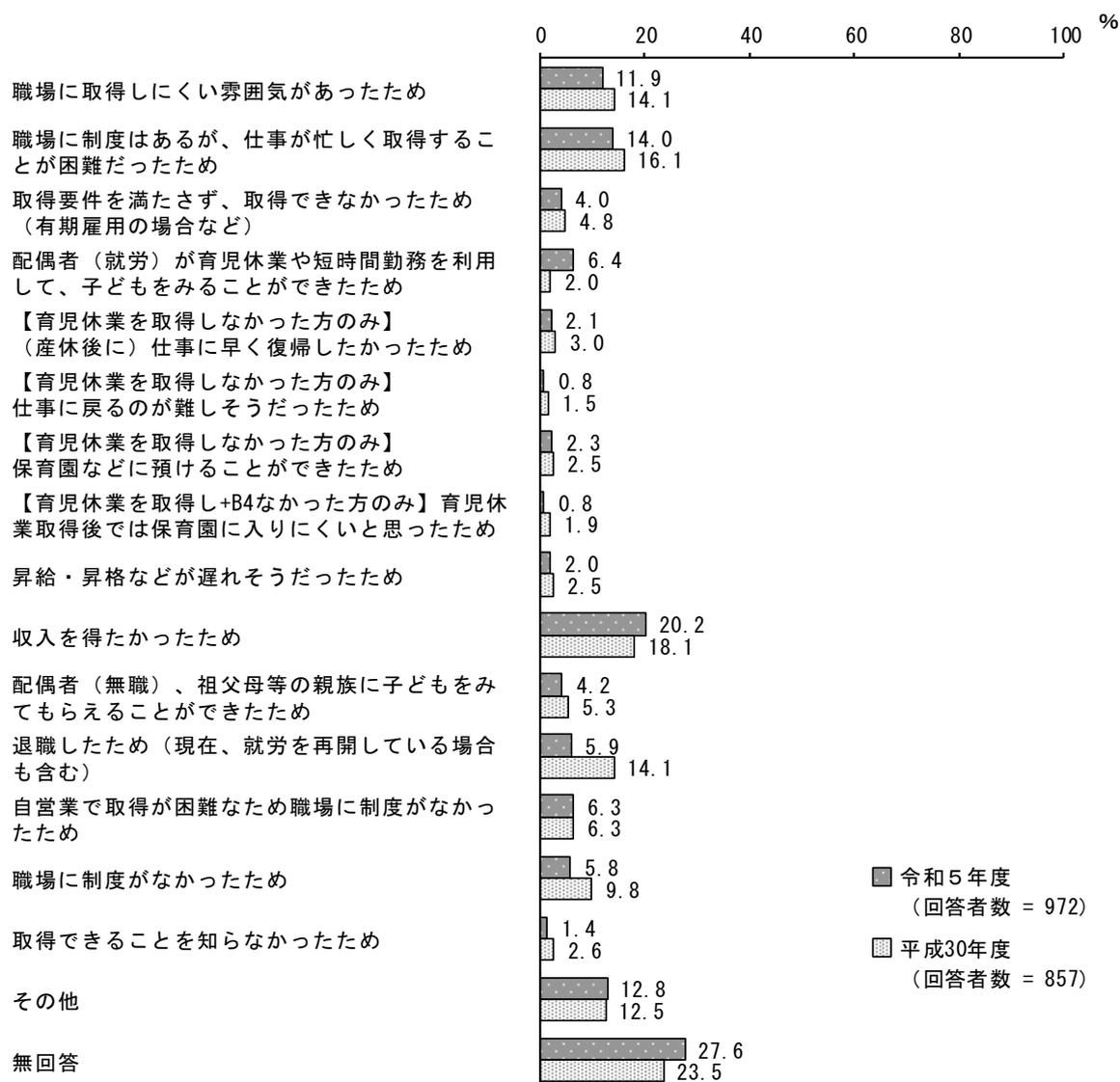
問 37-1 育児休業または短時間勤務のどちらか1つでも取得しなかった方について、その理由をお答えください（あてはまるものすべてに○）。ただし、選択肢5～8は、問37で「4」「5」とお答えの方（育児休業を取得しなかった方）のみ選択が可能です。それぞれあてはまる番号すべてに○。

(1) 母親

「収入を得たかったため」の割合が 20.2%と最も高く、次いで「職場に制度はあるが、仕事が忙しく取得することが困難だったため」の割合が 14.0%、「職場に取得しにくい雰囲気があったため」の割合が 11.9%となっている。

平成 30 年度と比較すると、「退職したため（現在、就労を再開している場合も含む）」の割合が減少している。

図表 178 育児休業及び短時間勤務を取得しなかった理由（母親）



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

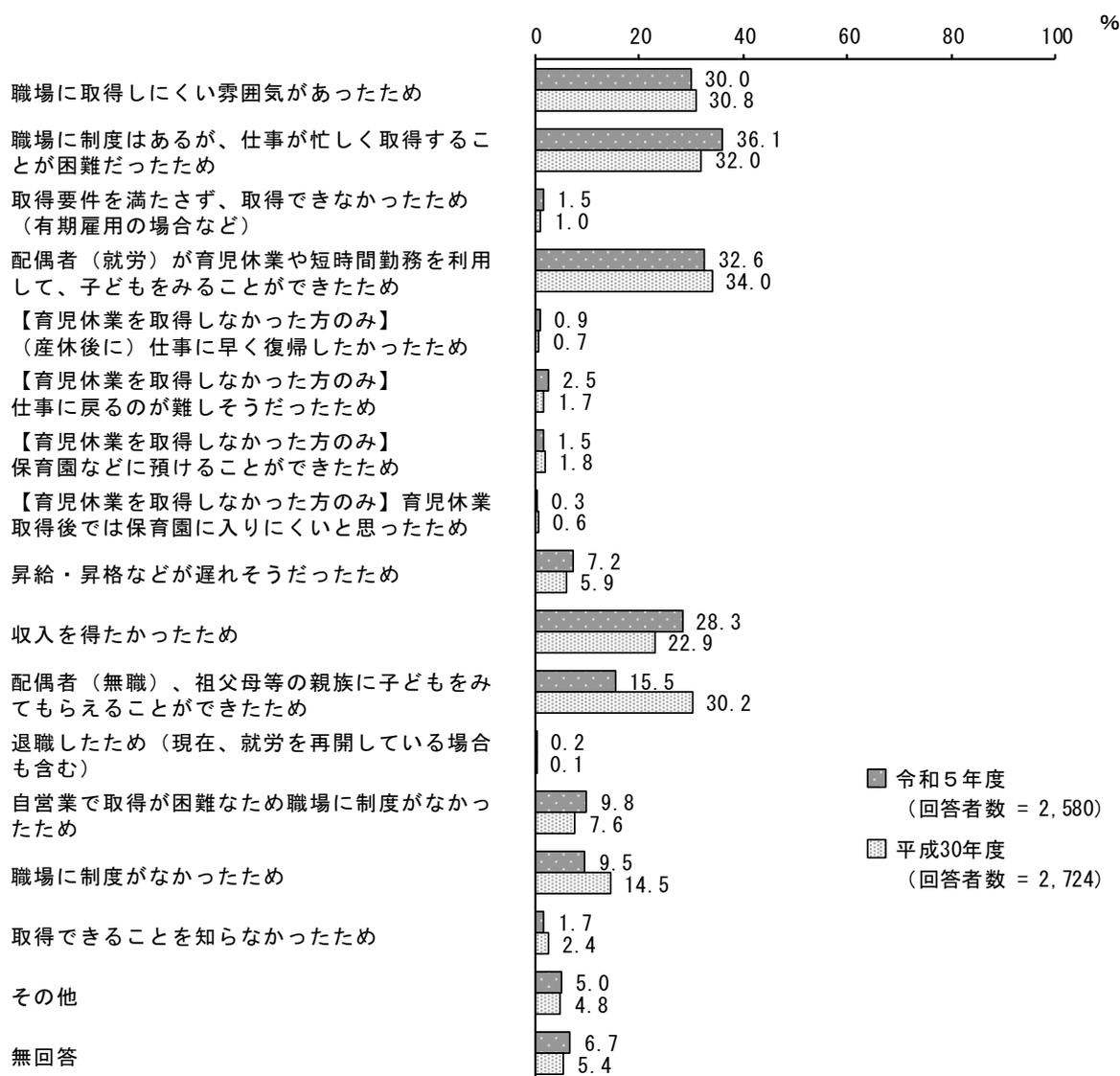
※回答対象は、問37で母親・父親のおひとりでも「3 育児休業のみ取得した」、「4 短時間勤務のみ取得した」または「5 育児休業も短時間勤務も取得しなかった」と答えた人

(2) 父親

「職場に制度はあるが、仕事が忙しく取得することが困難だったため」の割合が 36.1%と最も高く、次いで「配偶者（就労）が育児休業や短時間勤務を利用して、子どもをみることであったため」の割合が 32.6%、「職場に取得しにくい雰囲気があったため」の割合が 30.0%となっている。

平成 30 年度と比較すると、「収入を得たかったため」の割合が増加している。一方、「配偶者（無職）、祖父母等の親族に子どもをみてもらえることができたため」の割合が減少している。

図表 179 育児休業及び短時間勤務を取得しなかった理由（父親）



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※回答対象は、問37で母親・父親のおひとりでも「3 育児休業のみ取得した」、「4 短時間勤務のみ取得した」または「5 育児休業も短時間勤務も取得しなかった」と答えた人

1-10-3 育児休業取得後の職場復帰の状況

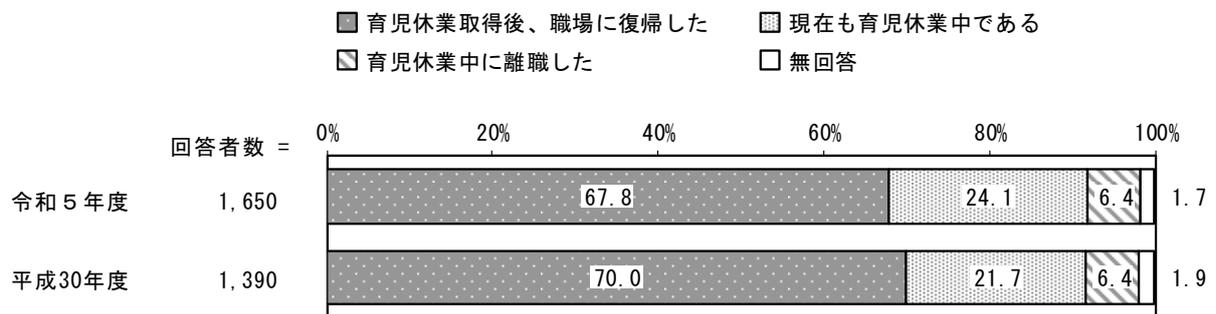
問 37-2 育児休業取得後、職場に復帰しましたか
(取得したまたは取得中の方について、それぞれ○は1つだけ)。

(1) 母親

「育児休業取得後、職場に復帰した」の割合が 67.8%と最も高く、次いで「現在も育児休業中である」の割合が 24.1%となっている。

平成 30 年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 180 育児休業取得後の職場復帰の状況 (母親)



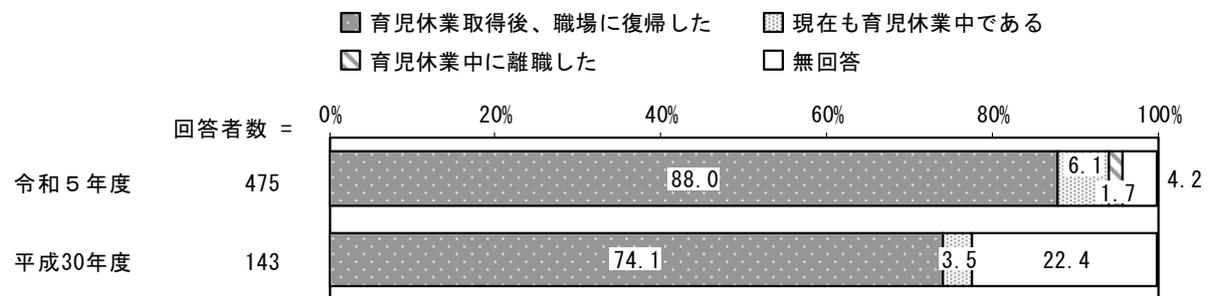
※回答対象は就学前児童対象調査の全員（父子家庭を除く）
※問 37 で母親・父親のおひとりでも「育児休業を取得した」と答えた人

(2) 父親

「育児休業取得後、職場に復帰した」の割合が 88.0%と最も高くなっている。

平成 30 年度と比較すると、「育児休業取得後、職場に復帰した」の割合が増加している。

図表 181 育児休業取得後の職場復帰の状況 (父親)



※回答対象は就学前児童対象調査の全員（母子家庭を除く）
※問 37 で母親・父親のおひとりでも「育児休業を取得した」と答えた人

1-10-4 育児休業取得後の職場復帰のタイミング

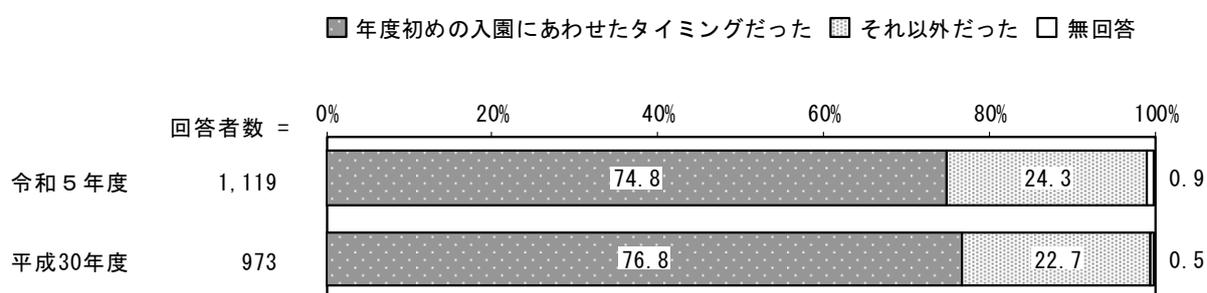
問 37-3 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育園入園に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか
(取得したまたは取得中の方について、それぞれ○は1つだけ)。

(1) 母親

「年度初めの入園にあわせたタイミングだった」の割合が74.8%、「それ以外だった」の割合が24.3%となっている。

平成30年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 182 育児休業取得後の職場復帰のタイミング (母親)



※回答対象は就学前児童対象調査の全員 (父子家庭を除く)

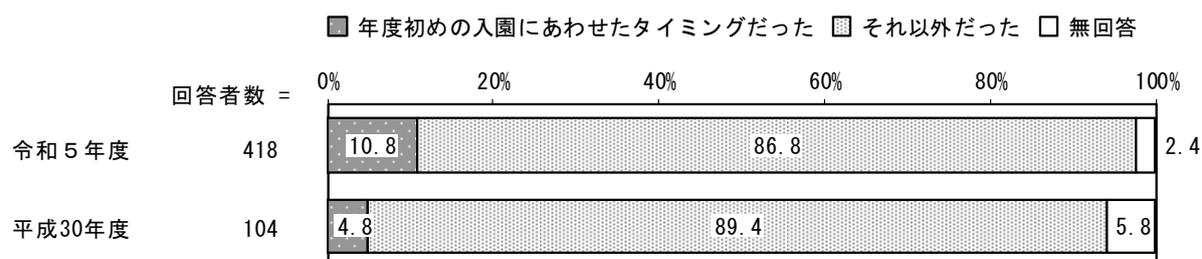
※問 37-2 で母親・父親のおひとりでも「1 育児休業取得後、職場に復帰した」と答えた人

(2) 父親

「年度初めの入園にあわせたタイミングだった」の割合が10.8%、「それ以外だった」の割合が86.8%となっている。

平成30年度と比較すると、「年度初めの入園にあわせたタイミングだった」の割合が増加している。

図表 183 育児休業取得後の職場復帰のタイミング (父親)



※回答対象は就学前児童対象調査の全員 (母子家庭を除く)

※問 37-2 で母親・父親のおひとりでも「1 育児休業取得後、職場に復帰した」と答えた人

1-10-5 実際の職場復帰の時期と希望する職場復帰の時期

問 37-4 育児休業からは、お子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。複数回に分けて取得した場合は、一番最後に取得した期間をお答えください。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで育児休業を取りたかったですか
(取得したまたは取得中の方について、それぞれかっこ内に数字で)。

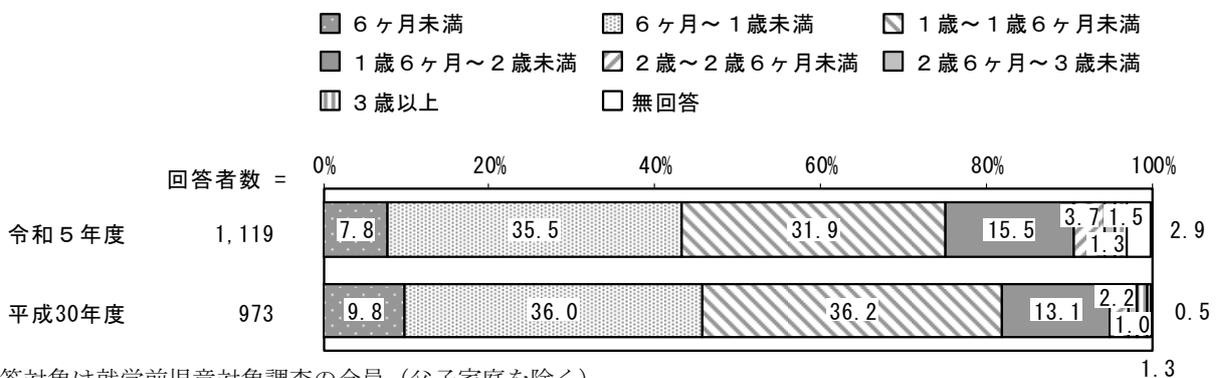
(1) 母親

ア 実際の取得期間

「6ヶ月～1歳未満」の割合が35.5%と最も高く、次いで「1歳～1歳6ヶ月未満」の割合が31.9%、「1歳6ヶ月～2歳未満」の割合が15.5%となっている。

平成30年度と比較すると、大きな差はみられない。

図表 184 実際の取得期間（母親）



※回答対象は就学前児童対象調査の全員（父子家庭を除く）

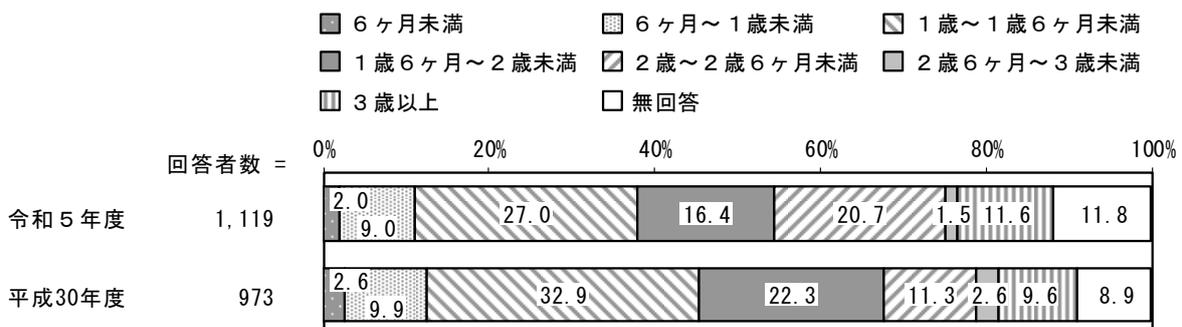
※問 37-2 で母親・父親のおひとりでも「1 育児休業取得後、職場に復帰した」と答えた人

イ 希望の取得期間

「1歳～1歳6ヶ月未満」の割合が27.0%と最も高く、次いで「2歳～2歳6ヶ月未満」の割合が20.7%、「1歳6ヶ月～2歳未満」の割合が16.4%となっている。

平成30年度と比較すると、「2歳～2歳6ヶ月未満」の割合が増加している。一方、「1歳～1歳6ヶ月未満」「1歳6ヶ月～2歳未満」の割合が減少している。

図表 185 希望の取得期間（母親）



※回答対象は就学前児童対象調査の全員（父子家庭を除く）

※問 37-2 で母親・父親のおひとりでも「1 育児休業取得後、職場に復帰した」と答えた人

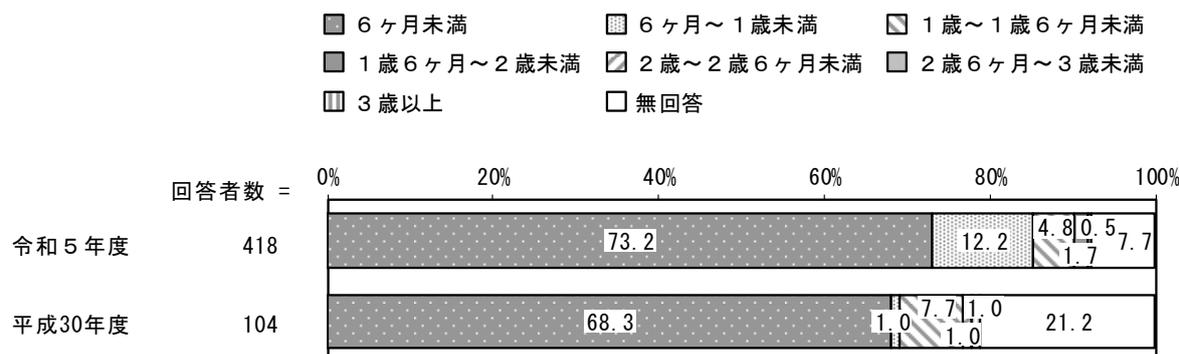
(2) 父親

ア 実際の取得期間

「6ヶ月未満」の割合が73.2%と最も高く、次いで「6ヶ月～1歳未満」の割合が12.2%となっている。

平成30年度と比較すると、「6ヶ月～1歳未満」の割合が増加している。

図表 186 実際の取得期間（父親）



※回答対象は就学前児童対象調査の全員（母子家庭を除く）

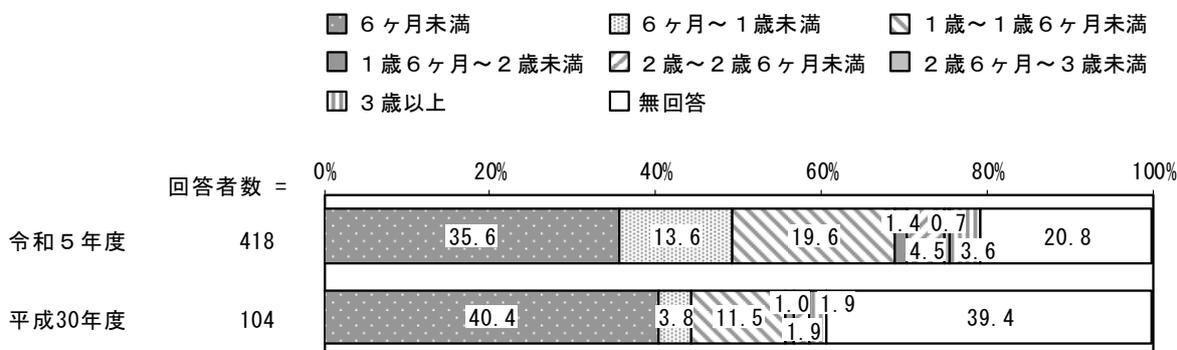
※問37-2で母親・父親のおひとりでも「1 育児休業取得後、職場に復帰した」と答えた人

イ 希望の取得期間

「6ヶ月未満」の割合が35.6%と最も高く、次いで「1歳～1歳6ヶ月未満」の割合が19.6%、「6ヶ月～1歳未満」の割合が13.6%となっている。

平成30年度と比較すると、「6ヶ月～1歳未満」「1歳～1歳6ヶ月未満」の割合が増加している。

図表 187 希望の取得期間（父親）



※回答対象は就学前児童対象調査の全員（母子家庭を除く）

※問37-2で母親・父親のおひとりでも「1 育児休業取得後、職場に復帰した」と答えた人

1-10-6 希望の時期に職場復帰しなかった理由

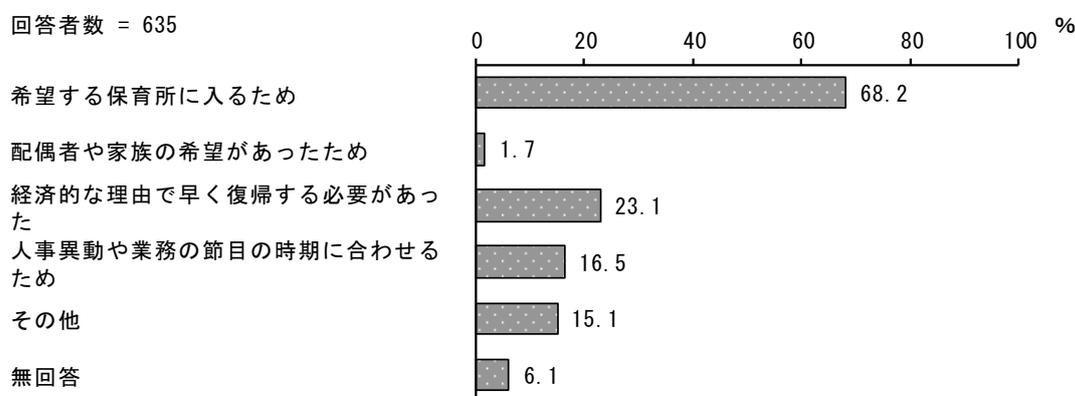
問 37-5 希望の時期に職場復帰しなかった（できなかった）理由は、次のうちどれですか。（1）希望より早く職場復帰した方、（2）希望より遅く職場復帰した方それぞれについてお答えください（あてはまるものすべてに○）。

(1) 希望より早く職場復帰した方

ア 母親

「希望する保育所に入るため」の割合が 68.2%と最も高く、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があるがあった」の割合が 23.1%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」の割合が 16.5%となっている。

図表 188 希望の時期に職場復帰しなかった理由（希望より早く職場復帰した母親）



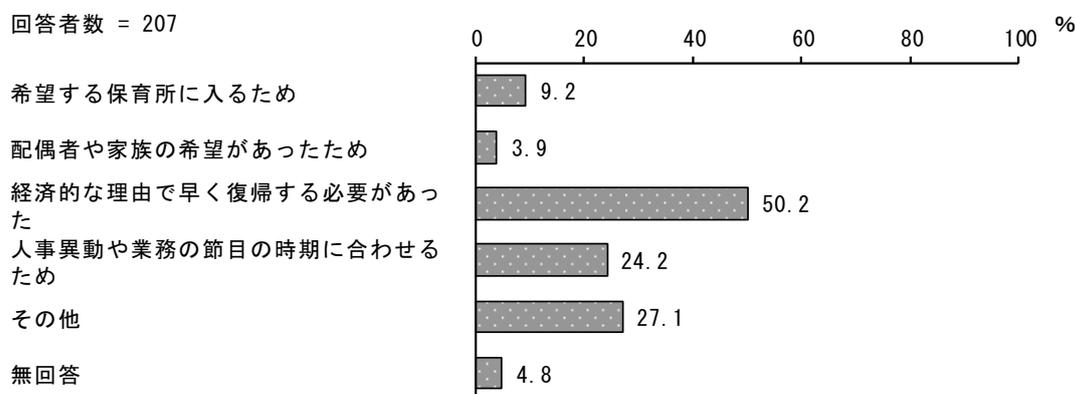
※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※問37-4で母親・父親のおひとりでも、育児休業の「(1) 実際の取得期間」と「(2) 希望の取得期間」が異なっていた人

イ 父親

「経済的な理由で早く復帰する必要があるがあった」の割合が 50.2%と最も高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」の割合が 24.2%となっている。

図表 189 希望の時期に職場復帰しなかった理由（希望より早く職場復帰した父親）



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

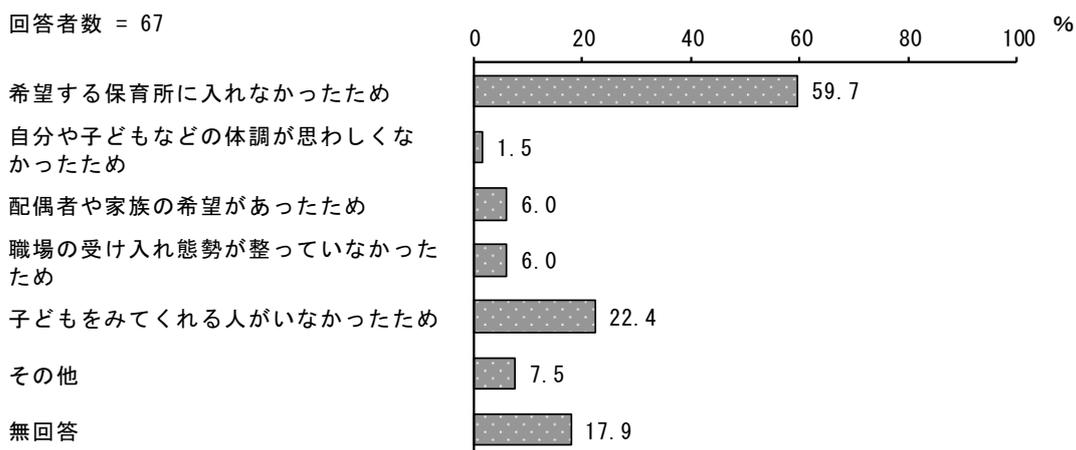
※問37-4で母親・父親のおひとりでも、育児休業の「(1) 実際の取得期間」と「(2) 希望の取得期間」が異なっていた人

(2) 希望より遅く職場復帰した方

ア 母親

「希望する保育所に入れなかったため」の割合が 59.7%と最も高く、次いで「子どもをみてくれる人がいなかったため」の割合が 22.4%となっている。

図表 190 希望の時期に職場復帰しなかった理由（希望より遅く職場復帰した母親）



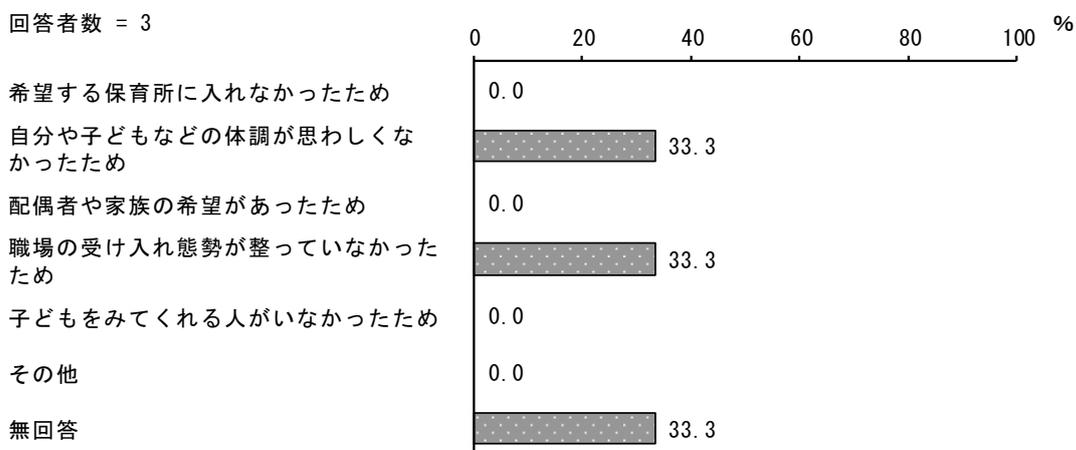
※複数回答のため、合計は 100%に一致しない

※問37-4で母親・父親のおひとりでも、育児休業の「(1) 実際の取得期間」と「(2) 希望の取得期間」が異なっていた人

イ 父親

希望より遅く職場復帰した父親が希望の時期に職場復帰しなかった理由について、以下の図の通りである。

図表 191 希望の時期に職場復帰しなかった理由（希望より遅く職場復帰した父親）



※複数回答のため、合計は 100%に一致しない

※問37-4で母親・父親のおひとりでも、育児休業の「(1) 実際の取得期間」と「(2) 希望の取得期間」が異なっていた人

調査結果 就学前児童

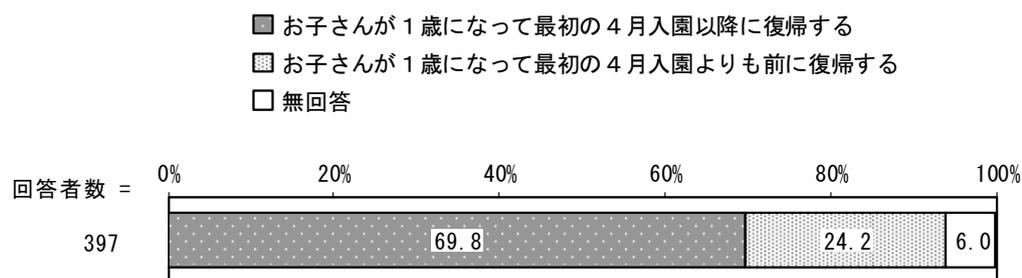
1-10-7 育児休業から職場復帰する予定時期

問 37-6 いつまで育児休業を取得する予定ですか（それぞれ○は1つだけ）。

(1) 母親

「お子さんが1歳になって最初の4月入園以降に復帰する」の割合が69.8%、「お子さんが1歳になって最初の4月入園よりも前に復帰する」の割合が24.2%となっている。

図表 192 育児休業を取得する予定時期（母親）

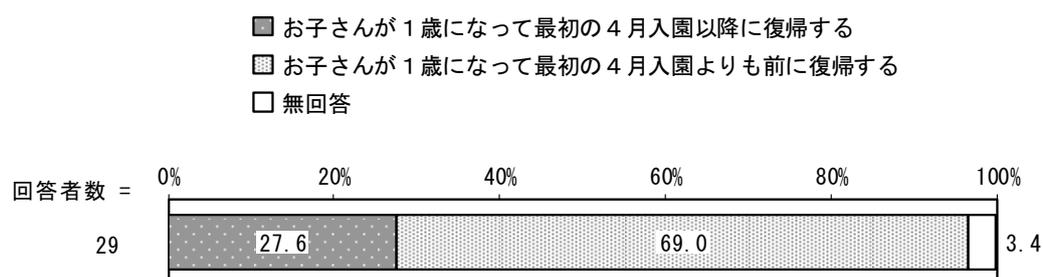


※回答対象は就学前児童対象調査の全員（父子家庭を除く）
※母親・父親のおひとりでも、「現在も育児休業中である」と答えた人

(2) 父親

「お子さんが1歳になって最初の4月入園以降に復帰する」の割合が27.6%、「お子さんが1歳になって最初の4月入園よりも前に復帰する」の割合が69.0%となっている。

図表 193 育児休業を取得する予定時期（父親）



※回答対象は就学前児童対象調査の全員（母子家庭を除く）
※母親・父親のおひとりでも、「現在も育児休業中である」と答えた人

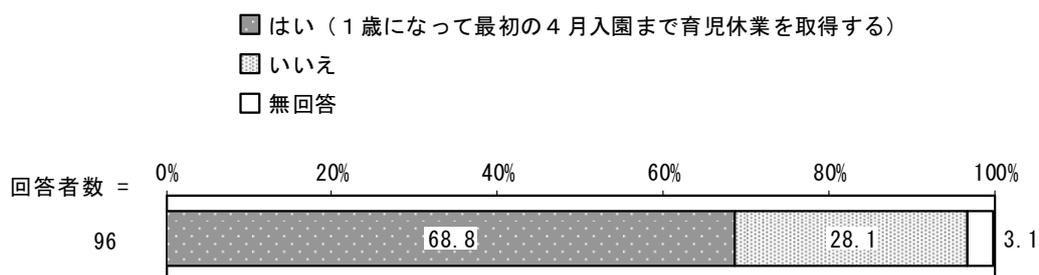
1-10-8 1歳時に必ず利用できる事業がある場合の育児休業の取得意向

問 37-7 お子さんが1歳になって最初の4月入園で必ず利用できる事業があれば、それまで育児休業を取得しますか（それぞれ○は1つだけ）。

(1) 母親

「はい（1歳になって最初の4月入園まで育児休業を取得する）」の割合が68.8%、「いいえ」の割合が28.1%となっている。

図表 194 育児休業を取得する予定（母親）



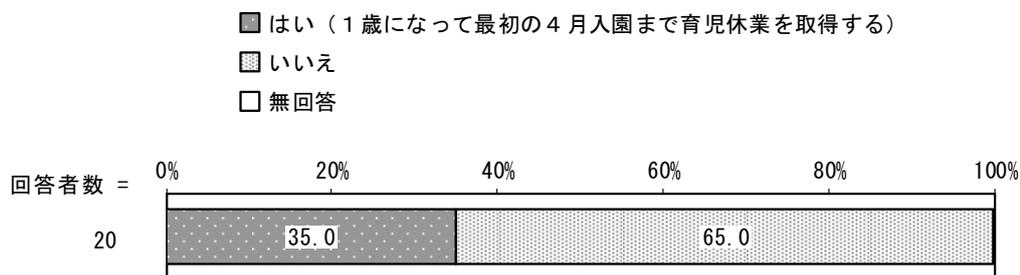
※回答対象は就学前児童対象調査の全員（父子家庭を除く）

※問 37-6 で母親・父親のおひとりでも、「お子さんが1歳になって最初の4月入園よりも前に復帰する」と答えた人

(2) 父親

「はい（1歳になって最初の4月入園まで育児休業を取得する）」の割合が35.0%、「いいえ」の割合が65.0%となっている。

図表 195 育児休業を取得する予定（父親）



※回答対象は就学前児童対象調査の全員（母子家庭を除く）

※問 37-6 で母親・父親のおひとりでも、「お子さんが1歳になって最初の4月入園よりも前に復帰する」と答えた人

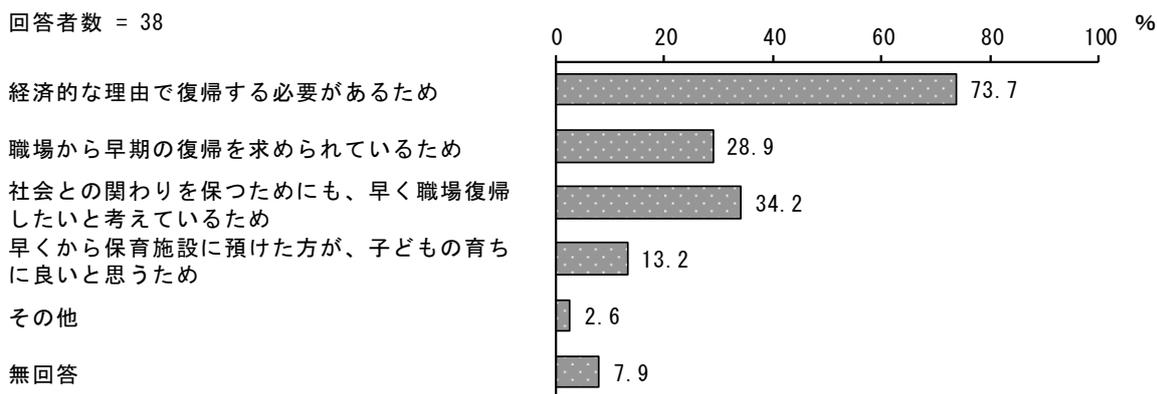
調査結果 就学前児童

1-10-9 4月入園よりも前に復帰したい理由

問 37-8 1歳になって最初の4月入園よりも前に復帰したい理由は、次のうちどれですか（あてはまるものすべてに○）。

「経済的な理由で復帰する必要があるため」の割合が73.7%と最も高く、次いで「社会との関わりを保つためにも、早く職場復帰したいと考えているため」の割合が34.2%、「職場から早期の復帰を求められているため」の割合が28.9%となっている。

図表 196 4月入園よりも前に復帰したい理由



※複数回答のため、合計は100%に一致しない

※問 37-6 で母親・父親のおひとりでも、「お子さんが1歳になって最初の4月入園よりも前に復帰する」と答えた人

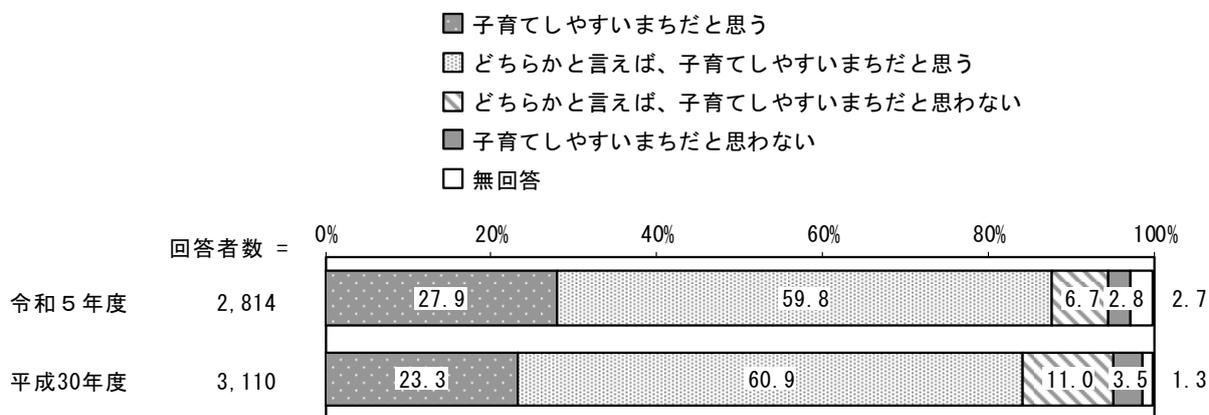
1-10-10 足立区における子育てのしやすさ

問 38 足立区は、子育てしやすいまちだと思いますか（○は1つだけ）。

「どちらかと言えば、子育てしやすいまちだと思う」の割合が59.8%と最も高く、次いで「子育てしやすいまちだと思う」の割合が27.9%となっている。

平成30年度と比較すると、大きな差はみられない。

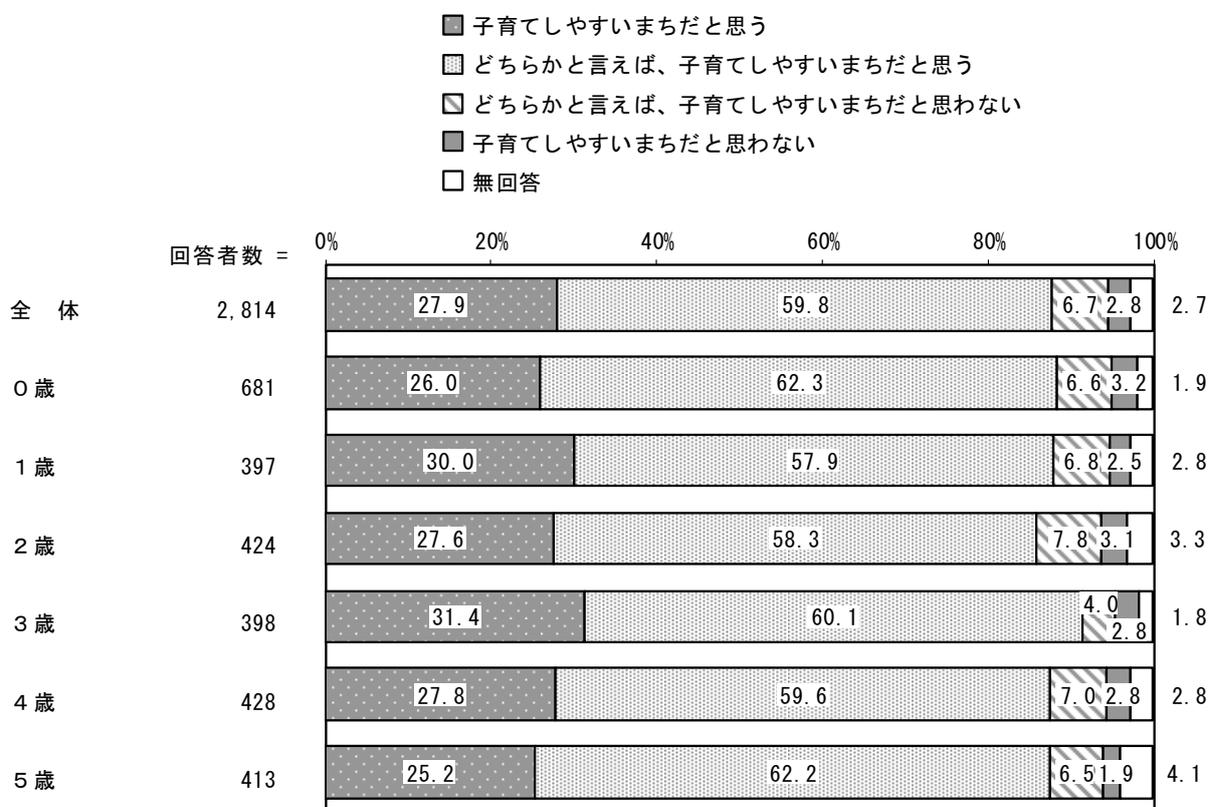
図表 197 足立区における子育てのしやすさ



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

子どもの年齢別で見ると、全体と比べて、大きな差はみられない。

図表 198 足立区における子育てのしやすさ一年齢別



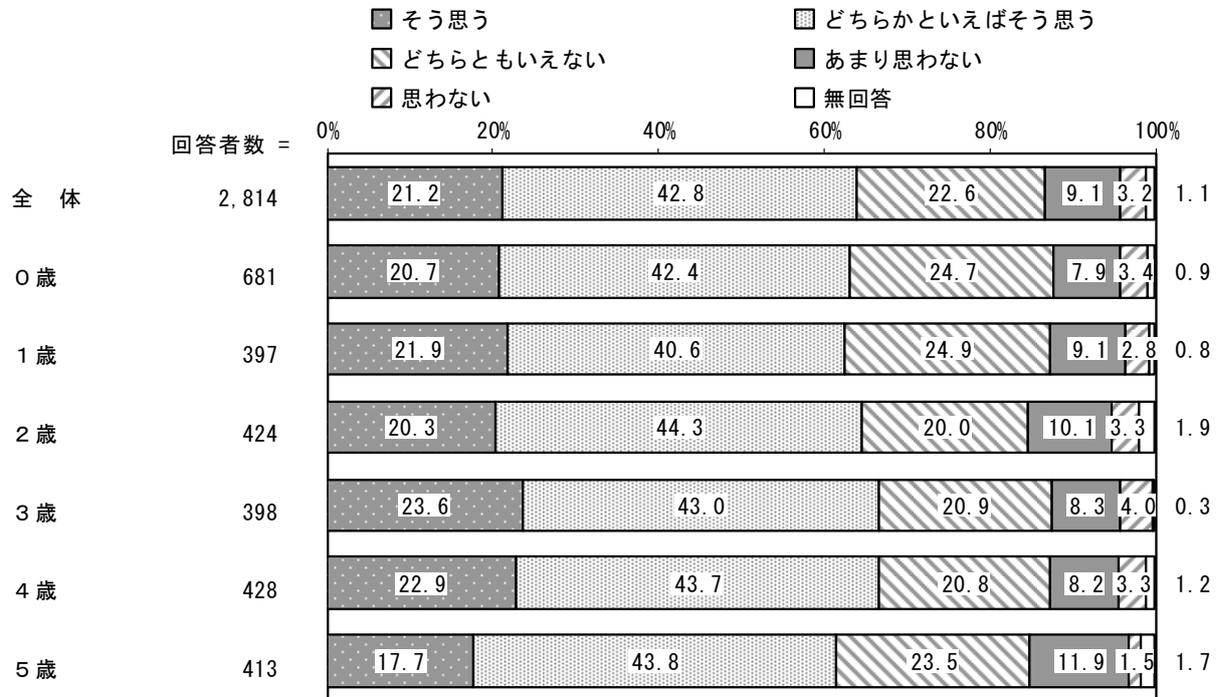
※回答対象は就学前児童対象調査の全員

1-10-11 足立区が子育てしやすいまちだと思ふ理由

問 39 足立区の子育て環境についてどのように思いますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

1 住環境が良い

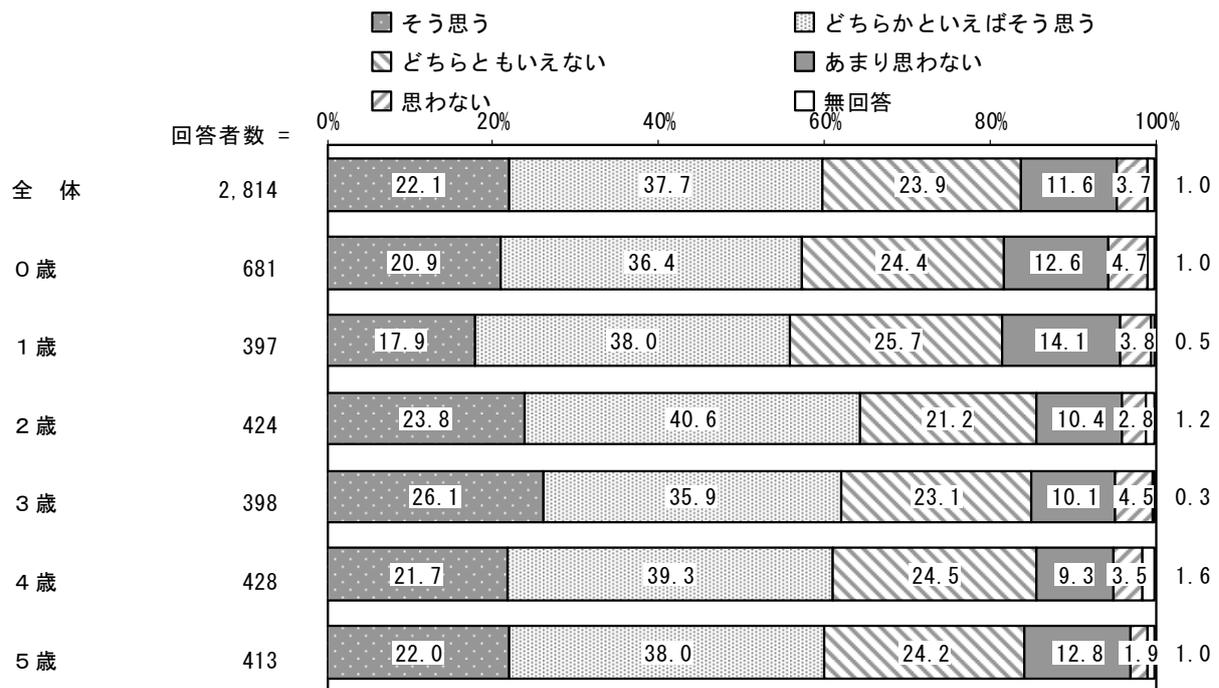
図表 199 足立区が子育てしやすいまちだと思ふ理由・住環境が良い一年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

2 自然環境が良い

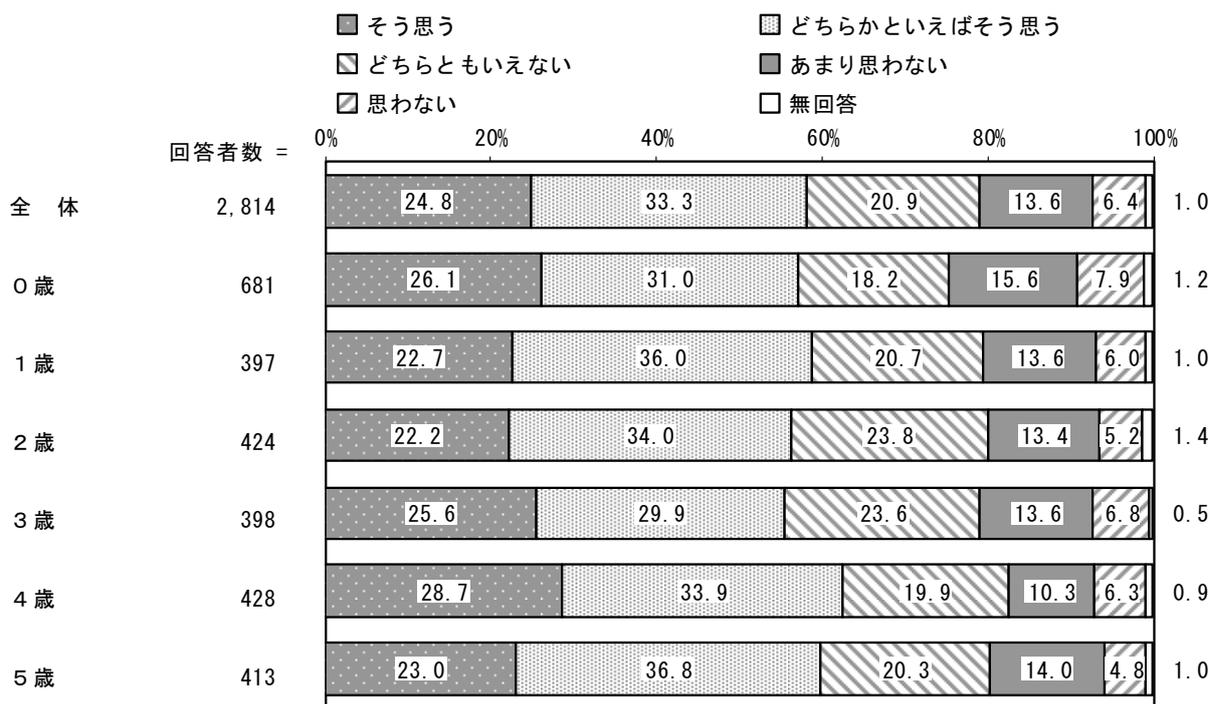
図表 200 足立区が子育てしやすいまちだと思ふ理由・自然環境が良い一年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

3 交通機関が便利

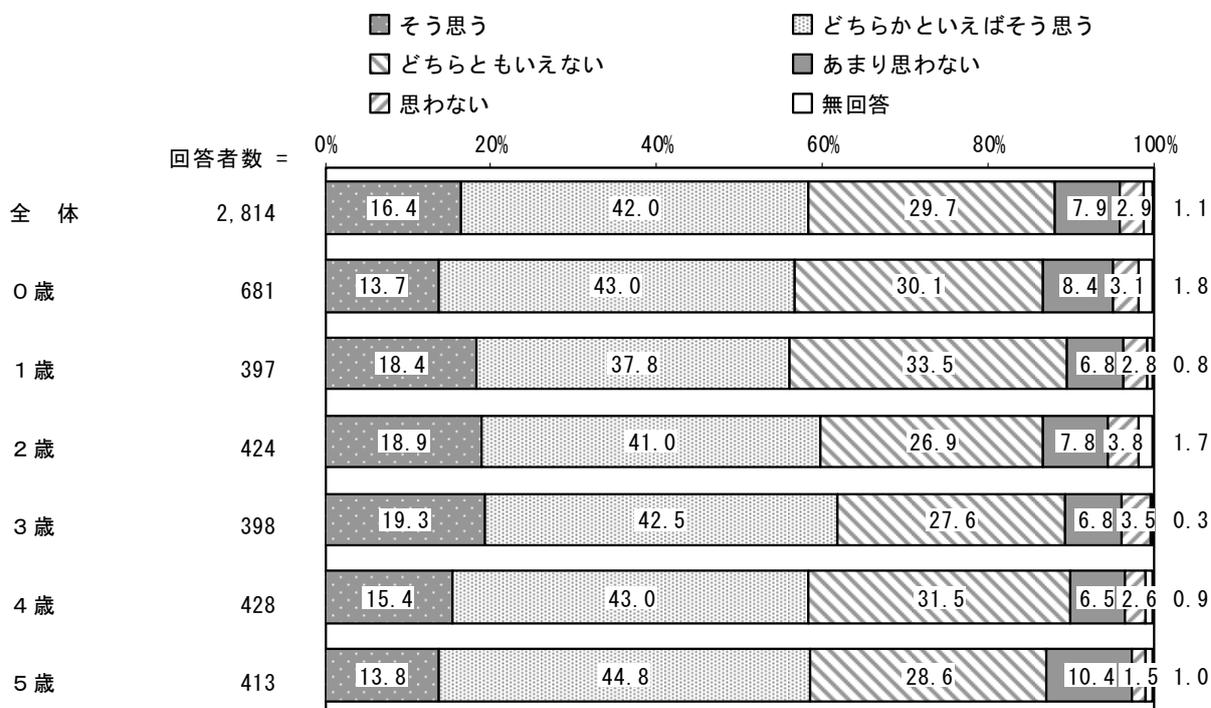
図表 201 足立区が子育てしやすいまちだと思う理由・交通機関が便利一年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

4 保育サービス等が充実している

図表 202 足立区が子育てしやすいまちだと思う理由・保育サービス等が充実している一年齢別

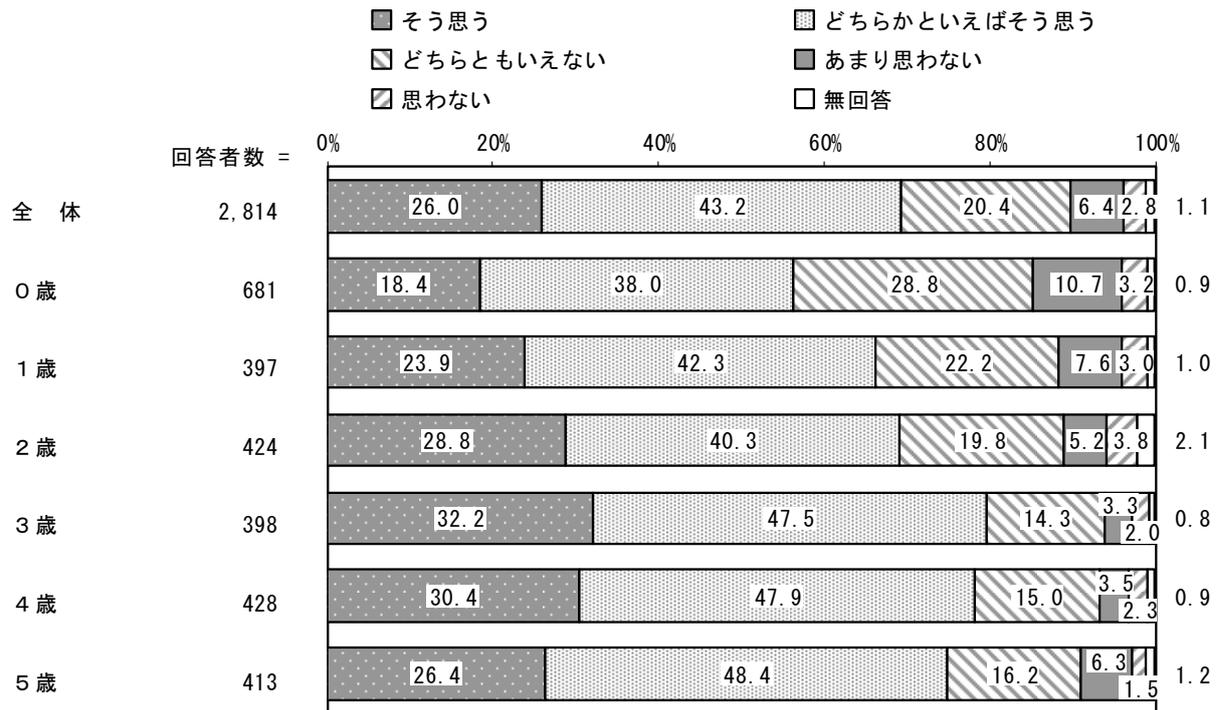


※回答対象は就学前児童対象調査の全員

調査結果 就学前児童

5 小学校、保育園、幼稚園などが利用しやすい

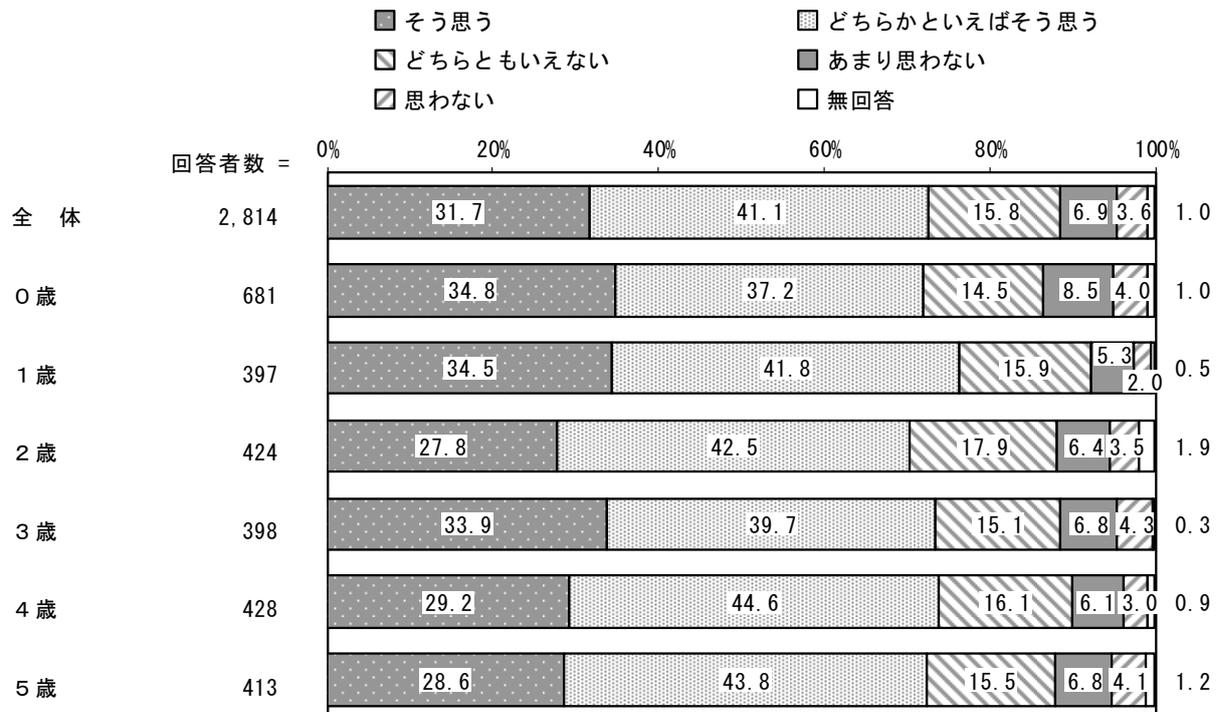
図表 203 足立区が子育てしやすいまちだと思う理由・小学校、保育園、幼稚園などが利用しやすい一年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

6 子育てサロンや児童館・図書館が近所にある

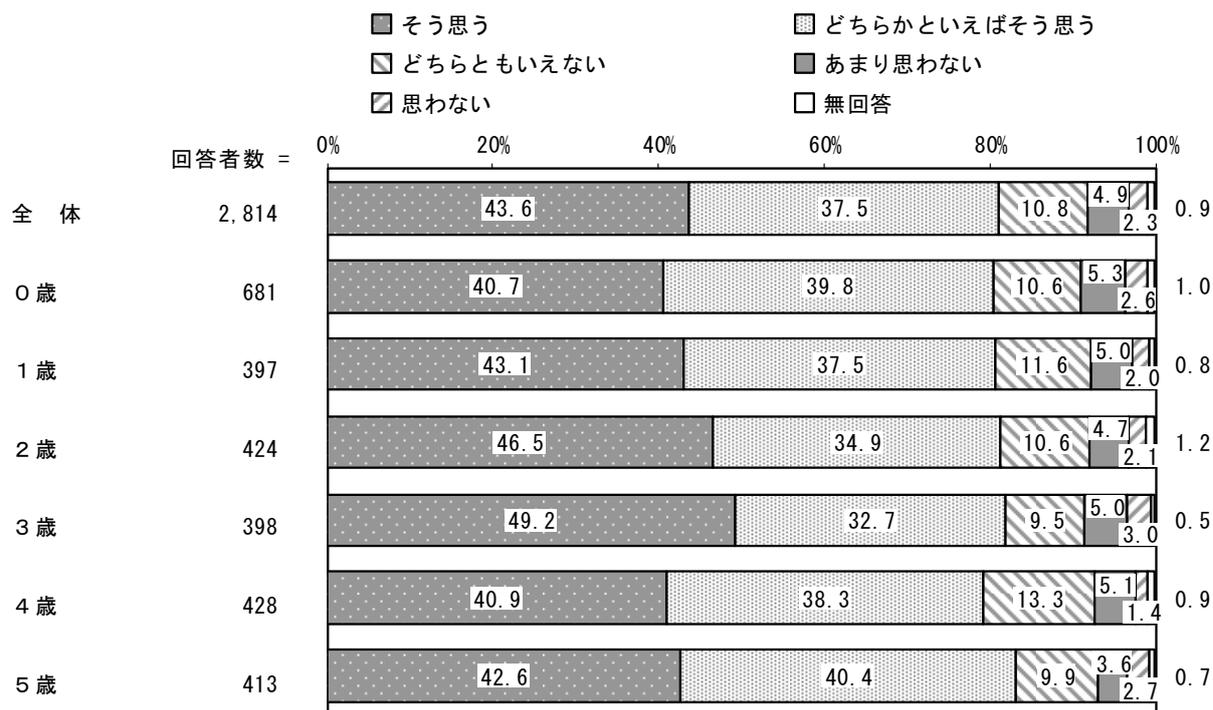
図表 204 足立区が子育てしやすいまちだと思う理由・子育てサロンや児童館・図書館が近所にある一年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

7 公園など子どもの遊び場が多い

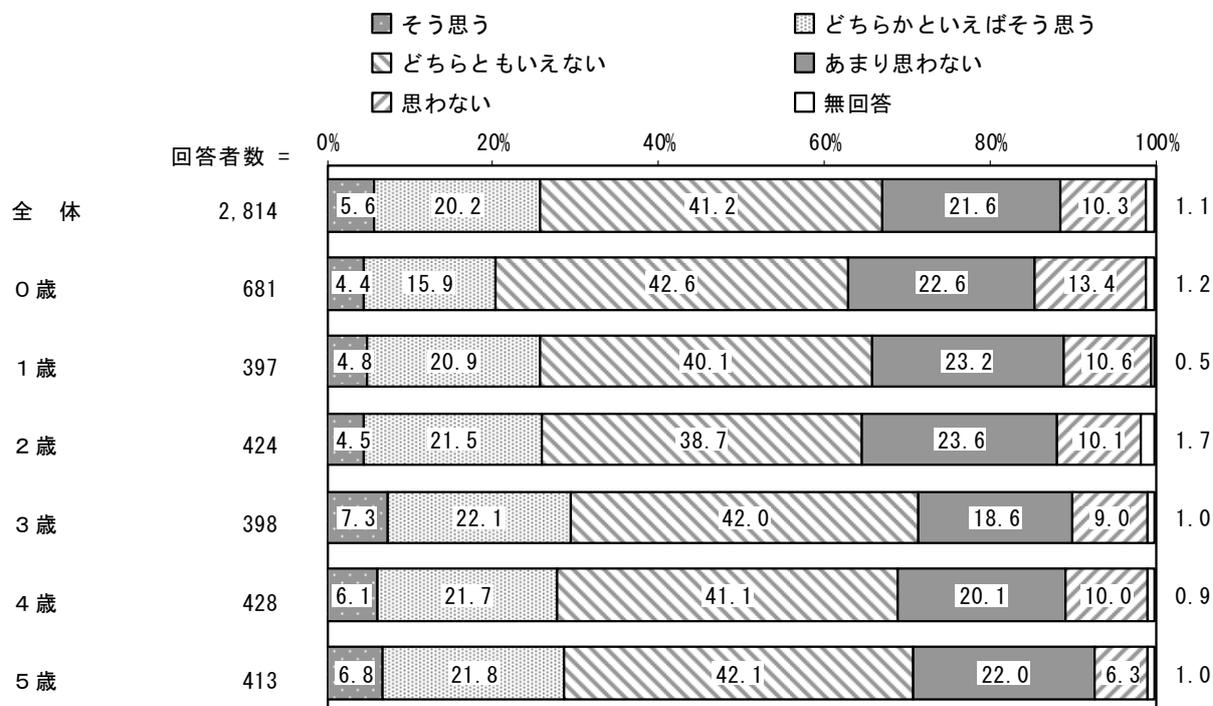
図表 205 足立区が子育てしやすいまちだと思理由・公園など子どもの遊び場が多い一年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

8 近所づきあいや地域活動が盛ん

図表 206 足立区が子育てしやすいまちだと思理由・近所づきあいや地域活動が盛ん一年齢別

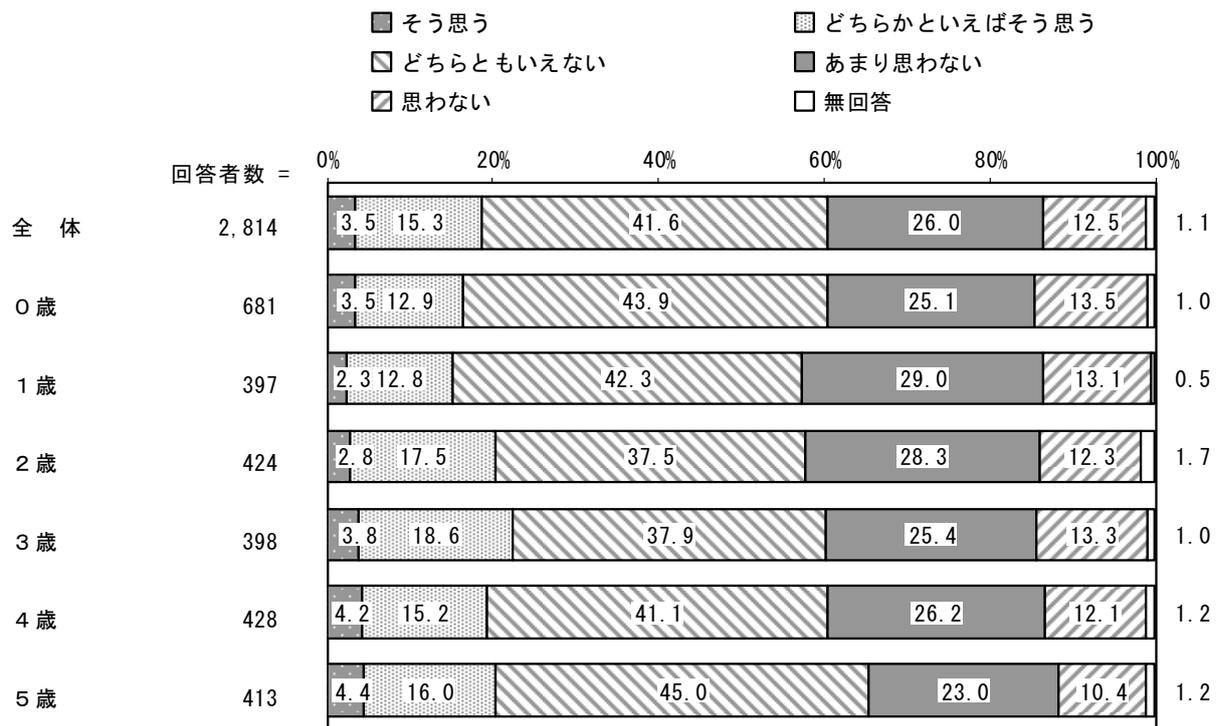


※回答対象は就学前児童対象調査の全員

調査結果 就学前児童

9 地域の子育てネットワークができています

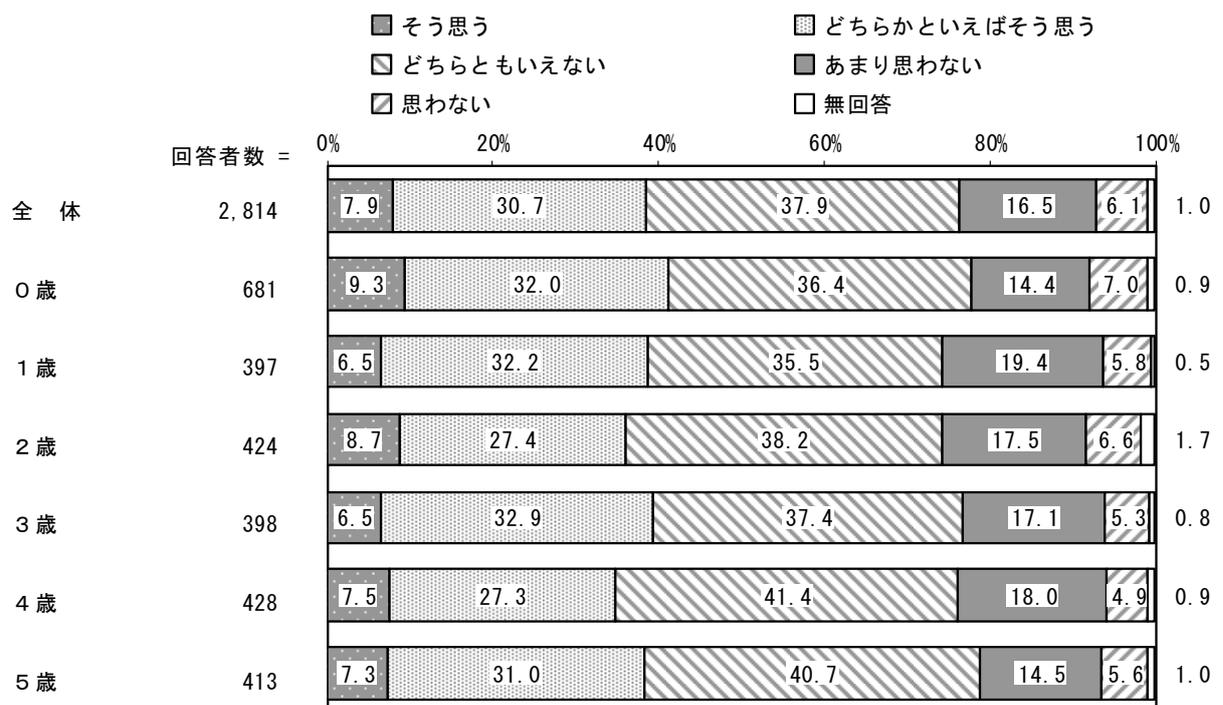
図表 207 足立区が子育てしやすいまちだと思う理由・地域の子育てネットワークができています一年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

10 子育てに関する情報が得やすい

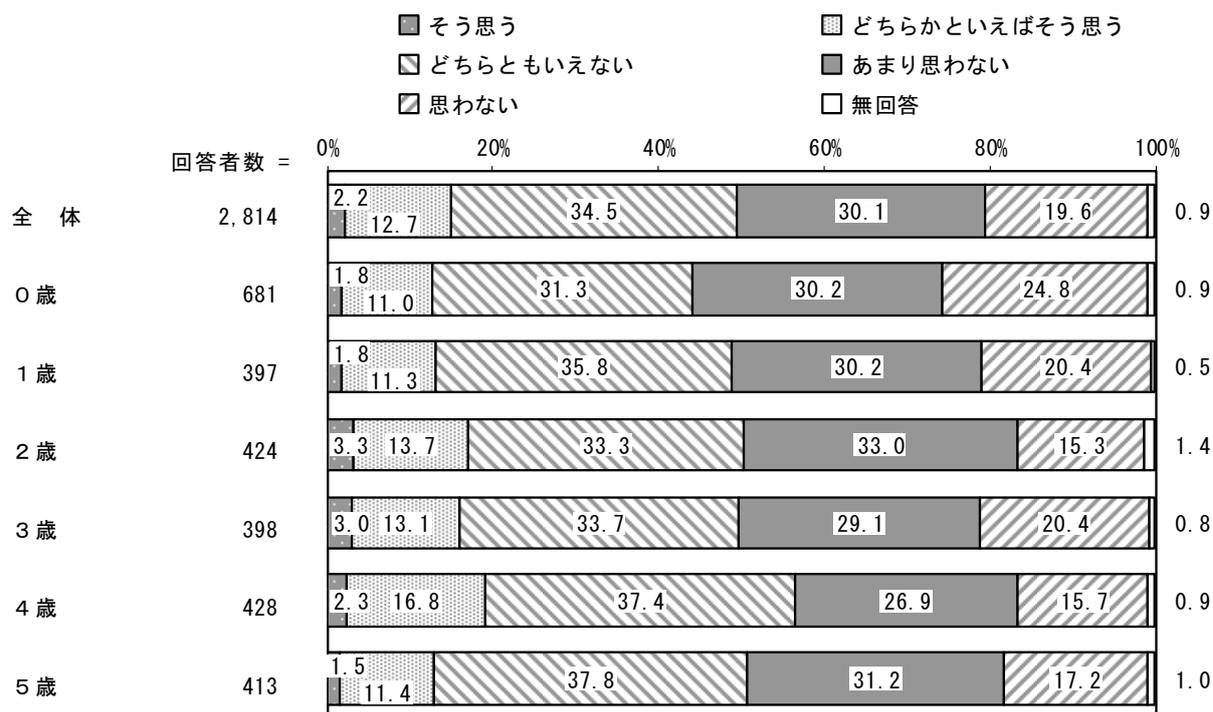
図表 208 足立区が子育てしやすいまちだと思う理由・子育てに関する情報が得やすい一年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

11 事故や犯罪が少なく安全

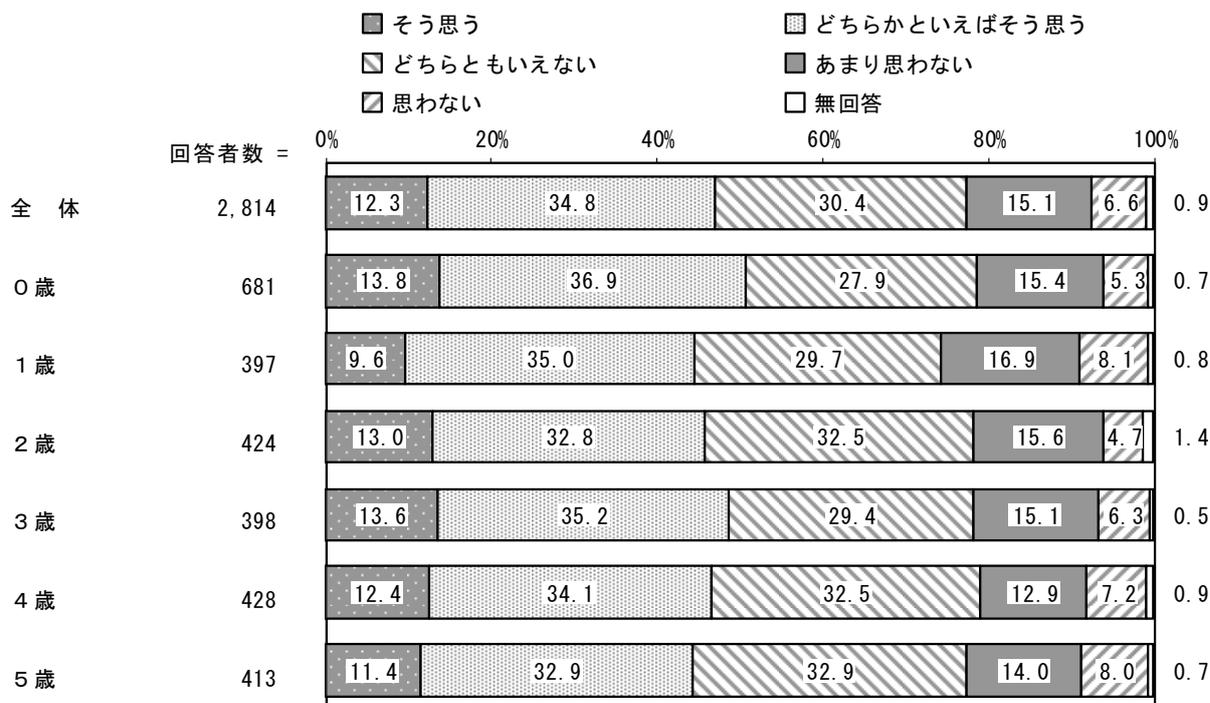
図表 209 足立区が子育てしやすいまちだと思う理由・事故や犯罪が少なく安全一年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員

12 医療機関や専門的な相談先が身近にある

図表 210 足立区が子育てしやすいまちだと思う理由・医療機関や専門的な相談先が身近にある一年齢別



※回答対象は就学前児童対象調査の全員